# 上宿遺跡
# 寺中遺跡

社会資本総合整備（防災安全）（交安）（主）足利伊勢崎線事業に伴う
埋　蔵　文　化　財　発　掘　調　査　報　告　書

2014

群　馬　県　太　田　土　木　事　務　所
公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団

# 上宿遺跡
# 寺中遺跡

社会資本総合整備（防災安全）（交安）（主）足利伊勢崎線事業に伴う
埋　蔵　文　化　財　発　掘　調　査　報　告　書

2014

群　馬　県　太　田　土　木　事　務　所
公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団

上宿遺跡・寺中遺跡遠景（矢印部分が遺跡、手前金山・奥は八王子丘陵）（南東から）

# 序

上宿遺跡・寺中遺跡は太田市の北東部、江戸時代に太田・桐生間の宿として栄えた丸山宿の南に位置しています。群馬県の中央部から東部を横断する(主)足利伊勢崎線の拡幅工事に伴い、群馬県太田土木事務所の委託を受けて、平成24年度に公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団がこれら遺跡の発掘調査を実施いたしました。

上宿遺跡・寺中遺跡がある太田地域は、新田郡衙正庁跡である天良七堂遺跡をはじめ、古代の遺跡が多くあることで知られています。遺跡周辺でも、八ヶ入遺跡・大道西遺跡・大道東遺跡などで東山道駅路が確認され、鹿島浦遺跡や向矢部遺跡などでは古代の大規模集落が調査されました。

今回の調査でも、古代の竪穴住居群が確認されました。上宿遺跡・寺中遺跡のある地域は古代の山田郡域だったと考えられています。古代の行政区分である「郡」内の集落について、他遺跡の調査成果と共に、太田市北東部地域の状況を解明する一助になる資料を提供できたものと考えております。

最後に、発掘調査から報告書作成に至るまで、群馬県太田土木事務所をはじめ、群馬県教育委員会、太田市教育委員会、並びに地元関係者の皆様からは種々のご指導、ご協力を賜りました。本報告書を上梓するにあたり、これらの関係者の皆様に心から感謝を申し上げて序といたします。

平成26年３月

公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団
理事長　上　原　訓　幸

# 例　　言

1．本書は、平成24年度社会資本総合整備(活力基盤(交安))事業に伴い発掘された上宿遺跡・寺中遺跡の調査成果を、平成25年度社会資本総合整備(防災安全)(交安)(主)足利伊勢崎線事業に伴う上宿遺跡・寺中遺跡の発掘調査報告書として刊行したものである。

2．上宿遺跡は群馬県太田市矢田堀町286-4、288-3に所在する。寺中遺跡は群馬県太田市丸山町144-2、145-1、146-2、151-1、152-1、153-1、161-1、161-2、161-3、162-2、164-1に所在する。

3．事業主体　群馬県東部県民局太田土木事務所

4．調査主体　公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団

5．整理主体　公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団

6．発掘調査の体制と期間は次のとおりである。

調査担当　麻生敏隆(上席専門員)(８月１日～８月31日)

飯島義雄(専門調査役)(８月１日～９月30日)

遺跡掘削請負工事　株式会社シン技術コンサル

地上測量及び空中写真撮影　株式会社シン技術コンサル

履行期間　平成24年８月１日～平成24年11月30日

調査期間　平成24年８月１日～平成24年９月30日

調査面積　1,345㎡

7．整理事業の体制と期間は次のとおりである。

整理担当：長谷川博幸(主任調査研究員)

履行期間：平成25年10月１日～平成26年３月31日

整理期間：平成25年10月１日～平成26年３月31日

8．本書作成関係者

編集・本文執筆　長谷川博幸(主任調査研究員)

デジタル編集　齊田智彦(主任調査研究員)

遺構写真　発掘調査担当者

遺物写真　佐藤元彦(補佐(総括))、岩崎泰一(資料統括)

遺物観察・観察表執筆

石製品　岩崎泰一

土師器・須恵器　徳江秀夫(資料統括)

鉄製品　関邦一(補佐(総括))

保存処理　関邦一

9．発掘調査および報告書の作成にあたり群馬県教育委員会事務局文化財保護課、太田市教育委員会文化財保護課の指導と助言を得た。

10．発掘調査の記録資料と出土遺物は、群馬県埋蔵文化財調査センターで保管している。

# 凡　　例

1．本文中に使用した方位は、総て世界測地系(日本測地系2000平面直角座標第Ⅸ系)の北を用いた。調査区は上宿遺跡がX=37560 ～ 37510、Y=－40440 ～－40480の範囲に、寺中遺跡がX=37650 ～ 37610、Y=－40540 ～－40730の範囲にそれぞれ収まる。

2．遺構平面図や遺構断面図に示した数値は標高であり、単位はメートルである。

3．遺構平面図、遺物実測図の縮尺は各図にそれぞれ示した。遺物写真の縮率は原則1/3とし、それ以外のものは明記した。

4．遺物番号は出土遺構ごとの通し番号とし、器種・分類順に記載した。番号は遺構図、遺物実測図、遺物観察表、遺物写真図版とも一致している。

5．本書の図版に使用したスクリーントーンは、次のことを示す。

遺構平面図・断面図

硬化面　粘土　撹乱

遺物図

黒色

6．遺構の主軸方位・走向は、長軸方向で北から東西90°以内を主軸とした。表記は北を基準とし、東に傾いた場合N-○°-Eとした。遺構の面積は、下端を計測した。計測はプラニメーターで３回行いその平均値を採用した。遺構・遺物の計測値で、全体を計測できないものについては、現存の値を記載し(　)で表した。

7．遺構からの出土遺物点数は大型製品片・中型製品片・小型製品片に分類し記載している。土師器の大型製品に分類した器種は壺・甕類・土釜、中型品は高杯類、小型製品は椀・杯類である。須恵器の大型製品に分類した器種は壺甕類・羽釜・瓶類、中型製品は高杯・盤類・ハソウ、小型製品は椀・杯・皿類である。

8．遺物観察表の記載方法は以下のとおりである。

・計測値の(　)は現存値を示す。

・土器の色調は、農林水産省農林水産技術会議事務局監修・財団法人日本色彩研究所色票監修『新版標準土色帖　1988年版』に基づいている。

・胎土表記中の細砂・粗砂・礫は、径２㎜以上を礫、径２～ 0.2㎜を粗砂、径0.2㎜以下を細砂とした。

・計測値の略は、口:口径、底:底径、高:器高、台:高台径、摘:摘み径、重:重さである。

9．本書で使用した浅間山噴火による降下火砕物等の呼称については、以下のように表記した。

浅間Ａ軽石：Ａｓ-Ａ　浅間Ｂ軽石：Ａｓ-Ｂ　浅間Ｃ軽石：Ａｓ-Ｃ

10．本書で掲載した地図は、下記のものを使用した。

国土地理院　地勢図1:200,000「宇都宮」(平成23年6月１日発行)

国土地理院　地形図1:25,000 「桐生」(平成21年４月１日発行)

「上野境」(平成22年12月１日発行)

「足利北部」(平成15年１月１日発行)

「足利南部」(平成22年12月１日発行)

群馬県　地形分類図1:50,000 「深谷」(平成３年)

「桐生・足利」(昭和52年)

太田市　1:2,500地形図20（平成18年３月測図）

地形図28（平成18年３月測図）

# 目　次

口絵
序
例言
凡例
目次
挿図目次
表目次
写真図版目次
第１章　調査の経過 …… 1
　第１節　発掘調査に至る経緯 …… 1
　第２節　調査の方法と経過 …… 2
　　１．調査区の設定 …… 2
　　２．調査経過 …… 2
　　３．整理作業の経過及び遺構名称改訂 …… 2
第２章　遺跡の地理的・歴史的環境 …… 4
　第１節　遺跡の立地 …… 4
　第２節　遺跡周辺の歴史環境 …… 6
　　１．旧石器時代 …… 6
　　２．縄文時代 …… 6
　　３．弥生時代 …… 6
　　４．古墳時代 …… 6
　　５．飛鳥・奈良・平安時代 …… 7
　　６．中世以降 …… 7
　第３節　基本土層 …… 13
第３章　検出された遺構と遺物 …… 15
　第１節　調査の概要 …… 15
　第２節　上宿遺跡 …… 15
　　１．竪穴住居 …… 15
　　２．土坑 …… 16
　　３．遺構外出土遺物 …… 18
　第３節　寺中遺跡 …… 19
　　１．竪穴住居 …… 19
　　２．土坑・ピット …… 63
　　３．溝 …… 70
　　４．遺構外出土遺物 …… 72
第４章　調査成果のまとめ …… 74
　第１節　本遺跡における集落動向 …… 74
　　１．竪穴住居の変遷 …… 74
　　２．周辺遺跡の動向 …… 74
　　３．小結 …… 74
遺物観察表 …… 78
写真図版
報告書抄録

# 挿図目次


第１図　遺跡位置図（国土地理院地形図１：200,000「宇都宮」（平成23年6月１日発行）使用）・・・・・・・・・・・・・ 1
第２図　遺跡位置及び周辺図（この地図の作成にあたっては、太田市市長の承認を得て、同市発行の2,500分の１地形図を使用し、複製したものである。）・・・・・・・ 3
第３図　遺跡周辺地形分類図（群馬県『土地分類基本調査』深谷（1991）・桐生及足利（1977）による）・・・・・・・ 5
第４図　周辺遺跡位置図（国土地理院発行地形図「桐生」「上野境」「足利北部」「足利南部」使用）・・・・・・・・ 8
第５図　柱状基本土層図・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 13
第６図　上宿遺跡・寺中遺跡全体図 ・・・・・・・・・・・・・・・・ 14
第７図　上宿遺跡１号住居と出土遺物 ・・・・・・・・・・・・・・ 16
第８図　上宿遺跡１～５号土坑・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 17
第９図　上宿遺跡遺構外出土遺物・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 18
第10図　１区１号住居 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 20
第11図　１区１号住居出土遺物（１）・・・・・・・・・・・・・・・ 21
第12図　１区１号住居出土遺物（２）・・・・・・・・・・・・・・・ 22
第13図　１区２号住居 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 23
第14図　１区２号住居掘方・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 24
第15図　１区２号住居出土遺物（１）・・・・・・・・・・・・・・・ 25
第16図　１区２号住居出土遺物（２）・・・・・・・・・・・・・・・ 26
第17図　１区３号住居 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 27
第18図　１区３号住居出土遺物（１）・・・・・・・・・・・・・・・ 28
第19図　１区３号住居出土遺物（２）・・・・・・・・・・・・・・・ 29
第20図　１区３号住居出土遺物（３）・・・・・・・・・・・・・・・ 30
第21図　１区４号住居と出土遺物・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 31
第22図　１区６号住居と出土遺物・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 32
第23図　１区８号住居 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 33
第24図　１区８号住居出土遺物・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 34
第25図　２区１号住居 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 36
第26図　２区１号住居出土遺物（１）・・・・・・・・・・・・・・・ 37
第27図　２区１号住居出土遺物（２）・・・・・・・・・・・・・・・ 38
第28図　２区２号住居 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 38
第29図　２区２号住居出土遺物・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 39
第30図　２区３号住居と出土遺物・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 40
第31図　２区４号住居と出土遺物・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 41
第32図　２区５号住居と出土遺物・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 41
第33図　２区６号住居と出土遺物・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 42
第34図　２区７号住居と出土遺物・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 43
第35図　２区８号住居 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 44
第36図　２区８号住居出土遺物・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 45
第37図　２区９号住居 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 46
第38図　２区９号住居出土遺物・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 47
第39図　２区11号住居 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 47
第40図　２区11号住居出土遺物（１）・・・・・・・・・・・・・・・ 48
第41図　２区11号住居出土遺物（２）・・・・・・・・・・・・・・・ 49
第42図　２区11号住居出土遺物（３）・・・・・・・・・・・・・・・ 50
第43図　２区12号住居 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 51
第44図　２区12号住居出土遺物・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 52
第45図　２区14号住居と出土遺物・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 53
第46図　２区15号住居と出土遺物・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 54
第47図　２区16号住居 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 55
第48図　２区16号住居掘方・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 56
第49図　２区16号住居出土遺物・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 57
第50図　２区17号住居と出土遺物・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 58
第51図　２区18号住居 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 59
第52図　２区18号住居出土遺物（１）・・・・・・・・・・・・・・・ 60
第53図　２区18号住居出土遺物（２）・・・・・・・・・・・・・・・ 61
第54図　２区19号住居と出土遺物・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 62
第55図　１区１・２号土坑・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 65
第56図　２区１～５号土坑・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 65
第57図　２区６～８号土坑・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 66
第58図　２区９・10号土坑と２区土坑出土遺物（１）・・・・ 67
第59図　２区土坑出土遺物（２）・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 68
第60図　２区１～12号ピット・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 69
第61図　２区11号ピット出土遺物・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 69
第62図　１区１号溝と出土遺物（１）・・・・・・・・・・・・・・・ 70
第63図　１区１号溝出土遺物（２）・・・・・・・・・・・・・・・・・ 71
第64図　２区１号溝 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 71
第65図　２区１号溝出土遺物 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 72
第66図　寺中遺跡遺構外出土遺物・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 73
第67図　竪穴住居時期別変遷（７世紀）・・・・・・・・・・・・・ 75
第68図　竪穴住居時期別変遷（８世紀）・・・・・・・・・・・・・ 76
第69図　竪穴住居時期別変遷（９世紀）・・・・・・・・・・・・・ 77


# 表 目 次


第１表　寺中遺跡遺構名称相対表・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2
第２表　主な周辺遺跡 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 9
第３表　寺中遺跡２区ピット一覧・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 68
第４表　寺中遺跡遺構外出土遺物・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 72
第５表　時期別住居数 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 74

# 写真図版目次


PL.1　1　上宿遺跡・寺中遺跡遠景(太田方面から望む)
　　2　上宿遺跡・寺中遺跡遠景(足利方面から望む)
PL.2　1　上宿遺跡・寺中遺跡周辺
PL.3　1　上宿遺跡北側(南から)
　　2　上宿遺跡南側(南から)
PL.4　1　１号住居全景(南から)
　　2　１号住居調査状況(南から)
　　3　１号土坑全景(西から)
　　4　２号土坑セクション(南から)
　　5　３号土坑全景(南から)
　　6　４号土坑全景(西から)
　　7　５号土坑全景(南から)
　　8　調査状況(南から)
PL.5　1　寺中遺跡１区東側全景(東から)
　　2　寺中遺跡１区西側全景(東から)
PL.6　1　１区１号住居遺物出土状況(西から)
　　2　１区１号住居全景(西から)
　　3　１区１号住居カマド全景(西から)
　　4　１区１号住居掘方(西から)
　　5　１区１号住居カマド掘方全景(西から)
PL.7　1　１区２号住居・４号住居全景(南西から)
　　2　１区２号住居掘方・４号住居全景(南西から)
　　3　１区３号住居全景(南から)
　　4　１区３号住居掘方全景(南から)
　　5　１区３号住居カマド掘方全景(西から)
PL.8　1　１区６号住居全景(南から)
　　2　１区６号住居掘方全景(南から)
　　3　１区８号住居全景(北西から)
　　4　１区８号住居掘方全景(北西から)
　　5　１区１号溝全景(北西から)
　　6　１区１号土坑全景(北西から)
　　7　１区２号土坑全景(南から)
PL.9　1　寺中遺跡２区東側全景(東から)
　　2　寺中遺跡２区西側全景(東から)
PL.10　1　２区１号住居・２号住居全景(西から)
　　2　２区１号住居カマド全景(西から)
　　3　２区１号住居・２号住居掘方全景(西から)
　　4　２区１号住居カマド掘方全景(西から)
　　5　２区１号住居調査状況(東から)
PL.11　1　２区３号住居掘方全景(南から)
　　2　２区４号住居全景(南から)
　　3　２区４号住居掘方全景(南から)
　　4　２区５号住居全景(北西から)
　　5　２区５号住居掘方全景(西から)
　　6　２区６号住居遺物出土状況(北から)
　　7　２区６号住居掘方全景(西から)
　　8　２区５号住居調査状況(西から)
PL.12　1　２区７号住居全景(北から)
　　2　２区７号住居掘方全景(北から)
　　3　２区８号住居全景(南西から)
　　4　２区８号住居掘方全景(南西から)
　　5　２区９号住居全景(西から)
PL.13　1　２区９号住居掘方全景(西から)
　　2　２区９号住居カマド掘方全景(西から)
　　3　２区11号住居遺物出土状況(南から)
　　4　２区11号住居全景(南から)
　　5　２区11号住居掘方全景(南から)
PL.14　1　２区12号住居全景(北西から)
　　2　２区12号住居掘方全景(北西から)
　　3　２区14号住居全景(北から)
　　4　２区15号住居全景(南から)
　　5　２区15号住居掘方全景(南から)
　　6　２区17号住居全景(南西から)
　　7　２区17号住居掘方全景(南西から)
　　8　２区調査状況(東から)
PL.15　1　２区16号住居遺物出土状況(北西から)
　　2　２区16号住居全景(南西から)
　　3　２区16号住居カマド全景(南西から)
　　4　２区16号住居掘方全景(南西から)
　　5　２区16号住居カマド掘方全景(南西から)
PL.16　1　２区18号住居全景(南西から)
　　2　２区18号住居掘方全景(北西から)
　　3　２区19号住居全景(南西から)
　　4　２区19号住居掘方全景(南西から)
　　5　２区１号土坑全景(西から)
　　6　２区２号土坑全景(南から)
　　7　２区３号土坑全景(西から)
　　8　２区４号土坑全景(南から)
PL.17　1　２区５号土坑全景(西から)
　　2　２区６号土坑全景(南から)
　　3　２区８号土坑全景(北から)
　　4　２区９号土坑全景(東から)
　　5　２区９号土坑・10号土坑全景(北から)
PL.18　1　２区10号土坑全景(北から)
　　2　２区８号土坑調査状況(北西から)
　　3　２区１号溝と丸山(東から)
　　4　２区１号溝全景(北から)
PL.19　1　２区１号ピット全景(南から)
　　2　２区２号ピット全景(南から)
　　3　２区３号ピット全景(南から)
　　4　２区４号ピット全景(南から)
　　5　２区５号ピット全景(南から)
　　6　２区６号ピット全景(西から)
　　7　２区７号ピット全景(北から)
　　8　２区８号ピット全景(西から)
　　9　２区９号ピット全景(南から)
　　10　２区10号ピット全景(南から)
　　11　２区11号ピット全景(南から)
　　12　２区12号ピット全景(南から)
PL.20　上宿遺跡１号住居･遺構外出土遺物、寺中遺跡１区１・２号住居出土遺物
PL.21　寺中遺跡１区２・３号住居出土遺物
PL.22　寺中遺跡１区３・４・６・８号住居出土遺物
PL.23　寺中遺跡２区１～４・６～８号住居出土遺物
PL.24　寺中遺跡２区９・11号住居出土遺物
PL.25　寺中遺跡２区12・14・16・18・19号住居
PL.26　２区８～10号土坑出土遺物、２区11号ピット出土遺物、１区１号溝出土遺物、２区１号溝出土遺物、１区遺構外出土遺物、２区遺構外出土遺物

# 第１章　調査の経過

## 第１節　発掘調査に至る経緯

県道39号線（足利伊勢崎線）は、伊勢崎市大手町を起点とし、太田市を経て栃木県足利市借宿町に至る道路である。伊勢崎市の西方、三室町から太田市只上町までの間は、北関東自動車道と並行している。群馬県内の県央部と東部を結ぶ県道２号線と北関東自動車道の中間に位置しており、群馬県内でも交通量の多い道路である。遺跡付近の丸山町交差点では、太田市と桐生市を結ぶ県道316号と交差しており、交通量も激しい。道路幅を拡張し、歩行者が安全で安心して通行するための道路整備が計画された。事業範囲において、周知の埋蔵文化財包蔵地を通過することがわかり、埋蔵文化財の取り扱いに関わる行政的措置が必要となった。群馬県東部県民局太田土木事務所（以下「太田土木事務所」と略記）から照会を受けた群馬県教育委員会は、平成23年11月及び平成24年２月に試掘調査を行った。

試掘調査は、それぞれの事業地内に幅１ｍ・長さ６ｍ～10ｍの試掘坑を３本設定し、遺構検出面の確定及び遺構有無の確認、遺物出土の確認を行った。その結果、奈良・平安時代住居跡及び土師器の出土が認められた。このことから、群馬県教育委員会は、太田土木事務所に事業地の発掘調査が必要であることを回答した。この結果を受けた太田土木事務所は、群馬県教育委員会と当該事業地の発掘調査実施に向けての調整を図った。そして、太田土木事務所と当団の間で発掘調査委託契約が締結され、平成24年８月１日調査開始にむけた準備が整うこととなった。

第１図　遺跡位置図（国土地理院地形図１：200,000「宇都宮」（平成23年6月１日発行）使用）

# 第２節　調査の方法と経過

## １．調査区の設定

上宿遺跡は、調査範囲が狭小であったため、調査区割をせずに調査を行った。調査工程上、調査時には遺跡を南北に分割し、調査を行った。寺中遺跡では、遺跡を横断する現道排水路等を境界として、２カ所の調査区に区分した。調査区名は東から１区・２区とした。調査工程の都合上、１・２区とも調査中は、東側・西側と区画して調査を行った。

## ２．調査経過

調査は平成24年８月１日より着手した。調査機材・事務所などを準備し、８月６日から表土掘削を開始した。上宿遺跡は、８月10日から南側の表土掘削を開始し、18日より遺構確認作業を行い、順次遺構調査を実施した。22日には埋戻し、北側の表土掘削を開始した。北側は24日に調査を終了し、25日に埋戻しを行った。

寺中遺跡１区は、８月８日より西側の表土掘削を開始した。表土掘削には３日間を要し、表土掘削後遺構確認作業を行い、順次遺構調査を実施した。９月９日に遺構調査が終了し、10日より埋戻しを行った。１区東側は９月７日に表土掘削し、８日に調査終了。２区は、８月６日より西側から表土掘削を開始した。１区西側同様３日間に渡り表土掘削を行い、順次遺構確認作業・調査を行った。９月18日には全景撮影を行い、27日に埋戻した。東側は９月11日より表土掘削を開始し、12日より遺構確認作業・調査を行った。24日に調査が終了し、26日より埋戻しを行なった。

９月28日にはすべての埋戻しが終了した。同日調査機材等を撤去し、すべての調査を終了した。

## ３．整理作業の経過及び遺構名称改訂

上宿遺跡・寺中遺跡の整理作業及び報告書編集作業は平成25年10月１日から平成26年３月31日まで実施した。発掘調査終了後に収納された出土遺物や記録類の確認作業から開始した。次に、デジタル遺構写真のリネーム作業、遺構図の修正作業、土器・石製品の分類・復元作業及び写真撮影などを行った。

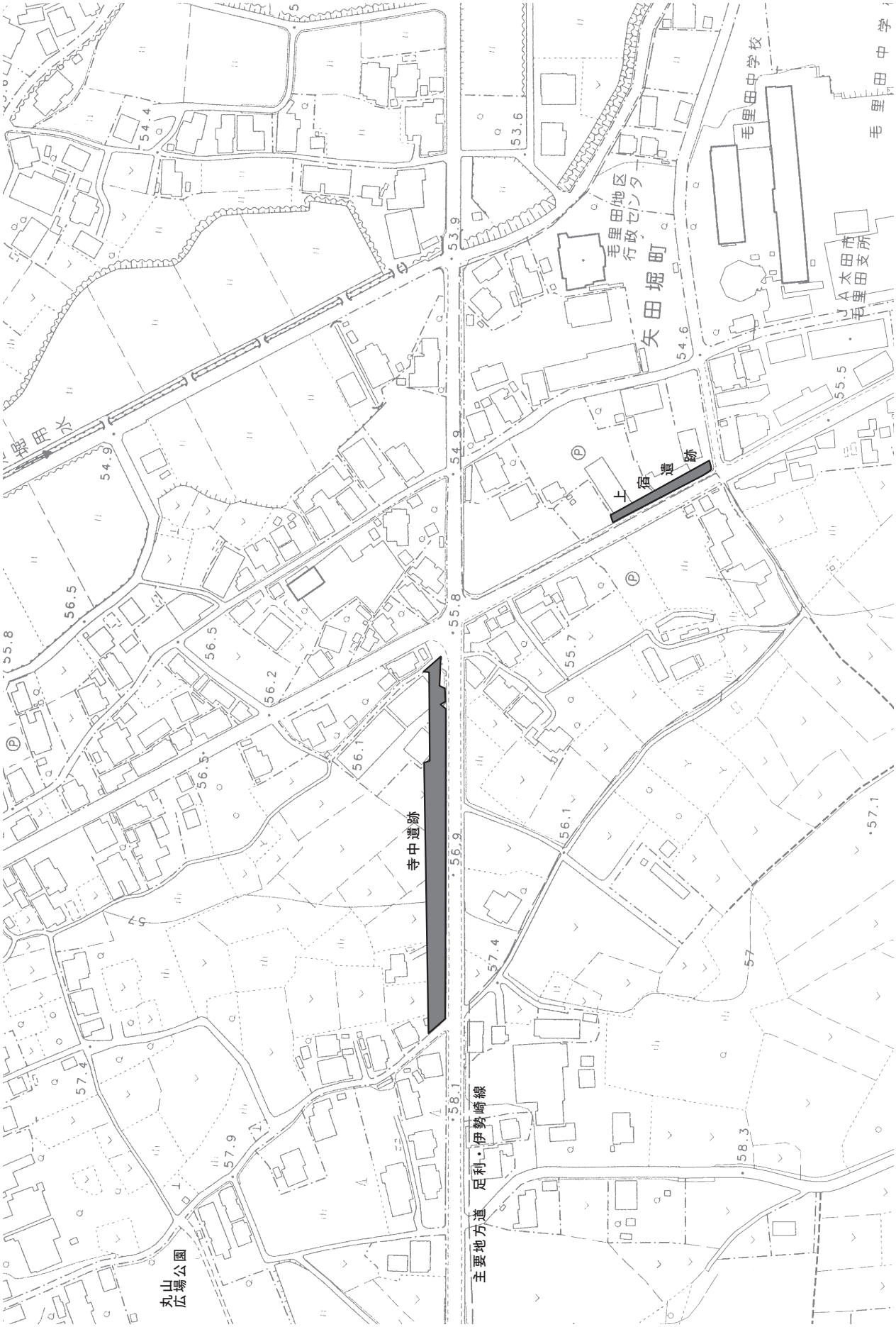
その後、報告書に掲載する遺構写真の選び出し作業、遺構図のデジタルトレース作業を行い、原稿を執筆し、報告書作成のための組版作業をデジタルで行った。

整理作業の最後には、遺物管理台帳及び写真管理台帳を作成し、今後の活用に備え遺物やその他資料の収納作業を行った。

なお、今回の整理の過程で、調査時の遺構名称を改訂した。改定内容について、第1表に一覧を示した。

第１表　寺中遺跡遺構名称相対表

| 調査時の名称 | 本報告書での名称 | 備考欄 |
|---|---|---|
| 寺中遺跡１区５号住居 | 遺構認定除外、欠番 | |
| 寺中遺跡１区７号住居 | 遺構認定除外、欠番 | |
| 寺中遺跡２区10号住居 | 遺構認定除外、欠番 | |
| 寺中遺跡２区13号住居 | 寺中遺跡２区８号土坑 | |
| 寺中遺跡２区20号住居 | 遺構認定除外、欠番 | |
| 寺中遺跡２区２号粘土採掘坑 | 寺中遺跡２区９号土坑 | |
| 寺中遺跡２区３号粘土採掘坑 | 寺中遺跡２区10号土坑 | |
| 寺中遺跡２区４号粘土採掘坑 | 遺構認定除外、欠番 | |
| 寺中遺跡２区５号粘土採掘坑 | 遺構認定除外、欠番 | |
| 寺中遺跡２区６号粘土採掘坑 | 遺構認定除外、欠番 | |
| 寺中遺跡２区１号竪穴状遺構 | 寺中遺跡２区７号土坑 | |




第２図　遺跡位置及び周辺図(この地図の作成にあたっては、太田市市長の承認を得て、同市発行の2,500分の１地形図を使用し、複製したものである。)

# 第２章　遺跡の地理的・歴史的環境

## 第１節　遺跡の立地

上宿遺跡・寺中遺跡は群馬県太田市矢田堀町286-4他、丸山町164-1他に所在する。丸山町・矢田堀町は太田市の北東部を占める。以下、遺跡の所在する太田市域の地勢について概観し、遺跡の立地について概要を述べる。　太田市域の地形は旧市街地より北の丘陵部、そして、その両側に広がる扇状地地形、旧市街地から利根川に至る間の複雑に入り組んだ洪積台地と低地、および、市域東の沖之郷周辺の埋没低地に大別することができる。

市街地の北から延びる丘陵は、金山・八王子丘陵と呼ばれ、断層活動が原因して足尾山地から分断されたものとされている。金山・八王子丘陵は上強戸付近の鞍部で繋がり、それぞれの最高点は金山丘陵が標高235.8m(金山)、八王子丘陵が239.3m(茶臼山)である。丘陵の分水界は北北東－南南西に延び、主稜線からは山脚が北東－南西に向いている。

大間々扇状地は、みどり市大間々町を扇頂部とする南北18km・扇端幅13kmの大規模扇状地である。地質学的に扇状地は形成時期を異にする５つの地形に区分されているが、特に桐原面と藪塚面について触れる。約50,000年前、渡良瀬川は早川より東を流れるようになり、粕川－早川間が台地化した。これが桐原面(大間々扇状地Ⅰ面)と呼ばれる地形面である。その後、渡良瀬川は八王子丘陵の東に流路を移し、早川－八王子丘陵間が離水、藪塚面(大間々扇状地Ⅱ面、約23,000年前)が形成されたというのが、大間々扇状地形成過程の概要である。藪塚面は、みどり市大間々町から太田市新田町に広がる新期扇状地である。標高50m付近に扇端部があり、そこには寺井・小金井などの地名が残り、かつてそこに湧水群が形成されていたことが分かる。また、扇状地の南には低台地(微高地)が島状に点在し、藪塚面Bと呼ばれている。この台地は砂礫層の上に形成されたもので、台地には上部ローム層の一部または河川の影響を受けた二次堆積ローム層が堆積しており、太田市域の南に広がる洪積台地とは明らかに区別することができる。

市域中央部から利根川にかけての地域には由良・新井・飯塚・矢島・高林の５つの洪積台地がほぼ東西方向に位置し、台地間は沖積低地となっている。台地は厚さ２～３ｍの関東ローム層に覆われている。沖積低地の基層は砂礫層とされているが、蛇行して東西方向に延びる沖積低地の在り方からみて、低地は旧渡良瀬川などの旧流路とすることができる。

渡良瀬川扇状地は、桐生市赤岩橋付近を扇頂部として標高30m付近(太田市東部下小林町から足利市御厨地区)を扇端部とする扇状地である。扇状地はⅠ～Ⅲ面に区分されているが、各扇状地面は南北に長く延び東西の幅が狭い。また、蛇行する旧河道の跡も多く残されており、東遷後の渡良瀬川は堆積と浸食を繰り返し、複雑である。以下のとおりに概略できよう。

八王子丘陵の東に流路を変えた渡良瀬川は、当初丘陵や丘陵から続く台地(岩宿面)を浸食して流れたようで、八ヶ入遺跡(緑町)では丘陵が浸食され崖線が形成されていた。丘陵の東には渡良瀬川扇状地Ⅰ面が接しているが、八ヶ入遺跡の発掘調査では崖線下でAs-Ok1より上位のローム層が堆積することが確認され、Ⅰ面の離水時期が明らかにされた。崖線は渡良瀬川流域の土壌改良事業で現在は消滅してしまったが、昭和50年代まで県道39号線の東には小規模な崖線があり、これが扇状地Ⅰ面の東縁ということになろう。Ⅱ面・Ⅲ面については旧地形を覆う堆積物や、宅地化により判然としないものの、栃木県境に近い茂木町周辺の地籍図には蛇行する旧河道の跡が読み取れること、只上地区では厚く黒色土が堆積することから、当地に渡良瀬川の旧流路が想定されてもいる。渡良瀬川扇状地の形成過程の概要を述べるなら、東遷後の渡良瀬川は上流側から多量の土砂を供給、扇状地を形成したその一方で、渡良瀬川は激しく流路を変え扇状地を浸食、段丘地形を形成したということになる。扇状地は徐々に下流域に形成されるようになり、小規模化したはずであるが、その詳細は今後の課題ということになる。

本遺跡は丘陵鞍部に近い渡良瀬川扇状地Ⅰ面にあり、周辺地形は平坦である。遺跡周辺には丸山と呼ばれる独立丘があり、付近を渡良瀬川が流れていたことは明らかであるが、現状ではその痕跡さえ分からない。

第３図　遺跡周辺地形分類図（群馬県『土地分類基本調査』深谷（1991）・桐生及足利（1977）による）

# 第２節　遺跡周辺の歴史環境

上宿遺跡・寺中遺跡(以下、便宜上本遺跡と表記する)の周辺地域を含む太田市域には、旧石器時代以降、各時代の遺跡が存在していた。以下、時代ごとに概観する。各時代の遺跡分布量は等量とは言えず、旧石器時代から弥生時代までの分布が比較的に少なく、古墳時代から増大する傾向と言える。この地域への大々的な開発は古墳時代以降と考えられる。

## １.旧石器時代

八王子丘陵や金山丘陵周辺に遺跡が分布する。丘陵性のローム台地の発達した地域に存在していたことが考えられる。本遺跡周辺では、八ヶ入遺跡(第４図８)から細石刃約370点を含む約2000点以上の石器が発見されている。また、峯山遺跡(４)でも石器が確認されている。

## ２.縄文時代

草創期・早期の遺跡は八王子丘陵や金山丘陵周辺及び沖積地内の低台地部に分布するものが多い。草創期は金山東麓の下宿遺跡(54)から爪形文土器が出土している。早期では、東今泉鹿島遺跡(13)から押型文土器が出土している。また焼山遺跡で撚糸文の土器片が採集されている。前期の遺跡は、平野部台地部分で遺跡が広がっており、由良台地上にある堂原遺跡から諸磯期の土器が出土している。中期前半の遺跡は市域では希薄な状況である。これは、前期に見られた東京湾海進が次第に後退し、平野部が沖積化するなかで、人々が山寄りの地に生活の場を求めていったからであろう。中期後半加曽利E式期になると、市域でも三枚橋南遺跡など遺跡が見られるようになる。後期は堂原遺跡が顕著であり、称名寺式土器・堀ノ内式土器・加曽利B式土器が多く認められる。晩期の遺跡は、太田市域では分布が少ない。

## ３.弥生時代

太田市域における弥生時代の遺跡は極めて少ない。本遺跡周辺では、金山丘陵北東部の小丸山遺跡(20)で遺物の散布が認められるほか、金山丘陵東部の磯之宮遺跡から中期の住居が検出されている。八ヶ入遺跡では弥生土器片が106点出土している。中期前半から中葉段階の所産と考えられるものが大半であるが、一部に後期初頭段階のものも見られる。太田市域では、弥生時代の遺跡が極めて少ないことから、人々が定着していた可能性は低いと言えよう。しかし、このように遺物が散布していることから、少人数単位の生活集団の存在は、想定できよう。

## ４.古墳時代

太田市域は、弥生時代までは極めて希薄な遺跡分布であったが､古墳時代前期になると遺跡の分布が急増する。それまで開発することが困難であった沖積低地を開発造成した人々の存在が考えられている。群馬県における古墳時代前期を代表する土器は、石田川遺跡を指標とする東海系の影響を受けた｢石田川式土器｣と呼ばれる土器様式の土器群である。その石田川遺跡は太田地域に存在する。石田川遺跡と同様な外来系土器を器種構成の主体におく遺跡は沖積低地内の低台地やその周辺に形成されている。屋敷内B遺跡、成塚住宅団地遺跡、脇屋深町遺跡、唐桶田遺跡、新田東部遺跡群などである。新田東部遺跡群内の中溝・深町遺跡では、外来系の土器が出土した以外に、井泉祭祀遺構を伴う方形区画遺構が検出されており、首長を中心とする成熟した社会が築かれていたと言える。その一方で、太田市域では樽式土器や吉ヶ谷式土器など弥生時代後期の系譜を引く土器が出土する遺跡も確認されている。成塚向山古墳群、西長岡東古墳群などである。これら遺跡は八王子丘陵上やその周辺に形成されている。

前期の墳墓として、周溝墓は屋敷内B遺跡の前方後方形周溝墓、細田遺跡(81)の方形周溝墓がある。ほかにも周溝墓は、西長岡東山古墳群、成塚住宅地遺跡、唐桶田遺跡、新田東部遺跡群などにも存在する。前期の古墳は寺山古墳(31)、太田八幡山古墳、成塚向山１号墳などである。それぞれ八王子丘陵や金山丘陵の丘陵端部に立地し、前方後方墳、前方後円墳、方墳と形態が異なる。

中期の遺跡は、沖積低地内の低台地やその周辺地域など、前期集落の立地と同じ場合が多い。前沖遺跡、成塚住宅団地遺跡、新田東部遺跡群、堂原遺跡などが挙げられる。

中期の古墳は､前期古墳と占地が異なる。前期古墳が、丘陵部に築いていたのに対し、中期の古墳は、沖積地の

低台地上に築いていた。中期前半は、墳丘長168mの前方後円墳である別所茶臼山古墳、中期中葉には墳丘長210mの前方後円墳である太田天神山古墳、96mの帆立貝形古墳である女体山古墳など大型古墳が築かれる。中期後半では、墳丘長95mの前方後円墳である鶴山古墳、中期末葉には墳丘長約66mの前方後円墳である鳥崇神社古墳などが築造されている。鶴山古墳からは、眉庇付冑・衝角付冑・革綴短甲・鋲留短甲などをはじめ、多量の武器・武具などが出土しており、鳥崇神社古墳は周堀内に一対の中島を持つと見られており特徴的と言えよう。

後期になると、八王子丘陵や金山丘陵において埴輪窯跡、須恵器窯跡が多く分布している。埴輪窯としては、八王子丘陵周辺の駒形神社埴輪窯跡、成塚住宅団地遺跡、金山丘陵周辺の金井口埴輪窯跡(61)などがある。須恵器窯は、金山丘陵に窯跡群が広がっていた。金山丘陵の古窯跡群は全体で20カ所以上と言われており、古墳時代後期のこの地域を象徴する存在と言える。菅ノ沢Ⅰ遺跡(37)では調査がされており、６世紀後半から操業していたことが知られる。

後期の集落は沖積地内の微高地を避け、大間々扇状地の末端の台地や八王子丘陵・金山丘陵、高林台地などの周辺部に分布する傾向がある。川窪遺跡、堂原遺跡、成塚団地遺跡などである。

後期の古墳は、後期後半に墳丘長74mの前方後円墳である二ツ山古墳１号墳、墳丘長45mの前方後円墳である二ツ山古墳２号墳が築造される。本遺跡周辺では方墳の巌穴山古墳(26)がある。後期から終末期にかけては八王子丘陵・金山丘陵上や、沖積地内の低台地上に多くの群集墳が形成されている。大鷲梅穴古墳群、貧乏塚古墳群(89)、西山古墳群(87)、東山古墳群(86)、焼山古墳群(82)などである。

## ５.飛鳥・奈良・平安時代

本遺跡周辺地域は、古代では山田郡に属すると想定される。山田郡衙は本遺跡地の南東に「古氷」の地名が残ることから、この付近から鹿島浦遺跡(12)付近に所在していたと想定される。実際に鹿島浦遺跡や楽前遺跡(11)などの発掘調査では獣足付円面硯等の陶硯や「山田」の墨書が出土するなど郡衙の存在を窺わせる遺物が多く出土している。また、八ヶ入遺跡、大道西遺跡(９)、大道東遺跡(10)、鹿島浦遺跡からは７世紀後半から８世紀前半代に使用された東山道駅路と推定される道路遺構も検出されている。

金山丘陵窯跡群では西麓の高太郎Ⅱ遺跡(102)などで操業が開始された。須恵器生産以外にも、鉄生産が開始されている。八王子丘陵では西野原遺跡、峯山遺跡など、金山丘陵では菅ノ沢遺跡、高太郎Ⅰ遺跡(101)などで鉄生産遺構が検出されている。寺中遺跡のうち太田市が調査した範囲では、石組炉を検出している。

本遺跡周辺ではいくつもの集落が形成されていた。八ヶ入遺跡、大道東遺跡、楽前遺跡、鹿島浦遺跡、向矢部遺跡(14)、東今泉鹿島遺跡など、いずれも大集落とみられる住居群が見つかっている。

## ６.中世以降

太田市域には、中世城館跡が多く存在する。本遺跡周辺では近接する丸山に丸山の砦(114)が築かれていた。城郭としては金山城(62)がある。これは金山丘陵上にある山城であり、文明元(1469)年岩松家純によって築城された。岩松氏は、岩松尚純の代である明応４(1495)年家臣の横瀬成繁に実権を奪われる。横瀬氏は由良氏を名乗り、金山城を中心として地域を治めたが、後北条氏の上野国進出に際し、その支配下に属した。天正18（1590）年後北条氏が滅びると、金山城は廃城となった。その城域は広大で、山頂部に実城を置き、山頂部から延びる西尾根に西城を配置し、北に延びる観音山に北城を構えている。また、南の中八王子山には八王子山の砦を築いている複合的城郭である。山頂部の実城域に日の池、月の池を持ち、石垣・石敷き通路・石組み排水路・石組み井戸など山城としては珍しい石組みの施設を有する。

近世になると本遺跡近接地に丸山宿が置かれた。丸山宿は、慶長11（1606）に館林藩により六斎市開市が許可され、毎月二と七の日に市が開かれていた。

参考文献
第１節
太田市1996『太田市史』通史編自然
第２節
太田市1992『太田市史』通史編近世
太田市1996『太田市史』通史編原始古代
群馬県史編さん委員会1990『群馬県史』通史編１

第４図　周辺遺跡位置図（国土地理院発行地形図「桐生」「上野境」「足利北部」「足利南部」使用）

第２表　主な周辺遺跡

| No | 遺跡名 | 集落・溝・土坑など○　墳墓●　生産跡□<br>水田・畠■　遺物のみ△ | | | | | | | 備　　考 | 文献 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | 旧石器 | 縄文 | 弥生 | 古墳<br>前期 | 古墳<br>中後 | 奈良<br>平安 | 中世<br>近世 | | |
| 1 | 寺中遺跡 | | | | | | ○ | | 本報告の遺跡 | |
| 2 | 上宿遺跡 | | | | | | ○ | | 本報告の遺跡 | |
| 3 | 上強戸遺跡群 | | △ | | ○■ | ■ | ○■ | ○■□ | 古墳時代前期から中世の各時代水田跡を検出。又、各時代の木製品が多量に出土。室町時代前期の鍛冶工房を検出。それに伴う多量の大型砥石出土。 | 36、37、50 |
| 4 | 峯山遺跡 | △ | ○ | | | ○ | ○□ | | 旧石器時代の遺物包蔵地。縄文時代草創期から後期の土器・石器出土。主体は早期。7世紀末から8世紀前半の鉄・鉄器生産遺跡。箱型製鉄炉3基、鍛冶工房2基、炭窯跡1基検出。 | 40、43 |
| 5 | 萩原遺跡 | | | | | ○ | ○■ | ○ | 古墳時代の545基の土坑群検出。粘土採掘坑の可能性が高い。平安時代の水田跡・井戸を検出。井戸より柄杓曲物が出土。近世の一分金出土。 | 46 |
| 6 | 古氷条里水田跡 | | | | ○ | | ■ | | 浅間B軽石下から水田・溝を検出。 | 1、39 |
| 7 | 二の宮遺跡 | | ○ | | | ○ | ○ | | 北関東道調査部分では平安時代の住居・掘立柱建物を検出。太田市調査部分では古墳時代中期の住居・石製模造品出土土坑、平安時代の住居・井戸を検出。 | 28、39 |
| 8 | 八ヶ入遺跡 | △ | | | | ○ | ○ | ○ | 旧石器時代の遺物包蔵地。奈良・平安を主体とする集落。掘立柱建物、東山道駅路の側溝を検出。平安時代の大溝を検出。 | 44、48 |
| 9 | 大道西遺跡 | | | | | ○ | ○ | ○ | 古墳時代後期から平安時代の集落。東山道駅路の側溝を検出。中世屋敷跡検出。 | 28、51 |
| 10 | 大道東遺跡 | | ○ | | | ○ | ○ | ○ | 縄文時代中期から後期の集落、古墳時代から平安時代の集落。東山道駅路の側溝を検出。 | 1、41、42、49 |
| 11 | 楽前遺跡 | | ○ | | | ○ | ○ | | 太田市調査部分からは古墳時代後期から平安時代の大規模集落を検出。北関東道調査部分でもほぼ同時期の住居を検出。掘立柱建物・粘土採掘坑も多数検出される。 | 6、9、15、38、47 |
| 12 | 鹿島浦遺跡 | | | | | | ○ | ○ | 奈良・平安時代の集落。掘立柱建物、東山道駅路の側溝、大規模用水路を検出した。 | 45 |
| 13 | 東今泉鹿島遺跡 | | ○ | | ○ | ○ | ○■ | | 古墳時代前期・中期の集落、奈良・平安時代の集落、8世紀後半から9世紀の洪水下水田跡、浅間B軽石下水田跡を検出。大規模用水路も検出される。 | 34 |
| 14 | 向矢部遺跡 | | | | | ○ | ○ | ○ | 古墳時代後期から平安時代の集落。掘立柱建物を検出。 | 16、18、20、35、55 |
| 15 | 矢部遺跡 | △ | ○ | △ | | ○ | ○■ | ○ | 太田市調査部分からは古墳時代後期から平安時代の集落、中近世の墓坑を検出。北関東道調査部分では縄文時代の土坑を検出。弥生時代中期の土器が出土。奈良・平安時代の住居・畠・大規模用水路を検出。 | 8、9、33、56 |
| 16 | 只上深町遺跡 | | △ | △ | | | ○■ | ■ | 縄文・弥生時代の土器、石器が出土。平安時代の住居・掘立柱建物、平安時代・中近世の畠、中世水田1面を検出。 | 54 |
| 17 | 新島遺跡 | | | | | ○■ | ○■ | ○ | 古墳時代のピット・畠、平安時代の畠・溝を検出。平安時代洪水下水田1面を検出。中近世の溝を検出。 | 33、53 |
| 18 | 丸山腰巻遺跡 | | | | | | ○□ | | 平安時代の須恵器窯跡1基と溝を検出。 | 21、22 |
| 19 | 小丸山西遺跡 | △ | | | | | | | 旧石器時代の遺物包蔵地。槍先形尖頭器・ナイフ・楔形石器が出土。 | 1 |
| 20 | 小丸山遺跡 | | | △ | △ | △ | △ | | 弥生時代後期から平安時代の遺物出土。祭祀遺物、9世紀代と考えられる瓦塔が出土。 | 1 |
| 21 | 寺前遺跡 | | | | ○ | | | | 古墳時代の住居・井戸・溝を検出。 | 19 |
| 22 | 寺中遺跡 | | | | | | □ | | 平安時代の石組炉を検出。羽口・鍛冶滓が出土。菅ノ沢製鉄遺構と同時期の大鍛冶と推定される。 | 1 |
| 23 | 矢田堀前田遺跡 | | | | | | | | 時期不明の土坑・ピット・溝を検出。 | 22 |
| 24 | 矢田堀館跡 | | | | | | | ○ | 中世城郭跡。泉基繁に係わる。16世紀に存続。堀・土居・戸口が認められる。 | 29 |
| 25 | 矢田堀古墳群 | | | | | ● | | | 巌穴山古墳の周辺に少数の古墳が分布したとされる。又、『綜覧』では小丸山丘陵周辺にも古墳の分布があったことが記載されている。 | 1 |
| 26 | 巌穴山古墳 | | | | | ● | | | 一辺が36.5mの方墳。主体部は複室構造の横穴式石室。7世紀前半の築造である。 | 1、25、 |
| 27 | 東田遺跡 | | | | | | ○ | | 平安時代の住居・掘立柱建物を検出。 | 6 |
| 28 | 猿楽遺跡 | | | | | ● | ○ | | 古墳時代後期から終末期の古墳群を検出。奈良・平安時代の住居・掘立柱建物を検出。 | 52 |
| 29 | 只上の砦跡 | | | | | | | ○ | 中世城郭跡。16世紀に存続したと考えられる。堀が認められる。 | 29 |
| 30 | 雷電山遺跡 | △ | | | | ○ | | | 旧石器時代の遺物包蔵地。7世紀末から８世紀前半の集落を検出。 | 1 |
| 31 | 寺山古墳 | | | | ● | | | | 4世紀代の前方後方墳。全長55m。 | 1 |
| 32 | 強戸口峰山遺跡 | △ | | | | | ○ | | 旧石器時代の遺物包蔵地。7世紀後半から８世紀後半の集落を検出。 | 1 |
| 33 | 菅ノ沢御廟古墳 | | | | | ● | | | 金山丘陵の一支丘頂部に位置する。直径30mの円墳。主体部は横穴式石室。7世紀代の築造と考えられる。 | 1 |
| 34 | 菅ノ沢Ⅱ遺跡 | | | | | □ | | | 古墳時代の須恵器窯跡の灰原を検出。 | 32 |
| 35 | 今泉口八幡山古墳 | | | | | ● | | | 墳丘長約60mの前方後円墳。横穴式石室に安山岩製の家形石棺を安置する。6世紀末から7世紀初頭の築造と考えられる。 | 1 |
| 36 | 八ヶ入窯跡 | | | | | □ | | | 古墳時代の須恵器窯跡を検出。鉄滓が出土。 | 32 |
| 37 | 菅ノ沢Ⅰ遺跡 | | | | | ●□ | □ | | 古墳時代の須恵器窯7基、未操業窯6基、炭窯1基、平安時代の製鉄炉3基を検出。 | 32 |
| 38 | 諏訪ヶ入遺跡 | | | | | △ | | | 古墳時代の須恵器窯跡の灰原を検出。 | 32 |

| No | 遺跡名 | 集落・溝・土坑など○　墳墓●　生産跡□<br>水田・畠■　遺物のみ△ | | | | | | | 備　　考 | 文献 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | 旧石器 | 縄文 | 弥生 | 古墳<br>前期 | 古墳<br>中後 | 奈良<br>平安 | 中世<br>近世 | | |
| 39 | 菅ノ沢古墳群 | | | | | ● | | | 7世紀代の古墳群。長さ2mにも満たない小型横穴式石室を有するものが発見された。 | 1 |
| 40 | 川西遺跡 | | | | | □ | | | 古墳時代の須恵器窯跡を検出。 | 32 |
| 41 | 八幡Ⅳ遺跡 | | | | | □ | | | 古墳時代の須恵器窯跡、灰原を検出。 | 32 |
| 42 | 八幡Ⅰ遺跡 | | | | | □ | | | 古墳時代の須恵器窯跡4基を検出。 | 32 |
| 43 | 八幡Ⅱ遺跡 | | | | | □ | | | 古墳時代の須恵器窯跡2基、灰原を検出。 | 32 |
| 44 | 八幡Ⅴ遺跡 | | | | | ●□ | | | 古墳時代の須恵器窯跡、灰原を検出。円墳1基を検出。 | 32 |
| 45 | 八幡Ⅲ遺跡 | | | | | | □ | | 奈良時代の須恵器窯跡1基、灰原を検出。 | 32 |
| 46 | 狸ヶ入Ⅱ遺跡 | | | | | △ | | | 古墳時代の須恵器窯跡の灰原を検出。 | 30、32 |
| 47 | 辻小屋遺跡 | | | | | □ | | | 古墳時代の須恵器窯跡を検出。 | 1 |
| 48 | 辻小屋窯跡群 | | | | | □ | | | 古墳時代の須恵器窯跡4基を検出。 | 31、32 |
| 49 | 狸ヶ入館遺跡 | | | | | | | ○ | 中世の堀・土居・戸口が認められる。 | 30 |
| 50 | 宿裏遺跡 | | | | | | ○ | | 平安時代の集落。 | 7 |
| 51 | 富田館跡 | | | | | | | ○ | 16世紀に存続したと考えられる。堀・土居・戸口が認められる。 | 29 |
| 52 | 堂目木遺跡 | | | | | | □ | ● | 10世紀代の小鍛冶遺構を伴う平安時代集落を検出。中世火葬墓を検出。 | 1 |
| 53 | 西浦遺跡 | | | | ○ | | ○● | ● | 古墳時代前期の土坑・井戸・溝、平安時代の住居を検出。中世の墓坑を検出。 | 5 |
| 54 | 下宿遺跡 | | ○ | | ○ | | ○ | ○ | 縄文時代草創期爪形文土器を伴う土坑を検出。古墳時代前期と平安時代の住居を検出。 | 1、7 |
| 55 | 胎蔵寺跡 | | | | | | | ○ | 中世の寺跡。 | 29 |
| 56 | 狸ヶ入Ⅰ遺跡 | | | | | □ | | | 古墳時代の須恵器窯跡1基を検出。 | 30、32 |
| 57 | 入宿Ⅱ遺跡 | | | | | △ | | | 古墳時代の須恵器窯跡の灰原を検出。 | 31、32 |
| 58 | 入宿Ⅰ遺跡 | | | | | △ | | | 古墳時代の須恵器窯跡の灰原を検出。 | 31、32 |
| 59 | 大日沢古墳群 | | | | | ● | | | 7世紀末の小規模墳丘墓群。 | 1 |
| 60 | 入宿Ⅲ遺跡 | | | | | △ | | | 古墳時代の須恵器窯跡の灰原を検出。 | 31、32 |
| 61 | 金井口埴輪窯跡 | | | | | □ | | | 古墳時代後期の埴輪窯跡3基以上検出。円筒埴輪・埴輪円筒棺が出土。 | 1 |
| 62 | 金山城跡 | | | | | | | ○ | 1469年築城。15世紀から16世紀にかけて存続。石垣・石敷き通路・石組排水路・石組井戸が認められる。岩松氏、由良氏、清水正次と係わる。 | 23 |
| 63 | 母衣埴輪窯跡 | | | | | □ | | | 古墳時代後期の埴輪窯跡を検出。 | 1 |
| 64 | 金井口遺跡 | △ | △ | | | □ | □ | | 金井口埴輪窯跡に近接。旧石器時代から縄文時代前期の遺物包蔵地。旧石器時代の槍先形尖頭器が出土。古墳時代の埴輪窯跡2基、平安時代の製鉄遺構を検出。 | 1 |
| 65 | 亀山窯跡 | | | | | □ | | | 古墳時代後期の須恵器窯跡2基、灰原を検出。 | 1、32 |
| 66 | 塩ノ山遺跡 | | | | | ● | | | 円墳1基を検出。 | 1 |
| 67 | 聖天沢遺跡 | | | | | ● | | ● | 直径15mの円墳1基を検出。古墳主体部は横穴式石室。7世紀後半の築造と考えられる。他に、中世の墓群を検出。骨臓器・板碑・五輪塔が出土。 | 2、25 |
| 68 | 丸屋敷の砦 | | | | | | | ○ | 中世城郭跡。金山城の砦である。 | 1 |
| 69 | 東金井城跡 | | | | | | | ○ | 中世城郭跡。金山城の砦である。堀・土居・戸口・腰郭が認められる。 | 29 |
| 70 | 寺ヶ入馬塚古墳群 | | | | | ● | | | ６世紀後半に形成された横穴式石室の古墳群。 | 1 |
| 71 | 亀山古墳群 | | | | | ● | | | 亀山京塚古墳から聖天沢に向かう丘陵尾根上や亀山南側裾部に円墳が分布する。 | 1 |
| 72 | 亀山京塚古墳 | | | | | ● | | | 金山丘陵上に位置する直径27mの円墳。主体部は横穴式石室。陶棺出土。6世紀中頃の築造と考えられる。 | 1、25 |
| 73 | 内並木古墳群 | | | | | ● | | | 6世紀から7世紀前半に形成された古墳群。円墳3基が現存。 | 1 |
| 74 | 内並木遺跡 | △ | | | | △ | △ | | 旧石器時代の槍先形尖頭器が出土。古墳時代の須恵器窯跡の灰原を検出。 | 1、32 |
| 75 | 馬塚古墳群 | | | | | ● | | | 馬塚古墳は直径15mの円墳。6世紀後半の築造と考えられる。 | 1 |
| 76 | 焼山北古墳 | | | | | ● | | | 焼山の北側丘陵上に位置する円墳。主体部は竪穴式石室。6世紀初頭の築造。 | 1 |
| 77 | 焼山北遺跡 | △ | △ | △ | | △ | | | 焼山の北側丘陵上に立地する。旧石器時代から古墳時代にかけての遺物を採集。 | 1、25 |
| 78 | 焼山南遺跡 | △ | △ | △ | △ | △ | △ | | 焼山の南側丘陵上に立地する。旧石器時代から平安時代にかけての遺物を採集。 | 1 |
| 79 | 焼山古墳 | | | | | ● | | | 焼山の南側丘陵上に立地する墳丘48mの前方後円墳。6世紀中頃の築造とされる。 | 1、25 |
| 80 | 焼山南古墳群 | | | | | ● | | | 6世紀中頃から7世紀にかけて形成された古墳群。 | 1 |
| 81 | 細田遺跡 | △ | ○ | | ● | | ○ | | 旧石器時代の槍先形尖頭器が出土。縄文時代前期の住居・土坑を検出。古墳時代前期の方形周溝墓7基、平安時代の住居など検出。 | 3、4 |
| 82 | 焼山古墳群 | | | | | ● | | | 焼山の南北丘陵上に分布。6世紀から7世紀に形成された古墳群。 | 1 |
| 83 | 寺ヶ入遺跡 | | | | | ● | | | 寺ヶ入古墳群と同一か。 | 10 |
| 84 | 寺ヶ入古墳群 | | | | | ● | | | 寺ヶ入の東側の支丘陵と寺ヶ入谷地入口付近に円墳30基程分布。主体部に横穴式石室を有し、埴輪を伴うものが多い。6世紀後半から7世紀前半の築造とされる。 | 1 |

| No | 遺跡名 | 集落・溝・土坑など○　墳墓●　生産跡□<br>水田・畠■　遺物のみ△ | | | | | | | 備　　考 | 文献 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | 旧石器 | 縄文 | 弥生 | 古墳<br>前期 | 古墳<br>中後 | 奈良<br>平安 | 中世<br>近世 | | |
| 85 | 富士山古墳群 | | | | ● | ● | | | 富士山丘陵の南側斜面に分布していた。6世紀後半から7世紀代の形成とされる。熊野古墳群とも呼ばれている。 | 1 |
| 86 | 東山古墳群 | | | | | ● | | | 八王子山から南に延びる東山丘陵上の南西斜面に分布。古墳時代末期の形成とされる古墳群。直径10m程度の円墳が主体。 | 1 |
| 87 | 西山古墳群 | | | | | ● | | | 大光院北側丘陵の南東斜面に分布。古墳時代末期の形成とされる古墳群。数基の小円墳からなる。 | 1、10 |
| 88 | 由良氏五輪塔 | | | | | | | ● | 中世石造物。 | 30 |
| 89 | 貧乏塚古墳群 | | | | | ● | | | 約30基の円墳よりなる群集墳。6世紀後半の形成とされる。 | 1 |
| 90 | 大島口遺跡 | | △ | | △ | △ | | | 縄文時代草創・早・前期、古墳時代の遺物散布地。 | 1 |
| 91 | 弐反田古墳群 | | | | | ● | | | 数基の円墳からなる古墳群。６世紀後半の形成とされる。 | 1 |
| 92 | 長楽寺跡 | | | | | | | ○ | 中世の寺跡。 | 29 |
| 93 | 長手口砦跡 | | | | | | | ○ | 中世の城郭跡。 | 24 |
| 94 | 山去・十八曲遺跡 | | ○ | | ○ | | | ○ | 縄文時代の住居、古墳時代前期の住居を検出。金山城跡関連の大堀切り、井戸跡1基検出。 | 11、24 |
| 95 | 鶏足寺跡 | | | | | | | ○ | 中世の寺跡。 | 27 |
| 96 | 堤入遺跡 | | | | | □ | | | 古墳時代後期から奈良時代の須恵器窯跡を検出。 | 24、32 |
| 97 | 大長谷遺跡 | | | | | | □ | | 奈良時代の須恵器窯跡を検出。 | 32 |
| 98 | カニガ沢遺跡 | | | | | □ | □ | | 古墳時代後期から奈良時代の須恵器窯跡を検出。 | 30 |
| 99 | 高太郎Ⅲ遺跡 | | | | | | □ | | 奈良時代の須恵器窯跡を検出。 | 24 |
| 100 | 鍛冶ヶ谷戸遺跡 | | ○ | | ○ | ○ | ○□ | ○ | 縄文・古墳・平安時代、中世の集落を検出。平安時代の製鉄遺構を検出。 | 24 |
| 101 | 高太郎Ⅰ遺跡 | | | | | □ | □ | | 古墳時代後半の須恵器窯跡10基、工房1基と平安時代の製鉄炉跡2基を検出。 | 24 |
| 102 | 高太郎Ⅱ遺跡 | | | | | | □ | | 10世紀前半の製鉄炉跡3基、炭窯跡3基を検出。 | 11、24 |
| 103 | 長手口古墳群 | | | | | ● | | | 3基の前方後円墳が中核。6世紀後半の形成とされる。 | 1 |
| 104 | 中妻遺跡 | | | | ○ | ○● | | | 古墳時代の墳墓、集落を検出。 | 30 |
| 105 | 上強戸古墳群 | | | | | ● | | | 円墳8基が分布。。６世紀代を中心に形成されたとされる | 1 |
| 106 | 大鷲向上古墳群 | | | | ○ | ● | | | 円墳5基を検出。6世紀代の築造と考えられる。古墳時代前期の住居1軒を検出。 | 1、12、13 |
| 107 | 大鷲大平古墳群 | | | | | ● | | | 15基が群集する。大鷲古墳群の支群。６世紀代の形成とされる。 | 1 |
| 108 | 大鷲古墳群 | | | | | ● | | | 36基の古墳が分布。６世紀代の形成とされる。 | 1 |
| 109 | 萩原窯跡 | | | | | | □ | | 奈良時代の須恵器窯跡・炭窯跡1基を検出。 | 1 |
| 110 | 村上遺跡 | △ | | | | | | | 旧石器時代の遺物包蔵地。 | 1 |
| 111 | 吉沢古墳群 | | | | | ● | | | 直径10m未満の古墳3基。うち1基は割石積みの両袖形横穴式石室を有する。7世紀後半の築造か。 | 1 |
| 112 | 吉沢窯跡群 | | | | | | □ | | 8世紀から10世紀にかけて操業されたとされる須恵器窯跡を検出。 | 1 |
| 113 | 丸山北窯跡 | | | | | | ○□ | | 8世紀後半から9世紀にかけて操業されたとされる須恵器窯跡2基を検出。土坑から瓦塔が出土。他に粘土採掘坑を検出。 | 1 |
| 114 | 丸山の砦跡 | | | | | | | ○ | 16世紀に存続したと考えられる。腰郭・烽火台が認められる。 | 29 |
| 115 | 丸山北遺跡 | | | | | ○ | | | 古墳時代中期の住居を1軒検出。 | 28 |
| 116 | 宮の上遺跡 | | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | | 縄文時代から平安時代の集落。古墳の検出が想定されたが主たる遺構なし。古墳遺物散布。 | 5 |
| 117 | 落合遺跡 | | | | | ○ | ○ | | 古墳時代後期および平安時代の集落。 | 1、5 |
| 118 | 反丸遺跡 | | | | | ○● | | | 古墳時代中期・後期の住居検出。後期の大集落と想定される。多量の祭祀遺物が出土。横穴式石室を主体部とする1・2号古墳を調査。 | 1、26、27 |
| 119 | 諏訪神社古墳 | | | | | ● | | | 以前は前方後円墳と考えられていたが調査の結果直径25mの円墳に復元される。主体部は横穴式石室。古墳時代後期の築造と考えられる。 | 1 |
| 120 | 吉祥寺遺跡 | | | | | | | | 時期不明の土坑・ピットを検出。 | 27 |
| 121 | 流作場遺跡 | | | | | ○● | | | 古墳時代中期・後期の集落。諏訪古墳、埴輪円筒棺も合わせて検出。 | 1、27 |
| 122 | 丸山古墳群 | | | | | ● | | | 庚申塚古墳は墳丘長50mの前方後円墳。家形石棺が出土したと記録される。6世紀末から7世紀前半の築造と推定される。周辺に8基の円墳が分布。 | 1 |
| 123 | 七日市古墳群 | | | | | ○ | | | 丸山古墳群と同一か。調査では古墳は検出されず幅9mの古代の溝を検出。 | 17 |

引用参考文献

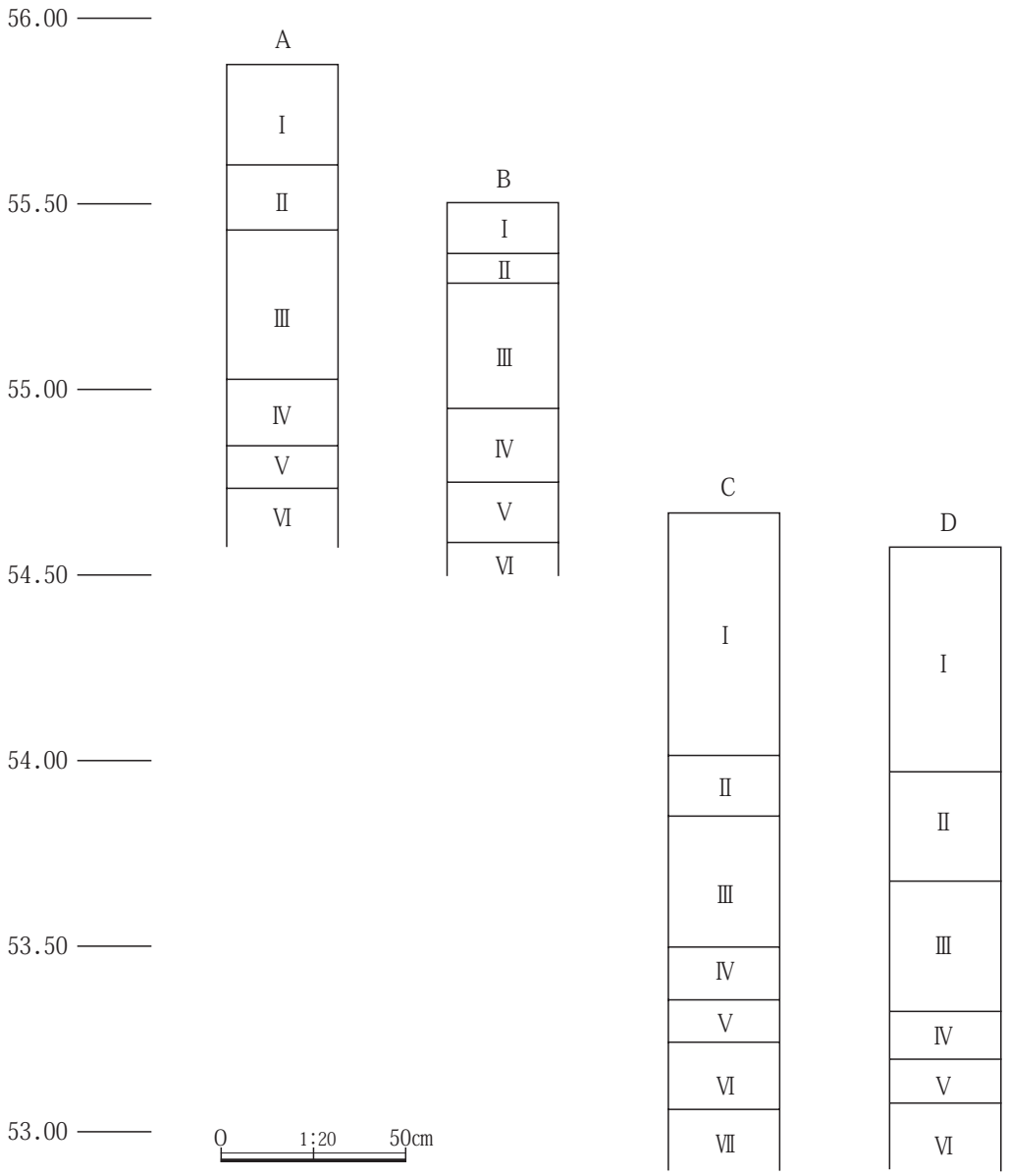
１太田市1996 『太田市史　通史編　原始古代』
２太田市教育委員会1971 『聖天沢遺跡調査報告書』
３太田市教育委員会1978 『細田遺跡発掘調査概報』
４太田市教育委員会1978 『細田遺跡発掘調査概報Ⅱ』
５太田市教育委員会1986 『渡良瀬川流域遺跡群発掘調査概報(宮の上遺跡　落合遺跡　矢田堀前田遺跡　西浦遺跡　磯之宮遺跡)』
６太田市教育委員会1988 『渡良瀬川流域遺跡群発掘調査概報－楽前遺跡(第Ⅱ次)・東田遺跡－』
７太田市教育委員会1988 『下宿遺跡F地点』
８太田市教育委員会1989 『渡良瀬川流域遺跡群発掘調査概報　矢部遺跡』
９太田市教育委員会1989 『渡良瀬川流域遺跡群発掘調査概報　楽前遺跡(第Ⅱ次)　深町遺跡　矢部遺跡』
10太田市教育委員会1992 『寺ヶ入遺跡発掘調査報告書Ⅰ・Ⅱ』
11太田市教育委員会1993 『市内遺跡Ⅸ』
12太田市教育委員会1993 『埋蔵文化財発掘調査年報3』
13太田市教育委員会1994 『埋蔵文化財発掘調査年報4』
14太田市教育委員会1994 『市内遺跡Ⅹ』
15太田市教育委員会1994 『渡良瀬川流域遺跡群・楽前遺跡発掘調査報告書－本文編(農政分)－』
16太田市教育委員会1995 『市内遺跡Ⅺ』
17太田市教育委員会1996 『埋蔵文化財発掘調査年報6』
18太田市教育委員会1996 『渡良瀬川流域遺跡群発掘調査概報　向矢部遺跡(第Ⅱ次)・文化庁分』
19太田市教育委員会1996 『今泉口八幡山古墳発掘調査報告書』
20太田市教育委員会1997 『渡良瀬川流域遺跡群発掘調査概報　向矢部遺跡(第Ⅲ次)・農政分』
21太田市教育委員会2000 『渡良瀬川流域遺跡群発掘調査概報－丸山腰巻遺跡－』
22太田市教育委員会2000 『市内遺跡Ⅻ』
23太田市教育委員会2001 『史跡　金山城跡報告書－発掘調査編－』
24太田市教育委員会2002 『長手谷遺跡群発掘調査報告書』
25群馬県史編さん委員会1981 『群馬県史料編3　原始古代3』
26群馬県教育委員会1983 『渡良瀬川流域遺跡群(反丸遺跡)発掘調査概報』
27群馬県教育委員会1984 『渡良瀬川流域遺跡群発掘調査概報(吉祥寺遺跡　流作場遺跡　反丸遺跡)』
28群馬県教育委員会1985 『渡良瀬川流域遺跡群発掘調査概報(丸山北遺跡　大道西遺跡　二の宮遺跡)』
29群馬県教育委員会1988 『群馬県の中世城館址』
30群馬県総合型地理情報システム(GIS)
31駒澤大学考古学研究室2007 『群馬・金山丘陵窯跡群Ⅰ』
32駒澤大学考古学研究室2009 『群馬・金山丘陵窯跡群Ⅱ』
33(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団2006 『矢部遺跡・新島遺跡』
34(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団2007 『東今泉鹿島遺跡』
35(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団2007 『向矢部遺跡』
36(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団2008 『上強戸遺跡群』
37(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団2009 『上強戸遺跡群(1)』
38(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団2009 『楽前遺跡(1)』
39(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団2009 『古氷条里制水田跡　二の宮遺跡』
40(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団2009 『峯山遺跡Ⅰ　旧石器・縄文時代編』
41(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団2009 『大道東遺跡(1)－縄文時代編－』
42(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団2010 『大道東遺跡(2)』
43(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団2010 『峯山遺跡Ⅱ』
44(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団2010 『八ヶ入遺跡Ⅰ　旧石器時代編』
45(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団2010 『鹿島浦遺跡』
46(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団2010 『萩原遺跡』
47(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団2010 『楽前遺跡(2)』
48(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団2010 『八ヶ入遺跡Ⅱ－縄文時代以降編－』
49(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団2010 『大道東遺跡(3)』
50(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団2010 『上強戸遺跡群(2)』
51(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団2010 『大道西遺跡』
52(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団2011 『猿楽遺跡』
53(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団2011 『新島遺跡』
54(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団2012 『只上深町遺跡』
55(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団2012 『向矢部遺跡』
56(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団2012 『矢部遺跡』

# 第３節　基本土層

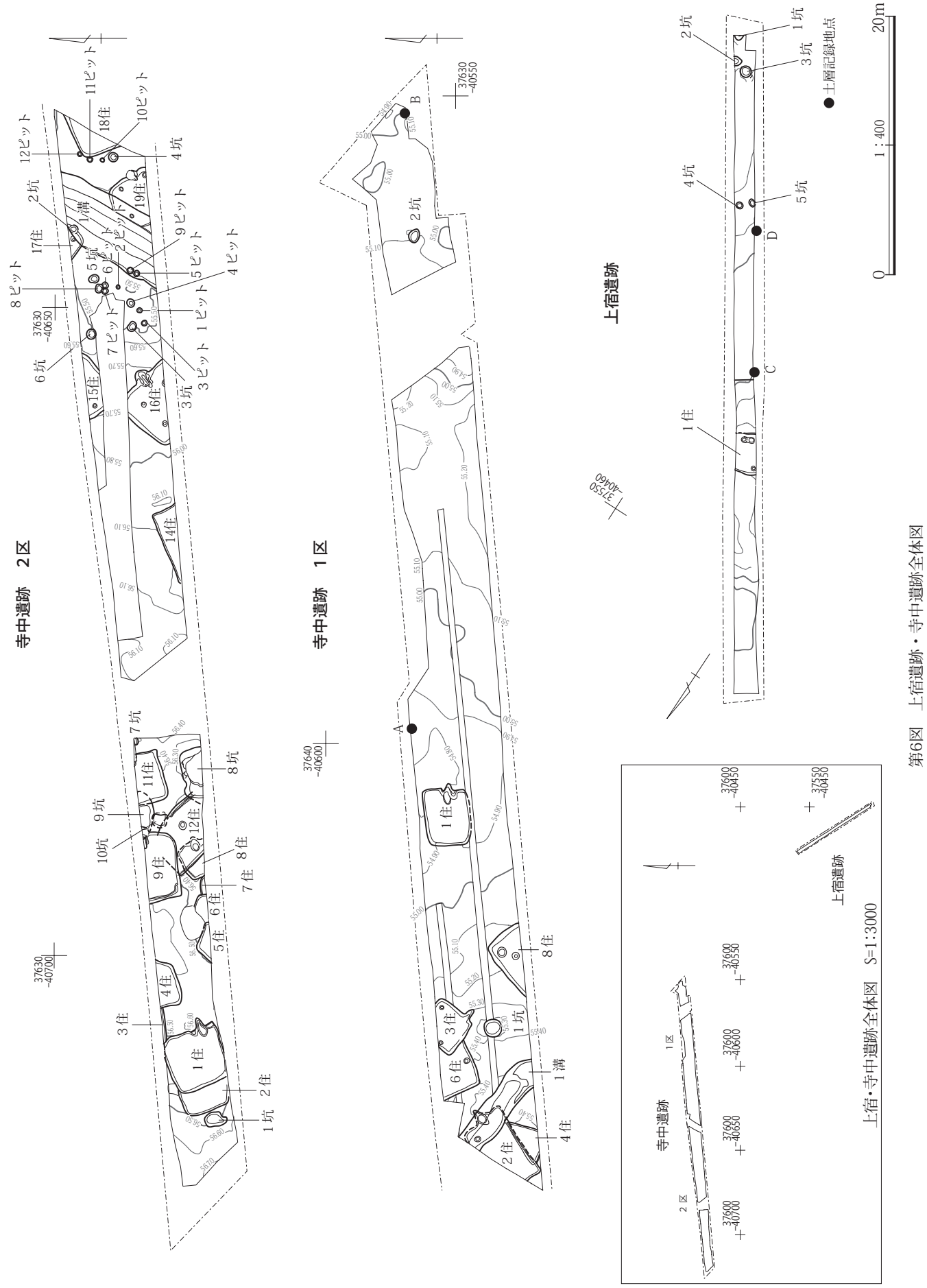
基本土層は上宿遺跡・寺中遺跡それぞれ２カ所で確認をした。(第５図)。基本土層は以下の通りである。Ａ・Ｂは寺中遺跡、Ｃ・Ｄは上宿遺跡である。

Ⅰ層　表土、砕石
Ⅱ層　暗褐色土、旧表土Ａｓ－Ａ混入耕作土
Ⅲ層　黒褐色土
Ⅳ層　黒色土　調査確認面
Ⅴ層　暗褐色土、ローム漸移層
Ⅵ層　褐色土、ローム土
Ⅶ層　褐色土、礫まじり

寺中遺跡・上宿遺跡間におけるⅢ層の上位標高が、約1.5m程開いている。これは扇状地形における遺跡の標高差と言える。Ⅲ層土では、火山噴火に由来すると考えられる白色軽石粒が、微量であるが確認された。これはAs-CおよびFAの可能性があると考えられる。調査はⅣ層黒色土を確認面として行った。Ⅳ層は周辺遺跡調査の状況などから、縄文時代から古墳時代にかけて形成された層と考えられる。Ⅴ層はローム漸移層。第２章１節で述べたように両遺跡とも渡良瀬川扇状地Ⅰ面に立地しており、ロームが比較的良好な状況であったので、遺構調査終了後２ｍ×５ｍのトレンチを設定し、旧石器時代確認調査を行った。遺構・遺物とも発見されなかった。




第５図　柱状基本土層図




第6図　上宿遺跡・寺中遺跡全体図

# 第３章　検出された遺構と遺物

## 第１節　調査の概要

調査は、２遺跡とも黒色土(基本土層Ⅳ層土)を遺構確認面として行った。以下、各時代について概略を記す。

**縄文時代**

上宿遺跡・寺中遺跡では縄文時代の遺構は検出されなかった。包含層として石器及び剥片が出土している。石器は加工痕のある剥片・石核である。

**弥生時代～古墳時代**

上宿遺跡・寺中遺跡では弥生時代の遺構遺物は確認されなかった。古墳時代の遺構は確認されなかった。寺中遺跡１区では６世紀後半に使われていたと考えられる須恵器杯が出土している。人々が生活していたであろうことをうかがわせる。

**歴史時代**

本格的に人々が生活を始めたのは歴史時代であると考えられる。７世紀に帰属する遺構が確認されており、これら遺構は本遺跡の最古段階である。以下歴史時代の本遺跡の状況を世紀ごとに述べる。

７世紀

７世紀に帰属する遺構は住居６軒である。遺構の分布状況は、寺中遺跡１区３軒、２区３軒である。１区の３軒は７世紀前半から中ごろにかけてのものであり、２区の３軒は７世紀後半のものである。

８世紀

８世紀に帰属する遺構は住居9軒、土坑３基、溝１条である。遺構の分布状況は、寺中遺跡１区住居１軒・溝１条、２区住居８軒・土坑３基である。８世紀前半と考えられる住居は１軒であった。８世紀中ごろの遺構は住居7軒・土坑３基・溝１条であった。８世紀後半の遺構は住居２軒であった。

９世紀

９世紀に帰属する遺構は住居７軒、土坑１基、溝１条である。遺構の分布状況は、寺中遺跡１区住居２軒、２区住居５軒・土坑１基・溝１条である。９世紀前半の遺構は住居４軒・土坑１基・溝１条である。９世紀中ごろの遺構は、住居３軒が検出された。９世紀後半以降の遺構・遺物は確認されなかった。また、中世以降の遺構・遺物も上宿遺跡・寺中遺跡では確認されなかった。

## 第２節　上宿遺跡

### １．竪穴住居

竪穴住居は１軒調査した。調査区が狭小であり、住居全体は検出されなかった。後述する寺中遺跡では、時代を異にするが合計23軒の住居を検出しており、居住の中心は寺中遺跡であったであろうことが推定される。

**１号住居**(第7図、PL.4・20)

**位置**　X＝37535 ～ 37540、Y＝-40460 ～ -40465

**形状・規模**　形状不明。長軸(3.24)m、短軸(1.59)mを測る。

**面積**　(4.45)㎡

**方位**　不明

**重複**　なし

**埋没土**　暗褐色土が壁際に三角状に流れ込んでいる。土層断面の観察では、６層の暗褐色土が短期間に埋没しており、自然埋没したと考えられる。

**床面**　遺構確認面から床面の深さは0.20mを測る。壁溝は確認されなかった。床面よりピットが３基確認された。２号ピット・３号ピットは切りあっており、土層の観察より３号ピットの方が新しい。

**掘方**　床面下部より、褐色土ブロックを含む暗褐色土を埋土とした浅い掘り込みが確認された。これは住居構築時における掘り込みと考えられる。

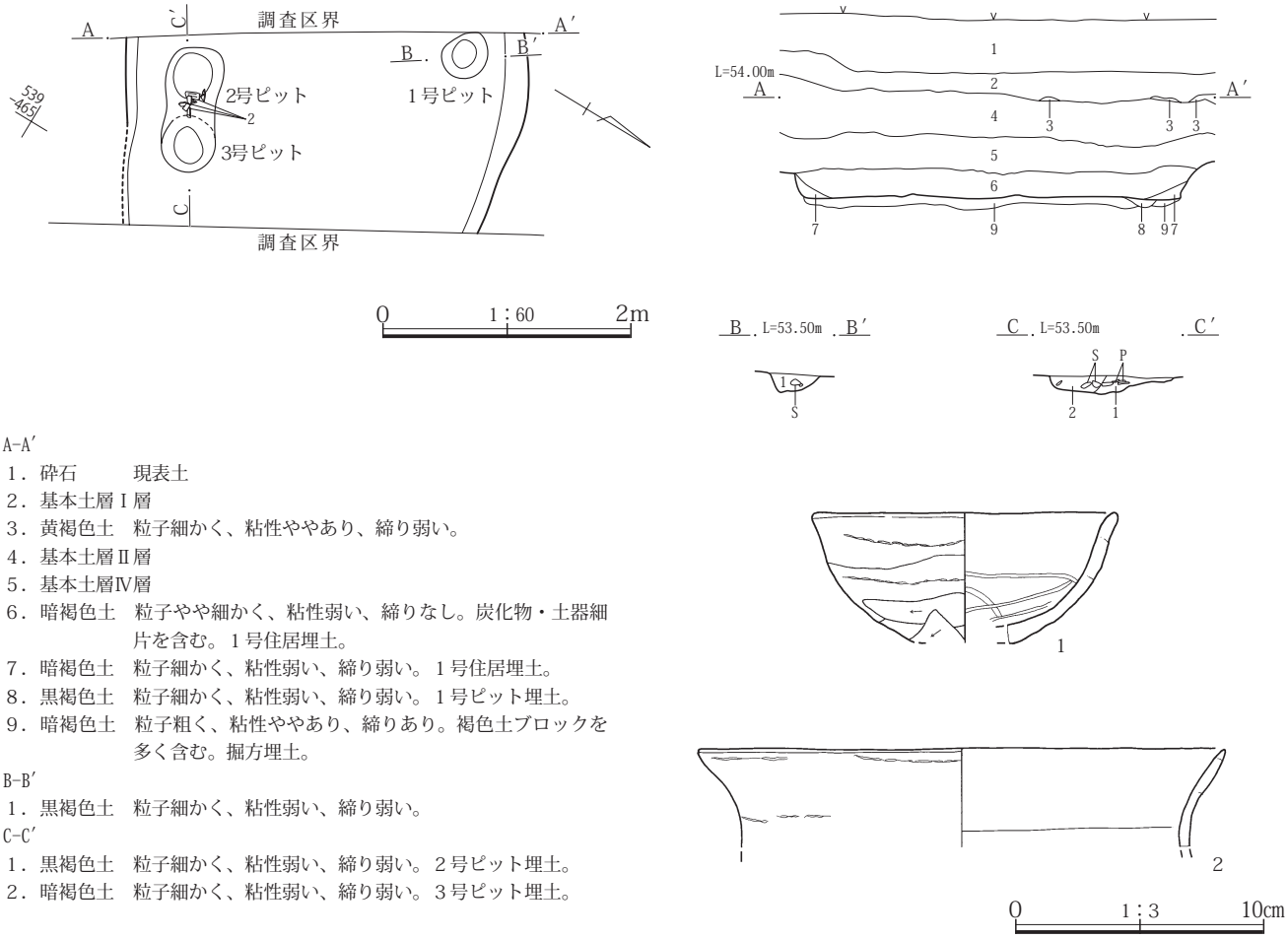
**柱穴**　確認されなかった。

**カマド**　確認されなかった。

**貯蔵穴**　確認されなかった。

**出土遺物**　土師器大型製品片１点、須恵器小型製品片１点が出土し、土師器杯１点･土師器甕１点、を図示した。１は埋土より、２は掘方埋土から出土している。１は７世紀後半、２は９世紀前半の特徴を有している。

**所見**　調査区中央部より、検出されたが調査区が狭小であるため、住居の一部分のみの検出であった。そのため住居形状等不明瞭であった。また、出土遺物が少数であり、図示した遺物の時期が異なるため、この住居の使用時期を判断することはできなかった。調査区外にカマドを有していると想定される。




A-A′
１．砕石　　現表土
２．基本土層Ⅰ層
３．黄褐色土　粒子細かく、粘性ややあり、締り弱い。
４．基本土層Ⅱ層
５．基本土層Ⅳ層
６．暗褐色土　粒子やや細かく、粘性弱い、締りなし。炭化物・土器細片を含む。１号住居埋土。
７．暗褐色土　粒子細かく、粘性弱い、締り弱い。１号住居埋土。
８．黒褐色土　粒子細かく、粘性弱い、締り弱い。１号ピット埋土。
９．暗褐色土　粒子粗く、粘性ややあり、締りあり。褐色土ブロックを多く含む。掘方埋土。

B-B′
１．黒褐色土　粒子細かく、粘性弱い、締り弱い。

C-C′
１．黒褐色土　粒子細かく、粘性弱い、締り弱い。２号ピット埋土。
２．暗褐色土　粒子細かく、粘性弱い、締り弱い。３号ピット埋土。

第7図　上宿遺跡１号住居と出土遺物

## ２．土坑

上宿遺跡では土坑を５基調査した。土坑の形状・規模については、後述の通りである。調査した土坑からは遺物が出土しなかったため、詳細な時期が不明であるが、１号土坑は調査区境から検出されており、表土からの堆積状況が確認された。１号住居と同様に遺構埋没後黒褐色土が堆積しており、１号住居埋没と同時性が考えられる。また、他の土坑も確認した面が１号土坑と同じであり、同時性が考えられることから、いずれも古代の遺構であると考えられる。

**１号土坑**(第8図、PL.4)

**位置**　X＝37514、Y＝-40448

**形状・規模**　平面形状は楕円形を呈するものと考えられる。長軸0.69m、短軸(0.35)mを測る。深さは0.19mであった。

**方位**　N-28°-W

**重複**　なし

**埋没土**　暗褐色土が堆積している。堆積状況から人為的埋没か自然埋没かは判明しなかった。

**出土遺物**　なし

**２号土坑**(第8図、PL.4)

**位置**　X＝37515～37516、Y＝-40448～-40449

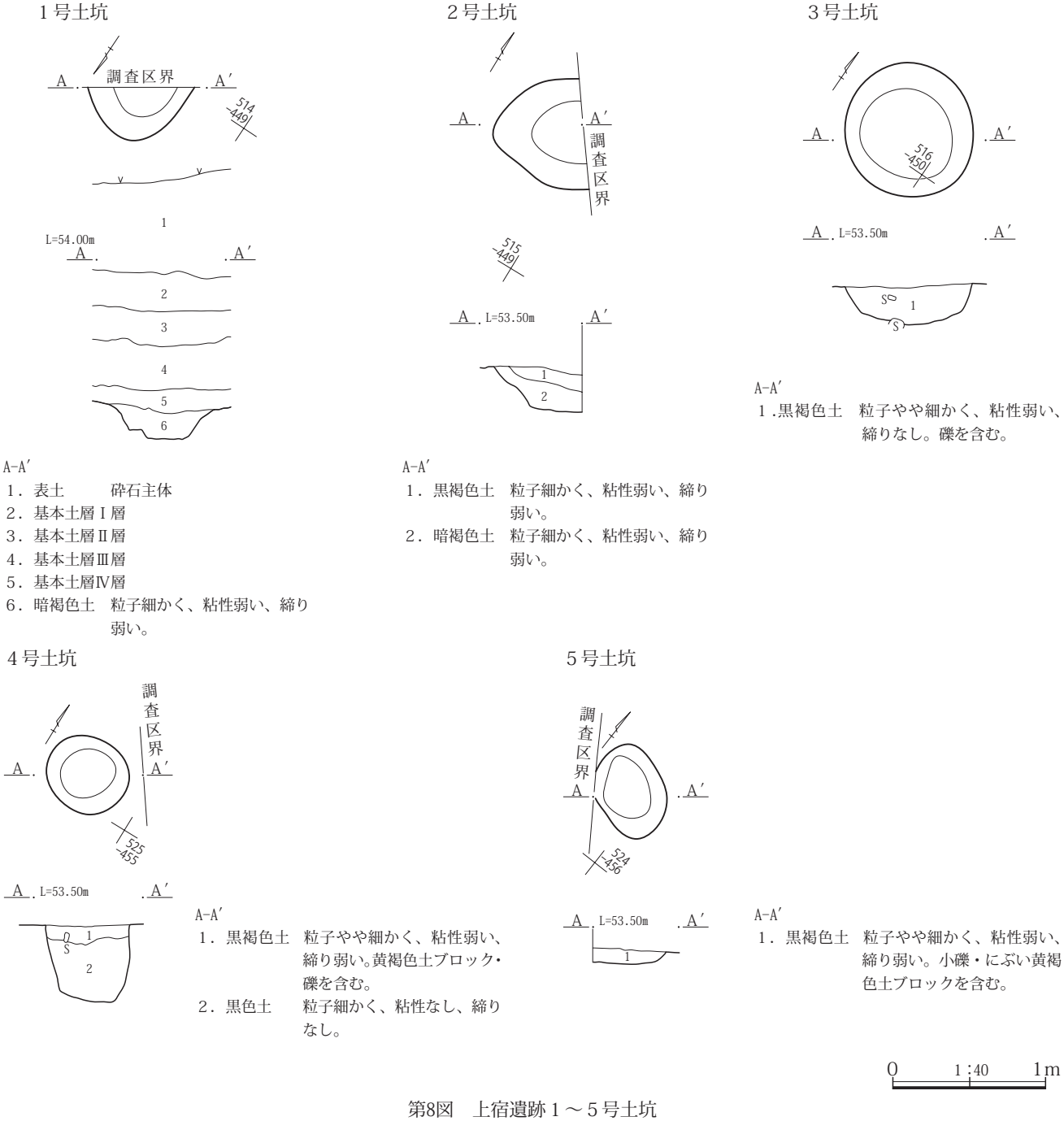
**形状・規模**　平面形状は楕円形を呈するものと考えられる。長軸(0.60)m、短軸0.72mを測る。深さは0.29mであった。

**方位**　N-60°-E

**重複**　なし

**埋没土**　レンズ状に堆積しており自然埋没土と考えられる。

**出土遺物**　なし




第8図　上宿遺跡１～５号土坑

**３号土坑**(第8図、PL.4)

**位置**　Ｘ＝37515 ～ 37516、Ｙ＝-40449 ～ -40450

**形状・規模**　平面形状はほぼ円形を呈し、長軸0.87m、短軸0.85mを測る。深さは0.24mであった。

**方位**　N-31°-W

**重複**　なし

**埋没土**　黒褐色土が堆積している。堆積状況から人為的埋没か自然埋没かは判明しなかった。

**出土遺物**　なし

**４号土坑**(第8図、PL.4)

**位置**　Ｘ＝37524 ～ 37525、Ｙ＝-40455

**形状・規模**　平面形状はほぼ円形を呈し、長軸0.54m、短軸0.49mを測る。深さは0.24mであった。

**方位**　N-79°-W

**重複**　なし

**埋没土**　黒褐色土・黒色土が堆積している。黄褐色土ブロック・礫を含むことから、人為的埋没であった可能性が考えられる。

**出土遺物**　なし

**５号土坑**(第8図、PL.4)

**位置**　Ｘ＝37524、Ｙ＝-40455 ～ -40456

**形状・規模**　平面形状は楕円形を呈し、長軸0.58m、短軸0.44mを測る。深さは0.09mであった。

**方位**　N-41°-W

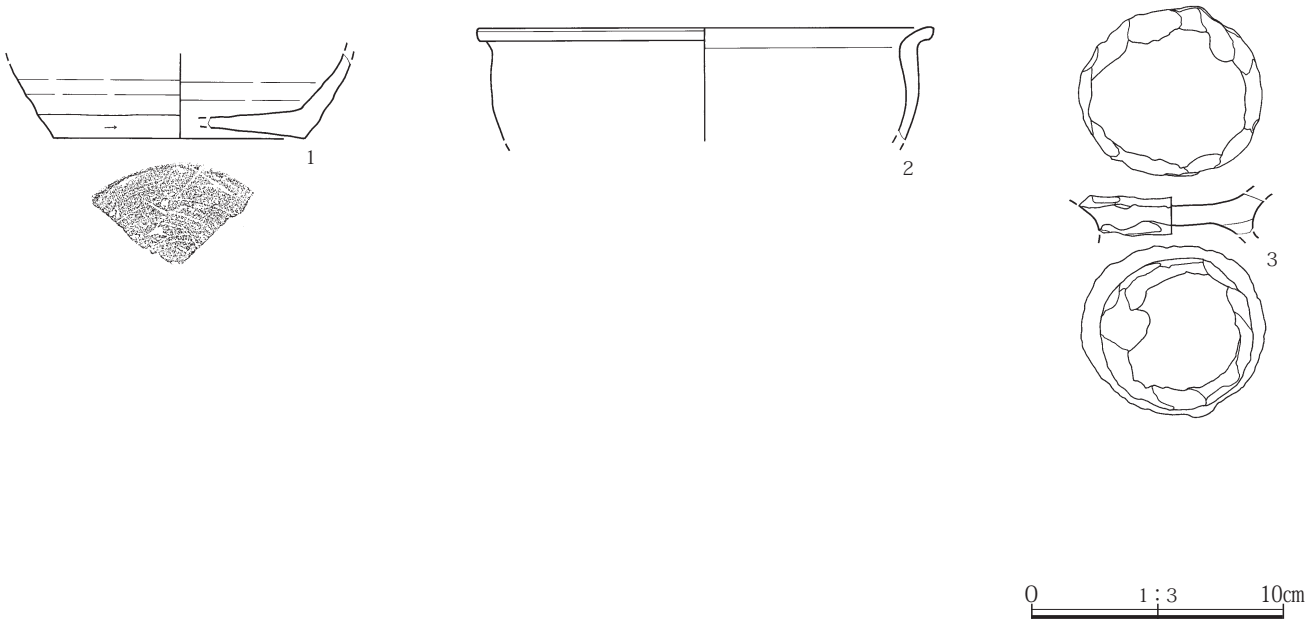
**重複**　なし

**埋没土**　黒褐色土が堆積している。堆積状況から人為的埋没か自然埋没かは判明しなかった。

**出土遺物**　なし

## ３．遺構外出土遺物

上宿遺跡では、遺構外から土師器･須恵器が出土した。出土点数は149点である。内訳は、土師器大型製品片120点・小型製品片17点、須恵器大型製品片３点・中型製品２点・小型製品片７点である。遺構外出土遺物のうち須恵器や土師器など器形が復元できるものを第9図に示した。３の須恵器椀は、二次利用するためか、底部周辺部および高台部を細かく打ち欠いている。(第9図、PL.20)




第9図　上宿遺跡遺構外出土遺物

# 第３節　寺中遺跡

## １．竪穴住居

竪穴住居は23軒調査した。調査区別では１区で６軒、２区で17軒である。７世紀代から９世紀代の住居を調査した。時期ごとには、７世紀代の住居が６軒、８世紀代の住居が９軒、９世紀代の住居が７軒、時期不明だが古代の住居が１軒確認された。以下それぞれの竪穴住居について報告する。

**１区１号住居**（第10～12図、PL.6・20）

**位置**　X＝37625～37630、Y＝-40600～-40605

**形状・規模**　隅丸長方形を呈し、長軸4.50m、短軸(3.66)mを測る。

**面積**　(11.69)㎡

**方位**　N-91°-E

**重複**　なし。

**埋没土**　軽石粒を含む暗褐色土、自然埋没の状況を示す。

**床面**　ロームブロックを含む黒褐色土で埋め戻して床面を形成していた。遺構確認面から床面の深さは0.48mを測る。壁溝は確認されなかった。

**掘方**　掘方では、壁溝が北辺壁下で検出された。

**柱穴**　確認されなかった。

**カマド**　東壁中央部分に設置されていた。全長1.59m、煙道部長0.63m、煙道部幅0.52m、焚口部幅0.45m、燃焼部幅0.55mを測る。燃焼部は焚口よりやや掘り下げられており、奥壁はなだらかに立ち上がっていた。

**貯蔵穴**　確認されなかった。

**出土遺物**　土師器大型製品片562点・中型製品片３点・小型製品片98点、須恵器大型製品片26点・小型製品片69点が出土した。土師器杯3点・土師器高杯１点・須恵器杯８点・須恵器椀1点・須恵器蓋１点・土師器台付甕１点・土師器甕５点・須恵器甕４点を図示した。10・13・17は床面直上から出土した。17は破片の一部がカマドより出土している。それ以外は埋土からの出土である。土師器杯１・２・高坏４は形状等の特徴から６世紀代のものと言える。須恵器杯10は底部外面に刻書が施されており、文字は「門家」と判読できる。

**所見**　出土した須恵器杯（５～12）、土師器甕（16～17）などの遺物の特徴から８世紀末から９世紀前半にかけて使用されていた住居と考えられる。

**１区２号住居**（第13～16図、PL.7・20・21）

**位置**　X＝37620～37625、Y＝-40625～-40630

**形状・規模**　１区西端で検出されたため、住居全体は検出されていないが、形状は隅丸方形を呈するものと考えられる。長軸5.82m、短軸(3.25)mを測る。

**面積**　(13.74)㎡

**方位**　N-47°-E

**重複**　４号住居、１号溝と重複する。土層、出土遺物の観察から２号住居が１番古い。

**埋没土**　黒褐色土、自然埋没の状況を示す。

**床面**　床面は、褐色土を埋め戻して、形成していた。遺構確認面から床面の深さは、0.40mを測る。壁溝は南壁部分で確認された。幅0.21m～0.31m、深さ0.02m～0.05mであった。北東部では、１号ピットが確認された。１号ピットは楕円形状を呈し、長軸0.50m、短軸0.42m、深さ0.15mを測る。

**掘方**　掘方面で土坑状の掘り込みが確認された。

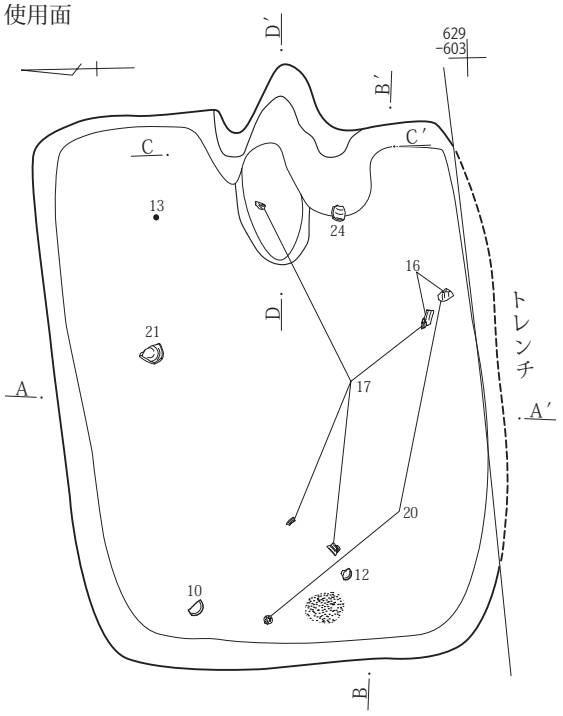
**カマド**　東壁中央部分に設置されていた。燃焼部からは支脚として使用していた土製品が出土している。カマド上部は、大半が１号溝に切られている。カマド上部が削られていたため、数値をカッコ付とした。全長(1.52)m、煙道部長(0.87)m、煙道部幅(0.45)m、焚口部幅(0.53)m、燃焼部幅(0.74)mを測る。燃焼部は焚口よりやや掘り下げられており、奥壁はやや急に立ち上がっている。

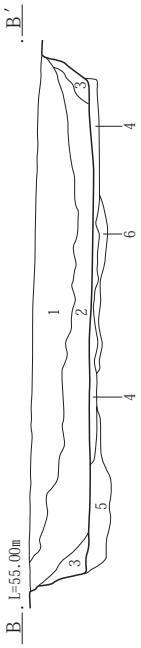
**貯蔵穴**　確認されなかった。

**出土遺物**　土師器大型製品片250点・小型製品片33点、須恵器大型製品片24点・小型製品片16点が出土した。土師器杯７点・須恵器杯３点・須恵器椀２点・須恵器盤１点・須恵器蓋３点・土師器甕５点・須恵器甕２点・土製品支脚１点を図示した。土師器杯５・須恵器杯９・土師器甕19・20・21は床面直上から、須恵器椀11・須恵器盤13は掘方から出土している。土師器甕19は破片の一部がカマドより出土している。出土遺物はその特徴から、１・２・３・19・20・21・22など７世紀代のもの及び５・14・９・11・23など８世紀中ごろのものに分けられる。

**所見**　２時期の遺物が出土している。床面直上など本住

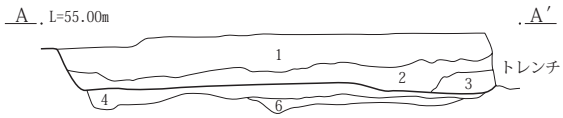
使用面

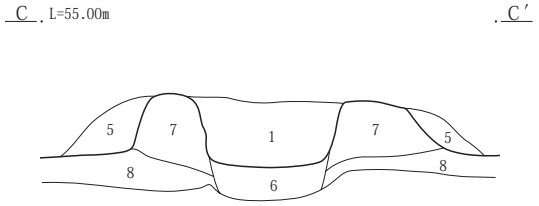


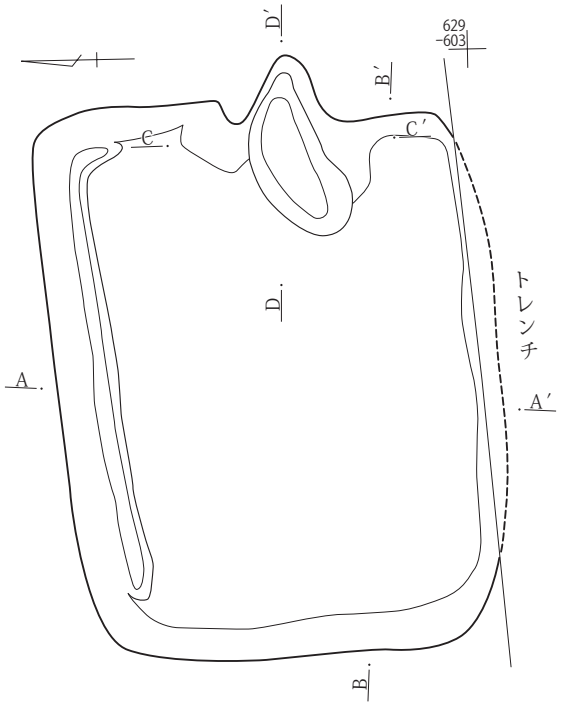

A-A′　B-B′

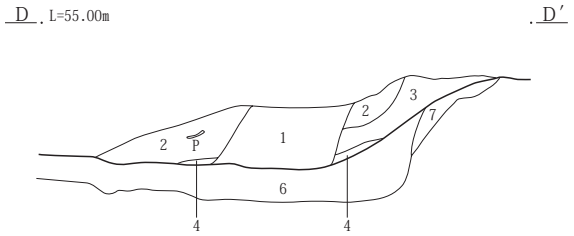
1．褐色土　白色粒・焼土細粒少量含む。細礫・炭化物粒わずかに含む。
2．暗褐色土　炭化物粒・焼土細粒少量含む。白色粒わずかに含む。
3．暗褐色土　白色粒・焼土細粒わずかに含む。ローム粒少量含む。
4．暗褐色土　白色粒少量、ローム細粒微量含む。掘方埋土。
5．黒褐色土　ロームブロック少量含む。
6．暗褐色土




掘方



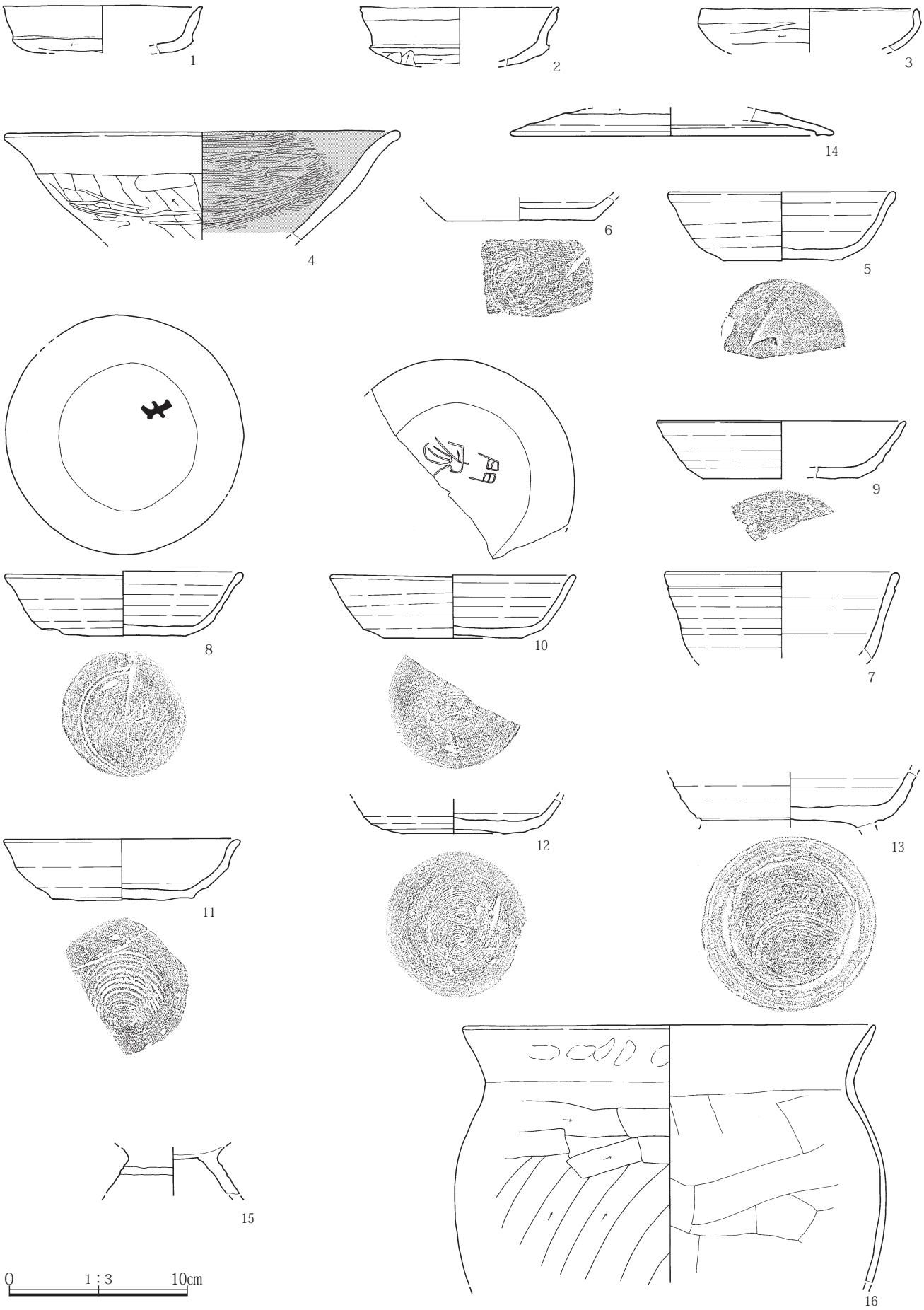

C-C′　D-D′

1．暗褐色土　白色粒・褐色粒・ローム粒・焼土わずかに含む。
2．にぶい褐色土　白色粒少量、焼土粒多量、ローム粒わずかに含む。
3．灰白色粘質土　灰少量、焼土粒わずかに含む。
4．褐灰色土　灰多量、焼土粒わずかに含む。
5．暗褐色土　白色粒少量含む。
6．にぶい橙色土　白色粒・ローム粒少量、粘土わずかに含む。
7．褐色土　白色粒少量、ローム粒わずかに含む。
8．浅橙色土　ローム土多量、粘土わずかに含む。

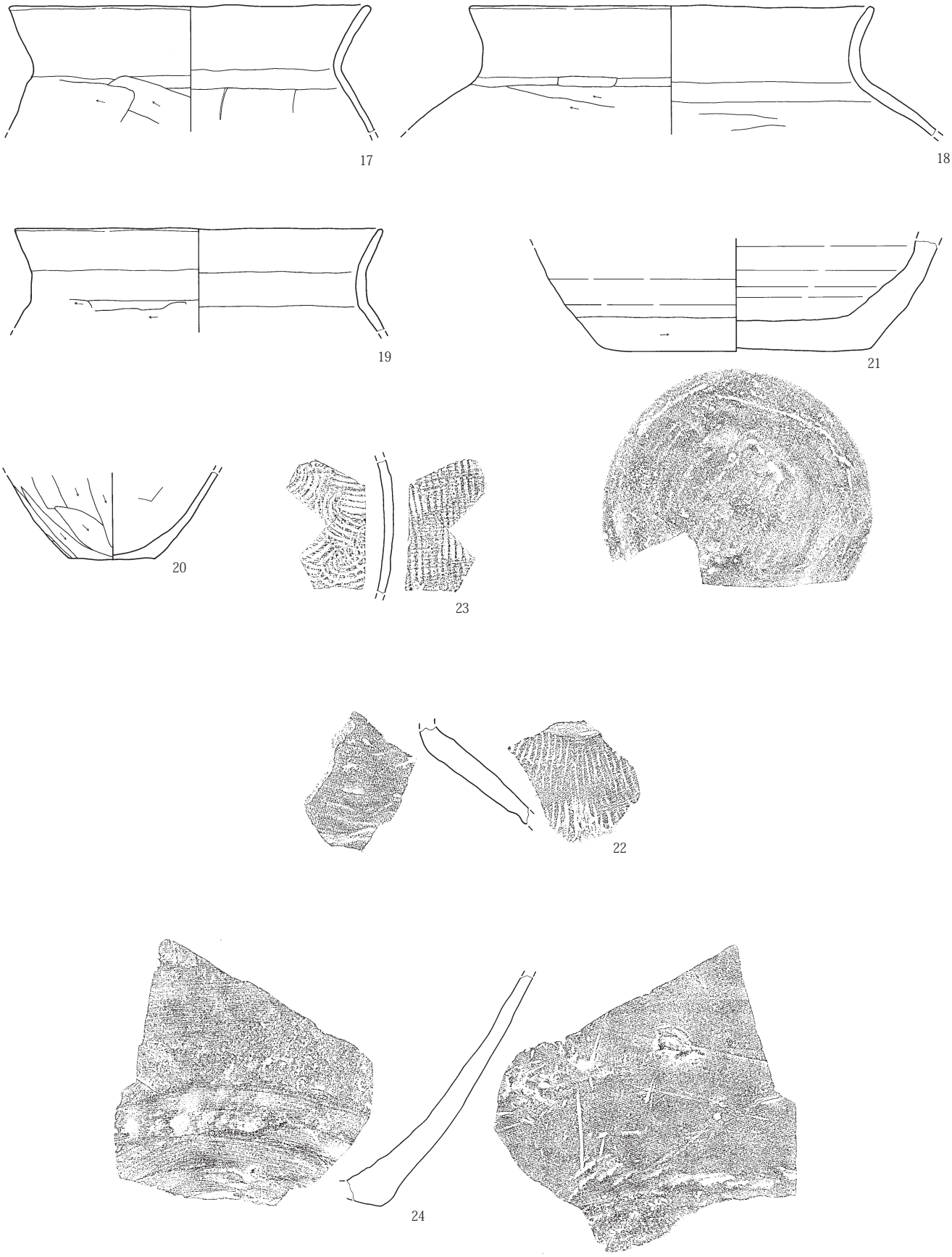
0　1：60　2m

0　1：30　1m

第10図　１区１号住居

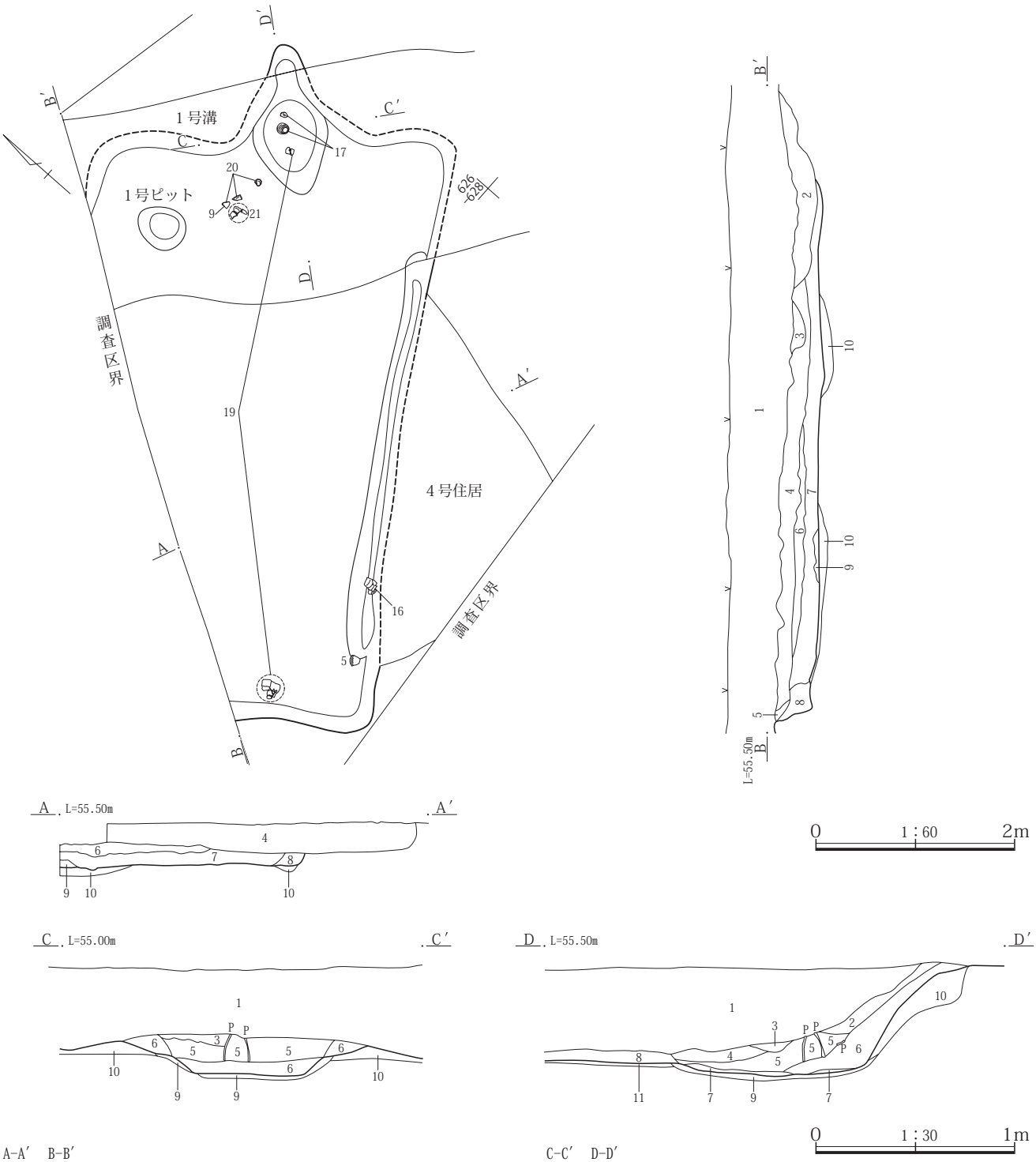



第11図　１区１号住居出土遺物（１）




第12図　１区１号住居出土遺物（２）

使用面



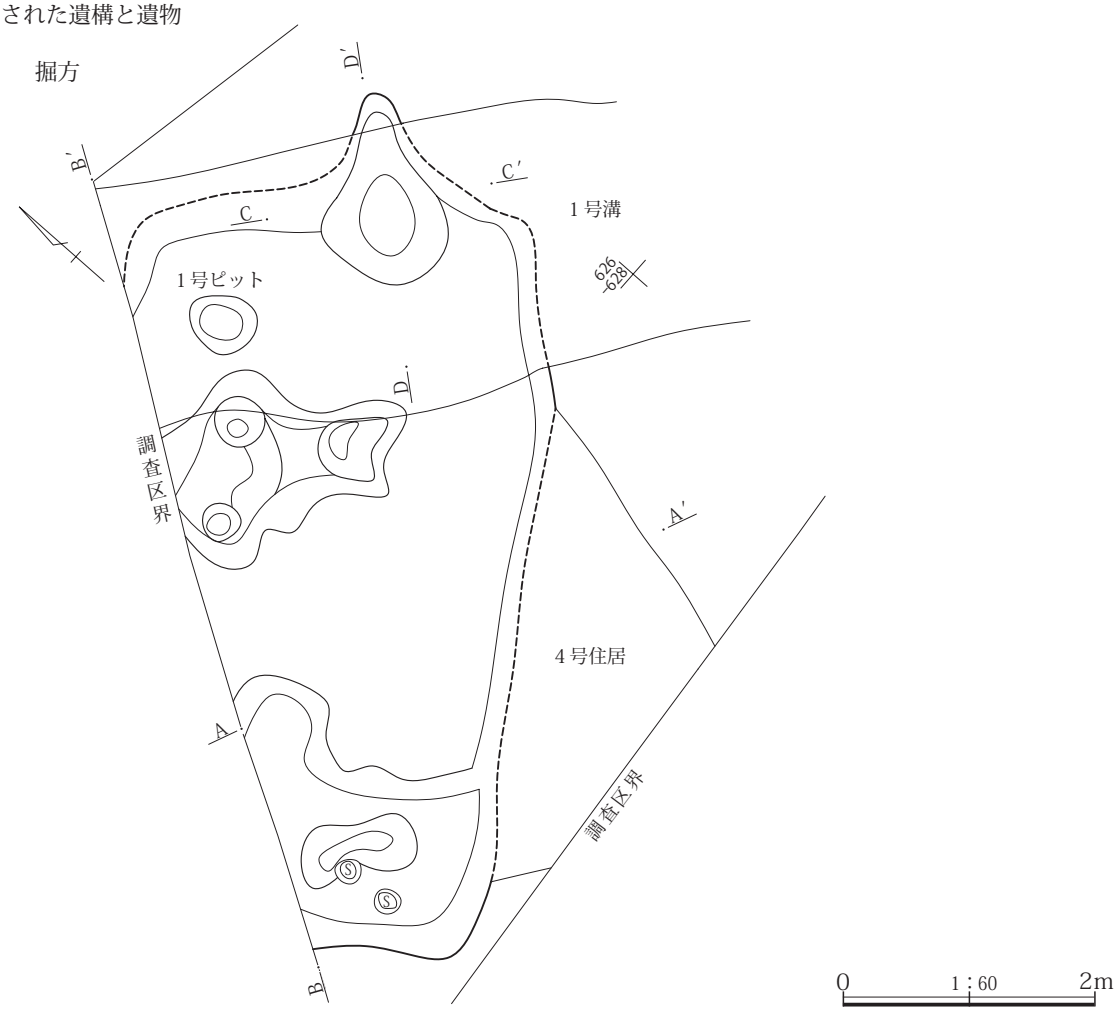

A-A′　B-B′

１．基本土層Ⅰ層
２．１号溝埋土
３．暗褐色土　褐色粒少量含む、ローム粒わずかに含む。
４．黒褐色土　褐色粒少量含む。４号住居埋土。
５．暗褐色土　褐色粒・ローム粒わずかに含む。４号住居埋土。
６．暗褐色土　ローム粒少量含む。４号住居埋土。
７．黒褐色土　粘性あり、締まりあり。
８．褐色土　　壁崩落土。
９．黒褐色土　７層に類するが色調暗い。
10．褐色土　　掘方埋土。

C-C′　D-D′

１．１号溝埋土
２．暗褐色土　　ローム粒わずかに含む。
３．灰黄褐色土　ロームブロック含む。天井崩落土。
４．褐色土　　ロームブロック含む。
５．暗褐色土　　灰・焼土含む。
６．暗褐色土　　５層に類するが、色調暗い。
７．暗赤褐色土　焼土多量に含む。
８．暗褐色土　　住居埋土。
９．黄褐色土　　焼土・灰含む。掘方埋土。
10．黄褐色土　　掘方埋土。
11．褐色土　　住居掘方埋土。

第13図　１区２号住居




第14図　１区２号住居掘方

居に供伴する土器からこの住居は８世紀中ごろに使用されていたものと考えられる。

**１区３号住居**（第17～20図、PL.7・21・22）

**位置**　X＝37625～37630、Y＝-40615～-40620

**形状・規模**　調査区北辺で確認されており、全体が検出されていないが隅丸方形を呈し、長軸3.30m、短軸3.14mを測る。

**面積**　(6.31)㎡

**方位**　N-129°-E

**重複**　６号住居と重複する。平面精査による遺構確認及び土層、出土遺物の観察から３号住居は６号住居より新しい。

**埋没土**　埋没土がレンズ状に堆積しており、自然埋没土と考えられる。

**床面**　ロームブロックを含む暗褐色土を埋め戻して、床面を形成していた。遺構確認面から床面の深さは、0.40mを測る。壁溝は確認されなかった。

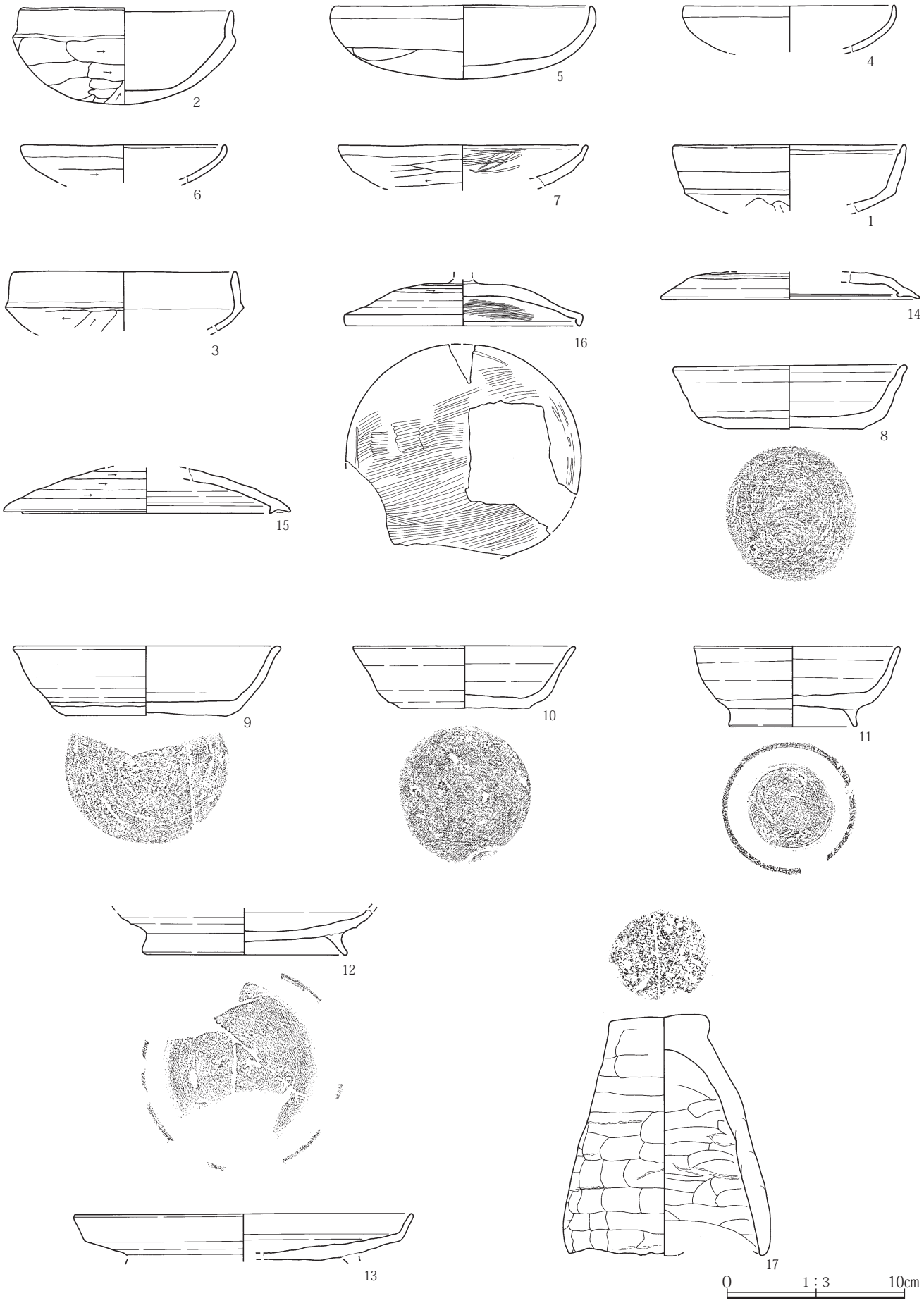
**掘方**　掘方では円形土坑状の掘り込みが多数確認された。床及びカマド構築土を採取していたことが考えられる。

**柱穴**　床面にて２基のピットを確認した。１号ピットは長径0.31m、短径0.30m、深さ0.22mを測る。位置・規模から２号ピットは柱穴であろうと推測する。２号ピットは長径0.33m、短径0.31m、深さ0.25mを測る。

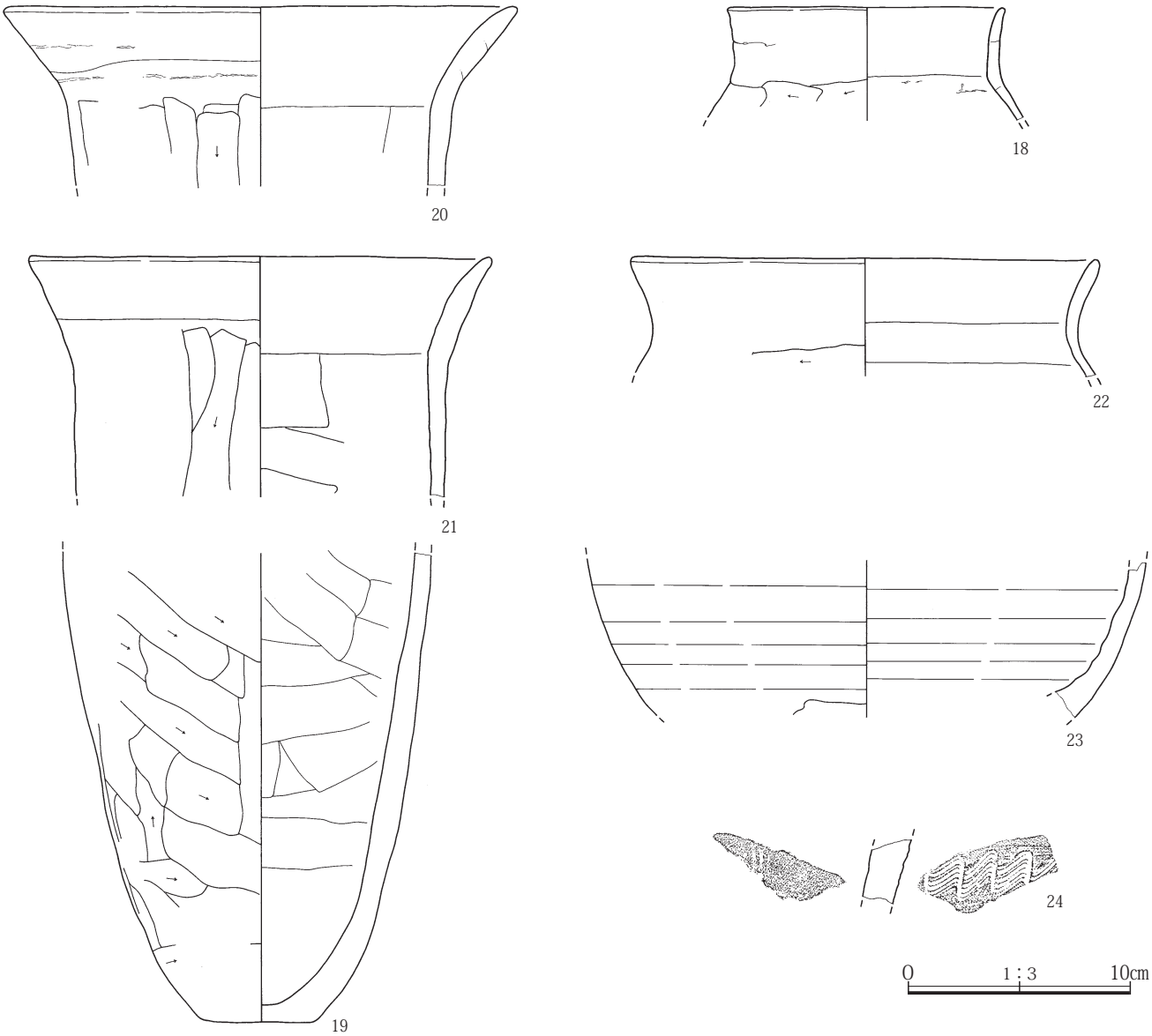
**カマド**　東壁南寄りに設置されていた。全長1.66m、屋内長1.15m、屋外長0.51m、焚口部幅0.39m、燃焼部幅0.53m、煙道部幅0.42m、袖基部幅1.12mを測る。袖部残存状況は不良であり、構築状況は確認できなかった。焚口部・燃焼部底面は平坦で、なだらかに立ち上がっていた。

**貯蔵穴**　検出されなかった。

**出土遺物**　土師器大型製品片213点・中型製品片14点・小型製品片78点、須恵器大型製品片10点・中型製品片１




第15図　１区２号住居出土遺物（１）




第16図　１区２号住居出土遺物（２）

点・小型製品片20点が出土した。住居南側壁際より炭化材が出土している。土師器杯８点・須恵器蓋１点・須恵器杯３点・土師器甑１点・土師器甕６点・須恵器提瓶１点・須恵器甕１点・鉄製品刀子１点・石製品１点を図示した。１・２・４・５・７は掘方から出土した。それ以外は埋土からの出土である。須恵器杯３点・須恵器蓋１点は、埋土に含まれていた土器であり、出土位置及び形状からもこの住居の使用時に伴うものではなく、後世の混入と考えられる。

**所見**　遺物は７世紀中ごろから後半にかけての特徴を有しており、その時期に使用された住居と考えられる。混入と見られる須恵器は８世紀中ごろの特徴を有していた。

**１区４号住居**（第21図、PL.7・22）

**位置**　X＝37620 ～ 37625、Y＝-40625 ～ -40630

**形状・規模**　１区北西隅で検出され、２号住居・１号溝と重複していたため、住居全体は検出されていないが、形状は隅丸方形を呈するものと考えられる。長軸(2.20)m、短軸(1.70)mを測る。

**面積**　(2.99)㎡

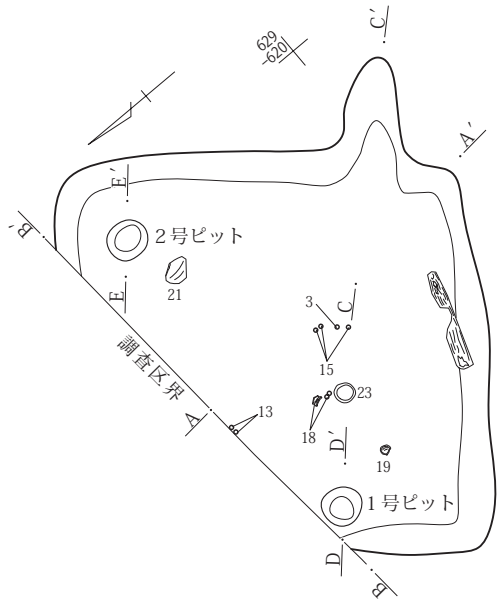
**方位**　不明

**重複**　２号住居、１号溝と重複する。土層、出土遺物の観察から４号住居は２号住居より新しいが、１号溝より古い。

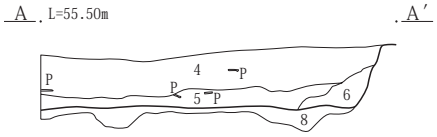
**埋没土**　黒褐色土が堆積している。

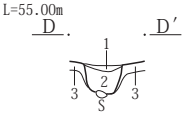
**床面**　遺構確認面から床面の深さは0.31mを測る。壁溝は確認されなかった。

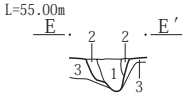
使用面




A-A′　B-B′
１．褐色土　　表土、耕作土。
２．黒褐色土　粒子やや粗く、粘性なし、締りあり。焼土粒・炭化物を含む。
３．黄褐色土　地山層。
４．暗褐色土　粒子やや細かく、粘性なし、締りあり。底部中央に礫・土器を含む。
５．暗褐色土　粒子やや粗く、粘性なし、締り弱い。炭化物を多く含む。
６．黒褐色土　粒子やや粗く、粘性なし、締り弱い。炭化物・焼土ブロックを多く含む。
７．褐色土　　粒子やや粗く、粘性なし、締り弱い。炭化物を少し含む。
８．褐色土　　粒子やや細かく、粘性なし、締りややあり。炭化物・焼土粒を含む。
９．６号住居埋土

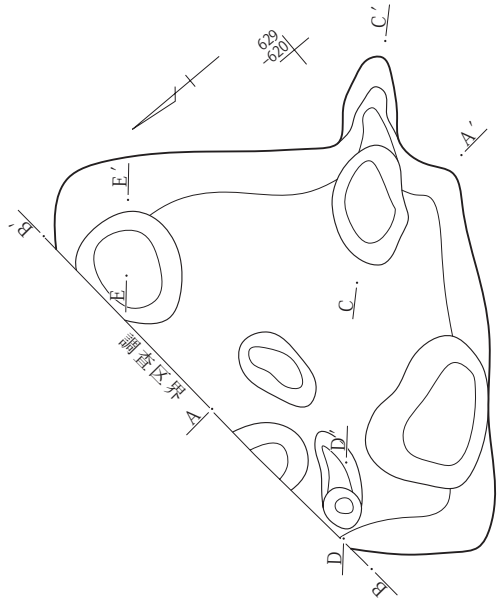


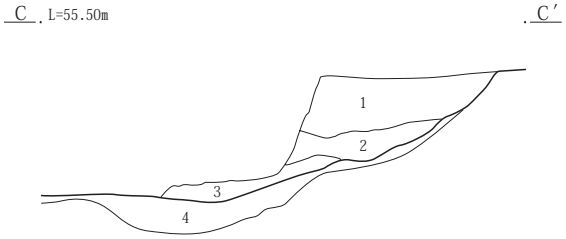




D-D′　E-E′
１．暗褐色土　粒子やや粗く、粘性なし、締り弱い。
２．褐色土　　粒子やや粗く、粘性なし、締り弱い。
３．褐色土　　粒子やや細かく、粘性なし、締りややあり。炭化物・焼土粒を含む。

掘方



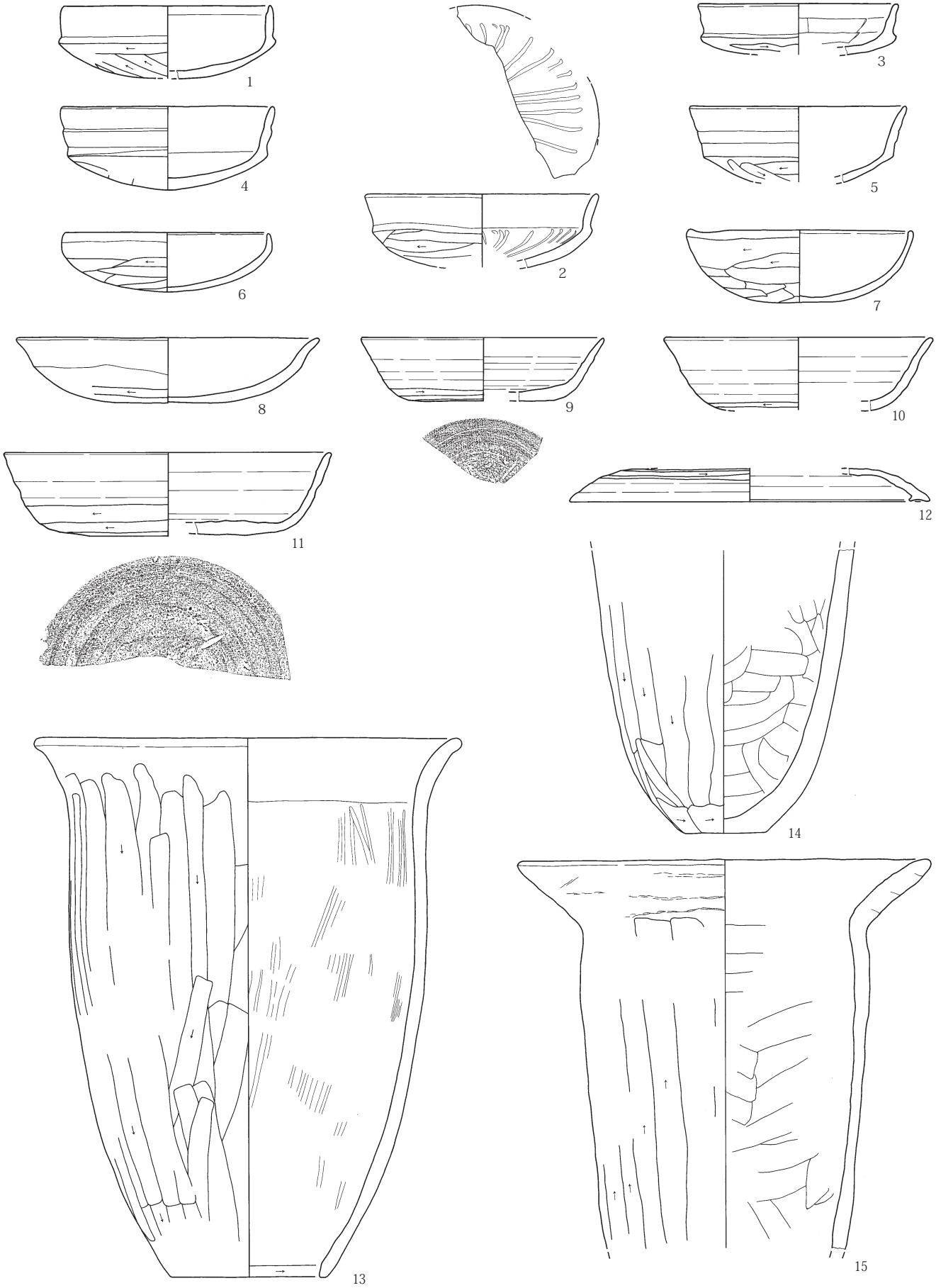




C-C′
１．黒褐色土　粒子やや粗く、粘性なし、締り弱い。
２．黒褐色土　１層に類するが、焼土ブロック・炭化物を含む。
３．暗褐色土　粒子やや粗く、粘性なし、締り弱い。焼土ブロック・炭化物を含む。
４．褐色土　　粒子やや粗く、粘性なし、締りややあり。掘方埋土。

0　1：60　2m

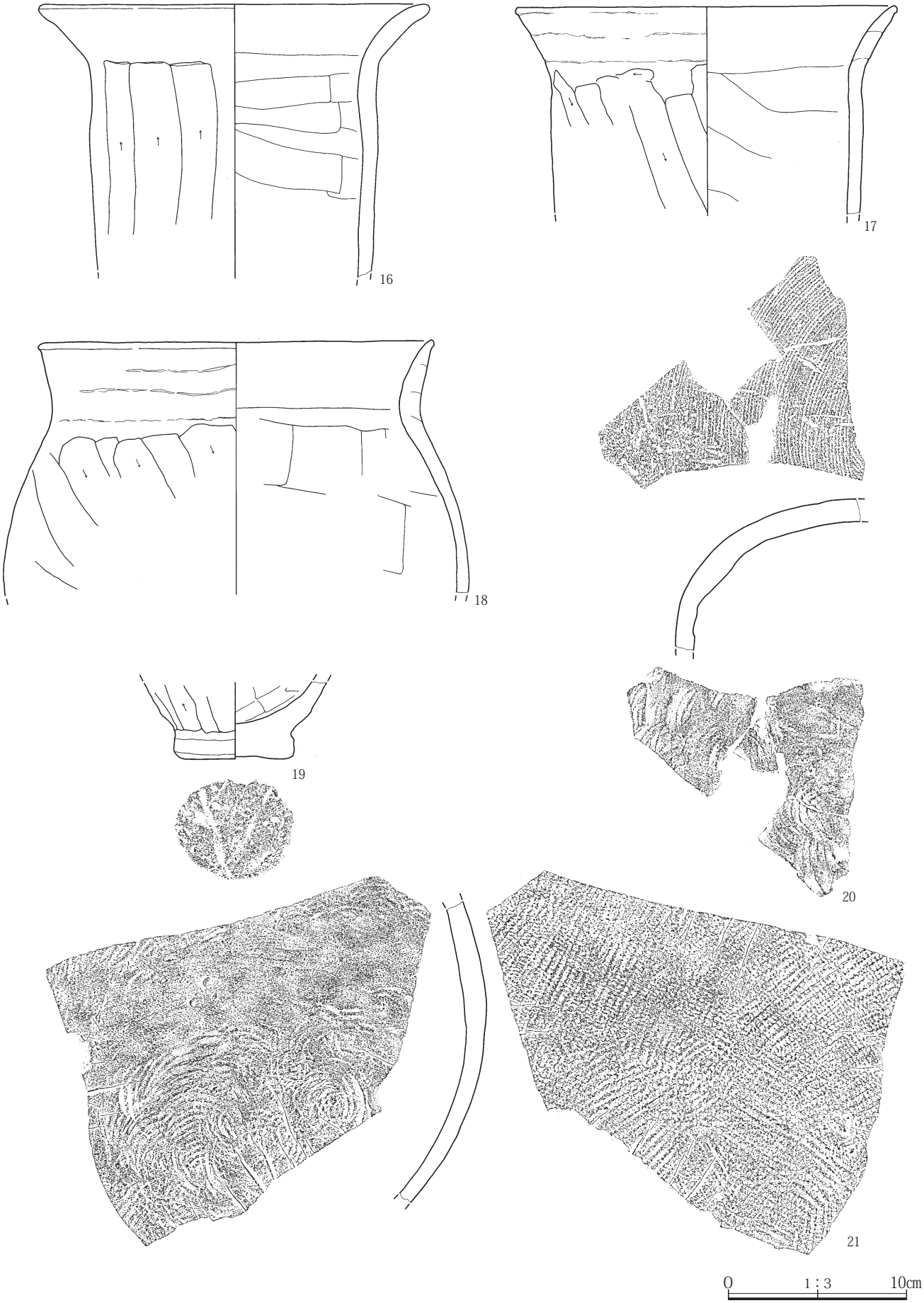
0　1：30　1m

第17図　１区３号住居

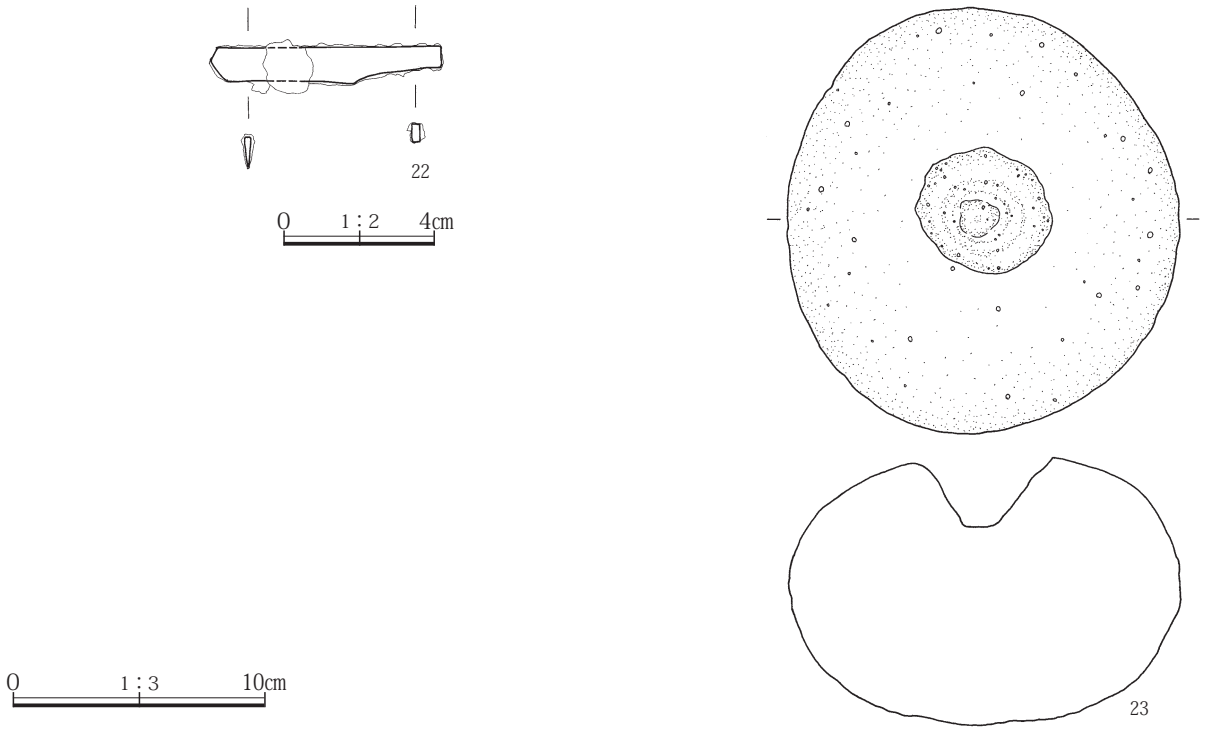



第18図　１区３号住居出土遺物（１）

0　1：3　10cm




第19図　１区３号住居出土遺物（２）




第20図　１区３号住居出土遺物（３）

**掘方**　掘方を掘らずに地山を床面として使用していた。尚、本住居構築時の地山は２号住居埋没土である。

**柱穴**　検出されなかった。

**カマド**　検出されなかった。

**貯蔵穴**　検出されなかった。

**出土遺物**　須恵器蓋１点・土師器台付甕１点・土師器甕４点を図示した。２・３・６は床面直上から出土した。それ以外は埋土からの出土である。

**所見**　出土遺物の特徴から９世紀中頃に使用されていた住居と考えられる

**１区６号住居**（第22図、PL.8・22）

**位置**　X＝37625 ～ 37630、Y＝-40620 ～ -40625

**形状・規模**　１区北辺で調査され、３号住居と重複していたため、住居全体は検出されていないが、形状は隅丸方形を呈するものと考えられる。長軸(3.80)m、短軸(2.95)mを測る。

**面積**　(7.73)㎡

**方位**　N-67°-E

**重複**　３号住居と重複する。土層、遺物の観察から６号住居の方が古い。

**埋没土**　埋没土がレンズ状に堆積しており、自然埋没土と考えられる。

**床面**　遺構確認面から床面の深さは、0.65mを測る。壁溝は確認されなかった。住居南壁際にて１号ピットが確認された。１号ピットは長径0.45m、短径0.42m、深さ0.10mを測る。

**掘方**　土坑状の掘り込みが数基確認された。カマド構築土などを採掘していたと想定される。

**柱穴**　確認されなかった。

**カマド**　確認されなかった。

**貯蔵穴**　確認されなかった。

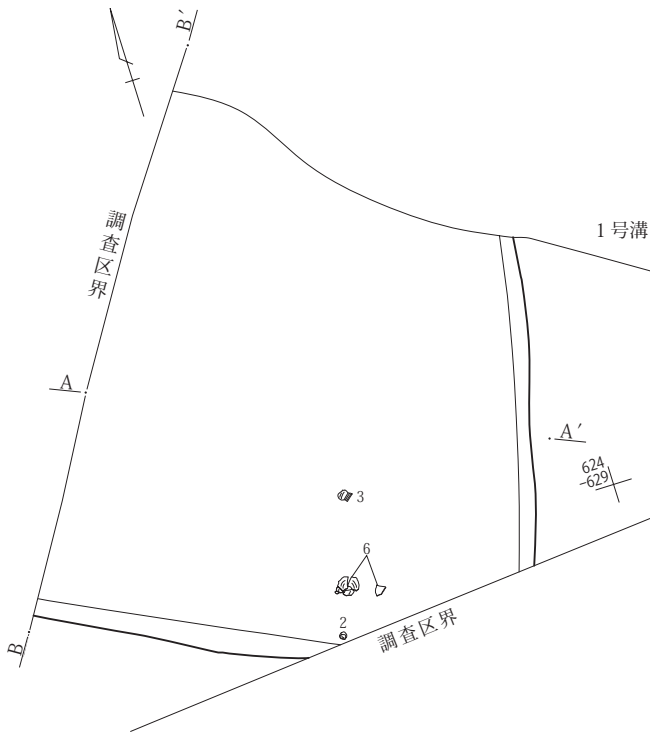
**出土遺物**　土師器大型製品片15点・小型製品片19点、須恵器大型製品片１点・小型製品片３点が出土した。土師器杯４点・須恵器甕２点・砥石１点を図示した。遺物は埋土から出土している。

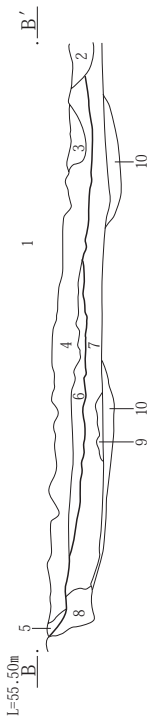
**所見**　床面直上より出土している遺物は無いが、伴出している遺物の特徴から７世紀前半から中ごろにかけて使用されていた住居と考えられる。

**１区８号住居**（第23・24図、PL.8・22）

**位置**　X＝37620 ～ 37625、Y＝-40610 ～ -40615

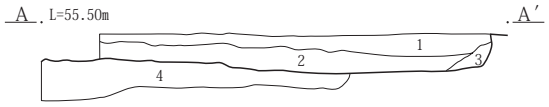
**形状・規模**　１区南辺で調査されており、住居全体は検出されていないが、形状は隅丸方形を呈するものと考え



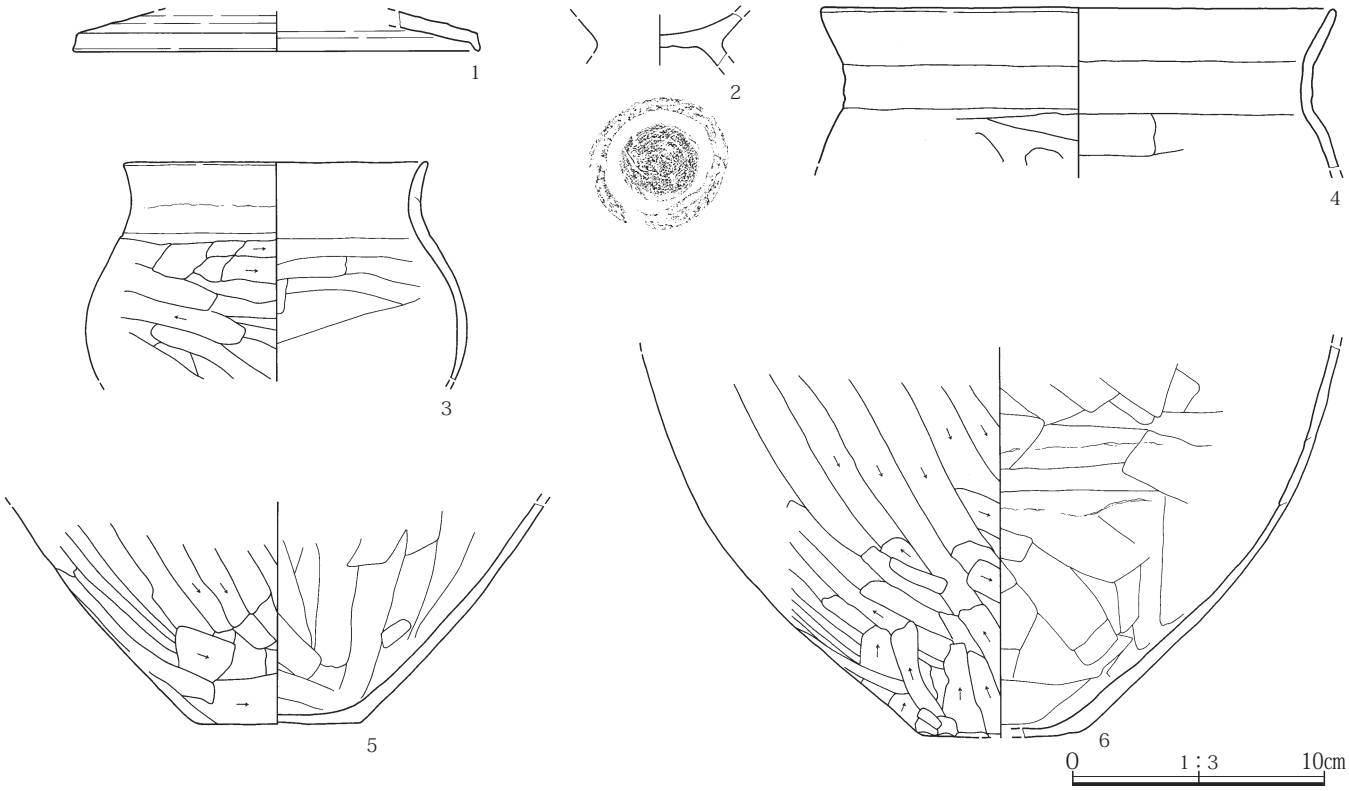




B-B′
1．黒褐色土　現表土
2．１号溝埋土
3．暗褐色土　褐色粒少量含む、ローム粒わずかに含む。
4．黒褐色土　褐色粒少量含む。４号住居埋土。
5．暗褐色土　褐色粒･ローム粒わずかに含む。４号住居埋土。
6．暗褐色土　ローム粒少量含む。４号住居埋土。
7．黒褐色土　粘性あり、締まりあり。
8．褐色土　壁崩落土。
9．黒褐色土　７層に類するが色調暗い。
10．褐色土　掘方埋土。

0　1：60　2m

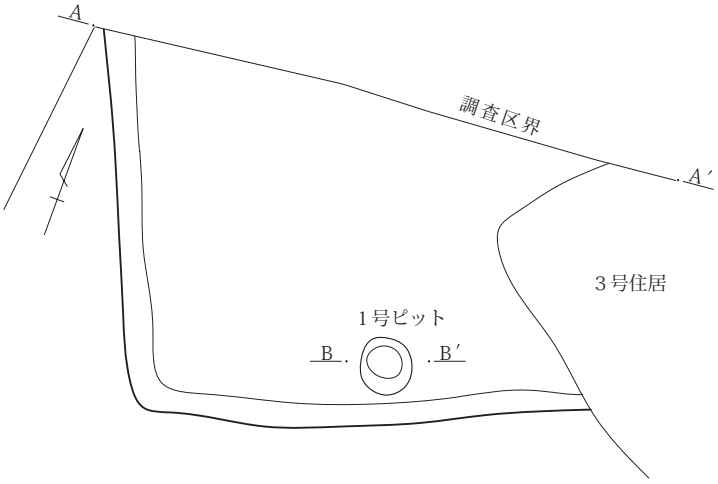



A-A′
1．黒褐色土　褐色粒少量含む。
2．暗褐色土　褐色粒・ローム粒わずかに含む。
3．褐色土　ローム粒わずかに含む。
4．２号住居埋土

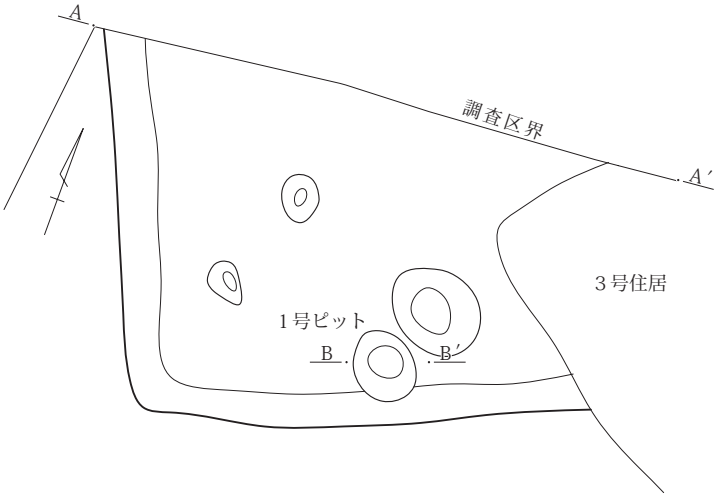


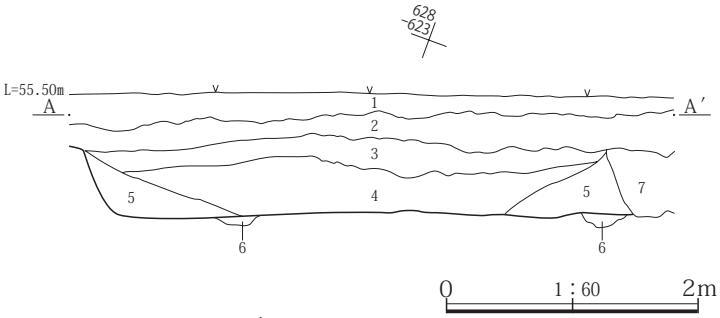

第21図　１区４号住居と出土遺物

使用面

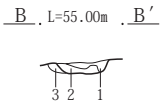



掘方

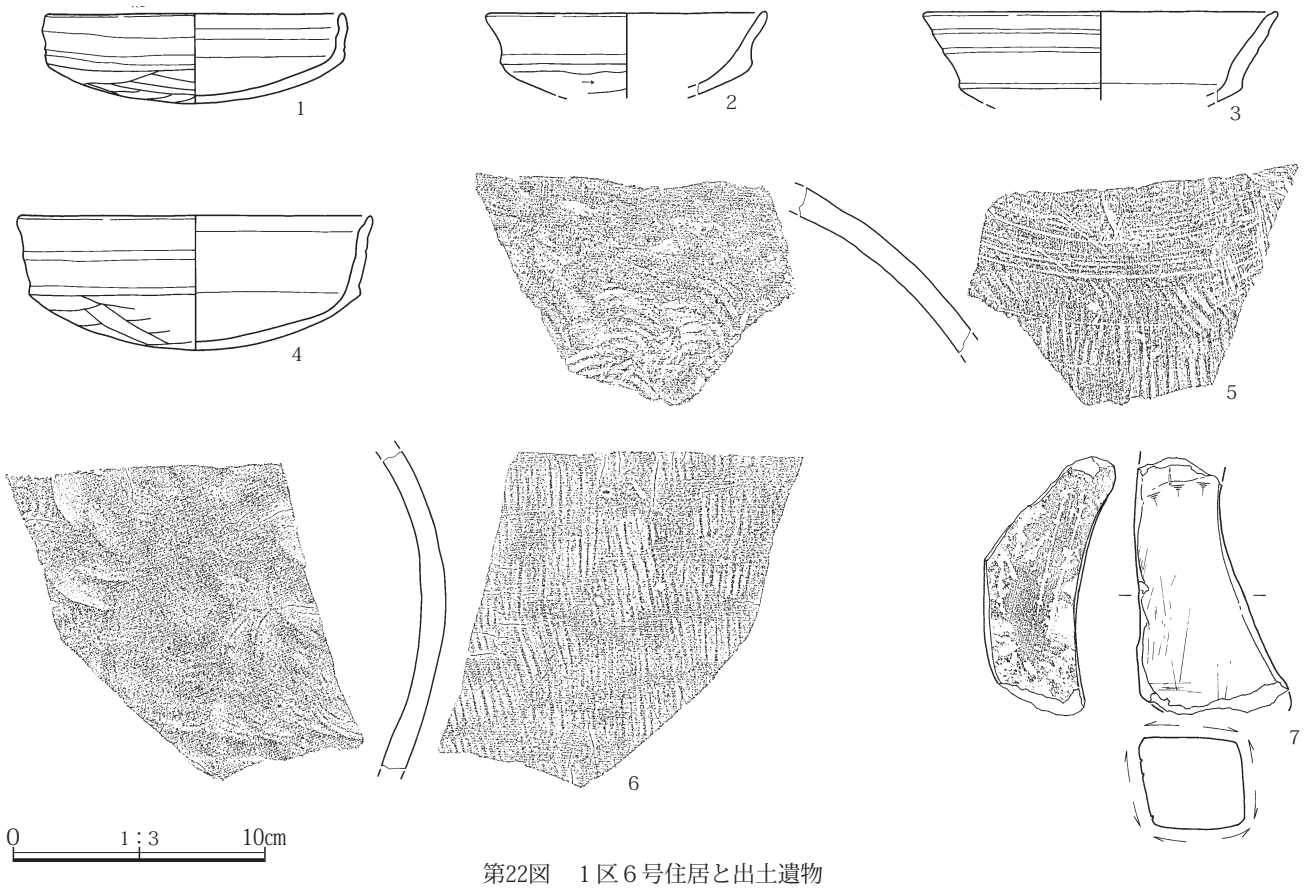



A-A′
１．基本土層Ⅰ層
２．基本土層Ⅱ層
３．暗褐色土　粒子やや粗く、粘性なし、締り弱い。焼土粒を含む。
４．暗褐色土　３層に類するが色調暗い。焼土粒・炭化物を含む。
５．褐色土　黄褐色土ブロックを多量に含む。
６．黄褐色土　ロームブロックを含む。掘方埋土。
７．３号住居埋土




B-B′
１．暗褐色土　粒子やや粗く、粘性なし、締りなし。焼土ブロックを含む。
２．褐色土　粒子細かく、粘性なし、締りなし。
３．黄褐色土　ロームブロックを含む。




第22図　１区６号住居と出土遺物

られる。長軸(4.50)m、短軸(3.00)mを測る。

**面積**　(6.35)㎡

**方位**　N-49°-E

**重複**　なし。

**埋没土**　褐色土及び暗褐色土が堆積している。

**床面**　遺構確認面から床面の深さは、0.59mを測る。壁溝は確認されなかった。使用面ではピットが２基確認された。１号ピットは長径0.58m、短径0.56m、深さ0.30mを測る。

**掘方**　掘方面では、土坑状の掘り込みが確認された。カマド構築土などを採掘していたと想定される。

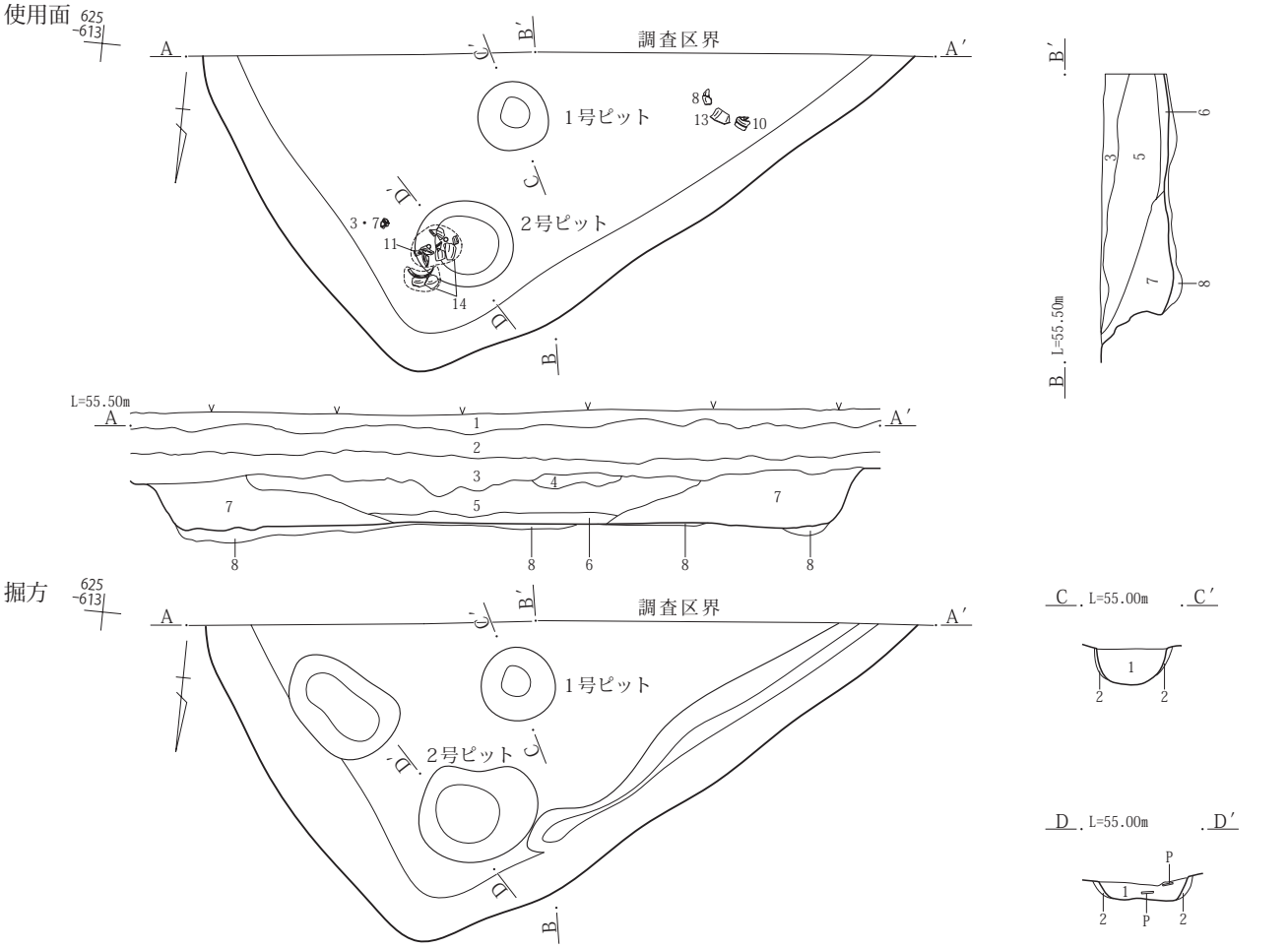
**柱穴**　２号ピットは、長径0.80m、短径0.70m、深さ0.14mを測り、その位置から柱穴の可能性が考えられる。

**カマド**　確認されなかった。

**貯蔵穴**　確認されなかった。

**出土遺物**　土師器大型製品片48点・中型製品片１点・小型製品片90点、須恵器大型製品片３点・小型製品片３点が出土した。土師器杯11点・須恵器蓋１点・土師器甑１点・土師器甕2点を図示した。３・７・８・10・11・13・14は床面直上から出土しており、11・14は２号ピット近辺から出土している。１・２・９・15は掘方から出土している。それ以外は埋土からの出土である。須恵器蓋12は埋土からの出土であり、その形状からこの住居の使用時期に伴うものではなく、後世の混入品と考えらえる。

**所見**　出土遺物の特徴から７世紀前半に使用されていた住居と考えられる。

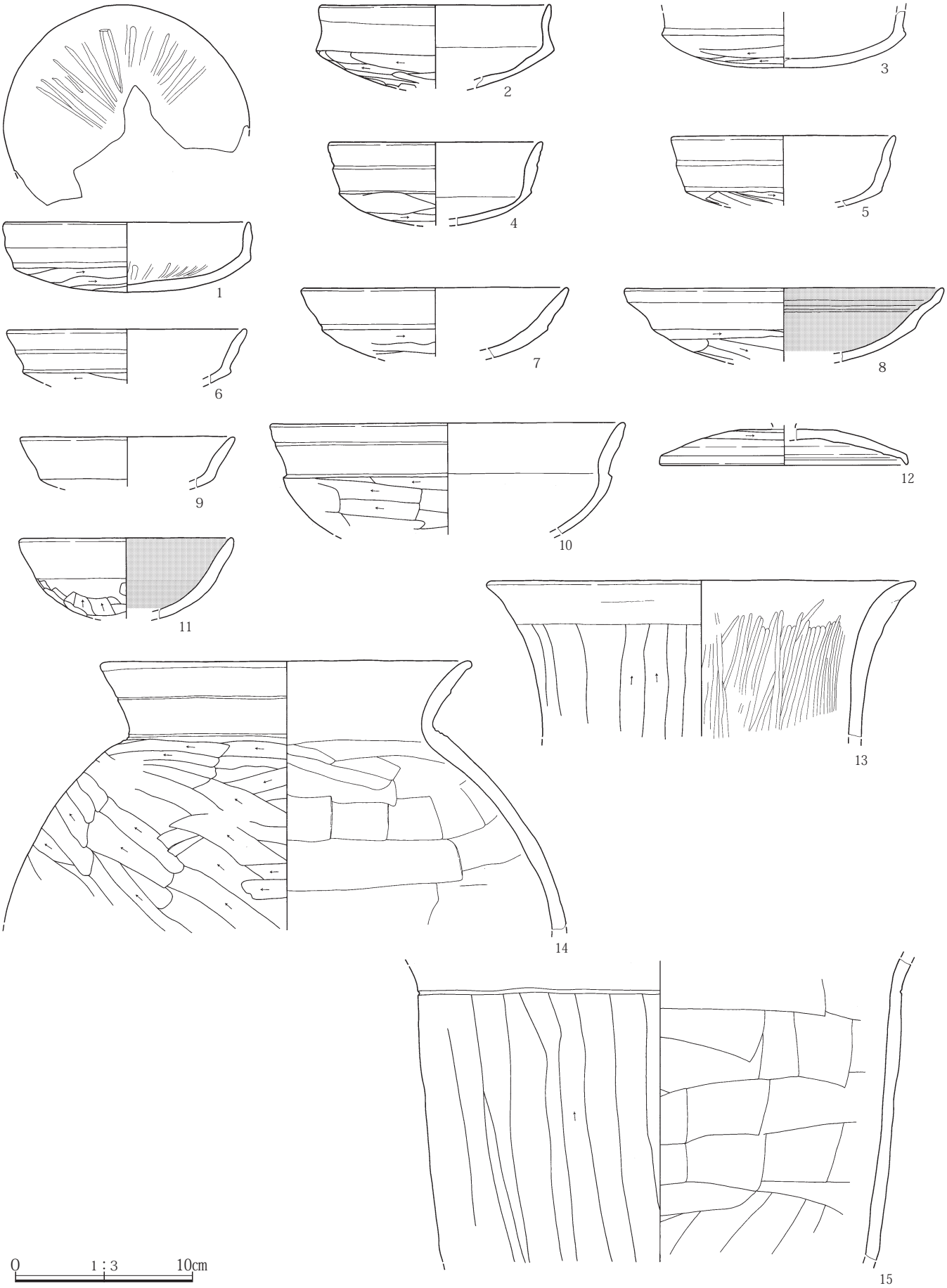



A-A′　B-B′
１．褐色土　　表土、耕作土。
２．黒褐色土　粒子やや粗く、粘性なし、締りあり。焼土粒・炭化物を含む。
３．暗褐色土　粒子やや粗く、粘性なし、締り弱い。焼土粒を含む。
４．暗褐色土　黄褐色土ブロックを含む。
５．褐色土　　にぶい黄褐色土ブロックを含む。
６．褐色土　　５層に類するが色調明るく、にぶい黄褐色土ブロック増す。
７．暗褐色土　粒子やや粗く、粘性なし、締り弱い。
８．黄褐色土　掘方埋土。

C-C′　D-D′
１．褐色土　　粒子粗く、粘性なし、締り弱い。
２．黄褐色土　ロームブロックを含む。

0　1：60　2m

第23図　１区８号住居




第24図　１区８号住居出土遺物

**２区１号住居**(第25～27図、PL.10・23)

**位置**　X＝37615～37620、Y＝-40705～-40710

**形状・規模**　隅丸長方形を呈し、長軸4.61m、短軸4.56mを測る。

**面積**　(15.76)㎡

**方位**　N-67°-E

**重複**　２号住居、３号住居と重複する。１号住居よりも３号住居の方が古いと判断し、調査を開始したが、出土遺物も含めて検討した結果、３号住居よりも１号住居の方が古いと考えられる。また、１号住居は２号住居より新しい。

**埋没土**　埋没土がレンズ状に堆積しており、自然埋没土と考えられる。

**床面**　黄褐色土ブロックを含む褐色土で埋戻して床面としている。遺構確認面から床面までの深さは、0.33mを測る。壁溝は確認されなかった。

**掘方**　中央よりやや東に不定形な土坑状の掘り込みがあり、北東および南東隅からも土坑状の掘り込みが確認されている。床面およびカマド構築土を採取していたと考えられる。

**柱穴**　確認されなかった。

**カマド**　東壁南寄りに設置されており、燃焼部中位から煙道は屋外に突出している。全長1.56m、屋内長0.81m、屋外長0.75m、焚口部幅0.43m、燃焼部幅0.64m、煙道部幅0.43m、袖基部幅1.50mを測る。焚口部底面は床面よりやや下がっており、奥壁はなだらかに立ち上がっている。袖部の粘土残存状況は不良であった。

**貯蔵穴**　確認されなかった。

**出土遺物**　土師器大型製品片584点・小型製品片63点、須恵器大型製品片31点・中型製品２点・小型製品片106点が出土した。土師器杯１点・須恵器杯３点・須恵器椀１点・須恵器鉢１点・土師器甕３点・須恵器甕１点・土師器釜脚部と思われるもの１点を図示した。３・４・９・11は床面直上より出土しており、９は住居北東部より出土している。２・６・８は掘方より出土している。

**所見**　床面直上から出土する遺物の特徴などから８世紀後半に使用されていた住居と考えられる。

**２区２号住居**(第28・29図、PL.10・23)

**位置**　X＝37615、Y＝-40710

**形状・規模**　２号住居は、１号住居と重複しており、住居全体は検出されていないが、形状は隅丸方形を呈するものと考えられる。検出した範囲では、長軸(3.75)m、短軸(1.84)mを測る。

**面積**　(5.78)㎡

**方位**　N-17°-WもしくはN-73°-E

**重複**　１号住居と重複する。土層、遺物の観察から２号住居の方が古い。

**埋没土**　暗褐色土・褐色土が堆積している。

**床面**　ロームブロックを含む暗褐色土を埋戻して、床面として形成していた。遺構確認面から床面の深さは、0.42mを測る。壁溝は確認されなかった。

**掘方**　住居北西隅を中心に土坑状の掘り込みが確認された。床面およびカマド構築土を採取してたと考えられる。

**柱穴**　確認されなかった。

**カマド**　確認されなかった。

**貯蔵穴**　確認されなかった。

**出土遺物**　土師器大型製品片264点・小型製品片53点、須恵器大型製品片29点・小型製品片48点が出土した。土師器杯２点・須恵器杯２点・須恵器蓋２点・土師器甕３点・須恵器甕４点・鉄製品１点を図示した。須恵器杯３が床面直上から出土している。

**所見**　出土遺物の特徴から８世紀中ごろに使用された住居と考えられる。

**２区３号住居**(第30図、PL.11・23)

**位置**　X＝37620、Y＝-40700～-40705

**形状・規模**　３号住居は、２区北辺、調査区界壁際で調査され、１号住居・４号住居と重複しており、住居全体は検出されなかった。一部のみの調査であるが、形状は方形を呈するものと考えられる。検出した範囲では、長軸(2.73)m、短軸(0.28)mを測る。

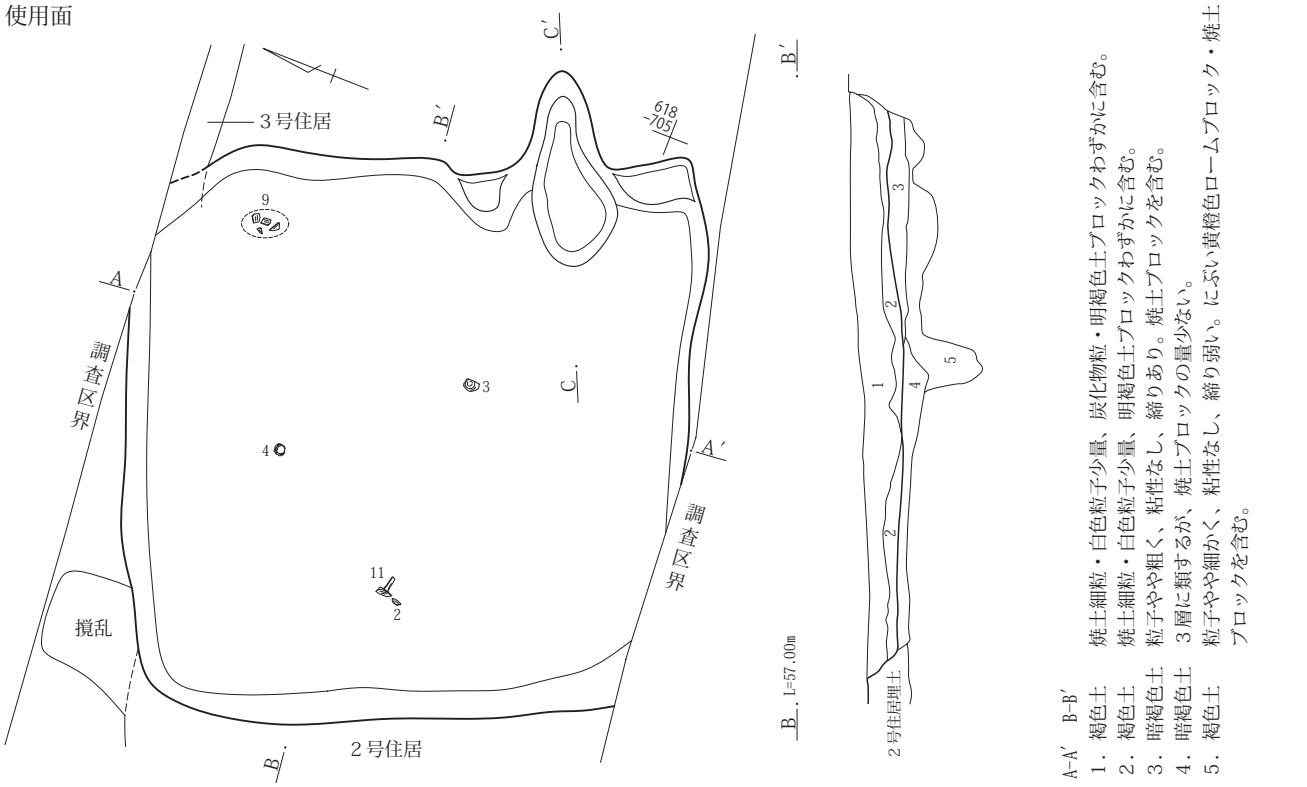
**面積**　0.36㎡

**方位**　不明

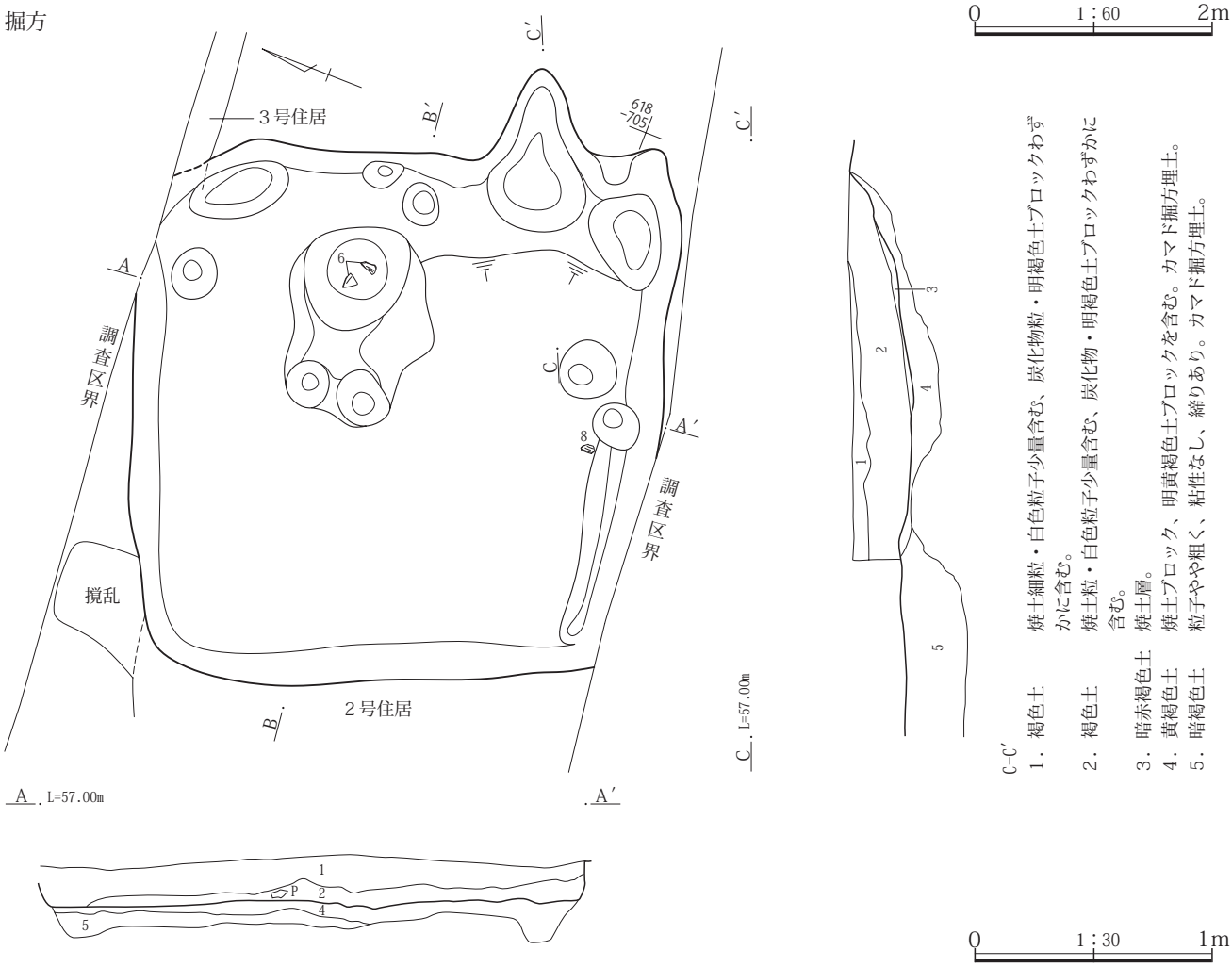
**重複**　１号住居、４号住居と重複する。遺構検出時の観察から、３号住居よりも１号住居の方が新しいと判断して調査を開始したが、出土遺物も含めて検討した結果、３号住居の方が新しいと考えられる。また、４号住居より３号住居の方が古い。

**埋没土**　褐色土が堆積している。

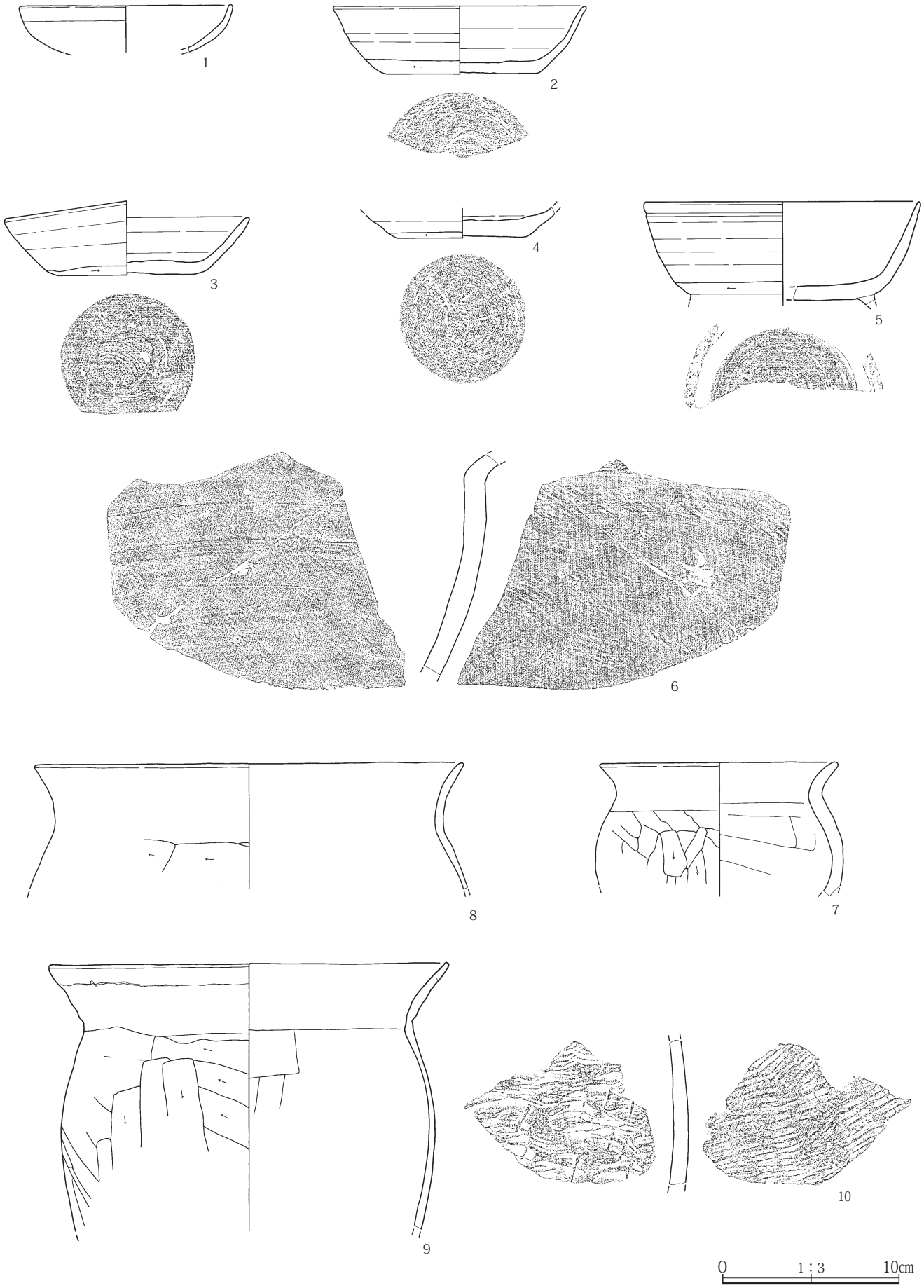
使用面




掘方



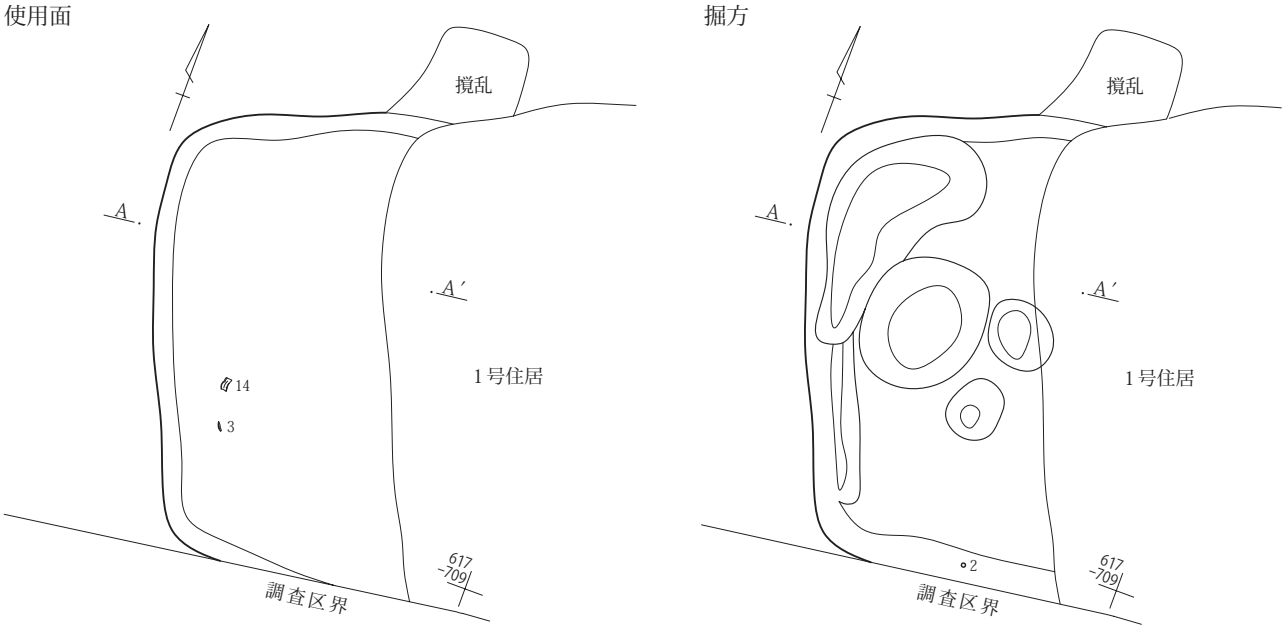

第25図　２区１号住居

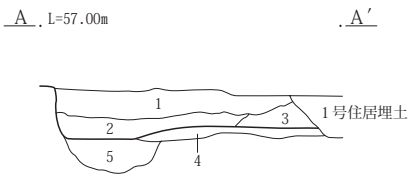



第26図　２区１号住居出土遺物（１）

0　1：3　10cm

第27図　２区１号住居出土遺物（２）



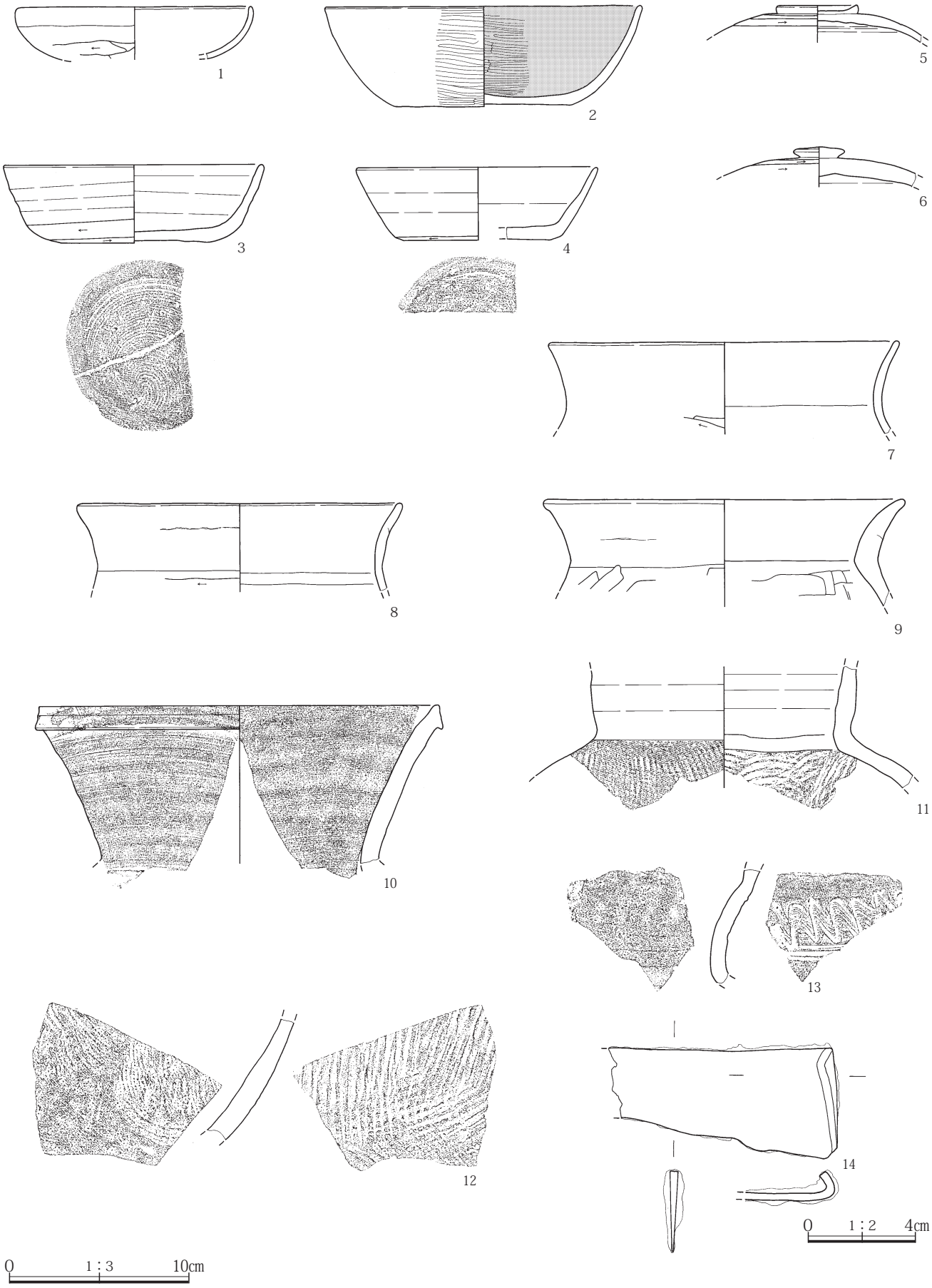




A-A′

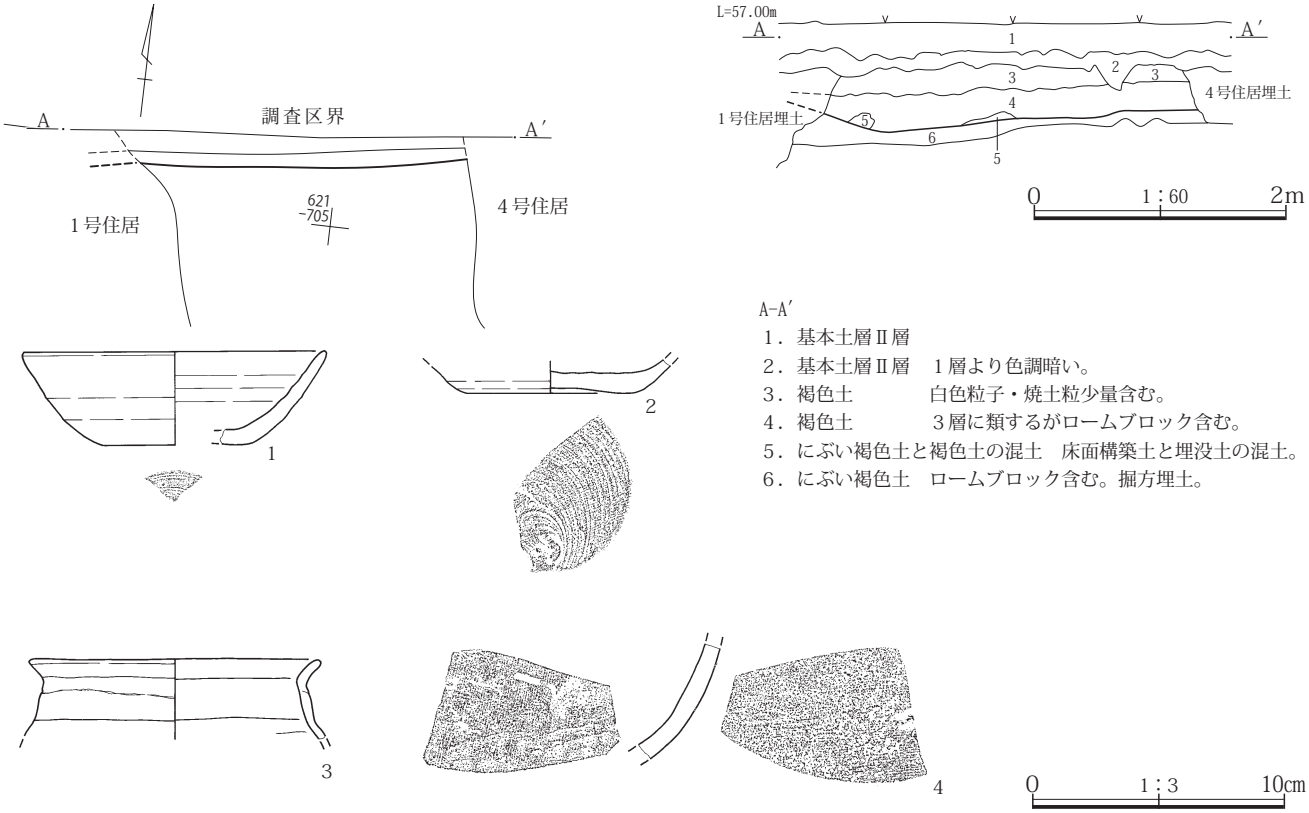
| | |
|---|---|
| １．暗色土 | 白色粒子少量含む。 |
| ２．褐色土 | 白色粒子・ロームブロック含む。 |
| ３．褐色土 | ２層に類するが、２層より色調明るくロームブロック増す。 |
| ４．暗褐色土 | ロームブロック少量含む。掘方埋土。 |
| ５．にぶい褐色土 | ロームブロック少量含む。掘方埋土。 |

0　1：60　2m

第28図　２区２号住居




第29図　２区２号住居出土遺物




第30図　２区３号住居と出土遺物

**床面**　遺構確認面から床面の深さは、0.22mを測る。壁溝は確認されなかった。

**掘方**　床面下部より、浅い掘り込みが確認された。これは住居構築における掘り込みと考えられる。

**カマド**　確認されなかった。

**貯蔵穴**　確認されなかった。

**出土遺物**　土師器大型製品片７点・小型製品片３点、須恵器大型製品片２点・小型製品片13点が出土した。須恵器杯２点・土師器甕１点・須恵器甕１点を図示した。図示した遺物はすべて埋土中から出土している。

**所見**　出土遺物の特徴から９世紀前半から中ごろにかけて使用されていた住居と考えられる。

**２区４号住居**(第31図、PL.11・23)

位置Ｘ＝37620、Ｙ＝-40700

**形状・規模**　４号住居は、２区北辺、調査区界壁際で調査されており、住居全体は検出されなかった。一部のみの調査であるが、形状は隅丸方形を呈するものと考えられる。検出した範囲では長軸(3.56)ｍ、短軸(1.75)ｍを測る。

**面積**　(4.03)㎡

**方位**　不明

**重複**　３号住居と重複する。土層、遺物の観察から４号住居の方が新しい。

**埋没土**　褐色土が堆積する。

**床面**　にぶい暗褐色土を埋戻して、床面を形成していた。遺構確認面から床面の深さは0.26mを測る。壁溝は確認されなかった。

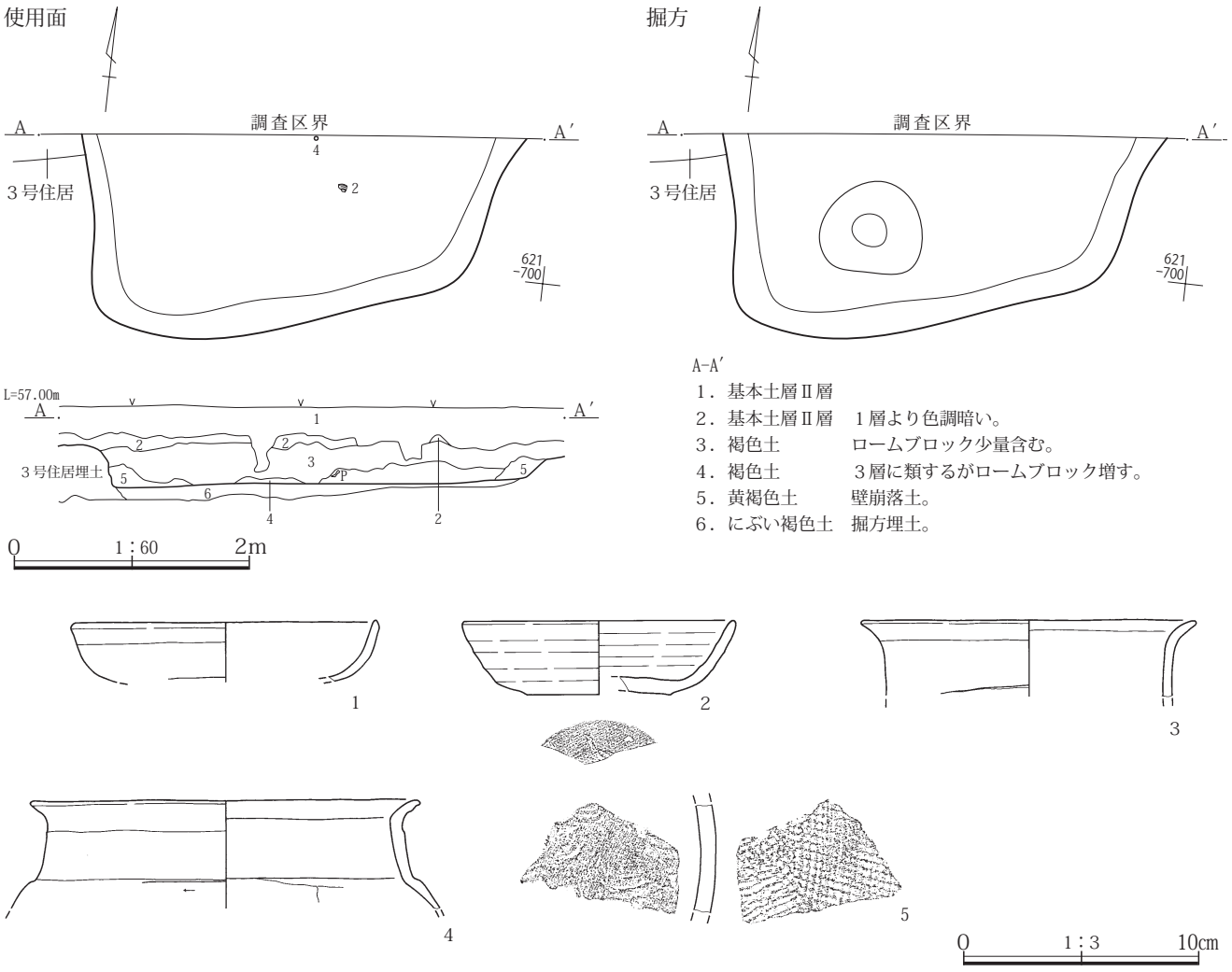
**掘方**　ほぼ均一に浅く掘り込まれていたが、南西隅では、床下土坑とみられる土坑状の掘り込みが確認された。

**柱穴**　確認されなかった。

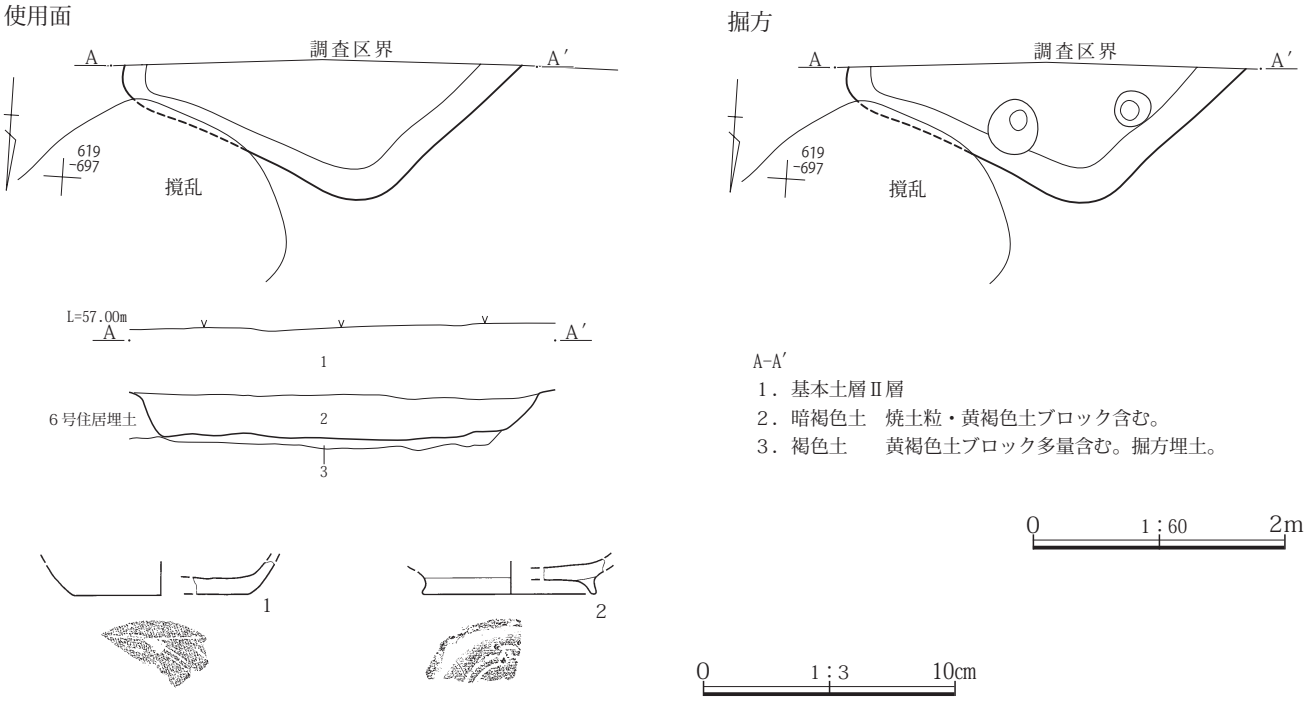
**カマド**　確認されなかった。

**出土遺物**　土師器大型製品片39点・小型製品片13点、須恵器大型製品片２点・小型製品片18点が出土した。土師器杯１点・須恵器杯１点・土師器甕２点・須恵器甕１点を図示した。須恵器杯２は床面直上から出土している。

**所見**　出土遺物の特徴から９世紀中ごろに使用されていた住居と考えらえる。




第31図　２区４号住居と出土遺物




第32図　２区５号住居と出土遺物

**２区５号住居**（第32図、PL.11）

**位置**　X＝37615、Y＝-40695 ～ -40700

**形状・規模**　５号住居は、２区南辺、調査区界壁際で調査されており、住居全体は検出されなかった。一部のみの調査であるが、形状は隅丸方形を呈するものと考えられる。検出した範囲では長軸(2.22)m、短軸(1.19)mを測る。

**面積**　(1.38)㎡

**方位**　不明

**重複**　６号住居と重複する。土層、遺物の観察から５号住居の方が新しい。

**埋没土**　暗褐色土が堆積している。

**床面**　黄褐色土ブロックを含む褐色土を埋戻し、床面として形成していた。遺構確認面から床面の深さは、0.22mを測る。壁溝は確認されなかった。

**掘方**　ほぼ均一に浅く掘り込まれていた。北西隅では土坑状の掘り込みが２基確認された。

**柱穴**　確認されなかった。

**カマド**　確認されなかった。

**出土遺物**　土師器大型製品片３点・小型製品片15点、須恵器大型製品片１点・小型製品片26点が出土した。須恵器杯１点・須恵器椀１点を図示した。図示した２点は埋土中より出土した。

**所見**　出土遺物の特徴から９世紀前半に使用された住居と考えられる。

**２区６号住居**（第33図、PL.11・23）

位置　X＝37615、Y＝-40695

**形状・規模**　６号住居は、２区南辺、調査区界壁際で調査されており、５号住居と重複しているため、住居全体は検出されなかった。一部のみの調査であるが、形状は隅丸方形を呈するものと考えられる。検出した範囲では長軸(2.20)m、短軸(1.05)mを測る。

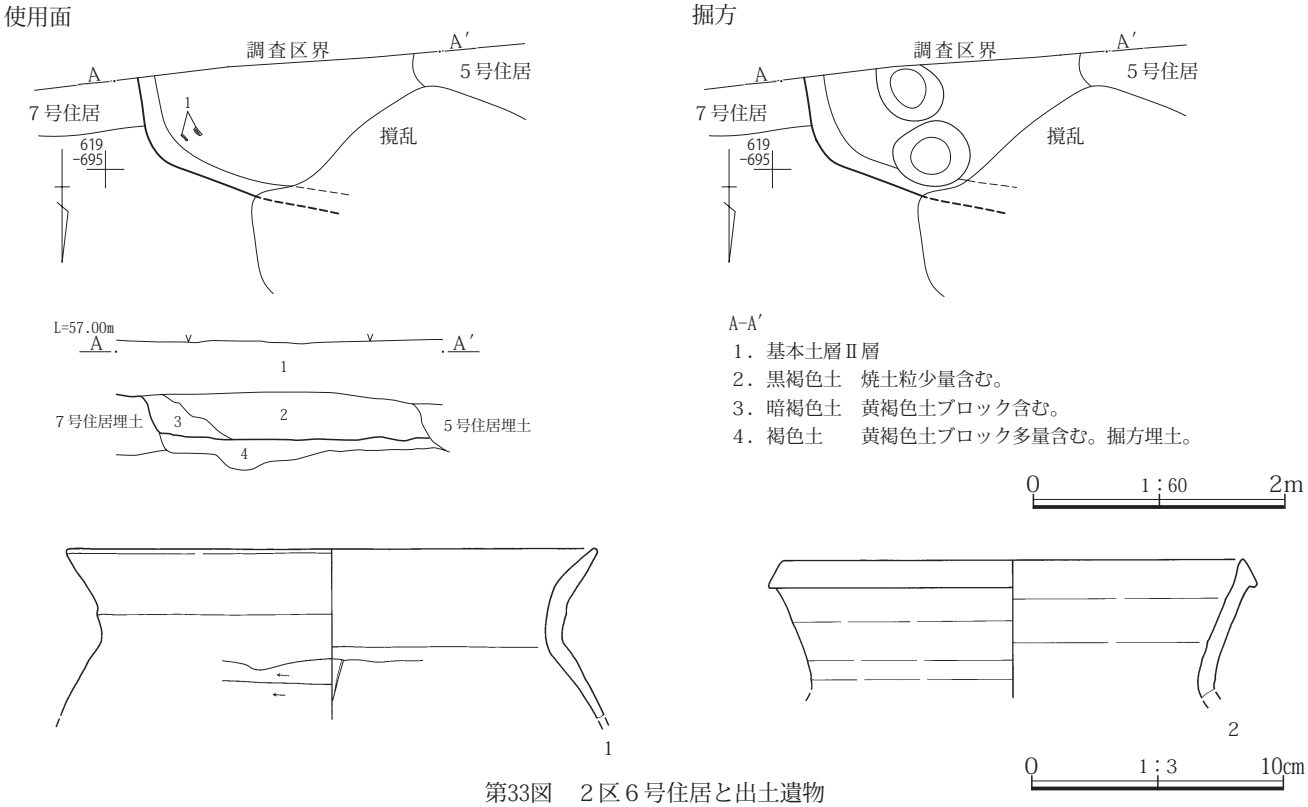
**面積**　(1.45)㎡

**方位**　不明

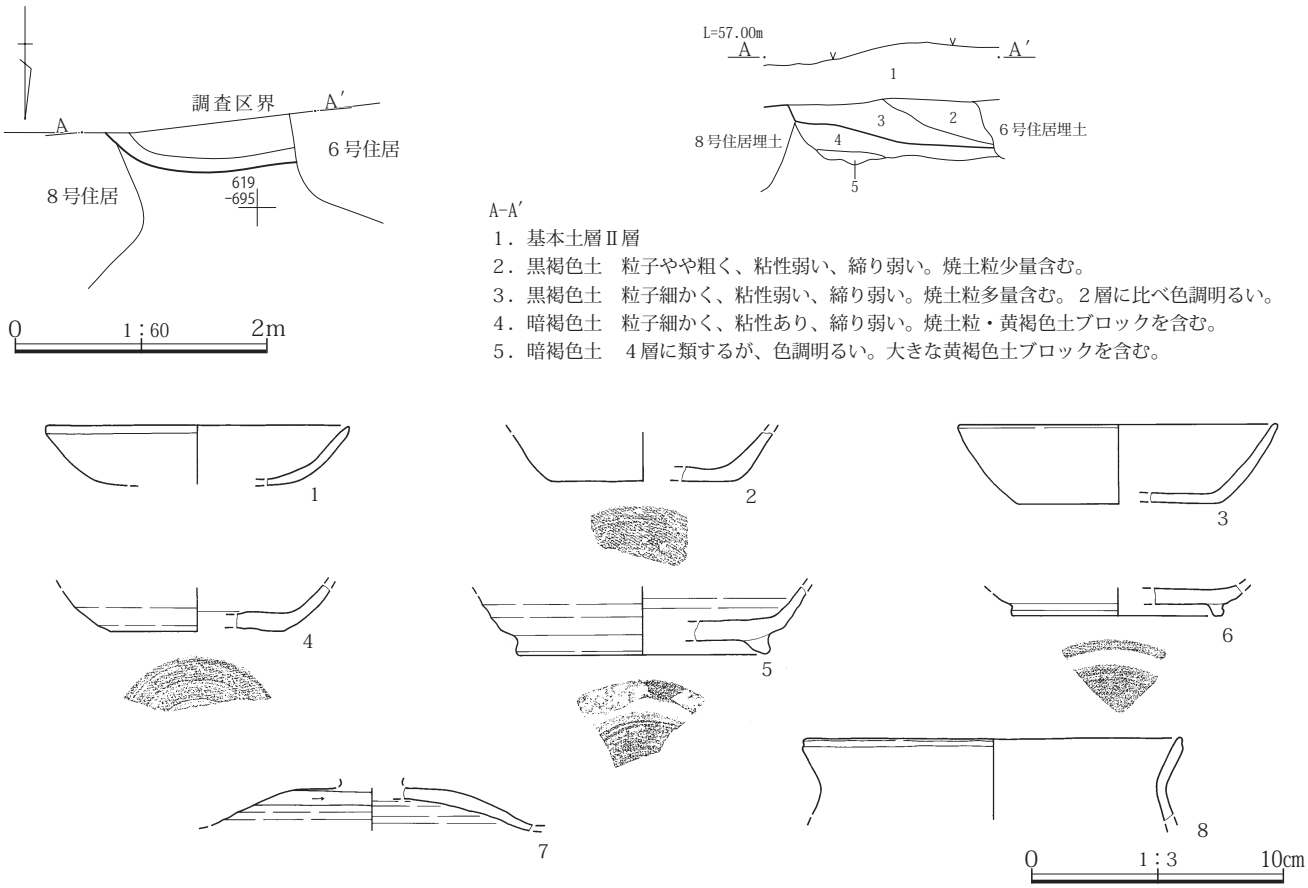
**重複**　５号住居、７号住居と重複する。土層、遺物の観察から６号住居は７号住居より新しいが、５号住居より古い。

**埋没土**　黒褐色土・暗褐色土が堆積している。暗褐色土が壁際にて三角堆積していることから自然埋没と考えられる。

**床面**　黄褐色土ブロックを含む褐色土を埋戻し、床面としていた。遺構確認面から床面の深さは、0.20mを測る。




第33図　２区６号住居と出土遺物




第34図　２区７号住居と出土遺物

壁溝は確認されなかった。

**掘方**　ほぼ均一に掘り込まれていたが土坑状の掘り込みも確認された。

**柱穴**　確認されなかった。

**カマド**　確認されなかった。

**貯蔵穴**　確認されなかった。

**出土遺物**　土師器大型製品片53点・小型製品片９点、須恵器大型製品片４点・小型製品片10点が出土した。土師器甕1点・須恵器甕１点を図示した。土師器甕１は北東隅より出土し、須恵器甕２は掘方より出土した。

**所見**　出土遺物の特徴から９世紀前半に使用されていた住居と考えられる。

**２区７号住居**（第34図、PL.12・23）

**位置**　X＝37615、Y＝-40690 ～ -40695

**形状・規模**　７号住居は、２区南辺、調査区界壁際で調査されており、６号住居と重複しているため、住居全体は検出されなかった。一部のみの調査であるが、形状は隅丸方形を呈するものと考えられる。検出した範囲では長軸(1.40)m、短軸(0.38)mを測る。

**面積**　(0.33)㎡

**方位**　不明

**重複**　８号住居、６号住居と重複する。土層、遺物の観察から７号住居は８号住居より新しいが、６号住居より古い。

**埋没土**　焼土を含む黒褐色土が堆積していた。

**床面**　黄褐色土ブロックを含む暗褐色土を埋戻し、床面としていた。遺構確認面から床面の深さは、0.42mを測る。壁溝は確認されなかった。

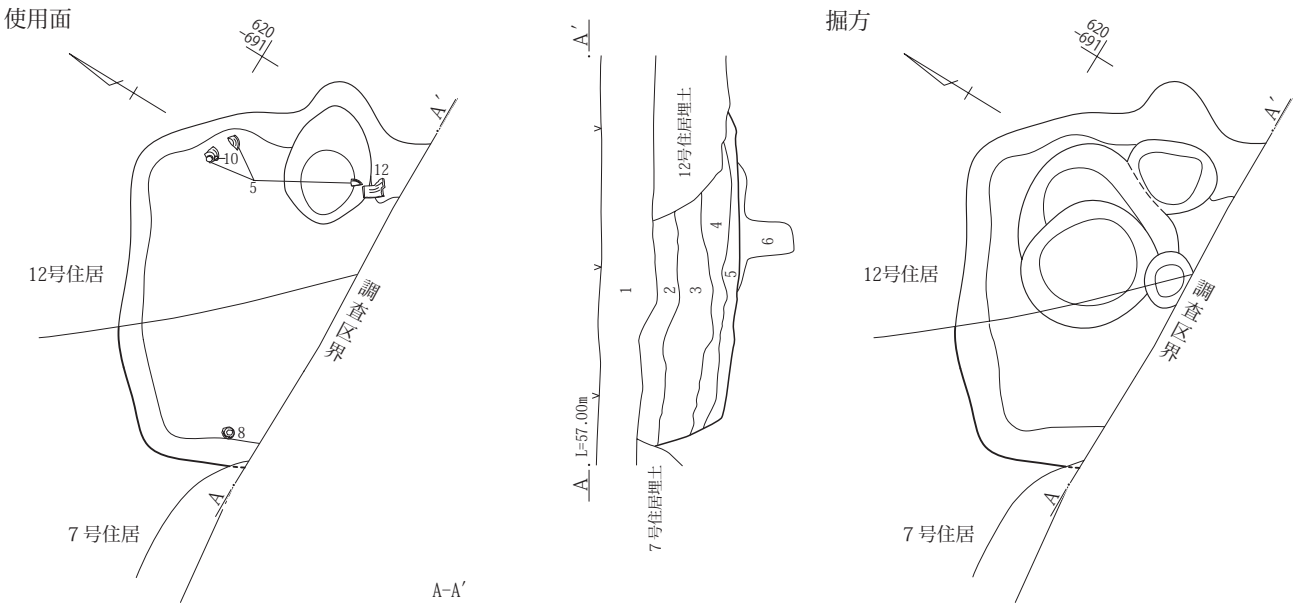
**掘方**　壁際のみ掘り込みが確認された。

**柱穴**　確認されなかった。

**カマド**　確認されなかった。

**出土遺物**　土師器大型製品片35点・小型製品片７点、須恵器大型製品片３点・小型製品片25点が出土した。土師器杯１点・須恵器杯３点・須恵器椀2点・須恵器蓋１点・土師器甕１点を図示した。須恵器杯２は掘方から出土した。

**所見**　出土遺物の特徴から８世紀後半に使用された住居と考えられる。




A-A′
1．基本土層Ⅱ層
2．黒褐色土　粒子やや粗く、粘性弱い、締り弱い。焼土ブロック・炭化物多量に含む。
3．黒褐色土　粒子やや粗く、粘性あり、締り強い。焼土ブロック・炭化物・土器片を含む。２層より色調暗い。
4．黒褐色土　粒子やや粗く、粘性あり、締り強い。焼土ブロック・黄褐色土ブロックを含む。
5．暗褐色土　粒子細かく、粘性あり、締り強い。明黄褐色土ブロックを多く含む。
6．褐色土　粒子細かく、粘性あり、締りあり。明黄褐色土ブロックを含む。掘方埋土。

0　1：60　2m

第35図　２区８号住居

**２区８号住居**(第35・36図、PL.12・23)

**位置**　X＝37615～37620、Y＝-40690

**形状・規模**　８号住居は、２区南辺、調査区界壁際で調査されており、７号住居・12号住居と重複しているため、住居全体は検出されなかった。一部のみの調査であるが、形状は隅丸方形を呈するものと考えられる。長軸2.78m、短軸(2.15)mを測る。

**面積**　3.18㎡

**方位**　N-64°-E

**重複**　７号住居・12号住居と重複する。土層、遺物の観察から８号住居は12号住居・７号住居より古い。

**埋没土**　焼土・黄褐色土を含む黒褐色土である。

**床面**　褐色土を埋戻し、床面としていた。遺構確認面から床面の深さは、0.55mを測る。壁溝は確認されなかった。

**掘方**　土坑状に掘り込まれており、床下土坑とみられる。

**柱穴**　確認されなかった。

**カマド**　東壁南寄りに設置されていた。カマド燃焼部は確認されたが、重複する12号住居に住居上部を壊されており、煙道部は確認されてなかった。全長(1.15)m、焚口部幅0.42m、燃焼部幅0.68m、袖基部幅0.92mを測る。

**貯蔵穴**　確認されなかった。

**出土遺物**　土師器大型製品片12点・小型製品片143点、須恵器大型製品片111点・小型製品片358点が出土した。土師器杯２点・須恵器椀２点・須恵器蓋３点・土師器台付甕１点・土師器甕2点・土師器甑１点・カマドより出土した丸瓦１点を図示した。土師器台付甕８が床面直上から出土している。

**所見**　出土遺物の特徴から８世紀中ごろに使用された住居と考えられる。重複する12号住居にカマド等を壊されていた。

**２区９号住居**(第37・38図、PL.12・13・24)

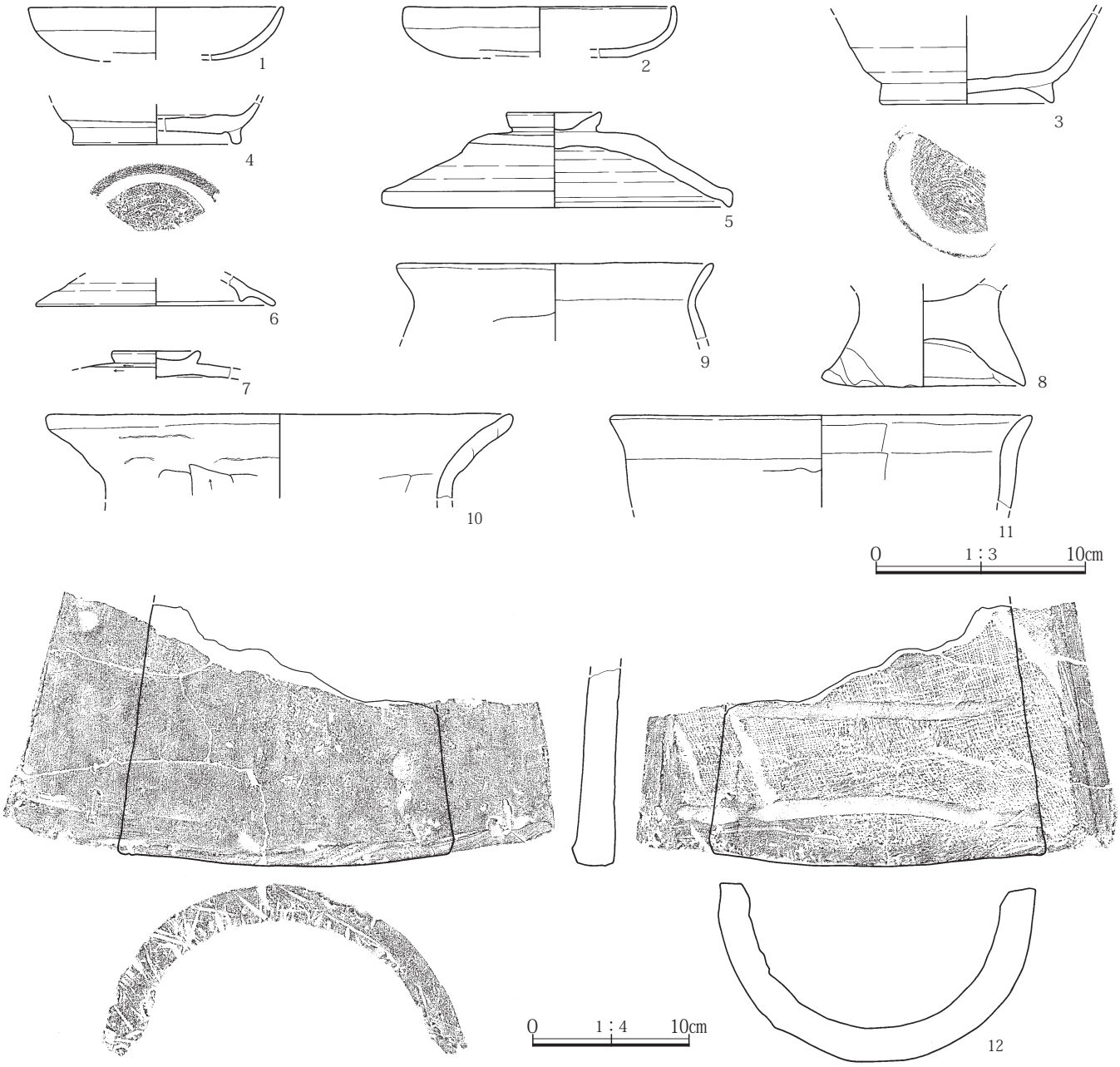
**位置**　X＝37620、Y＝-40690～-40695

**形状・規模**　遺構の南半分の調査であるが、隅丸長方形を呈し、長軸(5.26)m、短軸(2.45)mを測る。

**面積**　(9.93)㎡

**方位**　N-74°-E

**重複**　12号住居、９号土坑と重複する。遺構確認時の観察から、12号住居と９号住居では９号住居の方が新しいと判断して調査を開始した。出土遺物も含めて検討した結果、12号住居より９号住居の方が古いと考えられる。




第36図　２区８号住居出土遺物

９号土坑とは、９号住居の方が古い。

**埋没土**　暗褐色土がレンズ状に堆積しており、自然埋没土と考えられる。

**床面**　褐色土を埋戻して、床面としていた。遺構確認面からの深さは、0.51mを測る。壁溝は西壁際にて確認された。幅0.06m～0.14m、深さ0.03m～0.08mを測る。

**掘方**　掘方の掘り込みは0.05m～0.10mと浅いが、住居南東隅に土坑状の掘り込みが確認されており、ローム土を採取したと考えられる。

**柱穴**　確認されなかった。

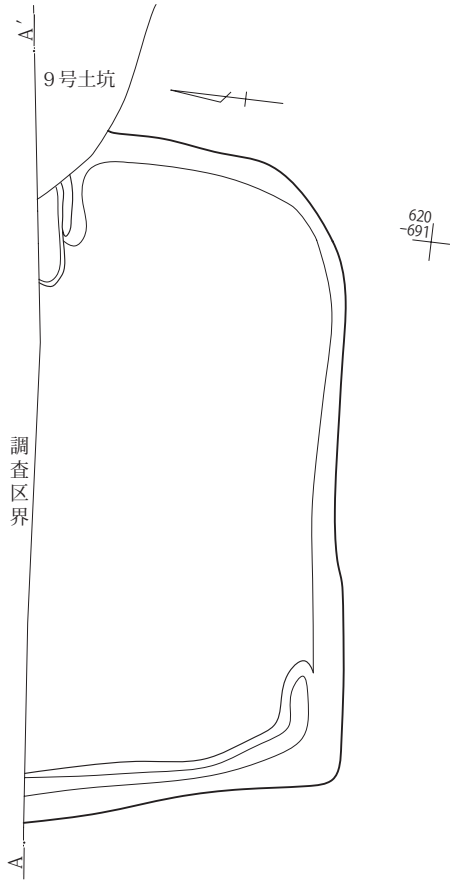
**カマド**　東壁中央部分に設置されていた。確認できた範囲では、全長(1.74)m、屋内長1.08m、焚口部幅(0.16)m、燃焼部幅(0.26)mを測る。燃焼部は焚口よりやや掘り下げられており、奥壁はなだらかに立ち上がっていたようである。

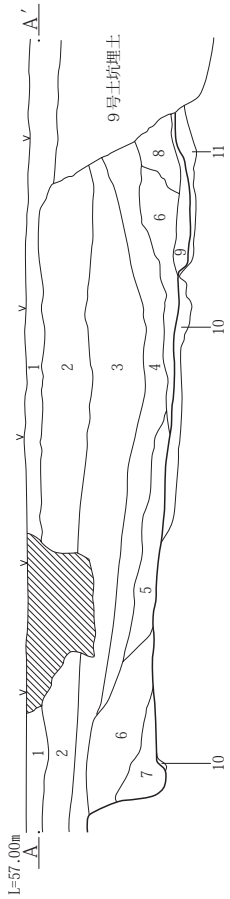
**貯蔵穴**　確認されなかった。

**出土遺物**　土師器大型製品片356点・小型製品片270点、須恵器大型製品片25点・小型製品片82点が出土した。土師器杯１点・須恵器椀２点・須恵器蓋２点・土師器甕１点・須恵器甕２点を図示した。図示した遺物は埋土より出土している。

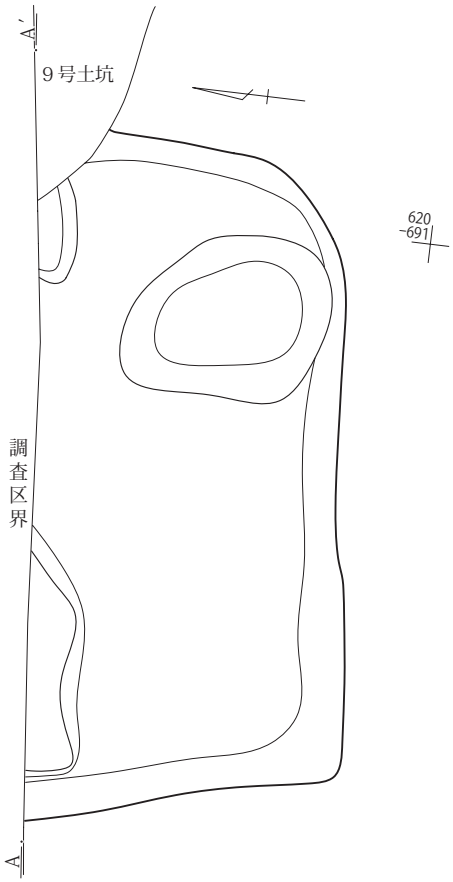
**所見**　出土遺物の特徴から８世紀中ごろに使用されていた住居と考えられる。

使用面




掘方

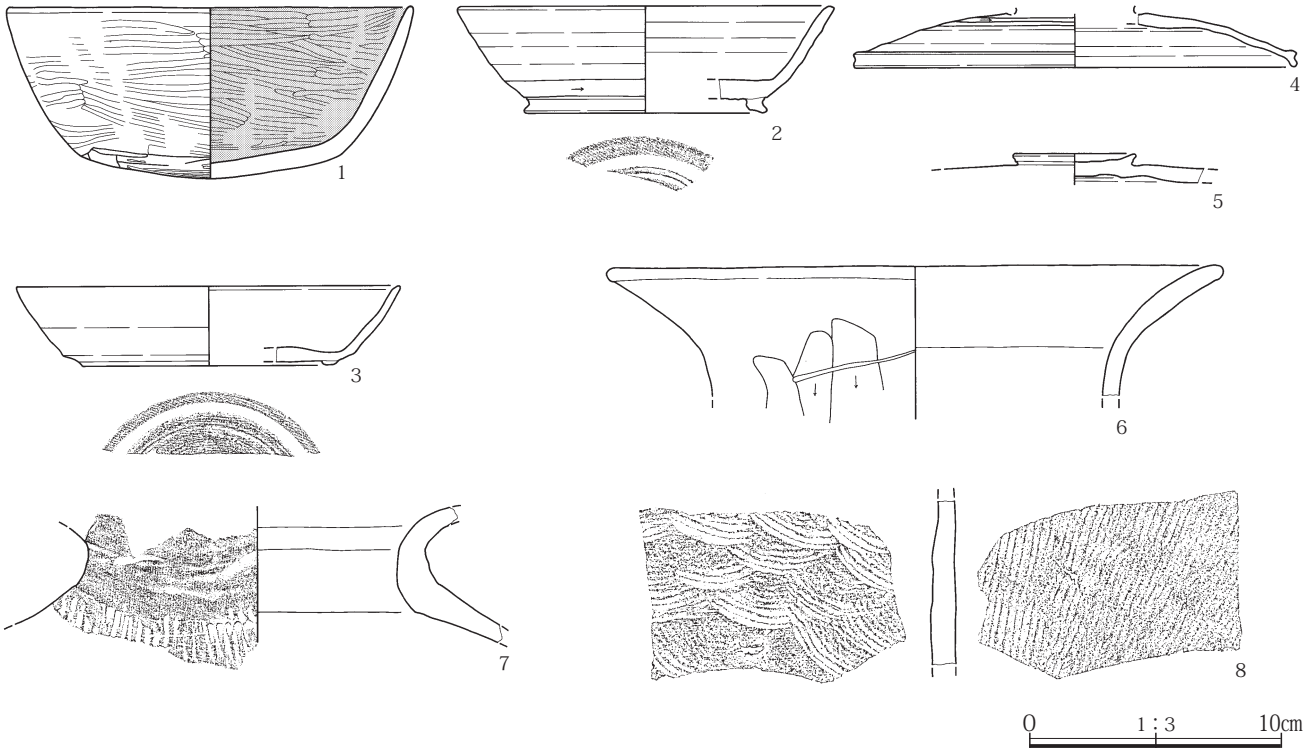



A-A′

１．基本土層Ⅰ層
２．基本土層Ⅱ層
３．基本土層Ⅲ層
４．褐色土　粒子やや粗く、粘性なし、締りあり。焼土粒・小礫・黄褐色土ブロックを含む。
５．暗褐色土　粒子やや粗く、粘性なし、締りあり。焼土粒・炭化物・小礫を含む。
６．暗褐色土　粒子細かく、粘性あり、締りあり。焼土粒・にぶい黄橙色土ブロックを含む。
７．褐色土　粒子細かく、粘性あり、締りあり。にぶい黄橙色土ブロックを含む。
８．黄褐色土　粒子細かく、粘性あり、締りあり。焼土ブロック・炭化物を含む。カマド天井崩落土。
９．暗褐色土　灰・焼土多量に含む。燃焼土層。
10．褐色土　粒子細かく、粘性弱い、締り強い。掘方埋土。
11．黄褐色土　粒子細かく、粘性弱い、締りあり。明黄褐色土ブロックを含む。カマド掘方埋土。

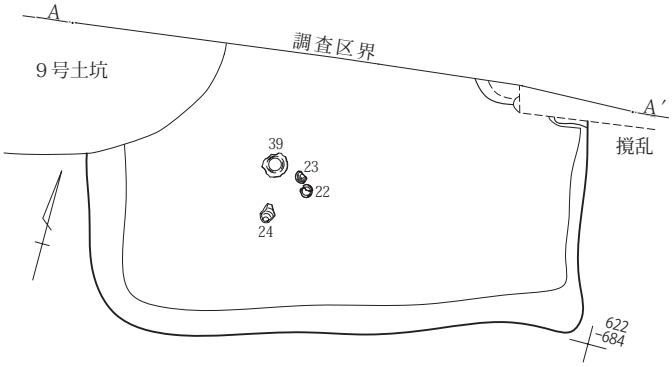
0　1：60　2m

第37図　２区９号住居

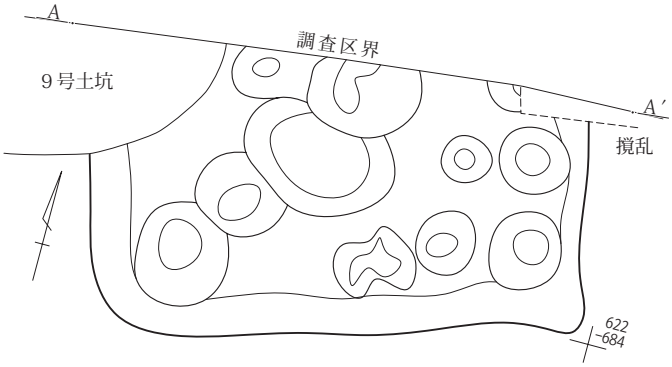


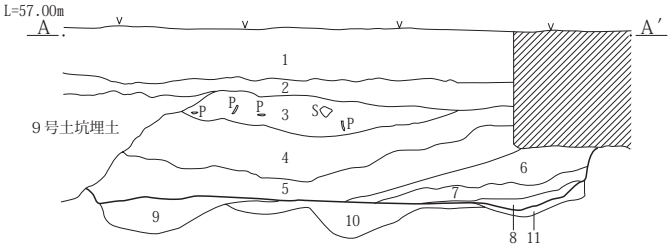

第38図　２区９号住居出土遺物

使用面




掘方



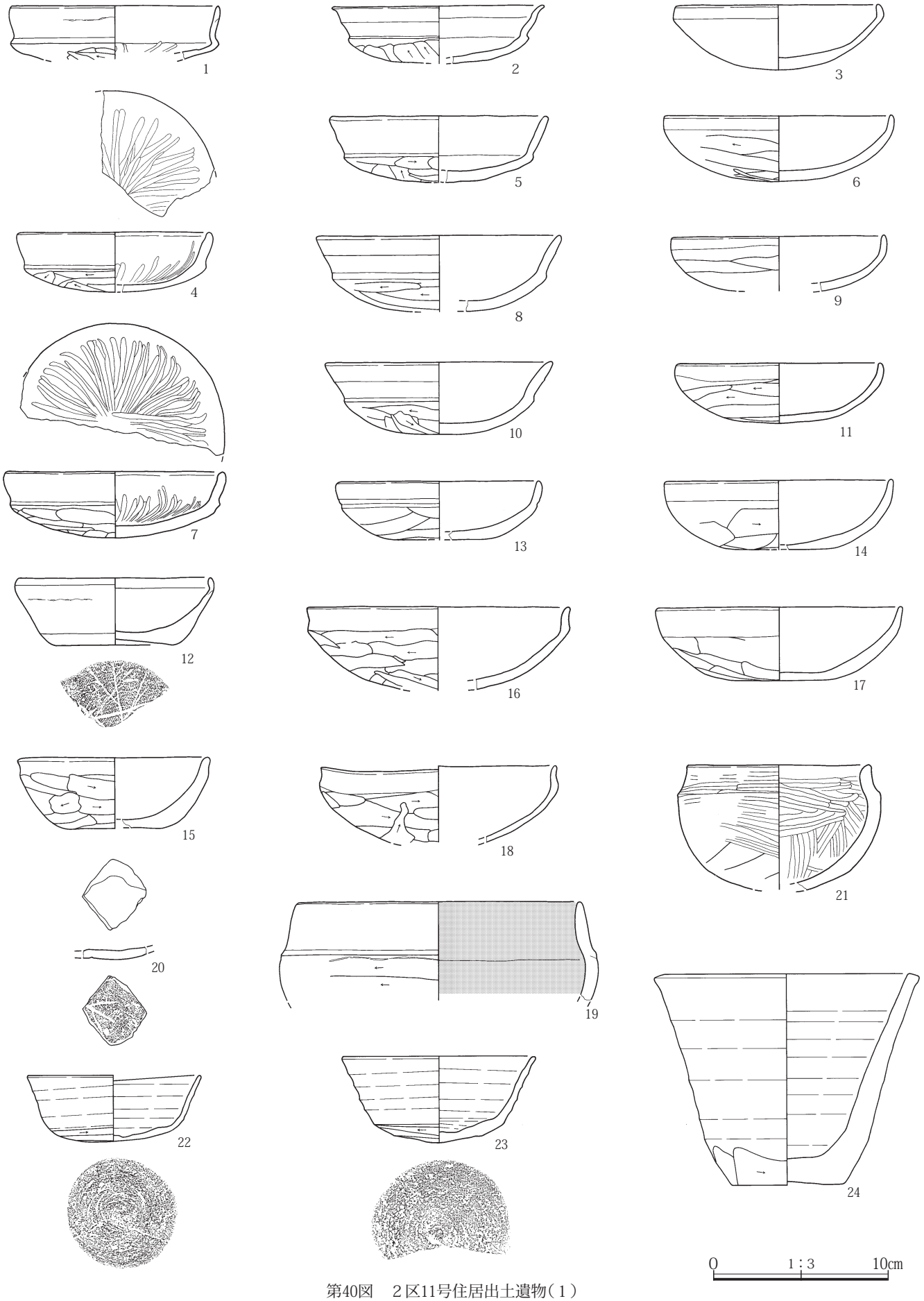




A-A′

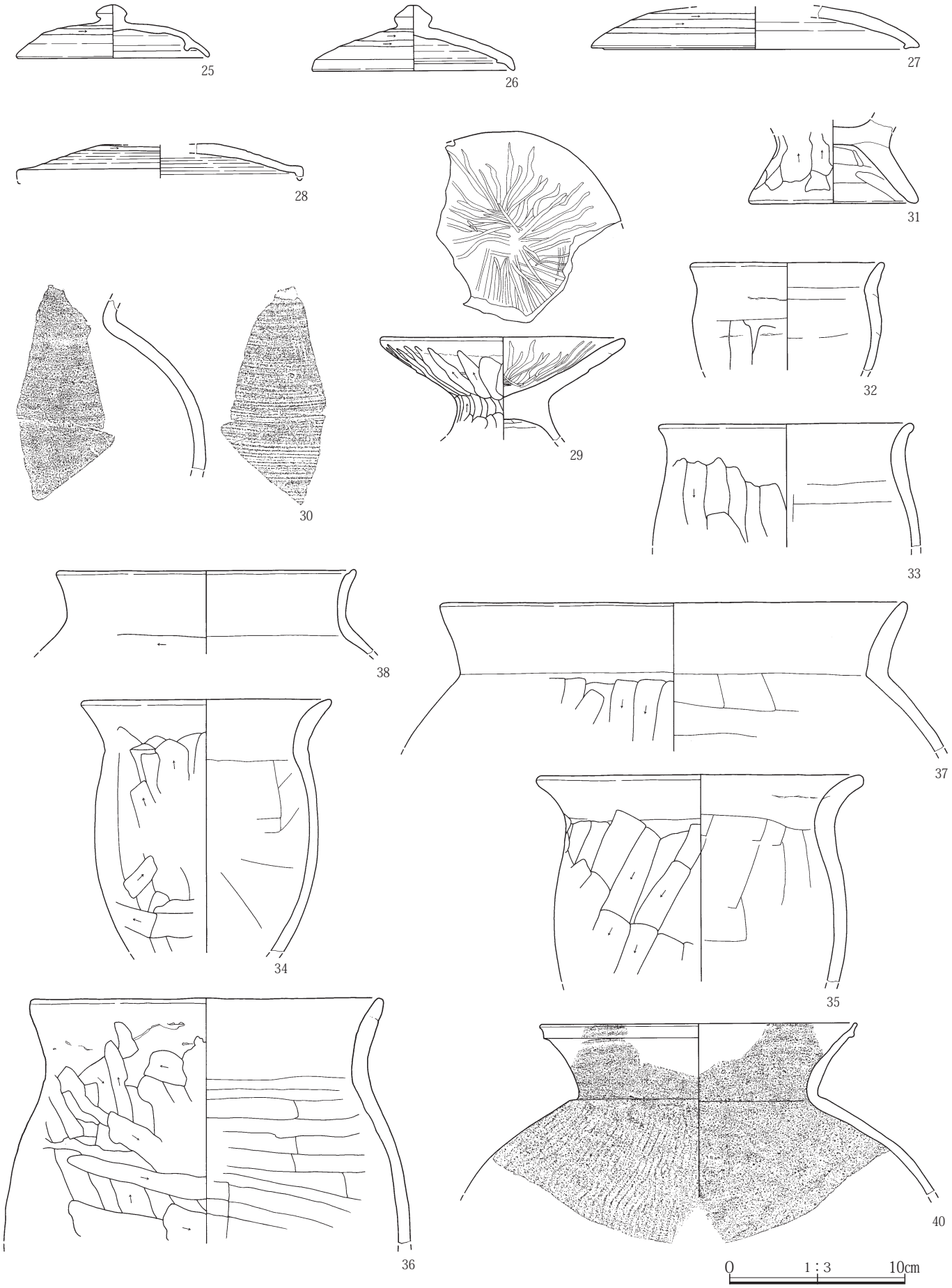
1．暗褐色土　表土
2．暗褐色土　粒子やや粗く、粘性なし、締り弱い。焼土ブロックを含む。
3．暗褐色土　粒子やや細かく、粘性なし、締り弱い。焼土ブロック・焼土粒を含む。
4．暗褐色土　粒子やや細かく、粘性なし、締り弱い。焼土ブロックを含む。
5．黒褐色土　粒子やや粗く、粘性なし、締りなし。焼土ブロック・にぶい黄橙色土ブロックを含む。
6．暗褐色土　粒子やや粗く、粘性なし、締りなし。にぶい黄橙色土ブロック多く含む。
7．暗褐色土　粒子やや細かく、粘性なし、締り弱い。にぶい黄橙色ブロック・焼土粒を含む。
8．暗褐色土　粒子細かく、粘性弱い、締り弱い。焼土ブロック多量含む。
9．黄褐色土　粒子やや粗く、粘性ややあり、締りあり。黄褐色土ブロック含む。
10．黄褐色土　粒子やや粗く、粘性ややあり、締り弱い。黄橙色土ブロック多量含む。
11．褐色土　粒子細かく、粘性ややあり、締りあり。焼土・黄褐色土ブロック含む。

0　1：60　2m

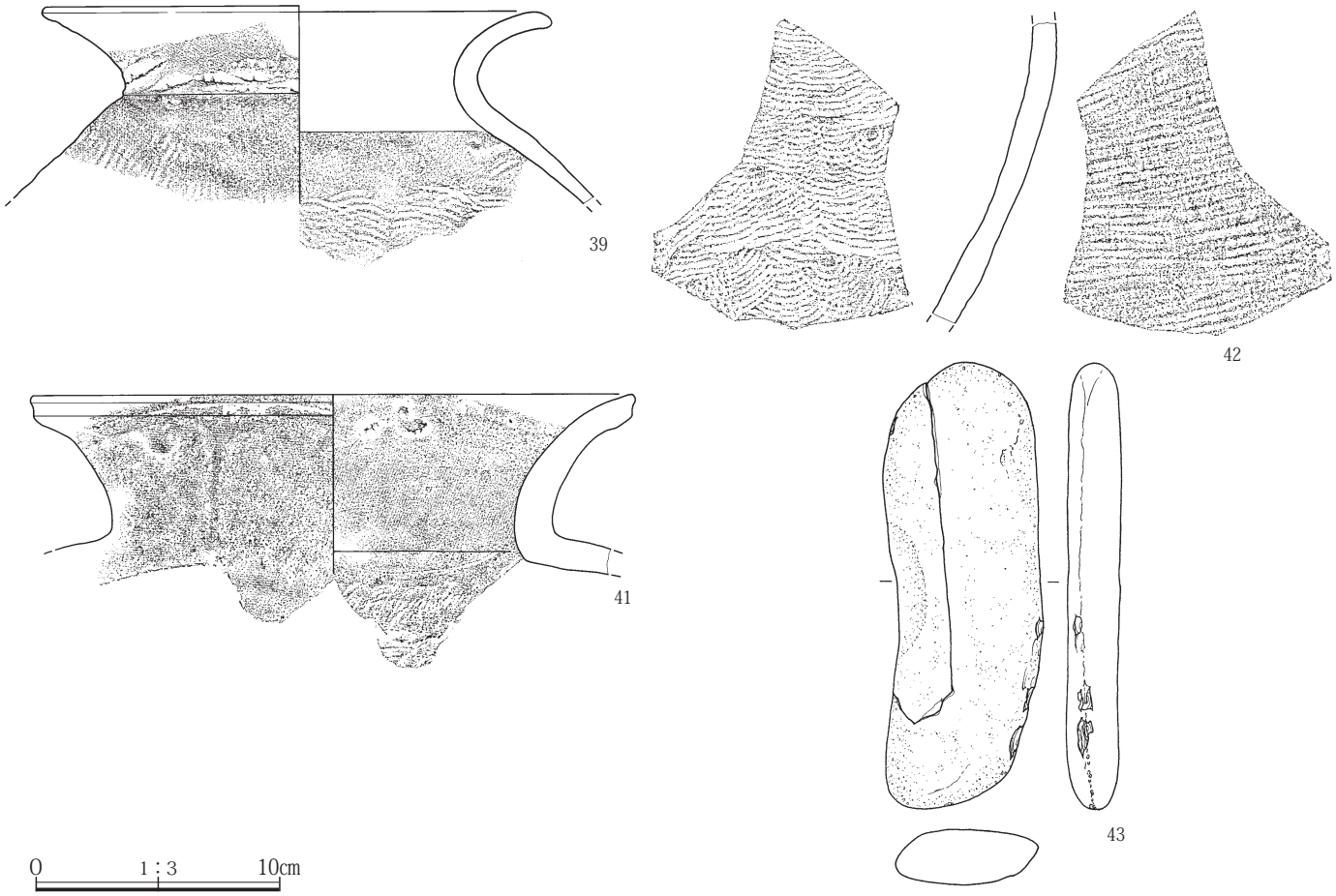
第39図　２区11号住居




第40図　２区11号住居出土遺物（１）




第41図　２区11号住居出土遺物（２）




第42図　２区11号住居出土遺物（３）

**２区11号住居**（第39 ～ 42図、PL.13・24）

**位置**　X＝37620、Y＝-40680 ～ -40685

**形状・規模**　遺構の南半分の調査であるが、隅丸長方形を呈し、長軸4.00m、短軸(2.38)mを測る。カマド煙道部分が撹乱により破壊されていた。

**面積**　(6.71)㎡

**方位**　N-74°-E

**重複**　９号土坑と重複する。土層、遺物の観察から11号住居の方が古い。

**埋没土**　暗褐色土がレンズ状に堆積しており、自然埋没土と考えられる。

**床面**　黄褐色土を埋戻し、床面としていた。遺構確認面から床面の深さは、0.75mを測る。壁溝は確認されなかった。

**掘方**　土坑状に掘り込められた箇所が数カ所確認されており、ローム土を採取していたと想定される。

**柱穴**　確認されなかった。

**カマド**　東壁中央部分に設置されていた。大半を撹乱により壊されていたため、詳細は不明である。

**貯蔵穴**　検出されなかった。

**出土遺物**　土師器大型製品片594点・中型製品片39点・小型製品片251点、須恵器大型製品片106点・小型製品片28点が出土した。土師器杯20点・土師器椀１点・須恵器杯２点・須恵器鉢１点・須恵器蓋４点・土師器高坏１点・須恵器壺１点・土師器台付甕１点・土師器甕７点・須恵器甕４点、敲石１点を図示した。須恵器杯22・23・須恵器鉢24・須恵器甕39は床面直上より出土している。須恵器蓋26・土師器甕36は他の遺物と共伴することが考えられず、後世の混入品と考えられる。

**所見**　出土遺物の特徴から７世紀中ごろから後半にかけて使用されていた住居と考えられる。

**２区12号住居**（第43・44図、PL.14・25）

**位置**　X＝37615 ～ 37620、Y＝-40685 ～ -40690

**形状・規模**　複数の遺構と重複しており、遺構全体を確認することができなかったが、隅丸長方形を呈するものと考えられる。長軸(3.20)m、短軸(2.75)mを測る

**面積**　(11.36)㎡

**方位**　不明

**重複**　８号住居、９号住居、８号土坑、10号土坑と重複する。調査時には、それぞれの遺構より12号住居が古いと判断し、調査を行った。出土遺物も含めて検討した結果、12号住居は８号住居、９号住居より新しい。８号土坑、10号土坑は12号住居より新しいと考えられる。

**埋没土**　黒褐色土が堆積している。

**床面**　暗褐色土を埋戻して、床面としていた。遺構確認面から床面の深さは、0.45mを測る。壁溝は東壁の一部で確認された。幅0.06m～0.10m、深さ0.03m～0.11mを測る。

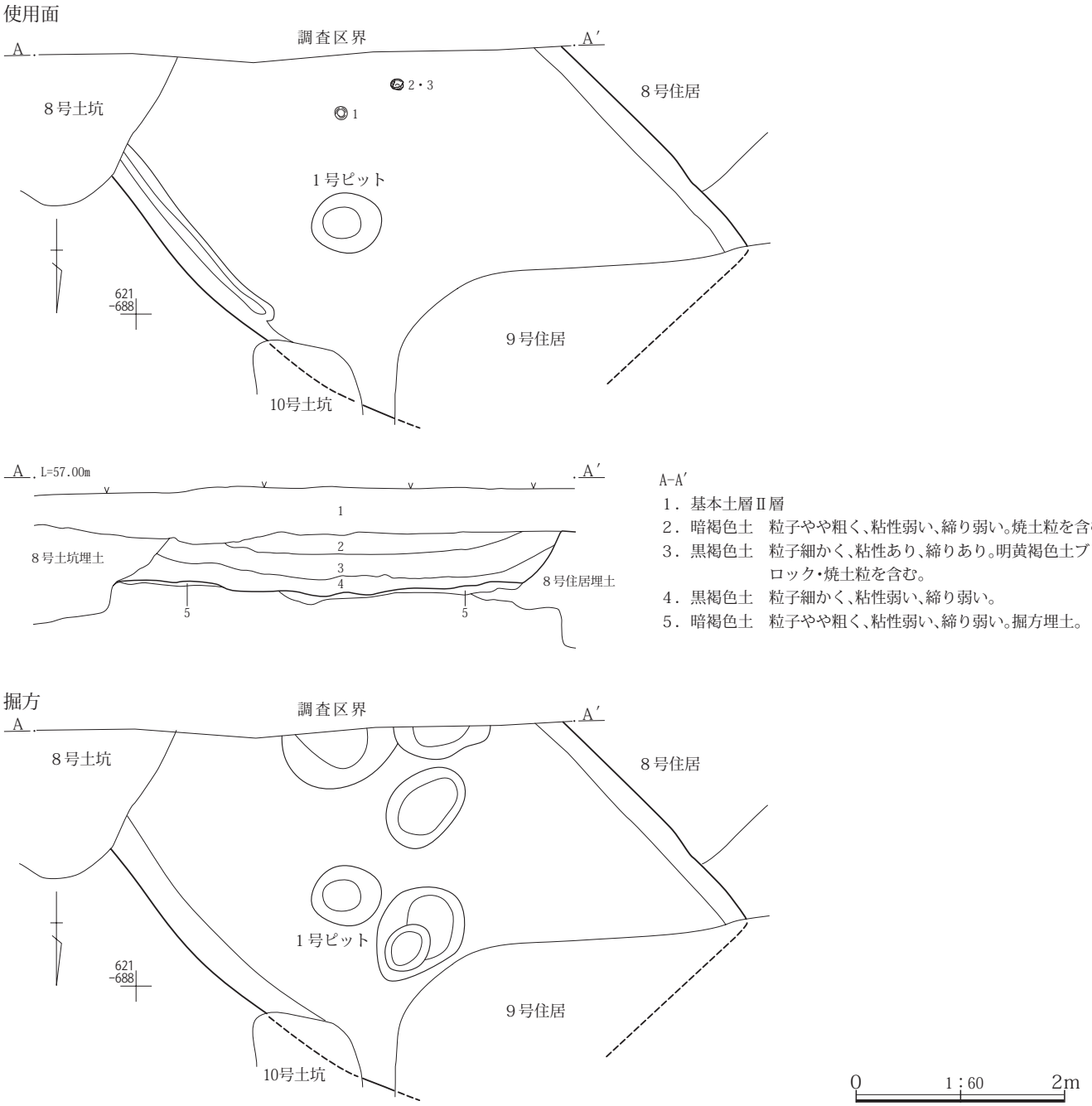
**掘方**　土坑状に掘り込められた箇所が数カ所確認されており、ローム土を採取していたと想定される。

**柱穴**　確認されなかった。

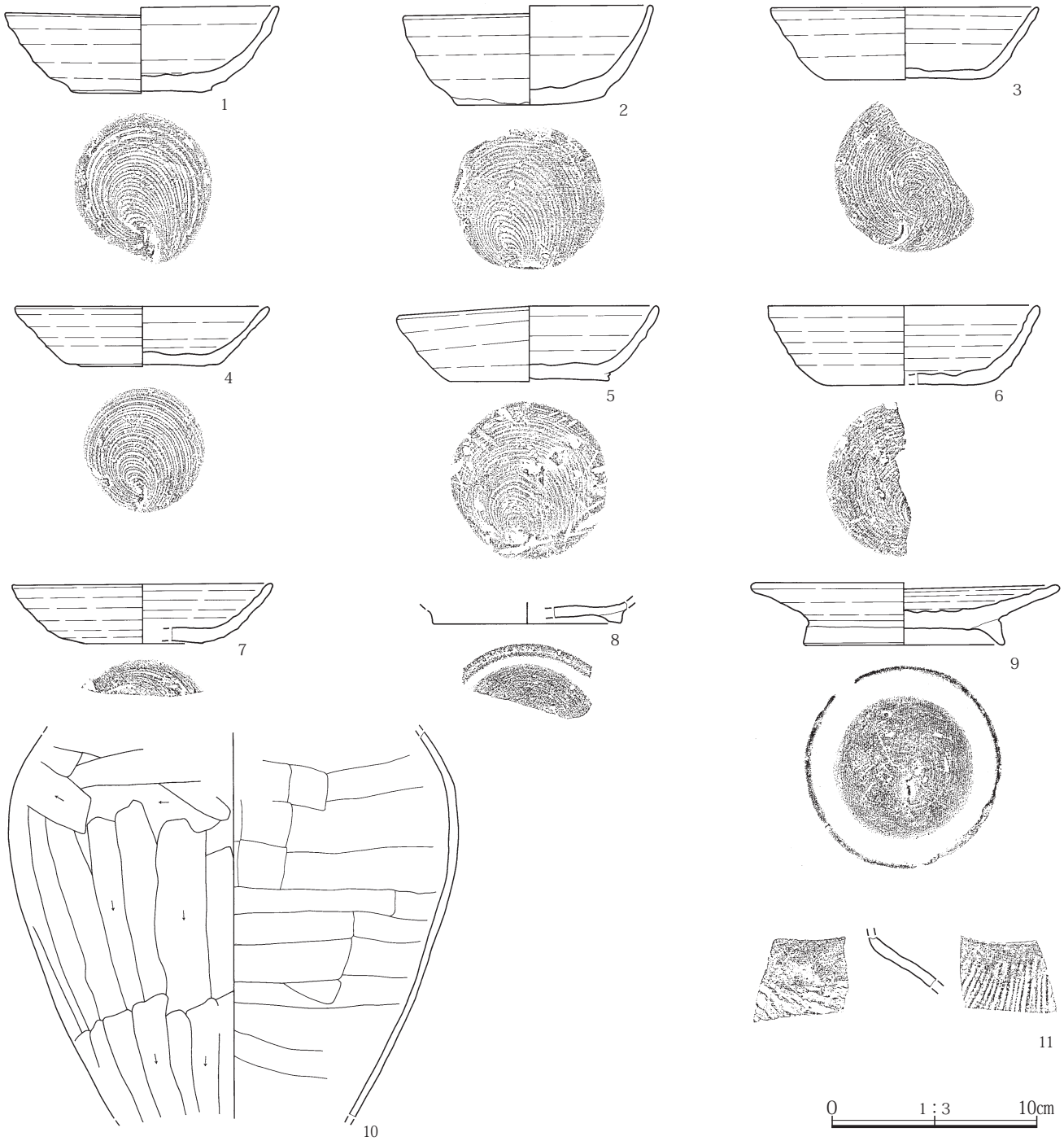
**カマド**　確認されなかった。

**貯蔵穴**　検出されなかった。

**出土遺物**　土師器大型製品片64点・小型製品片19点、須恵器大型製品片10点・小型製品片16点が出土した。須恵器杯７点・須恵器椀１点・須恵器皿１点・土師器甕１点・須恵器甕１点を図示した。須恵器杯５・６・７・須恵器皿９・土師器甕10は掘方より出土した。




第43図　２区12号住居




第44図　２区12号住居出土遺物

**所見**　出土遺物の特徴から９世紀前半から中ごろにかけて使用されていた住居と考えられる。

**２区14号住居**（第45図、PL.14・25）

**位置**　X＝37620、Y＝-40665 ～ -40670

**形状・規模**　14号住居は、２区南辺、調査区界壁際で調査されており、住居全体は検出されなかった。一部のみの調査であるが、形状は隅丸方形を呈するものと考えられる。長軸(5.52)m、短軸(1.91)mを測る。

**面積**　(4.99)㎡

**方位**　N-67°-E

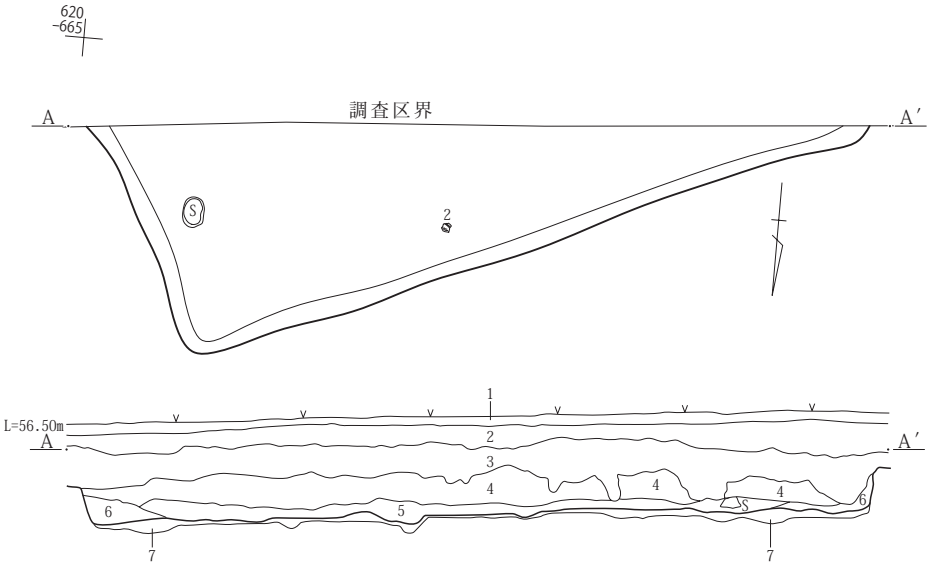
**重複**　なし

**埋没土**　暗褐色土がレンズ状に堆積しており、自然埋没と考えられる。

**床面**　黄褐色土を埋戻して、床面としていた。遺構確認面から床面の深さは0.18mを測る。壁溝は確認されなかった。

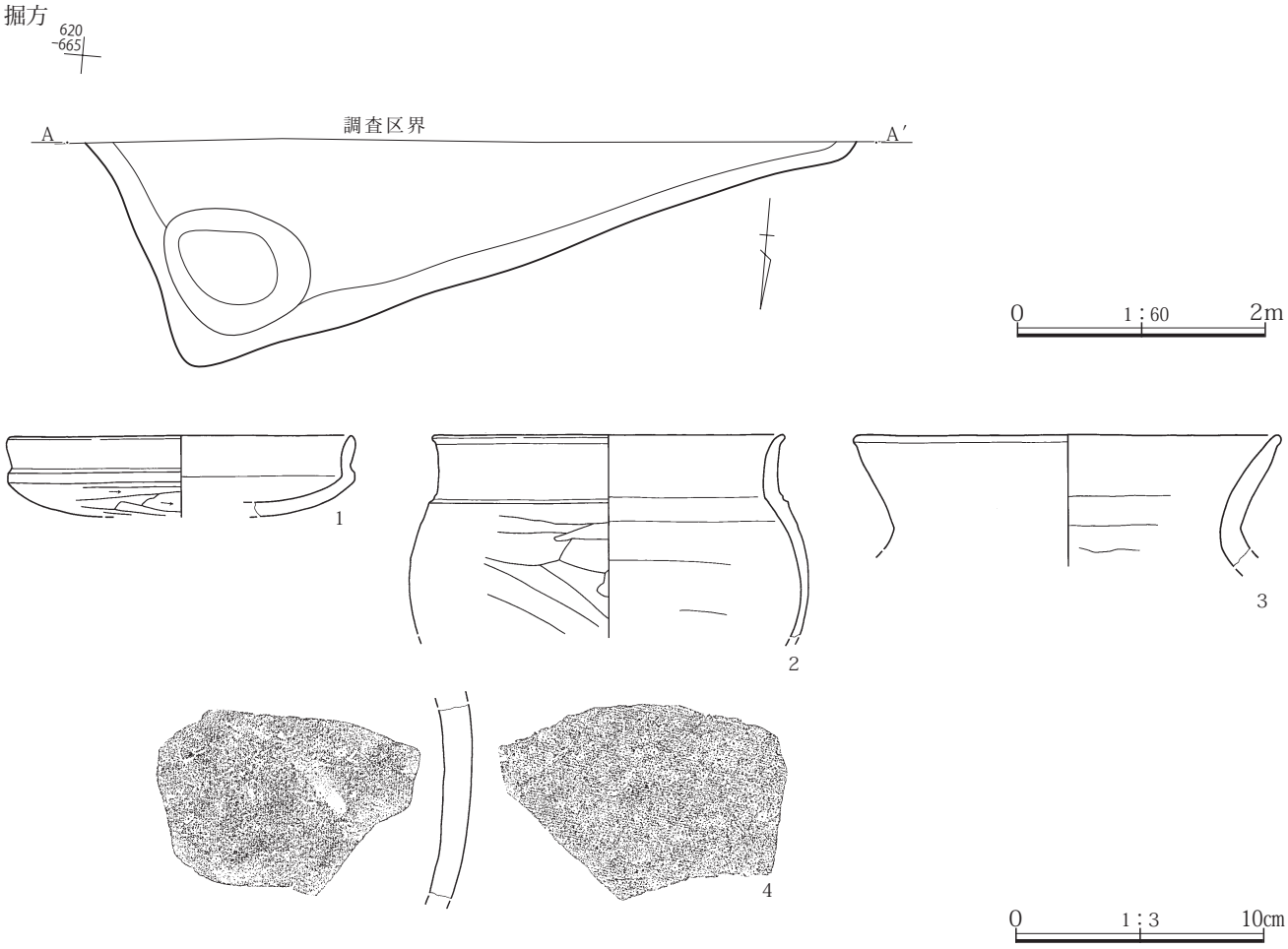
**掘方**　掘方は、全体的に浅い掘り込みであったが、北東

使用面

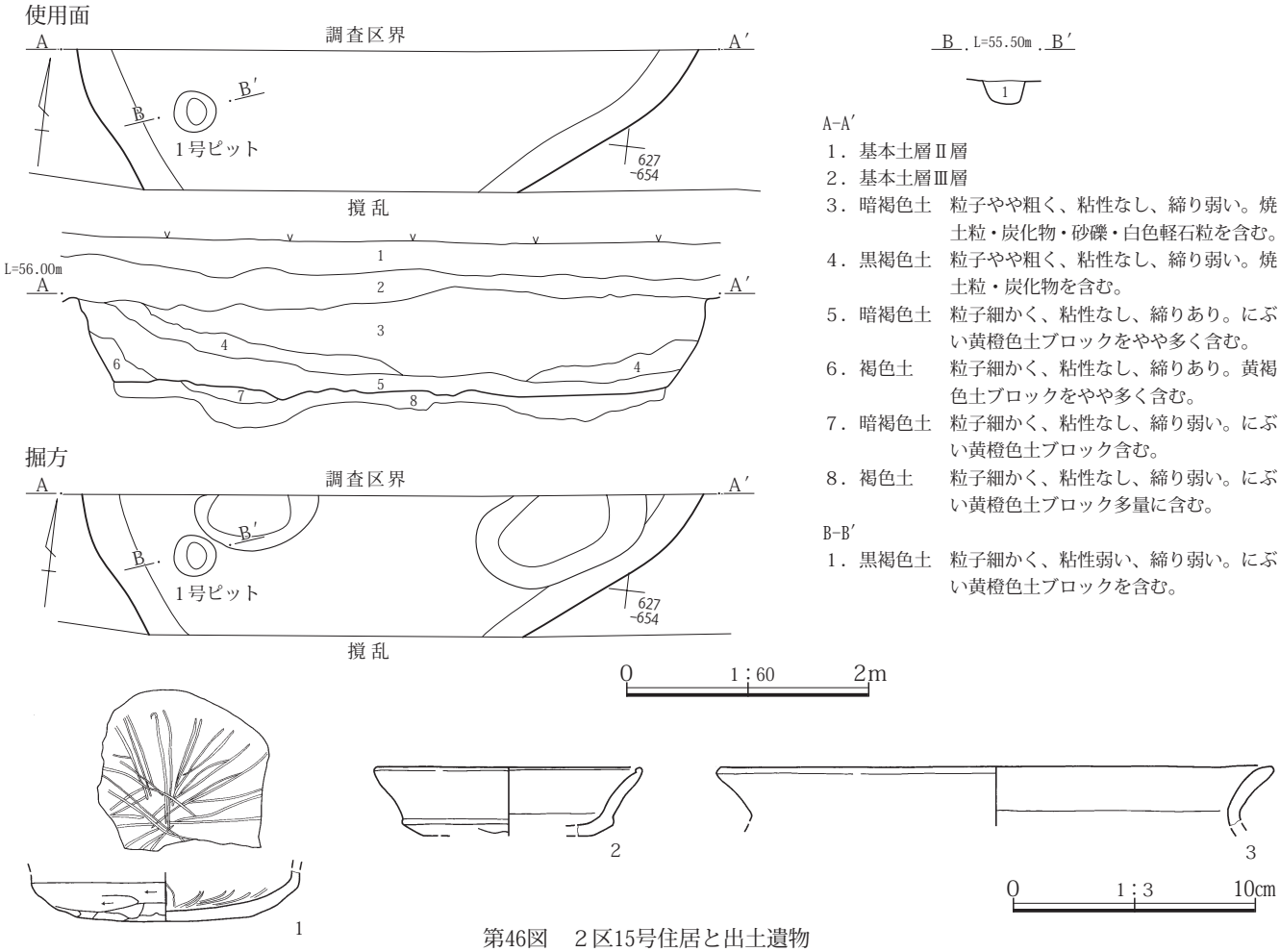



A-A′
１．基本土層Ⅰ層
２．基本土層Ⅱ層
３．基本土層Ⅲ層
４．暗褐色土　粒子粗く、粘性なし、締りなし。焼土粒・小礫を含む。
５．暗褐色土　粒子細かく、粘性なし、締りなし。にぶい黄橙色土ブロックを含む。
６．暗褐色土　粒子細かく、粘性弱い、締り弱い。にぶい黄橙色土ブロックを多く含む。
７．黄褐色土　粒子やや細かく、粘性弱い、締り弱い。にぶい黄橙色土ブロックを含む。

掘方




第45図　２区14号住居と出土遺物




第46図　２区15号住居と出土遺物

隅に土坑状の掘り込みが確認された。

**柱穴**　確認されなかった。

**カマド**　確認されなかった。

**貯蔵穴**　確認されなかった。

**出土遺物**　土師器大型製品片９点・中型製品片１点・小型製品片５点、須恵器大型製品片１点・中型製品片２点・小型製品片３点が出土した。土師器杯１点・土師器甕２点・須恵器甕１点を図示した。図示した遺物は埋土中より出土した。

**所見**　出土遺物の特徴から７世紀後半に使用された住居と考えられる。

**２区15号住居**（第46図、PL.14）

**位置**　X＝37625、Y＝-40650 ～ -40655

**形状・規模**　15号住居は、２区北辺、調査区界壁際で調査されており、また撹乱に切られているため住居全体は検出されなかった。一部のみの調査であるが、形状は隅丸方形を呈するものと考えられる。長軸(2.70)m、短軸(1.30)mを測る。

**面積**　(4.12)㎡

**方位**　N-58°-E

**重複**　なし

**埋没土**　暗褐色土及び黒褐色土がレンズ状に堆積しており、自然埋没土と考えられる。

**床面**　暗褐色土及び褐色土を埋戻して、床面としていた。遺構確認面から床面の深さは0.65mを測る。壁溝は確認されなかった。

**掘方**　土坑状に掘り込められた箇所が数カ所確認されており、ローム土を採取してたと想定される。

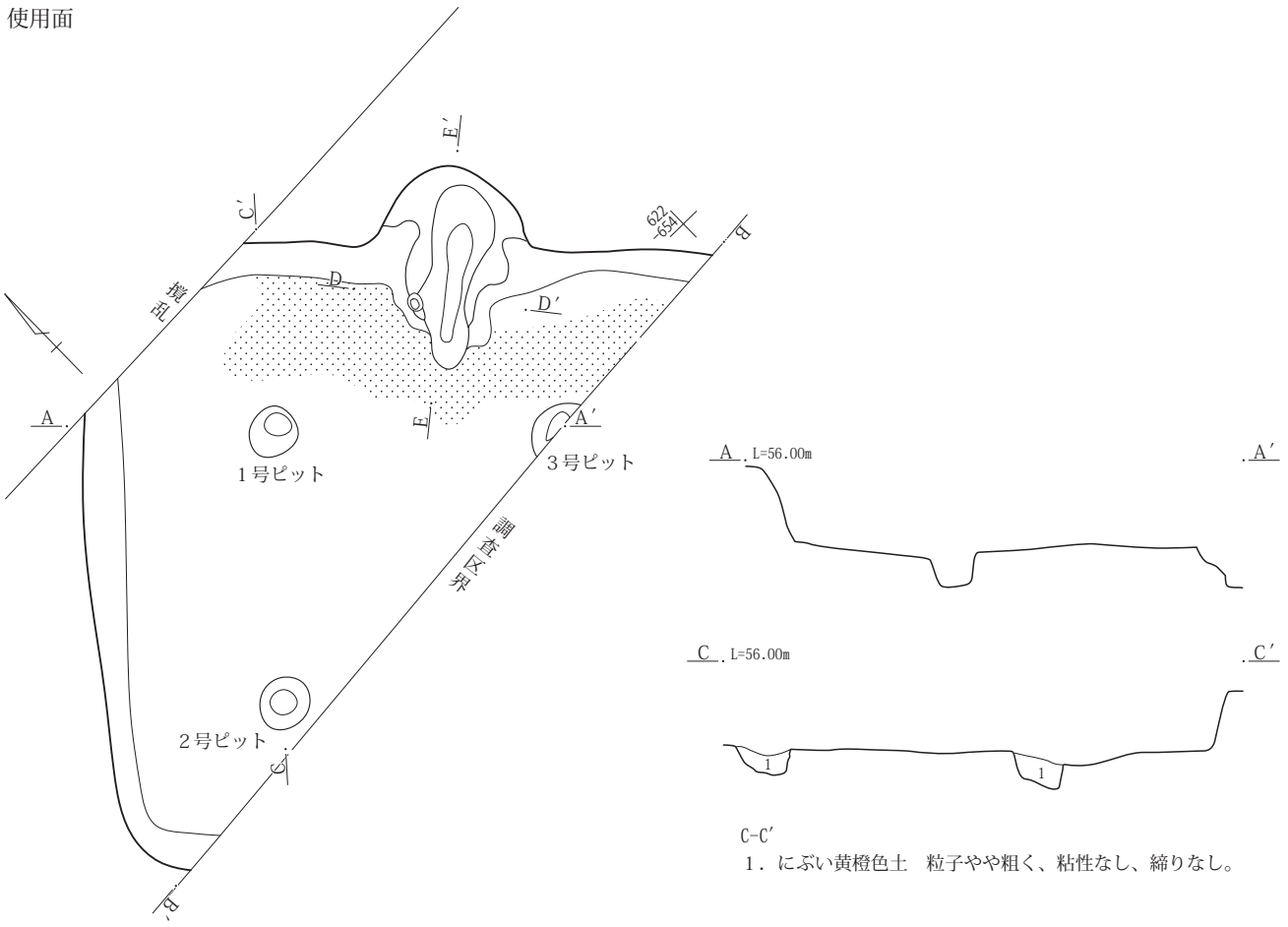
**柱穴**　確認されなかった。

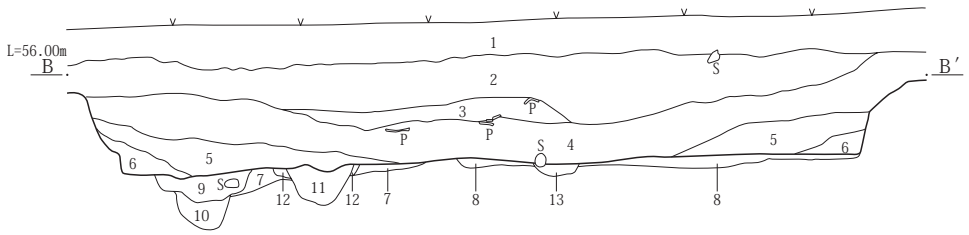
**カマド**　確認されなかった。

**貯蔵穴**　確認されなかった。

**出土遺物**　土師器大型製品片３点・中型製品片２点・小型製品片７点、須恵器大型製品片１点・小型製品片１点が出土した。土師器杯２点・土師器甕１点を図示した。図示した遺物は埋土中より出土した。

**所見**　出土遺物の特徴から７世紀後半に使用されていた住居と考えられる。

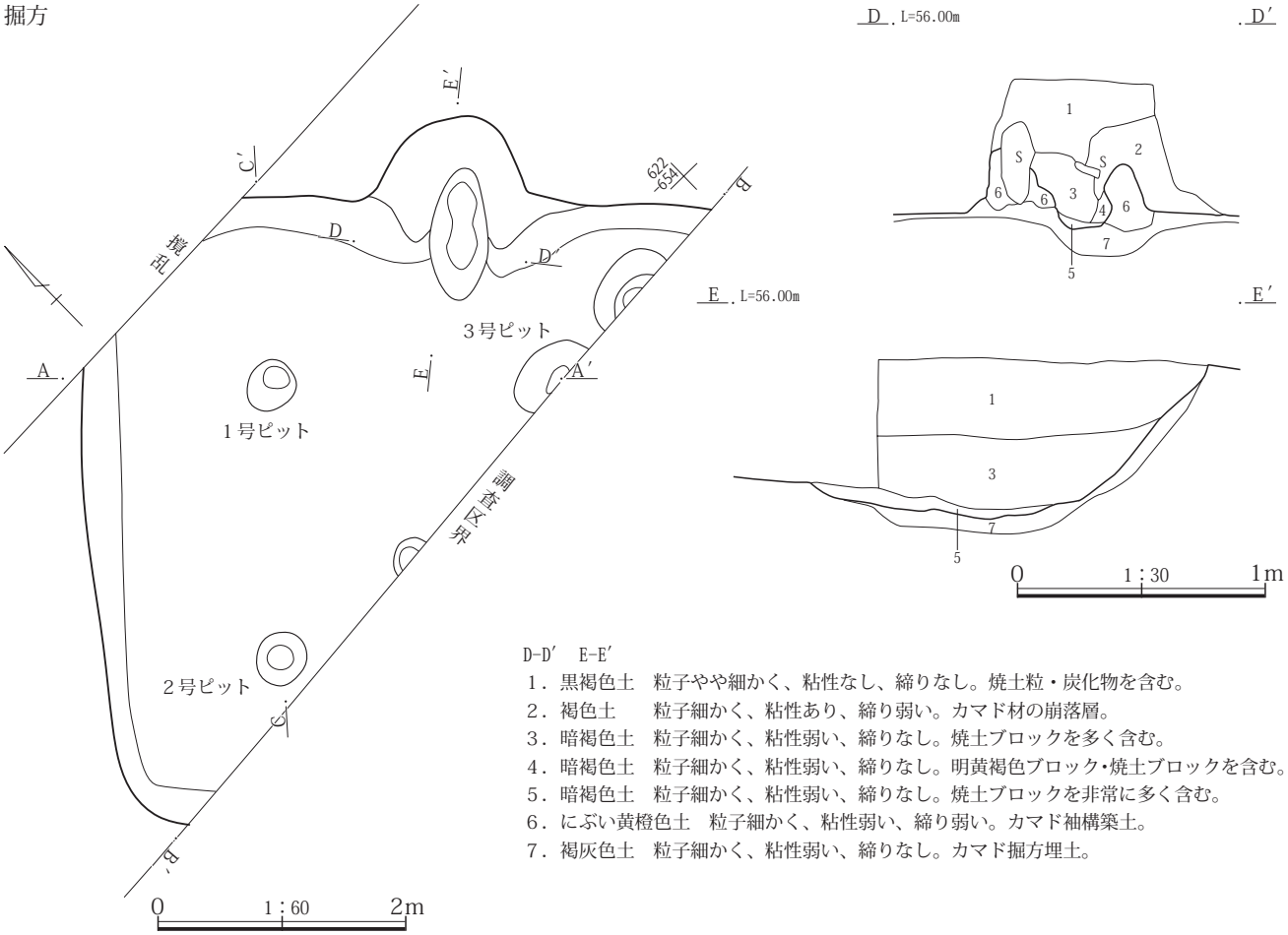



B-B′
1．基本土層Ⅱ層
2．基本土層Ⅲ層
3．黒褐色土　粒子細かく、粘性弱い、締りなし。にぶい黄橙色土ブロックを含む。
4．黒褐色土　粒子やや粗く、粘性なし、締り弱い。焼土粒・小礫を含む。
5．黒褐色土　粒子やや細かく、粘性弱い、締り弱い。焼土粒・にぶい黄橙色土ブロックを含む。
6．暗褐色土　粒子粗く、粘性なし、締りなし。褐色土ブロック・小礫を含む。
7．褐色土　　粒子細かく、粘性弱い、締り弱い。黄褐色土ブロックを含む。
8．黄褐色土　粒子粗く、粘性弱い、締り弱い。砂粒・礫を含む。
9．黒褐色土　粒子細かく、粘性弱い、締り弱い。にぶい黄橙色土ブロックを含む。
10．黒褐色土　９層に類するが、にぶい黄橙色土ブロック増す。
11．褐色土　　粒子細かく、粘性あり、締り弱い。黄褐色土小ブロックを含む。
12．暗褐色土　粒子細かく、粘性あり、締りあり。黄褐色土ブロックを多く含む。
13．暗褐色土　粒子細かく、粘性あり、締りあり。黄褐色土ブロックを含む。

0　1：60　2m

第47図　２区16号住居




D-D′　E-E′
１．黒褐色土　粒子やや細かく、粘性なし、締りなし。焼土粒・炭化物を含む。
２．褐色土　　粒子細かく、粘性あり、締り弱い。カマド材の崩落層。
３．暗褐色土　粒子細かく、粘性弱い、締りなし。焼土ブロックを多く含む。
４．暗褐色土　粒子細かく、粘性弱い、締りなし。明黄褐色ブロック･焼土ブロックを含む。
５．暗褐色土　粒子細かく、粘性弱い、締りなし。焼土ブロックを非常に多く含む。
６．にぶい黄橙色土　粒子細かく、粘性弱い、締り弱い。カマド袖構築土。
７．褐灰色土　粒子細かく、粘性弱い、締りなし。カマド掘方埋土。

第48図　２区16号住居掘方

**２区16号住居**（第47～49図、PL.15・25）

**位置**　X＝37620、Y＝-40650～-40660

**形状・規模**　形状は隅丸方形を呈し、長軸(4.30)m、短軸(3.85)mを測る。

**面積**　(11.08)㎡

**方位**　N-45°-E

**重複**　なし

**埋没土**　黒褐色土及び暗褐色土が堆積している。

**床面**　褐色土及び黄褐色土を埋戻して、床面としていた。カマドの前面を中心に床面が硬化していたが、硬化土の厚さは非常に薄いものであった。遺構確認面から床面の深さは、0.65mを測る。壁溝は確認されなかった。

**掘方**　浅く掘り込まれていた。住居南東隅で土坑状の掘り込みが確認された。ローム土を採取していたと考えられる。

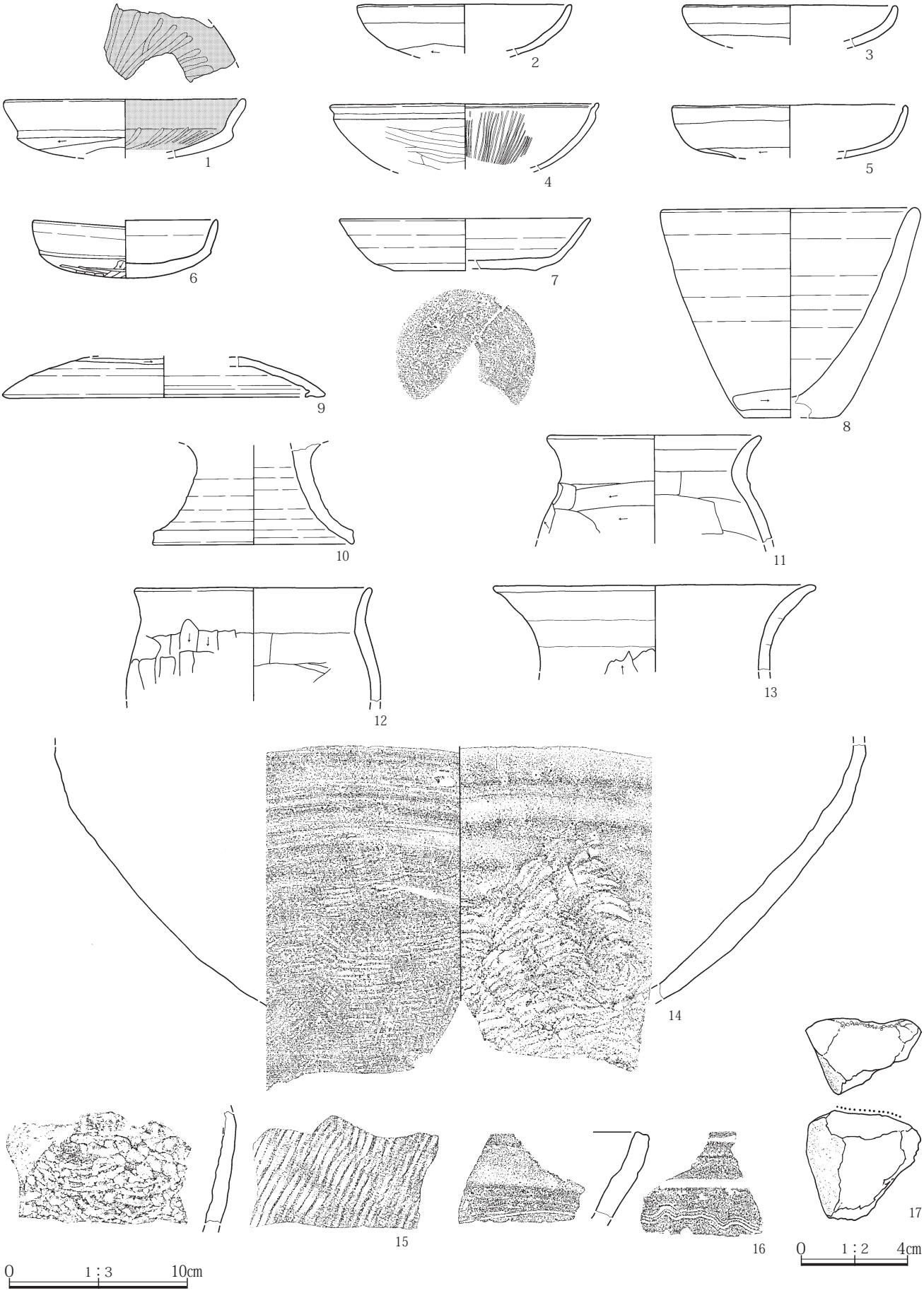
**柱穴**　床面にて柱穴と考えられるピット３基が確認された。１号ピット長径0.47m、短径0.39m、深さ0.24mを測る。２号ピット長径0.45m、短径0.40m、深さ0.19mを測る。３号ピット長径0.73m、短径(0.30)m、深さ0.31mを測る。１号ピットと２号ピットの距離は2.28m、１号ピットと３号ピットの距離は2.14mである。位置からそれぞれ柱穴であると判断した。

**カマド**　東壁中央部分に設置されていた。全長1.64m、屋内長0.98m、屋外長0.66m、焚口部幅0.31m、燃焼部幅0.34mを測る。燃焼部は焚口よりやや掘り下げられており、奥壁は急激に立ち上がっていた。

**貯蔵穴**　確認されなかった。

**出土遺物**　土師器大型製品片209点・中型製品片５点・小型製品片88点、須恵器大型製品片25点・中型製品片３点・小型製品片44点が出土した。土師器杯５点･須恵器杯２点･須恵器鉢１点・須恵器蓋１点・須恵器盤１点・土師器甕３点・須恵器甕３点・火打石１点を図示した。図示した遺物は埋土中より出土した。須恵器杯６は他の遺物と比べ、古い時期の特徴を有しており、この住居の使用時期に伴わないものであると考えられる。

**所見**　出土遺物の特徴から８世紀中ごろに使用された住居と考えられる。




第49図　２区16号住居出土遺物

**２区17号住居**（第50図、PL.14）

**位置**　X＝37625、Y＝-40640 ～ -40645

**形状・規模**　17号住居は、２区北辺、調査区界壁際で調査されており、住居全体は検出されなかった。一部のみの調査であるが、形状は隅丸方形を呈するものと考えられる。長軸(1.55)m、短軸(1.45)mを測る。

**面積**　(1.42)㎡

**方位**　不明

**重複**　1号溝・２号土坑と重複する。土層の観察から、それぞれの遺構より17号住居の方が古い。

**埋没土**　暗褐色土及び褐色土が堆積している。

**床面**　暗褐色土を埋戻して、床面としていた。遺構確認面から床面の深さは、0.32mを測る。壁溝は確認されなかった。

**掘方**　浅く掘り込まれていた。

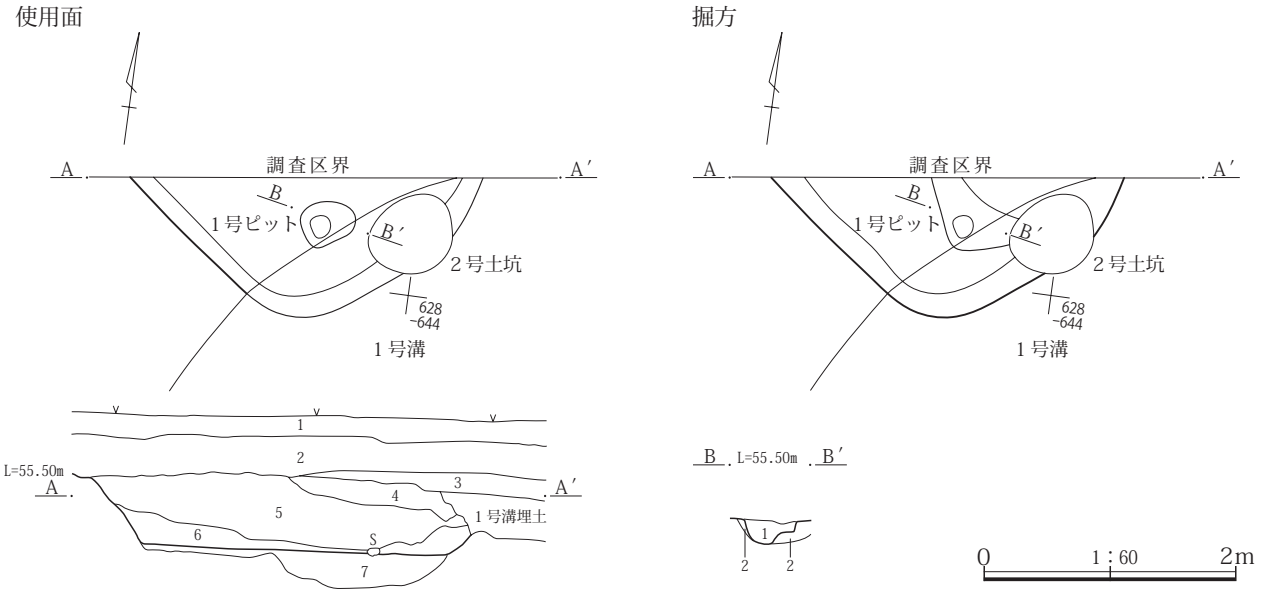
**柱穴**　確認されなかった。

**カマド**　確認されなかった。

**貯蔵穴**　確認されなかった。

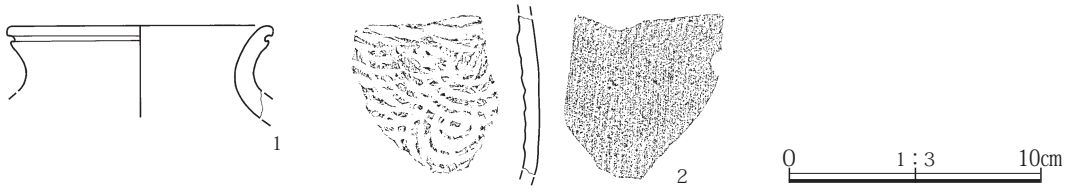
**出土遺物**　土師器大型製品片11点・小型製品片４点、須恵器小型製品片１点が出土した。須恵器瓶１点・須恵器甕1点を図示した。図示した遺物は埋土中より出土した。

**所見**　図示した遺物を含め出土した遺物は、いずれも小片から細片であり、使用していた時期を捉えることができなかった。重複する１号溝の時期から、９世紀よりは古い時期に使用されていた住居であると考えられる。




A-A′
1．基本土層Ⅱ層
2．基本土層Ⅲ層
3．にぶい黄褐色土　粒子やや細かく、粘性なし、締りなし。
4．暗褐色土　粒子やや細かく、粘性なし、締りなし。黒色土ブロックを多く含む。
5．褐色土　粒子やや細かく、粘性なし、締りなし。焼土粒・炭化物・にぶい黄橙色土ブロックを含む。
6．褐色土　粒子やや細かく、粘性なし、締りなし。にぶい黄橙色土ブロックを含む。
7．暗褐色土　粒子やや細かく、粘性弱い、締り弱い。にぶい黄橙色土ブロック・黒褐色土ブロックを含む。掘方埋土。

B-B′
1．黒褐色土　粒子細かく、粘性なし、締りなし。炭化物・焼土ブロックを含む。
2．暗褐色土　粒子やや細かく、粘性弱い、締り弱い。にぶい黄橙色土ブロック・黒褐色土ブロックを含む。




第50図　２区17号住居と出土遺物

**２区18号住居**（第51～53図、PL.16・25）

**位置**　X＝37620～37625、Y＝-40635

**形状・規模**　18号住居は、２区東端、調査区界壁際で調査されており、住居全体は検出されなかった。一部のみの調査であるが、形状は隅丸方形を呈するものと考えられる。長軸(3.20)m、短軸(2.55)mを測る。

**面積**　(4.40)㎡

**方位**　不明

**重複**　なし

**埋没土**　褐色土・黒褐色土・暗褐色土が堆積している。レンズ状に堆積しているが、堆積土の色調が異なるため、人為的な埋没か、自然埋没土か判断することはできず不明である。

**床面**　暗褐色土を埋戻して、床面としていた。遺構確認面から床面の深さは、0.45mを測る。壁溝は確認されなかった。

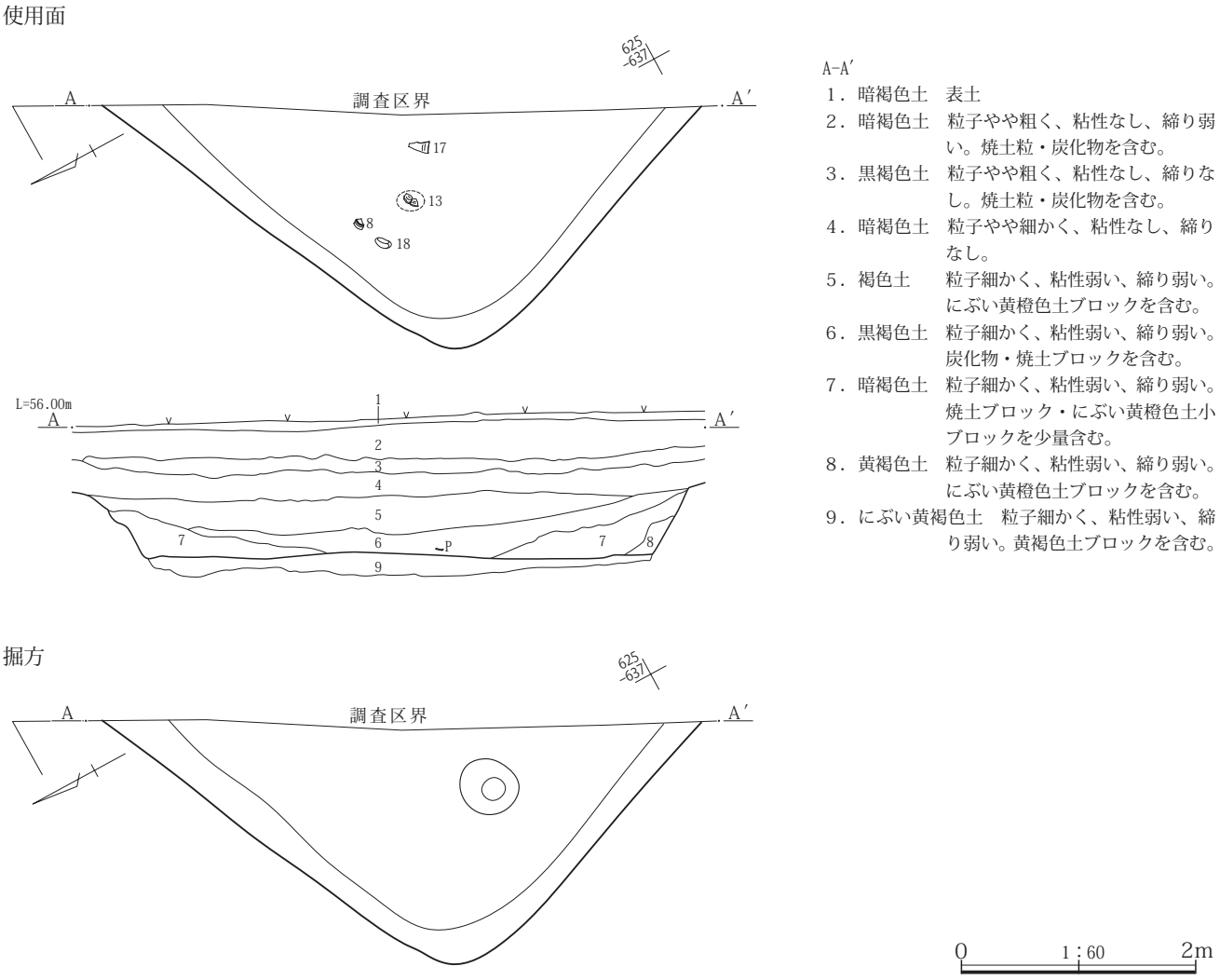
**掘方**　浅く掘り込まれていた。

**柱穴**　確認されなかった。

**カマド**　確認されなかった。

**出土遺物**　土師器大型製品片157点・中型製品片４点・小型製品片110点、須恵器大型製品片27点・小型製品片44点が出土した。土師器杯３点・須恵器椀５点・須恵器蓋２点・須恵器壺１点・須恵器瓶１点・土師器甕２点・須恵器甕３点・敲石１点を図示した。須恵器甕17は床面直上から出土している。土師器甕12は掘方から出土している。土師器杯１は他の遺物よりも古い時期のものである。

**所見**　出土遺物の特徴から８世紀前半に使用されていた住居と考えられる。




第51図　２区18号住居

**２区19号住居**（第54図、PL.16・25）

**位置**　X＝37620 ～ 37625、Y＝-40635 ～ -40640

**形状・規模**　隅丸長方形を呈し、長軸3.90m、短軸(2.85)mを測る。

**面積**　(8.41)㎡

**方位**　N-75°-E

**重複**　1号溝と重複している。土層、出土遺物の観察から19号住居の方が古い。

**埋没土**　褐色土がレンズ状に堆積しており、自然埋没土と考えられる。

**床面**　明褐色土を埋戻して、床面としていた。遺構確認面から床面の深さは、0.45mを測る。壁溝は確認されなかった。

**掘方**　浅く掘り込まれていた。

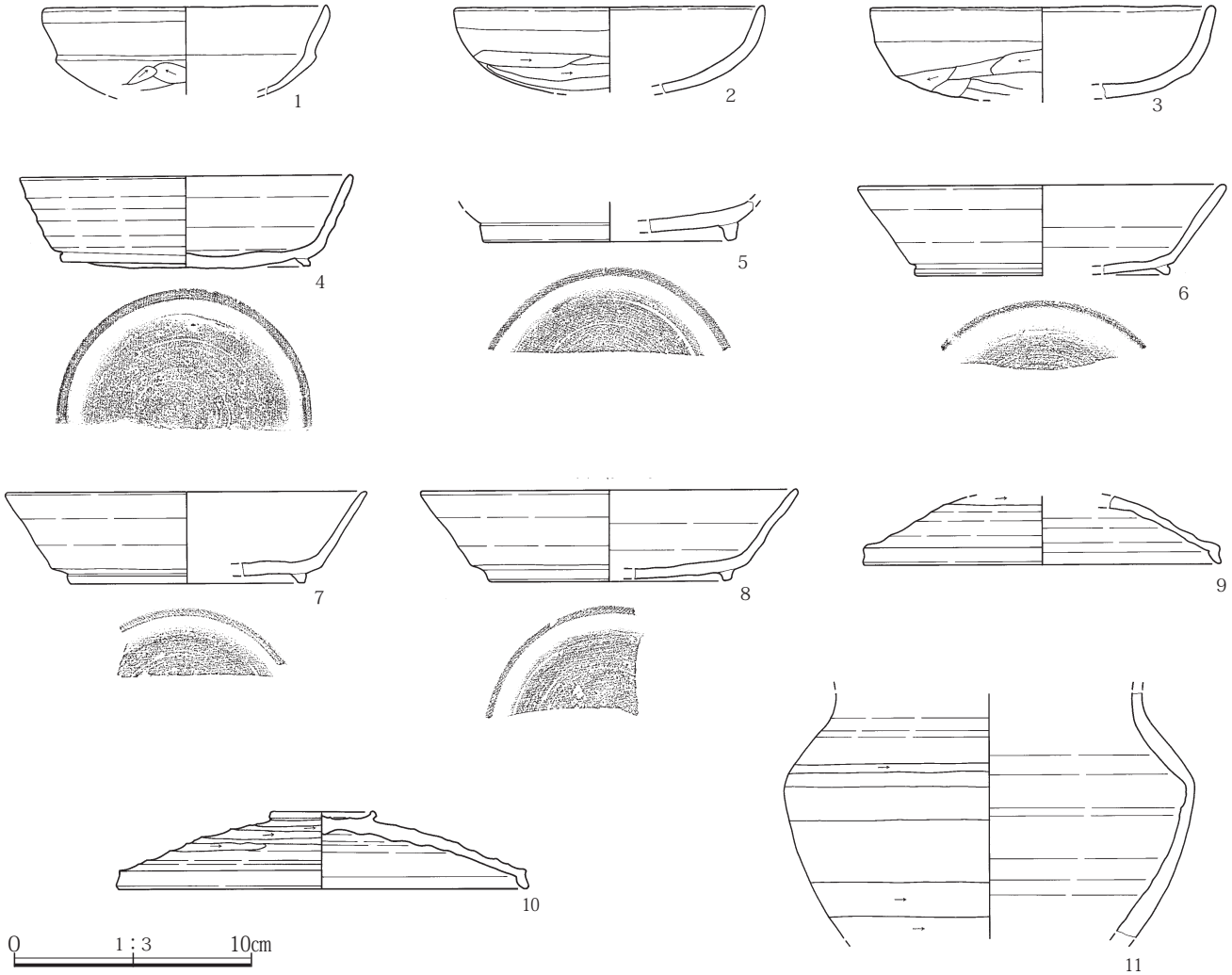
**柱穴**　床面にて柱穴と考えられるピット３基が確認された。１号ピット長径0.36m、短径0.30m、深さ0.07mを測る。２号ピット長径0.34m、短径0.28m、深さ0.08mを測る。３号ピット長径0.40m、短径(0.29)m、深さ0.15mを測る。１号ピットと２号ピットの距離は2.24m、１号ピットと３号ピットの距離は2.12mである。位置からそれぞれ柱穴であると判断した。

**カマド**　東壁南寄りに設置されていた。撹乱によりほとんどの部分が壊されていた。全長(1.72)m、焚口部幅0.21mを測る。燃焼部幅(0.46)mを測り、燃焼部は焚口よりやや掘り下げられている。壁への立ち上がりは撹乱により不明である。

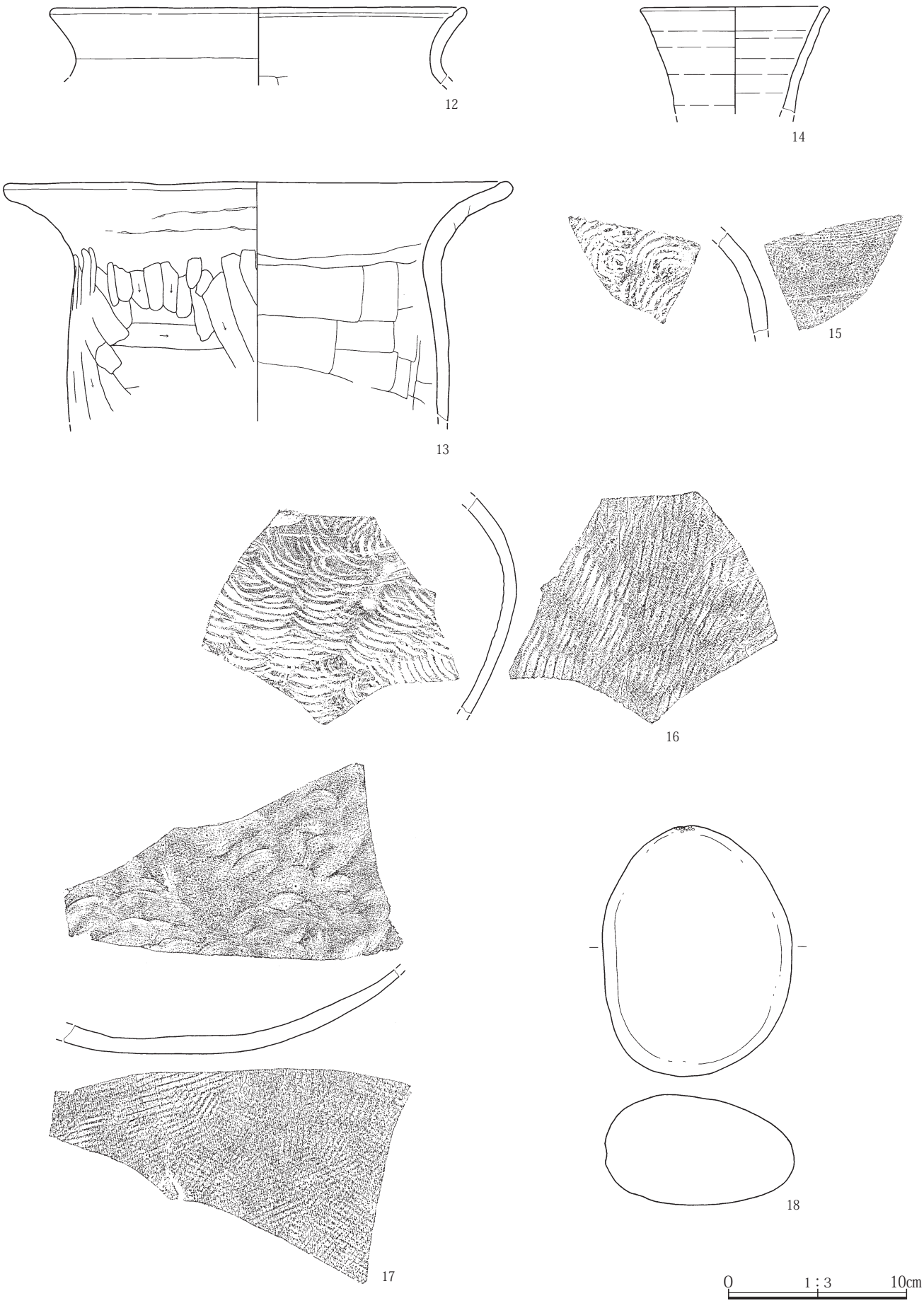
**貯蔵穴**　確認されなかった。

**出土遺物**　土師器大型製品片105点・小型製品片53点、須恵器大型製品片３点・小型製品片14点が出土した。土師器杯２点・砥石１点を図示した。図示した３点はすべて床面直上より出土した。

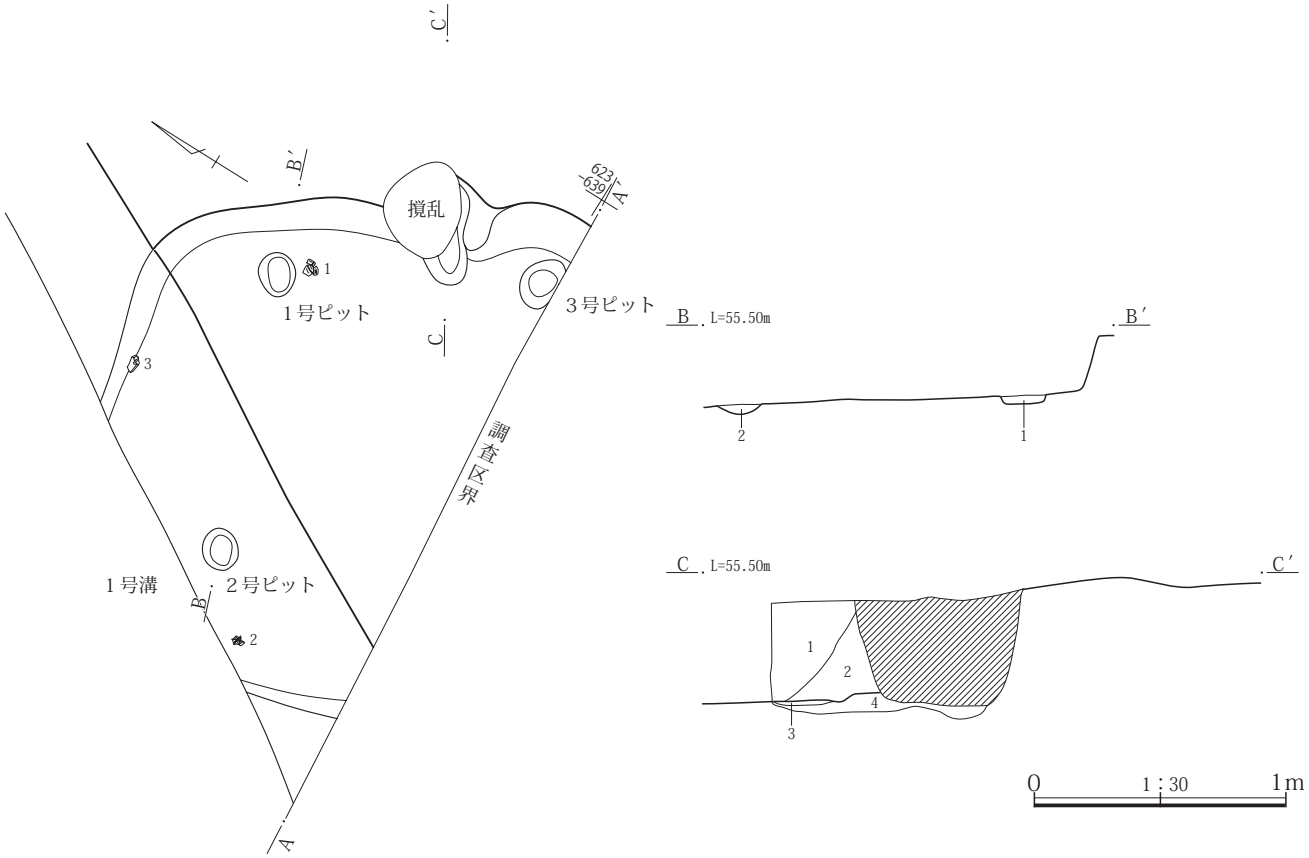
**所見**　出土遺物の特徴及び重複する遺構の時期から８世紀後半に使用されていた住居と考えられる。

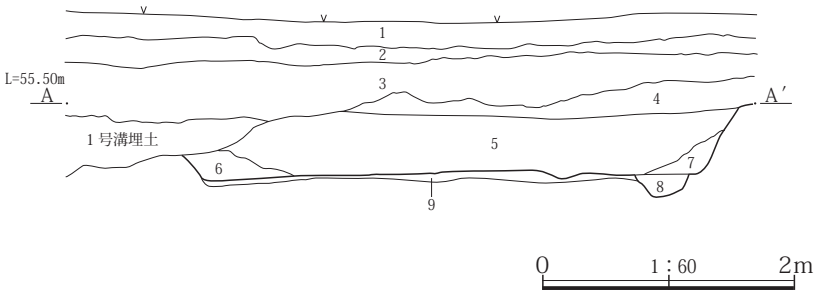


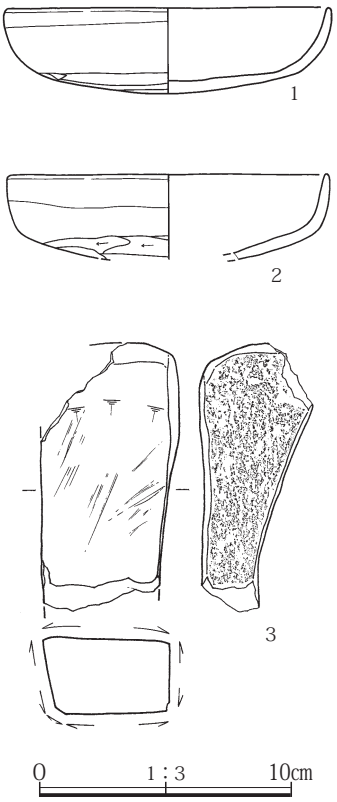

第52図　２区18号住居出土遺物（１）




第53図　２区18号住居出土遺物（２）




A-A′
１．暗褐色土　表土
２．黒褐色土　粒子やや粗く、粘性なし、締りなし。
３．暗褐色土　粒子やや粗く、粘性なし、締りなし。炭化物・焼土粒を含む。
４．暗褐色土　粒子細かく、粘性なし、締りなし。
５．褐色土　　粒子やや粗く、粘性弱い、締り弱い。にぶい黄橙色土小ブロック・焼土粒を含む。
６．暗褐色土　粒子細かく、粘性弱い、締り弱い。にぶい黄橙色土小ブロックを含む。
７．褐色土　　粒子細かく、粘性弱い、締り弱い。焼土ブロックを含む。
８．暗褐色土　粒子細かく、粘性弱い、締り弱い。３号ピット埋土。
９．黄褐色土　粒子細かく、粘性弱い、締り弱い。暗褐色土ブロックを含む。掘方埋土。
B-B′
１．暗褐色土　粒子細かく、粘性なし、締り弱い。炭化物、焼土粒を含む。
２．褐色土　　粒子細かく、粘性少しあり、締り弱い。焼土ブロック・にぶい黄橙色土ブロックを含む。
C-C′
１．暗褐色土　粒子やや粗く、粘性なし、締り弱い。焼土粒・炭化物を含む。
２．黄褐色土　粒子やや細かく、粘性ややあり、締り弱い。カマド天井部の崩落土。
３．暗褐色土　灰・焼土・炭化物を含む。燃焼部埋土。
４．にぶい黄褐色土　暗褐色土ブロックを含む。掘方埋土。

第54図　２区19号住居と出土遺物

## ２．　土坑・ピット

土坑・ピットは、円形もしくは円形に準ずる形状を呈している遺構を土坑・ピットとした。土坑は１区２基・２区10基を調査した。ピットは２区で12基を調査した。ピットの規模・形状等は第３表にまとめた通りである。以下、当該遺構について順次詳述する。遺構の時期は、他の遺構と確認面を同一にしていること及び、出土遺物から古代に帰属するものと考えられる。

**１区１号土坑**(第55図、PL.8)
**位置**　X＝37626 ～ 37627、Y＝-40621 ～ -40622
**形状・規模**　平面形状は楕円形を呈するものと考えられる。長軸1.36m、短軸1.34mを測る。深さは0.71mであった。遺構の中央部分にトレンチが入っており、その部分は遺構が失われている。
**方位**　N-9°-W
**重複**　なし
**埋没土**　黒褐色土･暗褐色土が堆積している。
**出土遺物**　なし

**１区２号土坑**(第55図、PL.8)
**位置**　X＝37632 ～ 37633、Y＝-40560 ～ -40561
**形状・規模**　平面形状は楕円形を呈し、長軸1.08m、短軸0.82mを測る。深さは0.17mであった。
**方位**　N-64°-W
**重複**　なし
**埋没土**　黒色土が堆積している。
**出土遺物**　なし

**２区１号土坑**(第56・58図、PL.16)
**位置**　X＝37616 ～ 37618、Y＝-40712 ～ -40713
**形状・規模**　平面形状は不整形を呈し、長軸1.24m、短軸1.11mを測る。深さは0.27mであった。
**方位**　N-10°-E
**重複**　なし
**埋没土**　黒褐色土が堆積している。
**出土遺物**　須恵器椀１点、須恵器甕１点を図示した。

**２区２号土坑**(第56図、PL.16)
**位置**　X＝37628、Y＝-40643 ～ -40644
**形状・規模**　平面形状は楕円形を呈するものと考えられ、、長軸(0.68)m、短軸(0.61)mを測る。深さは0.34mであった。
**方位**　N-29°-E
**重複**　17号住居・1号溝と重複する。土層の観察から、２号土坑が一番新しい。
**埋没土**　暗褐色土が堆積している。黄褐色ロームブロックを含むことから、人為的埋没であった可能性が考えられる。
**出土遺物**　なし

**２区３号土坑**(第56図、PL.16)
**位置**　X＝37623 ～ 37624、Y＝-40651
**形状・規模**　平面形状は楕円形を呈し、長軸0.77m、短軸0.62mを測る。深さは0.32mであった。
**方位**　N-45°-W
**重複**　なし
**埋没土**　暗褐色土が堆積している。
**出土遺物**　なし

**２区４号土坑**(第56図、PL.16)
**位置**　X＝37625、Y＝-40638
**形状・規模**　平面形状は円形を呈し、長軸0.72m、短軸0.70mを測る。深さは0.17mであった。
**方位**　N-27°-E
**重複**　なし
**埋没土**　暗褐色土が堆積している。
**出土遺物**　なし

**２区５号土坑**(第56図、PL.17)
**位置**　X＝37626 ～ 37627、Y＝-40647 ～ -40648
**形状・規模**　平面形状は楕円形を呈し、長軸0.82m、短軸0.63mを測る。深さは0.21mであった。
**方位**　N-20°-W
**重複**　なし
**埋没土**　黒褐色土及び暗褐色土が堆積している。焼土粒・炭化物を多く含むことから、人為的埋没であった可能性が考えられる。
**出土遺物**　なし

**２区６号土坑**(第57図、PL.17)

**位置**　X＝37621 ～ 37622、Y＝-40651 ～ -40652

**形状・規模**　平面形状は楕円形を呈し、長軸0.76m、短軸0.74mを測る。深さは0.18mであった。

**方位**　N-22°-W

**重複**　なし

**埋没土**　暗褐色土が堆積している。

**出土遺物**　なし

**２区７号土坑**(第57図)

**位置**　X＝37623、Y＝-40683

**形状・規模**　平面形状は楕円形を呈するものと考えられ、長軸(0.55)m、短軸(0.27)mを測る。深さは0.48mであった。

**方位**　N-54°-E

**重複**　なし

**埋没土**　黒褐色土が堆積している。

**出土遺物**　なし

**２区８号土坑**(第57 ～ 59図、PL.17・26)

**位置**　X＝37618 ～ 37620、Y＝-40683 ～ -40687

**形状・規模**　不整形状を呈し、長軸3.85m、短軸(1.66)m、深さ(0.85)mを測る。

**方位**　N-80°-E

**重複**　12号住居と重複する。土層の観察から、８号土坑は12号住居より新しい。

**埋没土**　黄橙色ブロック・焼土ブロックを含む黒褐色土及び暗褐色土が堆積しており、人為的埋没と考えられる。

**出土遺物**　土師器大型製品片575点・小型製品片84点、須恵器大型製品片36点・小型製品片105点が出土している。土師器杯２点・須恵器杯２点・須恵器椀１点・土師器台付甕１点・土師器甕１点・須恵器甕１点を図示した。杯１は７世紀後半の特徴を有し、他の遺物は８世紀中ごろの特徴を有していた。

**２区９号土坑**(第58・59図、PL.17・26)

**位置**　X＝37622 ～ 37623、Y＝-40688 ～ -40690

**形状・規模**　楕円形状ないし方形を呈するものと考えられ長軸(2.23)m、短軸(1.08)m、深さ0.75mを測る。

**方位**　N-82°-E

**重複**　９号住居、11号住居、10号土坑と重複する。９号住居、11号住居より９号土坑の方が新しい。10号土坑より９号土坑の方が古い。

**埋没土**　黄褐色ブロック・焼土ブロックを含む暗褐色土及び黒褐色土が堆積しており、人為的埋没と考えられる。

**出土遺物**　土師器大型製品片239点・小型製品片81点、須恵器大型製品片13点・小型製品片54点が出土している。土師器杯５点・須恵器杯２点・須恵器椀２点・須恵器蓋１点・土師器甕１点・須恵器甕１点を図示した。

**２区10号土坑**(第58・59図、PL.17・18・26)

**位置**　X＝37621 ～ 37622、Y＝-40689 ～ -40690

形状・規模　楕円形状ないし方形を呈するものと考えられ長軸(1.09)m、短軸(0.99)m、深さ0.70mを測る。

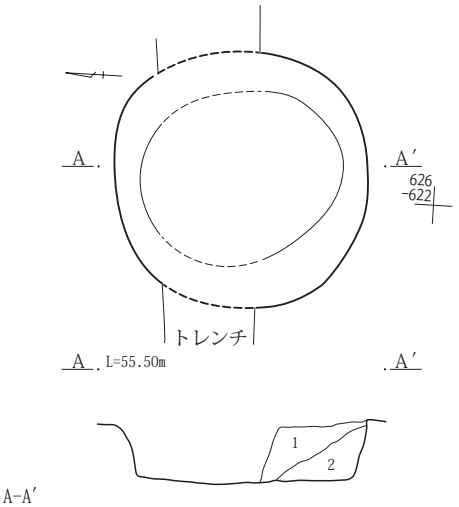
**方位**　N-7°-E

**重複**　12号住居、９号土坑と重複する。土層・出土遺物の観察から12号住居より10号土坑のほうが新しいと考えられる。また、10号土坑より９号土坑の方が古い。

**埋没土**　黄橙色ブロック・焼土ブロックを含む黒褐色土が堆積しており、人為的埋没と考えられる。

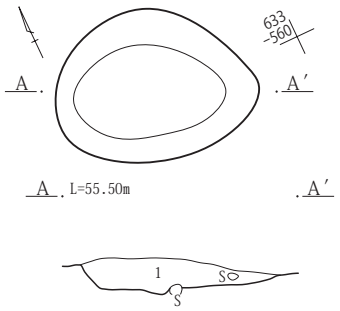
**出土遺物**　土師器大型製品片２点・小型製品片４点、須恵器大型製品片27点・小型製品片44点が出土している。須恵器椀１点を図示した。

１区１号土坑




A-A′
１．黒褐色土
２．暗褐色土　にぶい黄橙色土ブロックを含む。

１区２号土坑

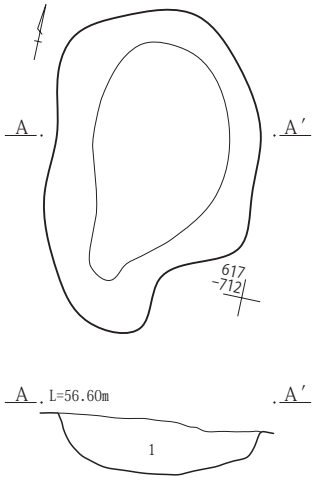



A-A′
１．黒色土　粒子やや細かく、粘性なし、締りなし。にぶい黄褐色土ブロックを含む。

0　1:40　1m

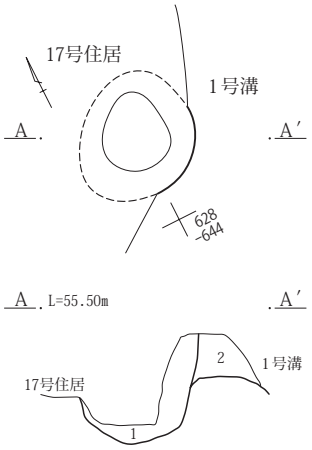
第55図　１区１・２号土坑

２区１号土坑



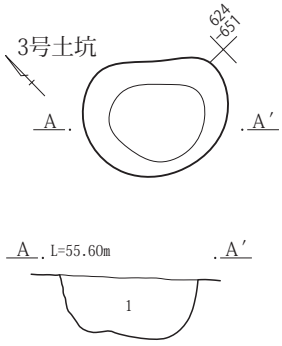

A-A′
１．黒褐色土　粒子やや粗く、粘性なし、締り弱い。明黄褐色ロームブロック・焼土粒・炭化物を含む。

２区２号土坑



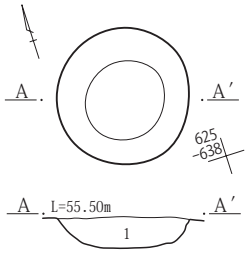

A-A′
１．暗褐色土　粒子細かく、粘性なし、締り弱い。黄褐色ロームブロックを含む。
２．黒褐色土　２区１号溝の埋土。

２区３号土坑



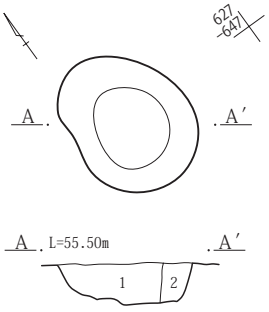

A-A′
１．暗褐色土　粒子やや細かく、粘性なし、締りなし。黄褐色土小ブロックを多く含む。

２区４号土坑




A-A′
１．暗褐色土　粒子やや細かく、粘性なし、締りなし。黄褐色土小ブロックを含む。

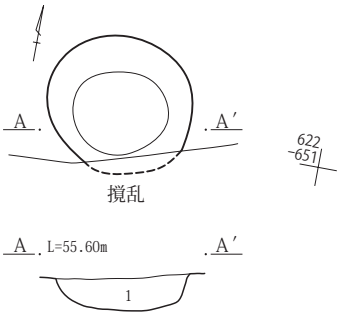
２区５号土坑




A-A′
１．黒褐色土　粒子やや粗く、粘性なし、締り弱い。焼土粒・炭化物を多く含む。
２．暗褐色土　粒子やや粗く、粘性なし、締り弱い。にぶい黄褐色土ブロックを含む。

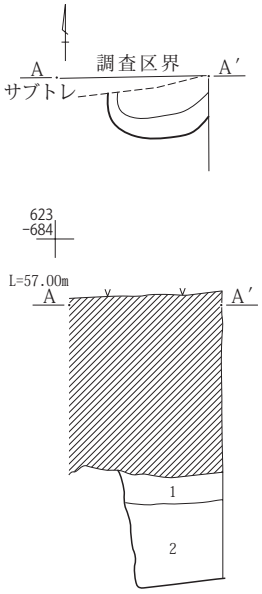
第56図　２区１～５号土坑

２区６号土坑



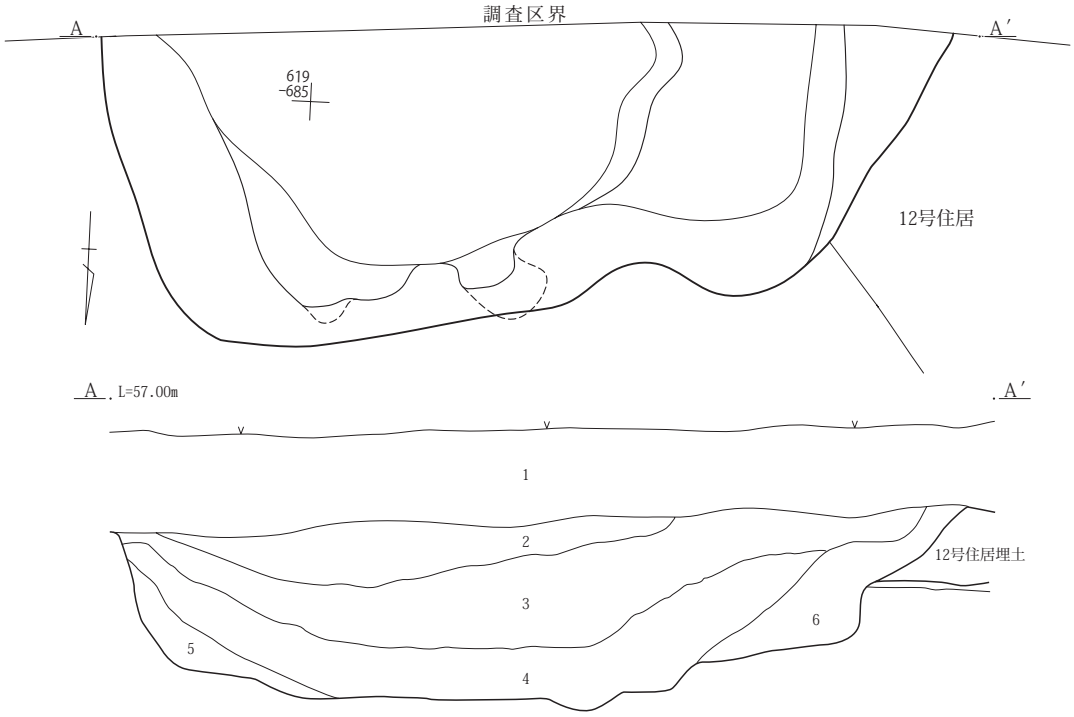

A-A′
１．暗褐色土　粒子やや粗く、粘性なし、締りなし。
　　黄褐色土ブロックを含む。

２区７号土坑




A-A′
１．黒褐色土　粒子やや粗く、粘性なし、締りあり。にぶい黄橙色土ブロック・焼土粒を含む。
２．黒褐色土　粒子やや粗く、粘性なし、締りあり。にぶい黄橙色土ブロックを含む。１層に類するが色調暗い。

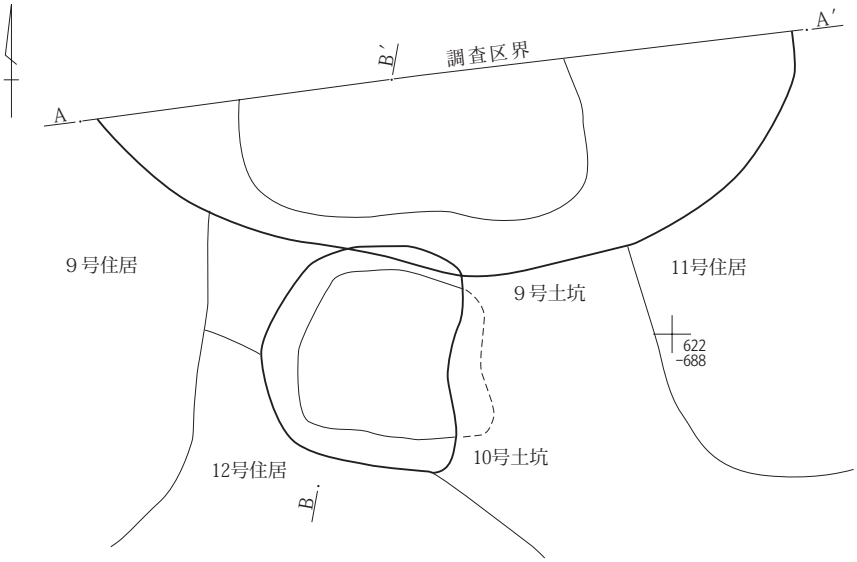
２区８号土坑

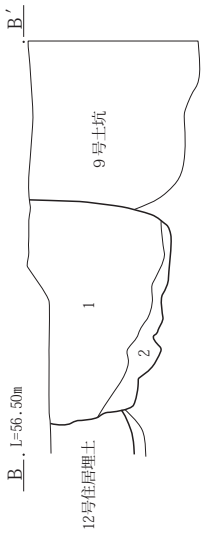


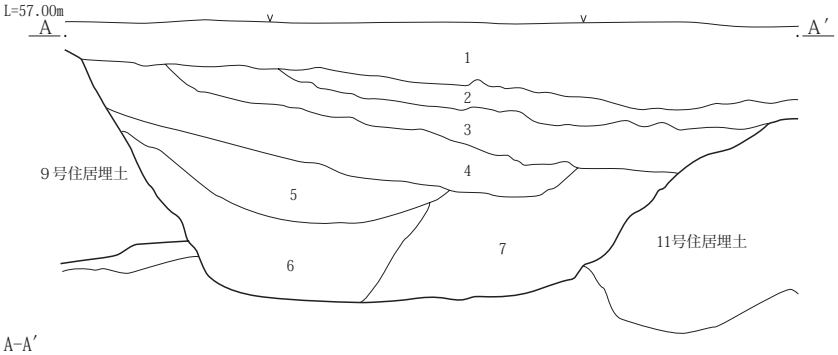

A-A′
１．黒褐色土　表土
２．暗褐色土　粒子やや粗く、粘性なし、締り弱い。焼土ブロック・小礫・炭化物多量含む。
３．暗褐色土　粒子やや細かく、粘性なし、締り弱い。大小のにぶい黄橙色土ブロック・小焼土ブロック含む。
４．暗褐色土　粒子やや細かく、粘性弱い、締り弱い。小さいにぶい黄橙色土ブロック含む。
５．暗褐色土　粒子やや粗く、粘性ややあり、締りややあり。にぶい黄橙色土ブロック含む。
６．暗褐色土　粒子やや粗く、粘性ややあり、締りややあり。焼土ブロック・炭化物を含む。

0　1:40　1m

第57図　２区６～８号土坑




B-B′

１．黒褐色土　粒子やや粗く、粘性なし、締りあり。焼土ブロックを多く含む。

２．暗褐色土　粒子やや粗く、粘性なし、締りあり。にぶい黄橙色土ブロックを含む。

A-A′

１．暗褐色土　表土

２．暗褐色土　粒子やや粗く、粘性なし、締りあり。焼土ブロックを含む。

３．暗褐色土　黄褐色土ブロック多量含む。

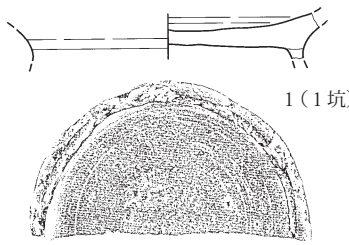
４．暗褐色土　黄褐色土ブロック少量含む。

５．暗褐色土　黄褐色土ブロック少量含む。４層に比べ色調暗い。

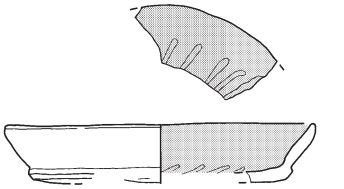
６．黒褐色土　焼土粒含む。

７．黒褐色土ブロック　黄褐色土ブロック多量含む。

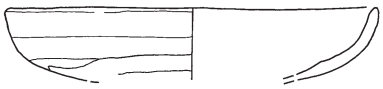
0　1：40　1m



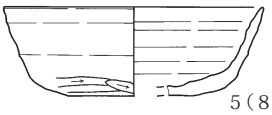
1（１坑）



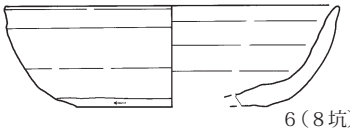
3（８坑）



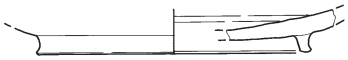
4（８坑）



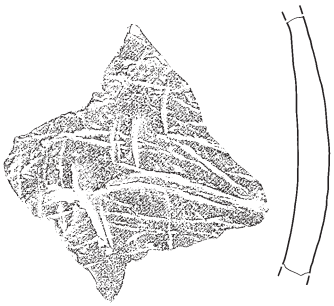
5（８坑）



6（８坑）



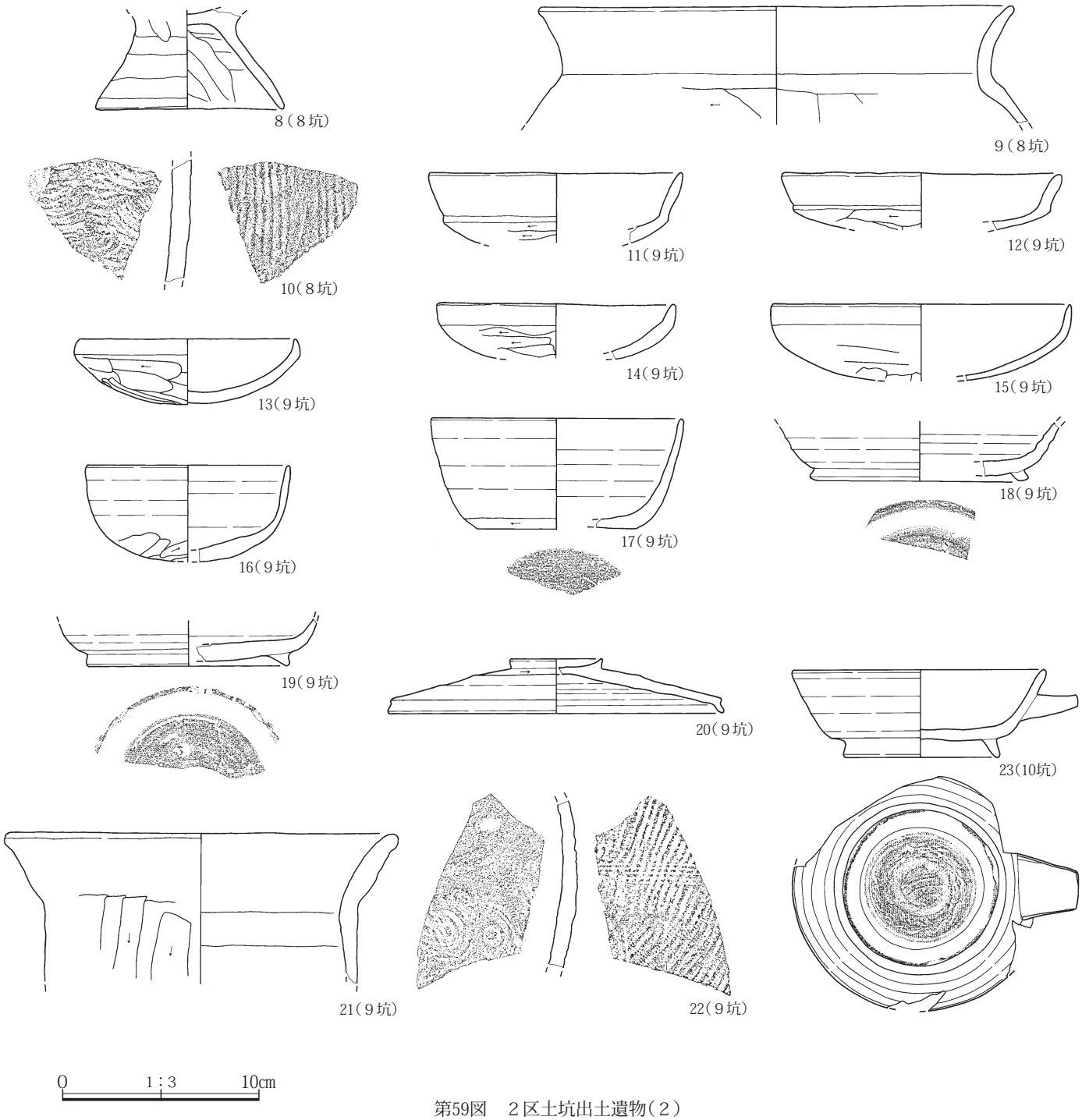
7（８坑）



2（１坑）

0　1：3　10cm

第58図　２区９・10号土坑と２区土坑出土遺物（１）

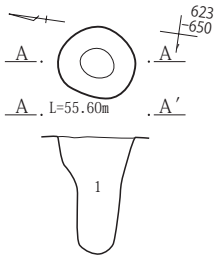



第59図　２区土坑出土遺物（２）

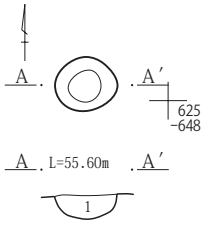
第３表　寺中遺跡２区ピット一覧

| 遺構名称 | 形状 | 位置 | | 規模(m) | | | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | X座標 | Y座標 | 長軸(径) | 短軸 | 深さ | |
| ２区１号ピット | 円形 | X＝37623 | Y＝-40650 | 0.41 | 0.38 | 0.62 | (第60図、PL.19) |
| ２区２号ピット | 円形 | X＝37624 | Y＝-40648 | 0.33 | 0.29 | 0.12 | (第60図、PL.19) |
| ２区３号ピット | 円形 | X＝37623 | Y＝-40651 | 0.45 | 0.43 | 0.30 | (第60図、PL.19) |
| ２区４号ピット | 楕円形 | X＝37624 | Y＝-40649 | 0.65 | 0.58 | 0.48 | (第60図、PL.19) |
| ２区５号ピット | 楕円形 | X＝37623 | Y＝-40647 | 0.49 | 0.42 | 0.19 | (第60図、PL.19) |
| ２区６号ピット | 楕円形 | X＝37626 | Y＝-40648 | (0.54) | 0.50 | 0.42 | ７号・８号ピットと重複(第60図、PL.19) |
| ２区７号ピット | 円形 | X＝37625 | Y＝-40648 | (0.51) | 0.49 | 0.51 | ６号・８号ピットと重複(第60図、PL.19) |
| ２区８号ピット | 楕円形 | X＝37626 | Y＝-40648 | 0.70 | 0.63 | 0.43 | ６号・７号ピットと重複(第60図、PL.19) |
| ２区９号ピット | 円形 | X＝37624 | Y＝-40647 | 0.47 | 0.46 | 0.35 | (第60図、PL.19) |
| ２区10号ピット | 楕円形 | X＝37626 | Y＝-40638 | 0.35 | 0.31 | 0.22 | (第60図、PL.19) |
| ２区11号ピット | 円形 | X＝37627 | Y＝-40638 | 0.43 | 0.41 | 0.18 | (第60・61図、PL.19・26) |
| ２区12号ピット | 円形 | X＝37628 | Y＝-40638 | 0.37 | 0.35 | 0.20 | (第60図、PL.19) |

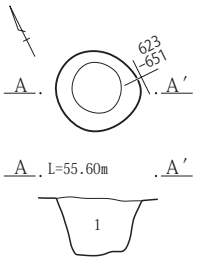
１号ピット



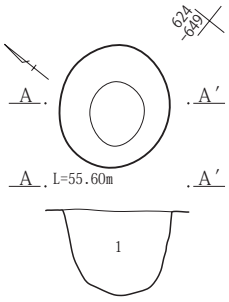

２号ピット




３号ピット




４号ピット



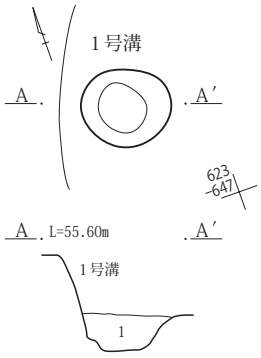

１号ピット
A-A′
１．黒褐色土　粒子やや細かく、粘性なし、締り弱い。焼土粒・炭化物を含む。

２号ピット
A-A′
１．暗褐色土　粒子やや細かく、粘性なし、締り弱い。黄褐色土小ブロックを多く含む。

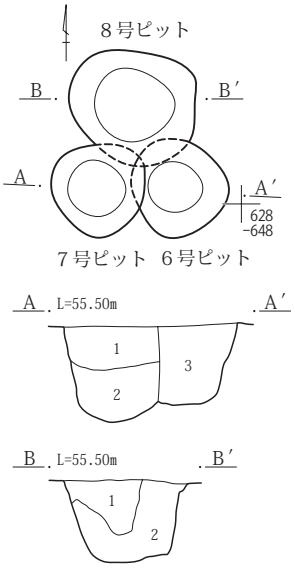
３号ピット
A-A′
１．褐色土　粒子細かく、粘性弱い、締り弱い。暗褐色土ブロックを含む。

４号ピット
A-A′
１．褐色土　粒子細かく、粘性弱い、締り弱い。にぶい黄橙色土ブロックを含む。

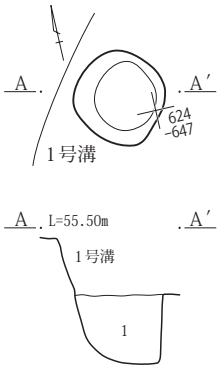
５号ピット



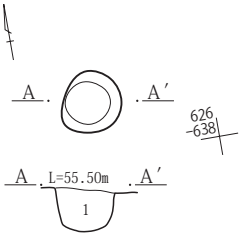

６～８号ピット




９号ピット




10号ピット




９号ピット
A-A′
１．暗褐色土　粒子細かく、粘性弱い、締りなし。にぶい黄橙色土・黒褐色土ブロックを含む。

10号ピット
A-A′
１．暗褐色土　粒子細かく、粘性なし、締り弱い。焼土ブロック・炭化物を含む。

11号ピット
A-A′
１．褐色土　粒子細かく、粘性弱い、締り弱い。焼土ブロックを含む。

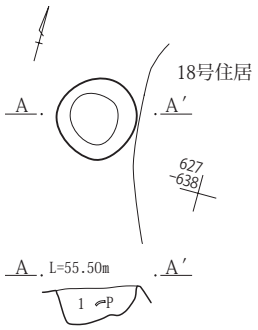
12号ピット
A-A′
１．褐色土　粒子細かく、粘性なし、締りなし。焼土粒を含む。

５号ピット
A-A′
１．黒褐色土　粒子やや粗く、粘性なし、締りなし。焼土粒・炭化物を多く含む。

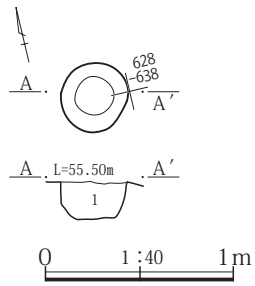
６・７号ピット
A-A′
１．暗褐色土　粒子細かく、粘性弱い、締り弱い。黒褐色土ブロック・黄褐色土ブロックを含む。７号ピット埋土。
２．にぶい黄褐色土　粒子やや細かく、粘性弱い、締りなし。暗褐色土ブロックを少し含む。７号ピット埋土。
３．暗褐色土　粒子細かく、粘性弱い、締りなし。黄褐色土ブロックを少し含む。６号ピット埋土。

８号ピット
B-B′
１．黒褐色土　粒子細かく、粘性なし、締りなし。焼土ブロック・炭化物を含む。
２．褐色土　粒子細かく、粘性なし、締りなし。にぶい黄橙色土ブロックを含む。

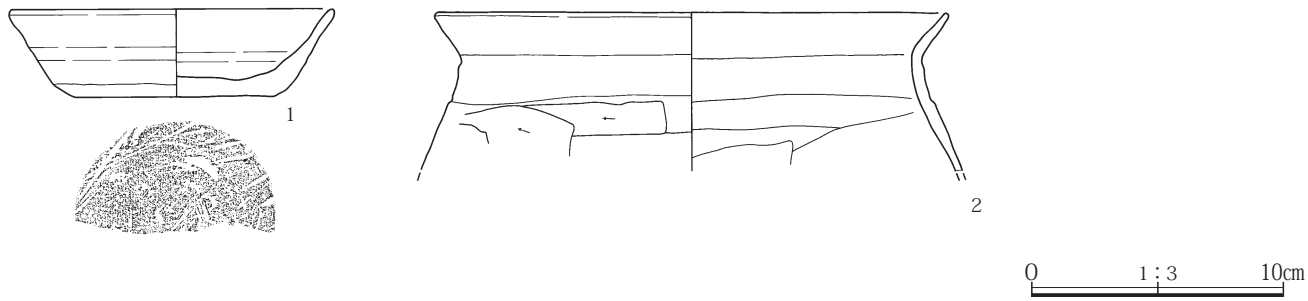
11号ピット




12号ピット




第60図　２区１～12号ピット




第61図　２区11号ピット出土遺物

## ３．溝

溝は２条調査した。１区で１条、２区で１条である。それぞれの溝について詳述する。

**１区１号溝**（第62・63図、PL.18・26）

**位置**　X＝37624 ～ 37629、Y＝-40624 ～ -40631

**形状・規模**　全長は(7.54)ｍである。溝の幅は、上端2.28ｍ～ 1.90ｍ・下端1.12ｍ～ 0.65ｍ・深さ0.73ｍ～ 0.19ｍである。皿状を呈している。南東から北西に勾配がついており比高差は0.31ｍ、勾配率は4.1％である。

**方位**　N-51°-W　N-7°-W

**重複**　２号住居・４号住居と重複する。遺構検出時の観察から、１号溝が一番新しいと判断して調査を開始した。出土遺物も含めて検討した結果、１号溝は２号住居より新しいが４号住居より古いと判断する。

**埋没土**　埋没状況は不明。

**出土遺物**　土師器大型製品片179点・小型製品片102点、須恵器大型製品片26点・中型製品片２点・小型製品片49点が出土した。須恵器杯１点・土師器甕１点・須恵器壺１点・鉄製品２点を図示した。

**所見**　土層観察および溝の断面形状から水路とは考えがたく、その性格は不明である。出土遺物の特徴から、８世紀後半の溝と考えられる。鉄製品は、近世のものであるが、埋没土からの出土であり、埋没過程で混入したものであろう。

**２区１号溝**（第64・65図、PL.18・26）

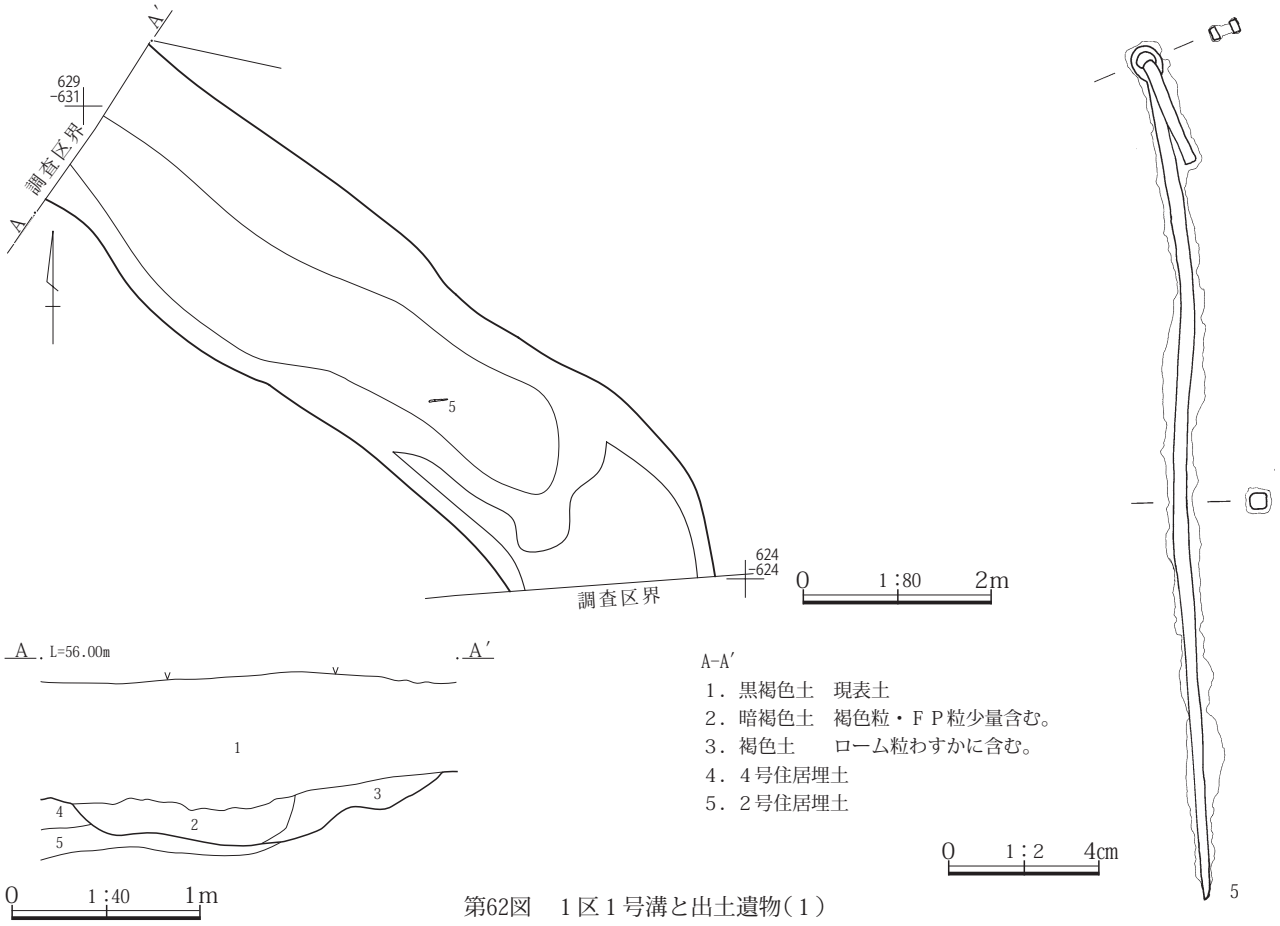
**位置**　X＝37620 ～ 37625、Y＝-40635 ～ -40645

**形状・規模**　全長は(7.78)ｍである。溝の幅は、上端4.55ｍ～ 4.05ｍ・下端0.92ｍ～ 0.48ｍ・深さ1.15ｍ～ 0.91ｍである。逆台形状を呈している。南から北に勾配がついており比高差は0.14ｍ、勾配率は1.8％である。

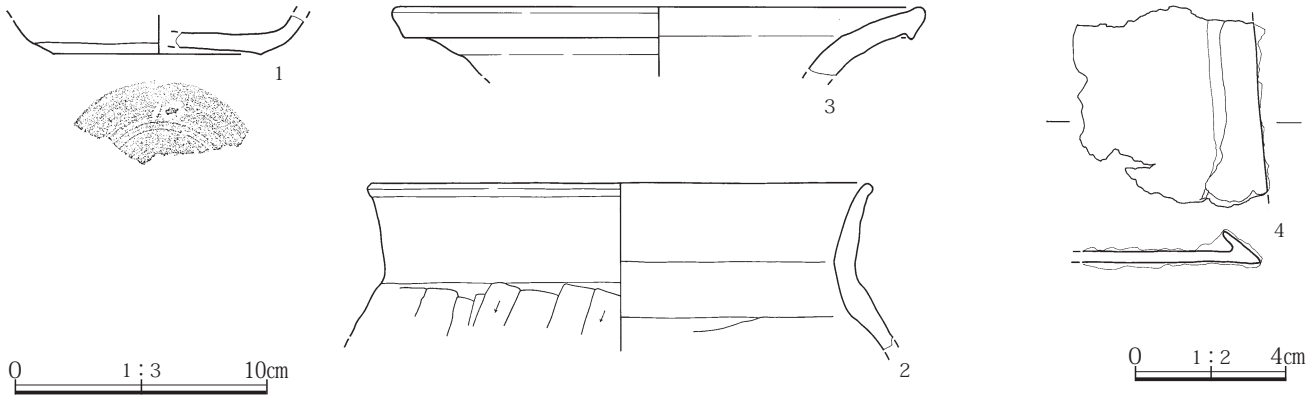
**方位**　N-31°-W

**重複**　17号住居、19号住居、２号土坑、５号ピット、９号ピットと重複する。土層の観察から、１号溝は17号住居・19号住居より新しいが２号土坑より古い。５号ピット・９号ピットとの新旧関係は不明である。

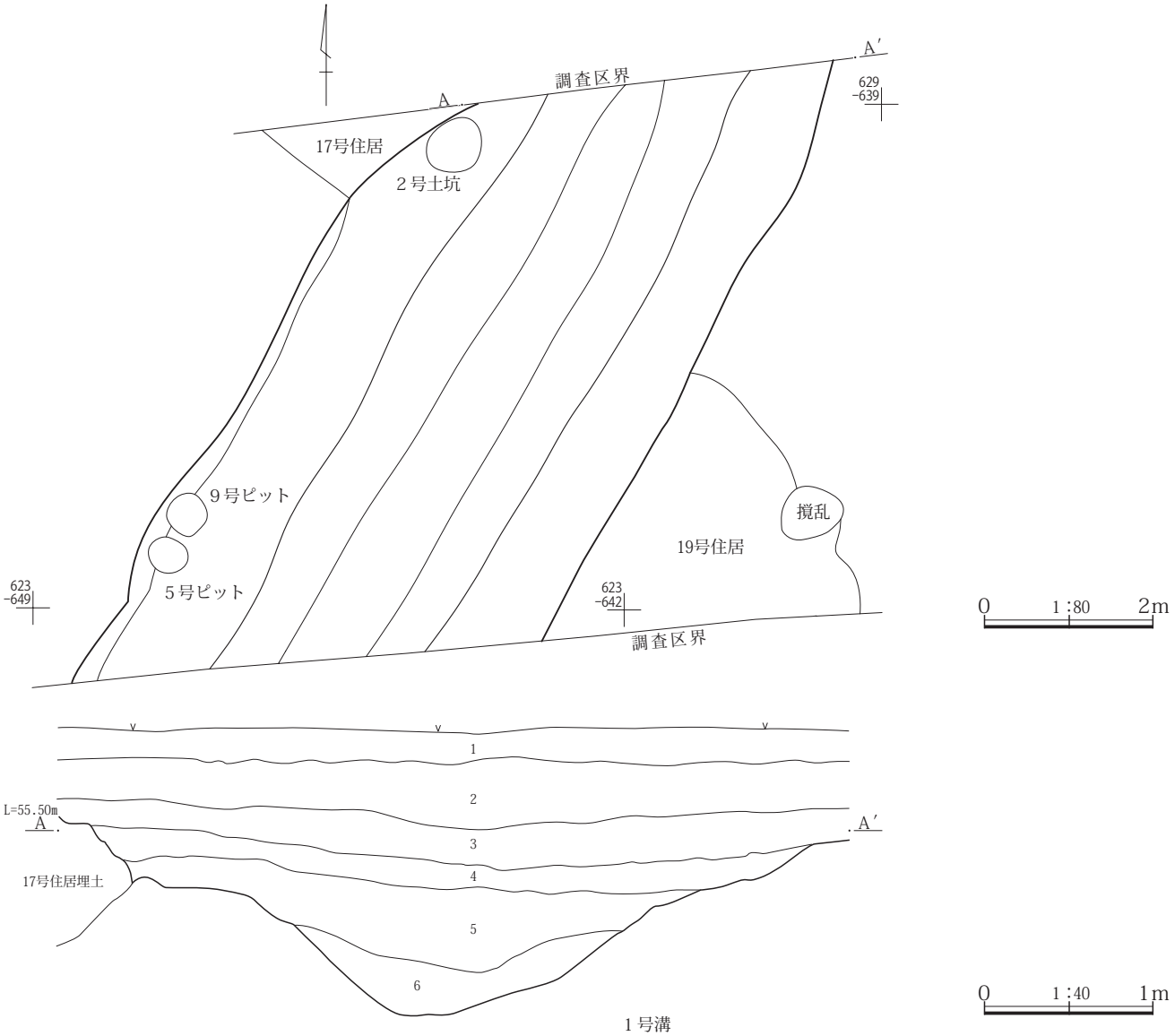
**埋没土**　埋没状況は不明。




第62図　１区１号溝と出土遺物（１）

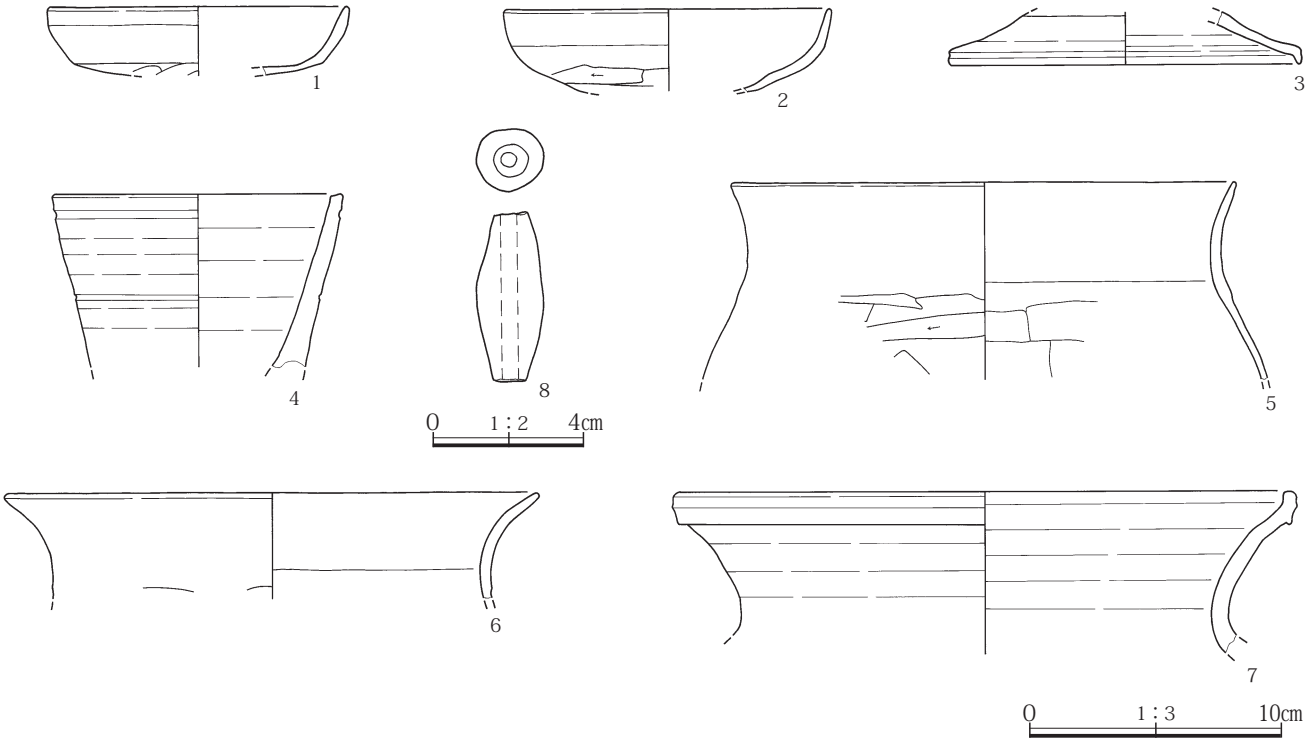



第63図　１区１号溝出土遺物（２）




１号溝
A-A′
１．暗褐色土　表土
２．黒褐色土　粒子やや粗く、粘性なし、締りなし。
３．にぶい黄褐色土　粒子やや細かく、粘性なし、締りなし。
４．暗褐色土　粒子やや細かく、粘性なし、締りなし。礫少量含む。
５．暗褐色土　粒子やや細かく、粘性なし、締りややあり。
６．褐色土　　粒子やや細かく、粘性なし、締りなし。礫少量含む。

第64図　２区１号溝




第65図　２区１号溝出土遺物

**出土遺物**　土師器大型製品片127点・中型製品片４点・小型製品片55点、須恵器大型製品片20点・小型製品片58点が出土した。土師器杯２点・須恵器蓋１点・須恵器鉢１点・土師器甕２点・須恵器甕１点・土錘１点を図示した。

**所見**　土層観察等から水流痕跡の可能性は看取できなかった。溝上端幅が約4.5mと広いことから、区画となる溝である可能性が考えられるが不明である。出土遺物の特徴から８世紀後半に使われていた溝と考えられる。

## ４．遺構外出土遺物

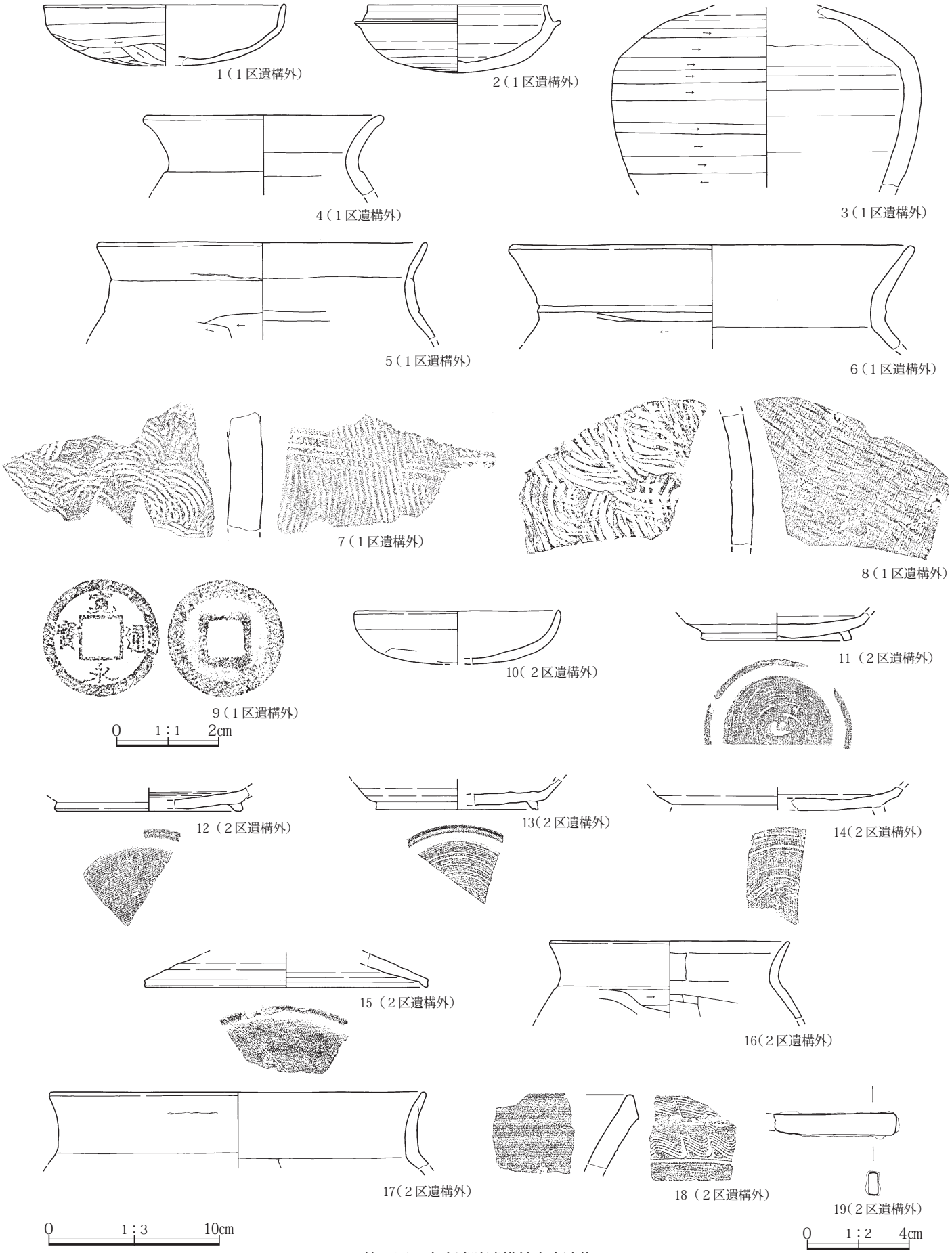
寺中遺跡では、遺構外から土師器・須恵器・金属製品が出土した。

出土点数は1195点である。土師器　片959点、須恵器片234点、金属製品２点である。調査区別の出土遺物数は第４表に示した通りである。また、第４表は調査区ごとの器種製品別に区分をした。

遺構外出土遺物のうち須恵器や土師器など器形が復元できるもの及び金属製品を第66図に示した。（第66図、PL.26）

第４表　寺中遺跡遺構外出土遺物

| 調査区 | 土師器 | | | 須恵器 | | | 金属製品 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | 大型製品 | 中型製品 | 小型製品 | 大型製品 | 中型製品 | 小型製品 | |
| １区 | 262 | 0 | 247 | 28 | 0 | 50 | 1 |
| ２区 | 359 | 18 | 73 | 53 | 11 | 92 | 1 |
| 合計 | 621 | 18 | 320 | 81 | 11 | 142 | 2 |




第66図　寺中遺跡遺構外出土遺物

# 第４章　調査成果のまとめ

## 第１節　本遺跡における集落動向

### １．竪穴住居の変遷

上宿遺跡・寺中遺跡(以下本遺跡とする)の調査は、道路拡幅事業による狭小な調査範囲であるが、古代の遺構・遺物が判明した。特に竪穴住居は24軒を確認した。

本遺跡が位置する地域は古代山田郡域と推定されている。本遺跡周辺では、北関東自動車道建設に伴う発掘調査で、多くの集落遺跡が調査されている。本遺跡における集落動向について整理し、周辺山田郡域内遺跡の集落動向と比較することをまとめとしたい。

調査された竪穴住居の想定される時期は第５表にまとめた。７世紀代の竪穴住居が６軒、８世紀代の竪穴住居が９軒、９世紀代の竪穴住居が７軒である。さらに、１世紀を３区分し、分類した。今回調査した範囲では、７世紀から居住が始まったと言える。８世紀前半に属する竪穴住居は１軒だけであるが、中頃は６軒と一番多い。以後、９世紀中頃まで竪穴住居は作られていたが、後半以降になると住居が無くなる。

検出した住居の位置を時期ごとに分けて示したのが第67図～第69図である。位置の変遷状況で、特筆すべき状況は看取できなかった。ただ、１区東端に近い部分(Y＝-40600 ～ Y＝-40550の範囲)にはすべての時期で住居が作られていなかった。また、上宿遺跡では竪穴住居が検出されたが、使用された時期は不明であった。

### ２．周辺遺跡の動向

今回調査した範囲内では、７世紀に居住が本格化し、８世紀中頃にピークを迎え、９世紀後半以降は居住がなされていないということがわかった。本遺跡の南に位置する大道東遺跡(第４図10)では、６世紀後半から居住が始まり、７世紀末から８世紀代の住居が多く、９世紀代の住居は減少。９世紀後半以降の住居は検出されていない。南西に位置する向矢部遺跡(第４図14)では８世紀第２四半期に居住が始まり、９世紀第３四半期の住居が最も多く、10世紀の住居は検出されていない。周辺地域内で集落動向が異なる。

この状況について、向矢部遺跡報告書の総括では[註1]「周辺の状況を詳細に見なくてはならないが、八ヶ入、大道西、大道東、鹿島浦の各遺跡から検出された東山道駅路の廃絶、さらには山田郡衙との関係の中で、集落の変遷に少しずつ変化が生じていることを窺わせている。」と述べている。

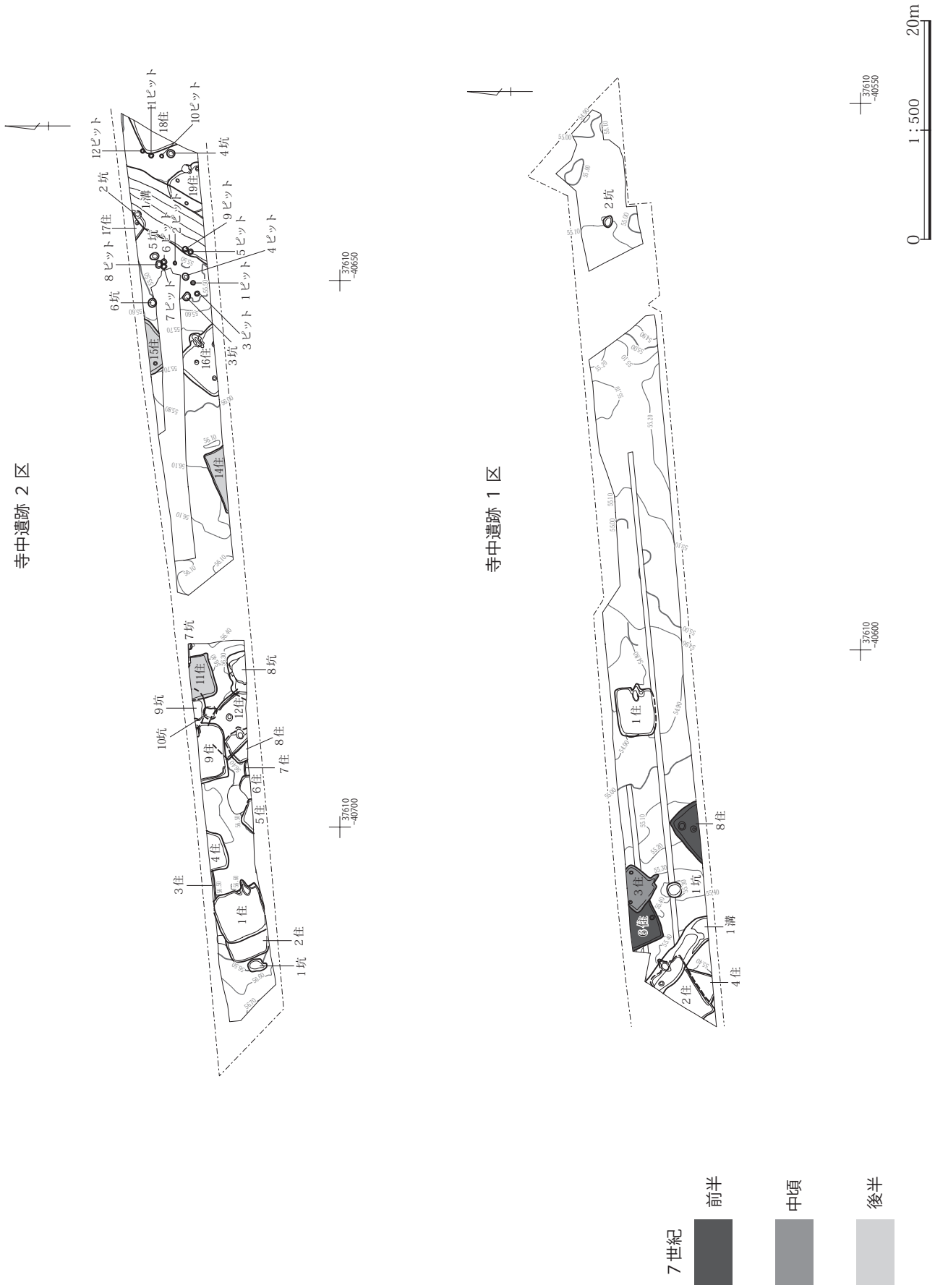
### ３．小結

今回調査した範囲の集落動向は大道東遺跡の傾向に近い。遺跡の位置も、向矢部遺跡に較べ大道東遺跡の方が近い。大道東遺跡の集落を形成していた集団と歩調を合わせていたと言えよう。しかし、今回得られたデータは狭小な調査区内と言う極めて限定的なものである。これが今回の調査範囲内だけのものなのか、あるいは今回の調査範囲外を含む住居群の傾向なのかは、今後の周辺地域調査の進展を待ち、改めて比較検討する必要がある。

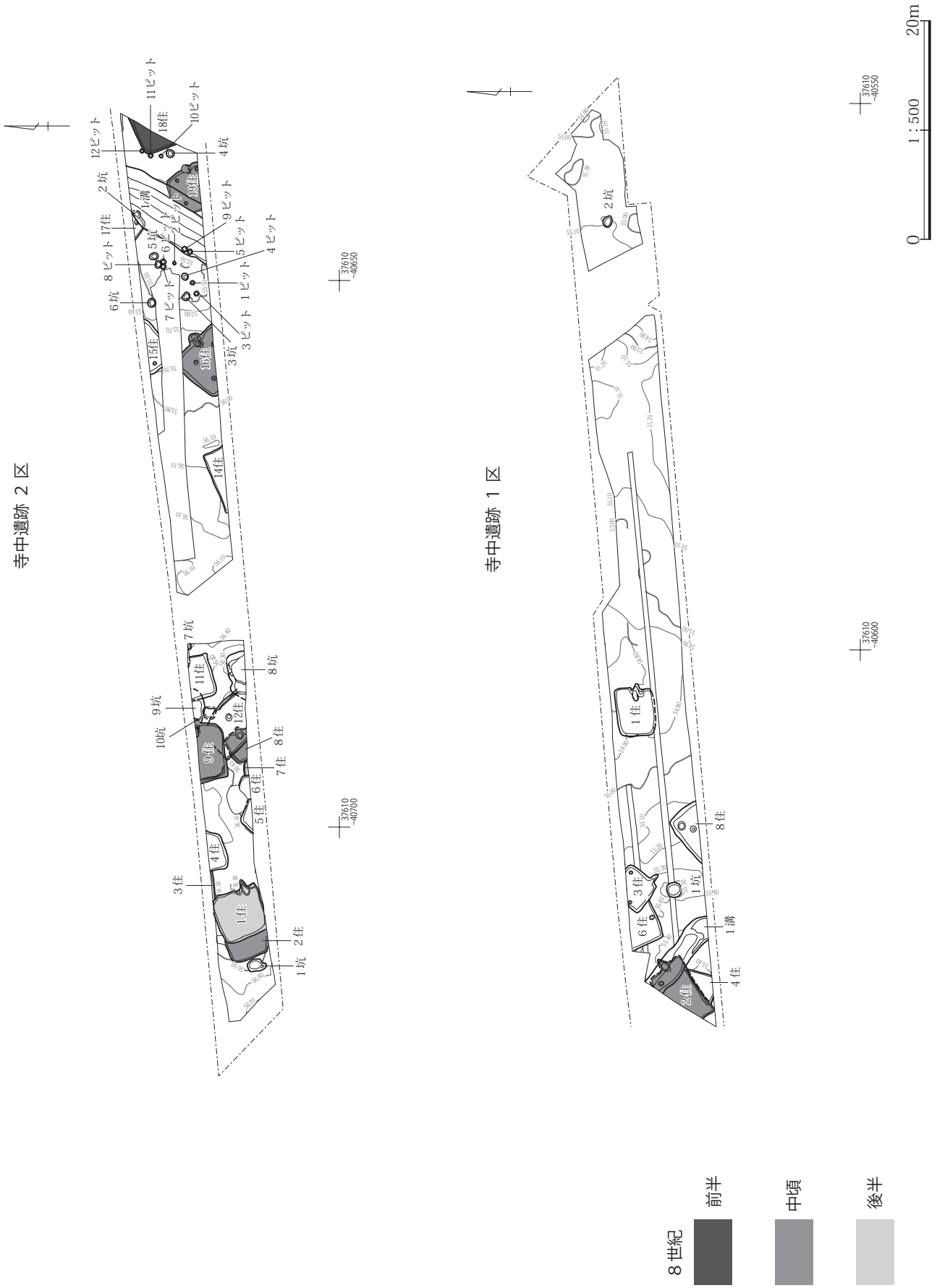
註１　財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団2012『向矢部遺跡』pp.252

第５表　時期別住居数

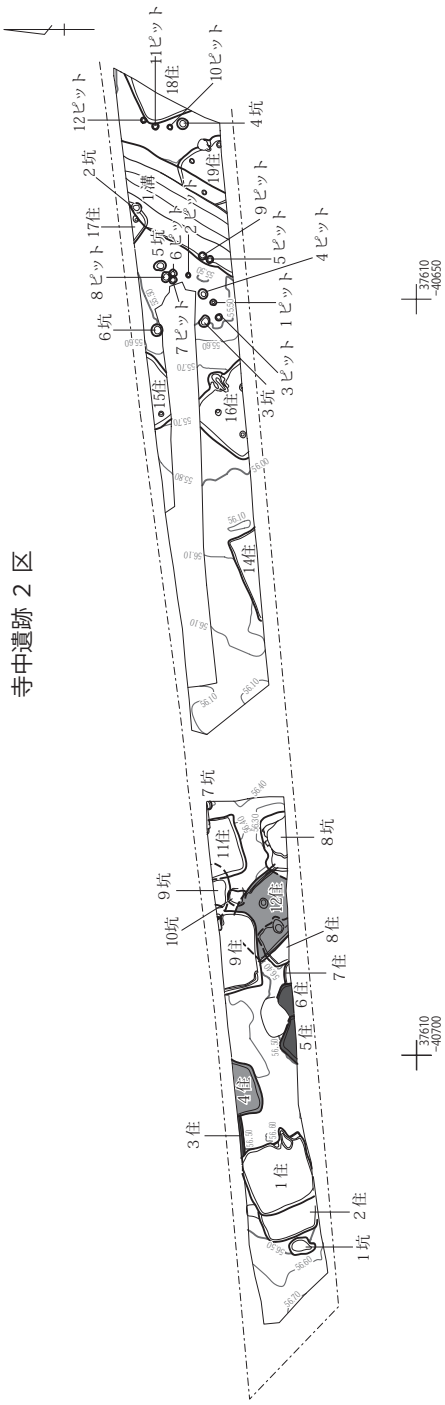
| 時期 | | 住居数 | | | 計 |
|---|---|---|---|---|---|
| | | 上宿遺跡 | 寺中遺跡１区 | 寺中遺跡２区 | |
| ７世紀 | 前半 | 0 | 2 | 0 | 6 |
| | 中頃 | 0 | 1 | 0 | |
| | 後半 | 0 | 0 | 3 | |
| ８世紀 | 前半 | 0 | 0 | 1 | 9 |
| | 中頃 | 0 | 1 | 5 | |
| | 後半 | 0 | 0 | 2 | |
| ９世紀 | 前半 | 0 | 1 | 3 | 7 |
| | 中頃 | 0 | 1 | 2 | |
| | 後半 | 0 | 0 | 0 | |
| | 不明 | 1 | 0 | 1 | 2 |
| 計 | | 1 | 6 | 17 | 24 |

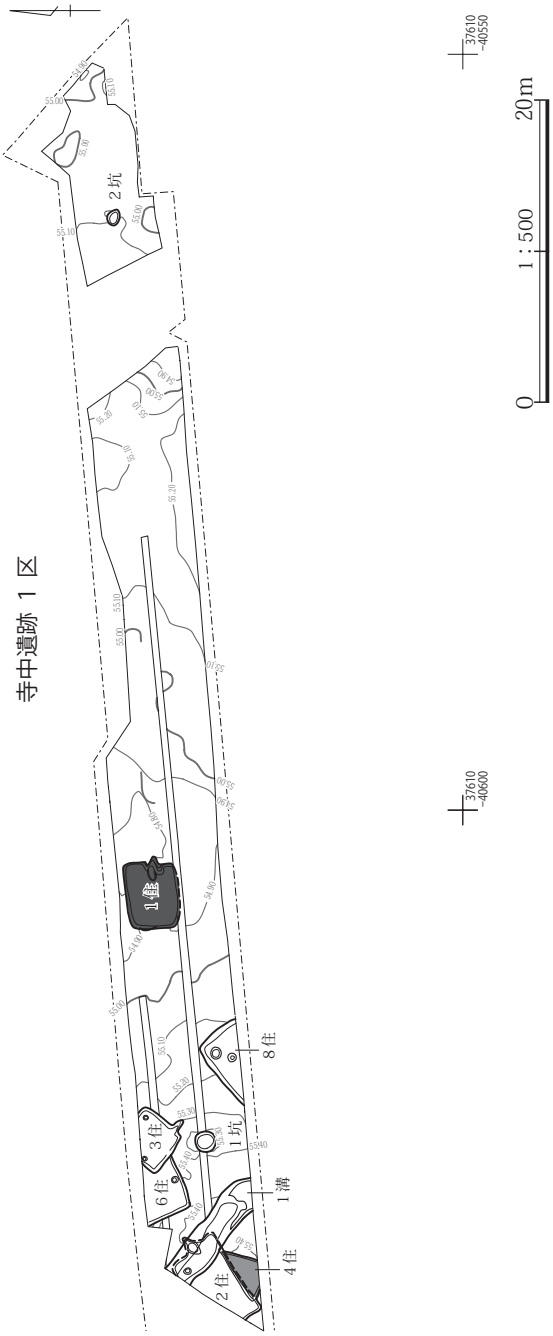



第67図　竪穴住居時期別変遷（7 世紀）

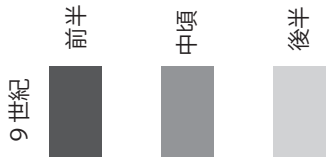



第68図　竪穴住居時期別変遷（８世紀）




第69図　竪穴住居時期別変遷（9 世紀）



遺物観察表

上宿遺跡１号住居

| 挿図 PL.No. | No. | 種類 器種 | 出土位置 残存率 | 計測値 | | | | 胎土/焼成/色調 石材・素材等 | 成形・整形の特徴 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 第７図 PL.20 | 1 | 土師器 杯 | 埋土 1/4 | 口 底 | 12.0 4.0 | 高 | 5.2 | 粗砂粒少/良好/にぶい橙 | 平底の可能性あり。口縁部は横ナデ。体部は上位にナデの部分を残す。下位はヘラ削り。輪積み痕を残す。内面はナデ後、規則性のないヘラ磨きを重ねる。 | 外面炭素吸着。煤か。 |
| 第７図 PL.20 | 2 | 土師器 甕 | 掘方 口縁部1/2 | 口 底 | 21.0 | 高 | | 粗砂粒/良好/にぶい橙 | 内外面とも横ナデ。輪積み痕を残す。 | |

上宿遺跡遺構外

| 挿図 PL.No. | No. | 種類 器種 | 出土位置 残存率 | 計測値 | | | | 胎土/焼成/色調 石材・素材等 | 成形・整形の特徴 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 第９図 PL.20 | 1 | 須恵器 杯か | 体部 下位～底部 | 口 底 | 10.0 | 高 | | 白色鉱物粒/還元焔・やや軟質/灰黄 | ロクロ整形(右回転)。底部は切り離し後、回転ヘラ削り。体部最下位にも回転ヘラ削り。 | 内面摩耗。壺などの可能性ありか。 |
| 第９図 | 2 | 須恵器 鉢 | 口縁部片 | 口 底 | 17.8 | 高 | | 粗砂粒/還元焔/黄灰 | 口縁部は先端が強く屈曲して立ち上がり、端部が外方を向く。ロクロ整形(右回転)。 | 器面やや磨滅。 |
| 第９図 | 3 | 土師器 台付甕 | 底部のみ | 口 底 | | 高 | | 細砂粒/良好/橙 | 台付甕の基部である。胴部側、台部側ともに割れ口が細い。摩耗はいつの時点で生じたものかは判断できないが、二次的に円板状に加工した可能性も考えられる。 | |

寺中遺跡１区１号住居

| 挿図 PL.No. | No. | 種類 器種 | 出土位置 残存率 | 計測値 | | | | 胎土/焼成/色調 石材・素材等 | 成形・整形の特徴 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 第11図 | 1 | 土師器 杯 | 埋土 破片 | 口 底 | 11.0 | 高 | | 粗砂粒/良好/にぶい赤褐 | 口縁部は底部との間に稜を有する横ナデ。底部は手持ちヘラ削り。内面はナデ。 | 外面磨滅。口縁部先端の内面は摩耗。炭素吸着。 |
| 第11図 | 2 | 土師器 杯 | 埋土 口縁部片 | 口 底 | 11.0 | 高 | | 粗砂粒/良好/褐灰 | 口縁部は底部との間に稜を有する。立ち上がる途中にも小さな器形変換点あり。横ナデ。底部は手持ちヘラ削り。内面はナデ。 | 器面炭素吸着。 |
| 第11図 | 3 | 土師器 杯 | 埋土 破片 | 口 底 | 12.0 | 高 | | 粗砂粒少/良好/橙 | 口縁部は横ナデ。底部は手持ちヘラ削り。内面はナデ。 | |
| 第11図 | 4 | 土師器 高杯 | 埋土 口縁部上半1/4 | 口 底 | 21.8 | 高 | | 粗砂粒/良好/橙 | 口縁部上位は横ナデ。以下は斜位のヘラ削りの上にヘラナデ、ヘラ磨き。内面は黒色処理。横位のヘラ磨き。 | |
| 第11図 PL.20 | 5 | 須恵器 杯 | 埋土 1/2 | 口 底 | 12.6 6.6 | 高 | 3.8 | 粗砂粒少・赤色粘土粒/酸化焔/灰黄褐 | ロクロ整形(右回転)。底部は粗雑な回転ヘラ切り。 | 内面の摩耗顕著。 |
| 第11図 PL.20 | 6 | 須恵器 杯 | 埋土 底部片 | 口 底 | 8.2 | 高 | | 粗砂粒/還元焔/灰 | ロクロ整形(右回転)。底部は回転糸切り後、回転ヘラ削り。 | |
| 第11図 | 7 | 須恵器 杯 | 埋土 口縁部～体部 1/4 | 口 底 | 12.8 | 高 | | 粗砂粒/還元焔・軟質/灰黄 | 口縁部外面の先端直下に凹線がめぐる。 | 一部に炭素吸着。 |
| 第11図 PL.20 | 8 | 須恵器 杯 | 埋土 完形 | 口 底 | 13.1 6.8 | 高 | 3.6 | 粗砂粒・白色鉱物粒少/還元焔/黄灰 | ロクロ整形(右回転)。底部は回転糸切り後、回転ヘラ削り。 | 外面、炭素吸着。内面墨書か、判読不明。 |
| 第11図 | 9 | 須恵器 杯 | 埋土 1/6 | 口 底 | 13.7 8.5 | 高 | 3.2 | 白色鉱物粒・赤黒色粘土粒/還元焔・酸化焔ぎみ/にぶい黄橙 | ロクロ整形(右回転)。底部は切り離し後、回転ヘラ削り。 | |
| 第11図 PL.20 | 10 | 須恵器 杯 | 床直 1/2 | 口 底 | 13.6 7.8 | 高 | 3.5 | 赤黒色粘土粒/還元焔/灰オリーブ | ロクロ整形(右回転)。底部は回転糸切り後、周縁部に回転ヘラ削り。底部内面に刻書「門家」。 | 口縁部外面の先端に炭素吸着。 |
| 第11図 | 11 | 須恵器 杯 | 埋土 1/4 | 口 底 | 13.0 8.0 | 高 | 3.4 | 赤黒色粘土粒多/還元焔/灰 | ロクロ整形(右回転)。底部は回転糸切り後、周縁部に回転ヘラ削り。 | 器面摩耗。 |
| 第11図 | 12 | 須恵器 杯 | 床上８㎝ 体部～底部 | 口 底 | 5.5 | 高 | | 白色鉱物粒・赤黒色粘土粒/還元焔/灰 | ロクロ整形(左回転)。底部は回転糸切り後、周縁部に回転ヘラ削り。 | 器面摩耗。 |
| 第11図 PL.20 | 13 | 須恵器 椀 | 床直 体部下位～底部 | 口 底 | 9.7 | 高 | | 白色鉱物粒/還元焔/灰白 | ロクロ整形(右回転)。高台部は付け高台であるが剥離。底部は回転糸切り。高台接合部分に回転ヘラ削り。硯として使用した可能性もあるが、墨痕あまり明瞭でない。高台剥離後も使用か。 | 内面摩耗。 |
| 第11図 | 14 | 須恵器 蓋 | 埋土 口縁部片 | 口 底 | 17.5 | 高 | | 白色鉱物粒/還元焔/灰 | ロクロ整形(右回転)。天井部中心寄りに回転ヘラ削り。 | |
| 第11図 | 15 | 土師器 台付甕 | 掘方 台部上半片 | 口 底 | | 高 | | 細砂粒・雲母粒/良好/明赤褐 | 内外面とも横ナデ。 | |
| 第11図 PL.20 | 16 | 土師器 甕 | 床上９㎝ 口縁部～胴部中位1/4 | 口 底 | 22.8 | 高 | | 粗砂粒・雲母粒/良好/にぶい赤褐 | 口縁部は横ナデ。中位に指頭圧痕を残す。胴部上位は横位のヘラ削り。それ以下は斜位のヘラ削り。内面は横位のヘラナデ。 | |

| 挿図<br>PL.No. | No. | 種類<br>器種 | 出土位置<br>残存率 | 計測値 | | | | 胎土/焼成/色調<br>石材・素材等 | 成形・整形の特徴 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 第12図<br>PL.20 | 17 | 土師器<br>甕 | 床直<br>口縁部～胴部上位1/2 | 口<br>底 | 19.4 | 高 | | 粗砂・細砂粒/良好/にぶい赤褐 | 口縁部は横ナデ。胴部は斜横位のヘラ削り。内面は横位のヘラナデ。 | 被熱、器面やや磨滅。 |
| 第12図 | 18 | 土師器<br>甕 | 埋土<br>口縁部～胴部上位片 | 口<br>底 | 21.8 | 高 | | 粗砂・細砂粒/良好/にぶい褐 | 口縁部は横ナデ。胴部は斜横位のヘラ削り。内面は横位のヘラナデ。 | 被熱。 |
| 第12図 | 19 | 土師器<br>甕 | 埋土<br>口縁部～胴部上位片 | 口<br>底 | 19.8 | 高 | | 細砂粒/良好/明赤褐 | 口縁部は横ナデ。胴部は横位のヘラ削り。内面は横位のヘラナデ。 | 被熱。 |
| 第12図 | 20 | 土師器<br>甕 | 床上10cm<br>胴部下位～底部1/2 | 口<br>底 | 4.6 | 高 | | 粗砂・細砂粒/良好/にぶい赤褐 | 胴部は斜横位のヘラ削り。底部もヘラ削り。内面はヘラナデ。 | 外面被熱。炭素吸着。内面磨滅。 |
| 第12図<br>PL.20 | 21 | 須恵器<br>甕 | 床上11cm<br>2/3 | 口<br>底 | 12.6 | 高 | | 粗砂粒/還元焔/灰 | 胴部は紐作り後、叩き成形。その上にナデを重ねる。最下位は回転ヘラ削り。内面は横位のナデ。底部はヘラ削り。摩耗している。 | |
| 第12図 | 22 | 須恵器<br>甕 | 埋土<br>胴部片 | 口<br>底 | | 高 | | 白色鉱物粒/還元焔/灰白 | 紐作り後、叩き整形・ロクロ整形。外面は平行叩き目の上に横ナデ。内面は横ナデ。 | |
| 第12図 | 23 | 須恵器<br>甕 | 埋土<br>胴部片 | 口<br>底 | | 高 | | 白色鉱物粒少/還元焔/灰 | 紐作り後、叩き整形。外面は平行叩き目。内面は同心円文の当て具痕。 | |
| 第12図<br>PL.20 | 24 | 須恵器<br>甕 | 床上12cm<br>胴部下位～底部1/4 | 口<br>底 | | 高 | | 小礫・粗砂粒/還元焔/灰 | 紐作り後、叩き整形。胴部は丁寧なナデ。内面はナデの上に一部横ナデを重ねる。 | |

寺中遺跡１区2号住居

| 挿図<br>PL.No. | No. | 種類<br>器種 | 出土位置<br>残存率 | 計測値 | | | | 胎土/焼成/色調<br>石材・素材等 | 成形・整形の特徴 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 第15図 | 1 | 土師器<br>杯 | 埋土<br>破片 | 口<br>底 | 12.8 | 高 | | 赤黒色粘土粒少/良好/橙 | 口縁部は中位に弱い段を有する。内面の口縁部直下にも沈線状の凹線がめぐる。横ナデ。底部はヘラ削り。内面はナデ。 | |
| 第15図<br>PL.20 | 2 | 土師器<br>杯 | 埋土<br>完形 | 口<br>底 | 11.7 | 高 | 5.4 | 粗砂粒/良好/にぶい黄橙 | 口縁部は横ナデ。底部との間に稜を有する。底部は手持ちヘラ削り。内面はやや粗雑なナデ。 | |
| 第15図 | 3 | 土師器<br>杯 | 埋土<br>破片 | 口<br>底 | 12.4 | 高 | | 細砂粒/良好/にぶい褐 | 口縁部は底部との間に稜を有し、内傾ぎみに立ち上がる。横ナデ。底部は手持ちヘラ削り。内面はナデ。 | 内外面炭素吸着。 |
| 第15図<br>PL.20 | 4 | 土師器<br>杯 | 埋土<br>破片 | 口<br>底 | 11.8 | 高 | | 粗砂粒/良好/にぶい橙 | 口縁部は横ナデ。 | 器面磨滅。 |
| 第15図<br>PL.20 | 5 | 土師器<br>杯 | 床直<br>1/4 | 口<br>底 | 14.2 | 高 | 4.0 | 粗砂粒/良好/橙 | 口縁部は横ナデ。底部は手持ちヘラ削り。間にナデの部分を有する。内面はナデ。 | 器面磨滅。 |
| 第15図 | 6 | 土師器<br>杯 | 埋土<br>破片 | 口<br>底 | 11.2 | 高 | | 粗砂粒/良好/橙 | 口縁部は横ナデ。底部は手持ちヘラ削り。間にナデの部分を残す。内面はナデ。 | 器面磨滅。 |
| 第15図 | 7 | 土師器<br>杯 | 埋土<br>口縁部片 | 口<br>底 | 13.8 | 高 | | 細砂粒/良好/にぶい橙 | 口縁部は横ナデ。底部は手持ちヘラ削り。内面はナデ後、横位に粗雑なヘラ磨きを重ねる。 | |
| 第15図<br>PL.20 | 8 | 須恵器<br>杯 | 埋土<br>一部欠 | 口<br>底 | 12.8<br>8.1 | 高 | 3.6 | 粗砂粒/酸化焔/にぶい黄 | ロクロ整形(右回転)。底部回転糸切り後、周縁部に回転ヘラ削り。 | 器面磨滅。 |
| 第15図<br>PL.20 | 9 | 須恵器<br>杯 | 床直<br>口縁部～底部1/2 | 口<br>底 | 14.6<br>9.0 | 高 | 3.85 | 白色鉱物粒/還元焔・やや軟質/灰白 | 口縁部先端は外方に弱くつままれる。ロクロ整形(右回転)。底部は回転糸切り後、周縁部に回転ヘラ削り。口縁部下位にも回転ヘラ削り。 | 器面磨滅。 |
| 第15図 | 10 | 須恵器<br>杯 | 埋土<br>2/3 | 口<br>底 | 12.2<br>7.2 | 高 | 3.5 | 赤黒色粘土粒/還元焔・やや軟質/灰白 | ロクロ整形(右回転か)。器面磨滅の為、底部の切り離し状況不明。 | |
| 第15図<br>PL.20 | 11 | 須恵器<br>椀 | 掘方<br>完形 | 口<br>底 | 11.3<br>7.3 | 高<br>台 | 4.5<br>7.0 | 赤黒色粘土粒・白色鉱物粒/還元焔/灰 | ロクロ整形(右回転)。高台部は底部回転糸切り後の付け高台。底面にはナデ調整。 | |
| 第15図<br>PL.20 | 12 | 須恵器<br>椀 | 埋土<br>底部3/4 | 口<br>底 | 11.0 | 高<br>台 | 11.2 | 赤黒色粘土粒/還元焔・軟質/灰 | ロクロ整形(右回転)。高台部は付け高台。底部切り離し後、回転ヘラ削り。口縁部欠損後も割れ口を補修して利用したか。 | 器面磨滅。 |
| 第15図 | 13 | 須恵器<br>盤 | 掘方<br>1/3 | 口<br>底 | 18.8<br>14.0 | 高 | 2.6 | 赤黒色粘土粒/還元焔・やや軟質/灰 | ロクロ整形(右回転)。高台部は底部回転ヘラ削り後、貼付するも剥落している。 | |
| 第15図 | 14 | 須恵器<br>蓋 | 埋土<br>天井部～口縁部片 | 口<br>底 | 14.2 | 高 | | 白色鉱物粒少/還元焔/灰黄 | ロクロ整形(右回転か)。天井部の中心寄りに回転ヘラ削り。 | |
| 第15図 | 15 | 須恵器<br>蓋 | 埋土<br>天井部～口縁部片 | 口<br>底 | 8.0 | 高 | | 白色鉱物粒少/還元焔/灰 | ロクロ整形(右回転)。天井部に回転ヘラ削り。 | |
| 第15図<br>PL.20 | 16 | 須恵器<br>蓋 | 床上12cm<br>2/3 | 口<br>底 | 13.0 | 高 | | 粗砂粒・赤色粘土粒/酸化焔/橙 | ロクロ整形(右回転)。天井部を切り離し後、摘み部を貼付。天井部の中心寄りに回転ヘラ削り。内面は一方向にヘラ磨き。 | 内面炭素吸着。器面やや磨滅。 |

| 挿図<br>PL.No. | No. | 種類<br>器種 | 出土位置<br>残存率 | 計測値 | | | | 胎土/焼成/色調<br>石材・素材等 | 成形・整形の特徴 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 第15図<br>PL.21 | 17 | 土製品<br>支脚 | 床上６㎝<br>上位一部欠 | 天<br>底 | 5.3 | 高<br>裾 | 13.5<br>10.7 | 粗砂粒多/酸化焔/橙 | 裁円錐状を呈し、天井部は平坦面をなす。粘土紐を輪積みし成形した筒状品を、倒立させて使用したもの。天井部に木葉痕。外面は輪積み痕の上にナデを繰り返す。内面も横位のナデ。 | 被熱。 |
| 第16図<br>PL.21 | 18 | 土師器<br>甕 | 埋土<br>口縁部～胴部上位1/4 | 口<br>底 | 12.2 | 高 | | 細砂粒/良好/にぶい赤褐 | 口縁部は横ナデ。輪積み痕を残す。胴部は横位にヘラ削り。内面は横位のヘラナデ。 | 器面炭素吸着。 |
| 第16図<br>PL.21 | 19 | 土師器<br>甕 | 床直<br>胴部上位～底部 | 口<br>底 | 4.8 | 高 | | 粗砂粒多・白色軽石粒/良好/にぶい黄橙 | 胴部は縦位のヘラ削りの上に斜位のヘラ削りを重ねる。最下位は横位のヘラ削り。内面は斜横位のヘラナデ。底部はヘラ削り。 | 被熱。 |
| 第16図<br>PL.21 | 20 | 土師器<br>甕 | 床直<br>口縁部～胴部上位 | 口<br>底 | 22.5 | 高 | | 粗砂粒/良好/にぶい黄橙 | 口縁部は横ナデ。輪積み痕を残す。胴部は縦位にヘラ削り。内面は横位のヘラナデ。 | 被熱。 |
| 第16図 | 21 | 土師器<br>甕 | 床直<br>1/4 | 口<br>底 | 20.4 | 高 | | 粗砂粒多/良好/にぶい黄橙 | 口縁部は横ナデ。胴部は縦位のヘラ削り。内面は横位のヘラナデ。 | 被熱。 |
| 第16図 | 22 | 土師器<br>甕 | 埋土<br>口縁部～胴部上位片 | 口<br>底 | 20.6 | 高 | | 粗砂粒少/良好/にぶい赤褐 | 口縁部は横ナデ。胴部は横位のヘラ削り。内面は横位のヘラナデ。 | |
| 第16図 | 23 | 須恵器<br>甕 | 埋土<br>胴部片 | 口<br>底 | | 高 | | 白色鉱物粒/還元焔/灰 | ロクロ整形(右回転)。残存最下位にヘラ削り。胴部径は小さくなる可能性あり。 | |
| 第16図 | 24 | 須恵器<br>甕 | 埋土<br>胴部片 | 口<br>底 | | 高 | | 粗砂粒少/還元焔・軟質/灰黄 | 紐作り後、ロクロ整形。7本1単位の波状文を配す。 | |

寺中遺跡１区３号住居

| 挿図<br>PL.No. | No. | 種類<br>器種 | 出土位置<br>残存率 | 計測値 | | | | 胎土/焼成/色調<br>石材・素材等 | 成形・整形の特徴 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 第18図 | 1 | 土師器<br>杯 | 掘方<br>1/4 | 口<br>底 | 11.6 | 高 | | 粗砂粒/良好/にぶい赤褐 | 口縁部の内面は先端直下に弱い段をなす。底部との間には稜を有する。横ナデ。底部は手持ちヘラ削り。内面はナデ。 | 器面磨滅。外面炭素吸着。 |
| 第18図 | 2 | 土師器<br>杯 | 掘方<br>1/3 | 口<br>底 | 12.8 | 高 | | 粗砂粒/良好/橙 | 口縁部は底部との間に稜を有する。横ナデ。底部は手持ちヘラ削り。内面はナデ後、放射状にヘラ磨き。 | 器面やや磨滅。 |
| 第18図 | 3 | 土師器<br>杯 | 床上11㎝<br>口縁部～底部片 | 口<br>底 | 11.0 | 高 | | 粗砂粒/良好/橙 | 口縁部は底部との間に稜を有する。横ナデ。底部は手持ちヘラ削り。内面はナデ。ヘラ状工具の痕跡を残す。 | |
| 第18図<br>PL.21 | 4 | 土師器<br>杯 | 掘方<br>1/3 | 口<br>底 | 11.7 | 高 | 4.5 | 粗砂粒・雲母粒/良好/にぶい褐 | 口縁部は底部との間に稜を有する。中位には弱い段をなす。横ナデ。底部は手持ちヘラ削り。内面はナデ。 | 器面炭素吸着、磨滅。 |
| 第18図 | 5 | 土師器<br>杯 | 掘方<br>破片 | 口<br>底 | 12.0 | 高 | | 粗砂粒/良好/にぶい橙 | 口縁部は中位に2ヶ所、弱い段をなす。横ナデ。底部は手持ちヘラ削り。内面はナデ。 | 外面に炭素吸着。 |
| 第18図<br>PL.21 | 6 | 土師器<br>杯 | 埋土<br>1/2 | 口<br>底 | 11.2 | 高 | 3.3 | 粗砂粒/良好/橙 | 口縁部は横ナデ。底部は手持ちヘラ削り。間にナデの部分を残す。内面はナデ。 | 器面磨滅。 |
| 第18図<br>PL.21 | 7 | 土師器<br>杯 | 掘方<br>1/4 | 口<br>底 | 12.4 | 高 | 4.0 | 粗砂粒/良好/にぶい橙 | 口縁部は横ナデ。底部は手持ちヘラ削り。内面はナデ。 | 外面やや磨滅。 |
| 第18図<br>PL.21 | 8 | 土師器<br>杯 | 埋土<br>1/2 | 口<br>底 | 16.6 | 高 | 3.6 | 粗砂粒・赤色粘土粒/良好/橙 | 口縁部は横ナデ。底部は手持ちヘラ削り。内面はナデ。 | 器面磨滅。 |
| 第18図 | 9 | 須恵器<br>杯 | 埋土<br>口縁部～底部片 | 口<br>底 | 13.4<br>7.0 | 高 | 3.5 | 白色鉱物粒/還元焔/黄灰 | ロクロ整形(左回転)。底部は回転ヘラ削り。体部最下位にまで及ぶ。 | |
| 第18図 | 10 | 須恵器<br>杯 | 埋土<br>破片 | 口<br>底 | 14.8 | 高 | | 赤黒色粘土粒/酸化焔/にぶい黄橙 | ロクロ整形(右回転)。底部は回転ヘラ削りと考えられる。体部最下位にも回転ヘラ削り。 | 器面磨滅。 |
| 第18図 | 11 | 須恵器<br>杯 | 埋土<br>1/3 | 口<br>底 | 18.0<br>8.4 | 高 | 4.6 | 白色・黒色鉱物粒/還元焔/暗灰 | ロクロ整形(右回転)。底部は回転ヘラ切り後、回転ヘラ削り。体部下半にも回転ヘラ削り。 | |
| 第18図 | 12 | 須恵器<br>蓋 | 埋土<br>口縁部1/3 | 口<br>底 | 20.0 | 高 | | 白色鉱物粒/還元焔/灰 | ロクロ整形(右回転)。天井部外面は中心寄りに回転ヘラ削り。 | |
| 第18図<br>PL.21 | 13 | 土師器<br>甑 | 床上９㎝<br>1/2 | 口<br>底 | 23.3<br>8.6 | 高 | 30.0 | 粗砂粒・赤色粘土粒/良好/橙 | 口縁部は横ナデ。胴部は縦位に2・3回に分けてヘラ削り。胴部内面は丁寧なナデ後、縦位にやや粗雑なヘラ磨き。端部は横位のヘラ削り。 | 胴部外面の一部に炭素吸着。黒斑。内面磨滅。 |
| 第19図<br>PL.22 | 14 | 土師器<br>甕 | 埋土<br>胴部中位～底部<br>1/2 | 口<br>底 | 4.6 | 高 | | 粗砂粒多/良好/にぶい橙 | 胴部は縦位のヘラ削り。最下位は横位の、内面は狭い幅で斜横位のヘラナデ。底部外面はヘラナデ。 | 被熱。 |
| 第19図<br>PL.21 | 15 | 土師器<br>甕 | 床上10㎝<br>口縁部～胴部中位1/3 | 口<br>底 | 22.4 | 高 | | 粗砂粒多/良好/にぶい黄橙 | 口縁部は横ナデ。輪積み痕を明瞭に残す。胴部は縦位にヘラ削り。内面は斜横位のヘラナデ。 | 胴部外面の一部に炭素吸着。煤か。被熱の為、脆弱になっている。 |
| 第19図<br>PL.22 | 16 | 土師器<br>甕 | 埋土<br>口縁部～胴部中位1/3 | 口<br>底 | 21.0 | 高 | | 小礫・粗砂粒多/良好/にぶい黄褐 | 口縁部は横ナデ。胴部外面は縦位のヘラ削り。内面は横位のヘラナデ。 | 被熱、炭素吸着。 |

| 挿図<br>PL.No. | No. | 種類<br>器種 | 出土位置<br>残存率 | 計測値 | | | | 胎土/焼成/色調<br>石材・素材等 | 成形・整形の特徴 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 第19図 | 17 | 土師器<br>甕 | 埋土<br>口縁部～胴上部<br>1/4 | 口<br>底 | 21.0 | 高 | | 粗砂粒多/良好/にぶい黄橙 | 口縁部は横ナデ。輪積み痕を残す。胴部は斜縦位にヘラ削り。内面は斜横位のヘラナデ。 | 被熱、炭素吸着。 |
| 第19図<br>PL.21 | 18 | 土師器<br>甕 | 床上12cm<br>口縁部～胴部上位1/3 | 口<br>底 | 11.4 | 高 | | 小礫・粗砂粒多・赤色粘土粒/良好/にぶい黄橙 | 口縁部は横ナデ。輪積み痕を残す。胴部は斜縦位のヘラ削り。内面は横位のヘラナデ。 | 器形大きく歪み、横断面は長円形を呈す。 |
| 第19図 | 19 | 土師器<br>甕 | 床上11cm<br>胴部下位～底部 | 口<br>底 | 6.0 | 高 | | 粗砂粒多/良好/にぶい橙 | 底部は厚い粘土板からなる。胴部は縦位にヘラ削り。内面はヘラナデ。底部に木葉痕。 | 被熱。 |
| 第18図 | 20 | 須恵器<br>提瓶か | 埋土<br>胴部片 | 口<br>底 | | 高 | | 白色鉱物粒/還元焔/灰 | 紐作り後、叩き整形・ロクロ整形。外面はカキ目を充填。内面は当て具痕にナデを重ねる。 | |
| 第19図 | 21 | 須恵器<br>甕 | 床上12cm<br>胴部～底部片 | 口<br>底 | | 高 | | 粗砂粒/還元焔/灰 | 紐作り後、叩き整形。外面は疑似格目文の叩き目。内面は同心円文の当て具痕の上に一部横ナデ。 | |
| 第20図<br>PL.22 | 22 | 鉄製品<br>刀子 | 埋土 | 長<br>幅 | 6.1<br>1.4 | 厚<br>重 | 1.0<br>6.7 | | 刃側に緩やかな関を持つ刀子破片。刃先側端部は破損後錆化する。茎は長さ2.5cm幅広で短く端部は錆に覆われているが破損の可能性もある、柄の木質等は見られない。 | |
| 第20図<br>PL.22 | 23 | 石製品<br>不明 | 床上11ｃｍ<br>完形 | 長<br>幅 | 16.8<br>15.4 | 厚<br>重 | 10.5<br>3114.7 | 粗粒輝石安山岩 | 背面側礫面・中央付近に径4.8cm・深さ2.7cmの孔を穿つ。孔内面は良く摩耗する。 | 楕円礫 |

寺中遺跡１区４号住居

| 挿図<br>PL.No. | No. | 種類<br>器種 | 出土位置<br>残存率 | 計測値 | | | | 胎土/焼成/色調<br>石材・素材等 | 成形・整形の特徴 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 第21図 | 1 | 須恵器<br>蓋 | 埋土<br>口縁部片 | 口<br>底 | 15.8 | 高 | | 黒色鉱物粒/還元焔・やや軟質/灰白 | ロクロ整形(回転方向不明)。 | |
| 第21図 | 2 | 土師器<br>台付甕 | 床直<br>基部破片 | 口<br>底 | | 高 | | 粗砂粒/良好/にぶい橙 | 胴部は最下位から台部への移行部分の残存。外面はナデ。胴部内面はヘラナデ。台部内面もナデ。 | |
| 第21図<br>PL.22 | 3 | 土師器<br>甕 | 床直<br>口縁部～胴部中位片 | 口<br>底 | 11.8 | 高 | | 細砂粒/良好/にぶい橙 | 口縁部は横ナデ。胴部は横位、斜横位のヘラ削り。内面は横位のヘラナデ。 | 被熱の為、炭素吸着。 |
| 第21図 | 4 | 土師器<br>甕 | 埋土<br>口縁部～胴部上位片 | 口<br>底 | 20.0 | 高 | | 粗砂粒・赤色粘土粒/良好/橙 | 口縁部は横ナデ。胴部は斜横・斜縦位のヘラ削り。内面は横位のヘラナデ。 | |
| 第21図 | 5 | 土師器<br>甕 | 埋土<br>胴部下位～底部<br>1/4 | 口<br>底 | 6.6 | 高 | | 粗砂粒・赤色粘土粒/良好/橙 | 胴部は斜位のヘラ削り。最下位は横位のヘラ削り。底部はヘラ削り。内面は斜従位のヘラナデ。 | |
| 第21図<br>PL.22 | 6 | 土師器<br>甕 | 床直<br>胴部中位～底部<br>1/3 | 口<br>底 | 6.3 | 高 | | 粗砂粒/良好/橙 | 胴部は斜縦位に3方向からヘラ削り。内面は斜縦位・横位にヘラナデ。底部外面はヘラ削り。 | 胴部外面中位に煤付着、下位の炭素吸着は黒斑か。 |

寺中遺跡１区６号住居

| 挿図<br>PL.No. | No. | 種類<br>器種 | 出土位置<br>残存率 | 計測値 | | | | 胎土/焼成/色調<br>石材・素材等 | 成形・整形の特徴 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 第22図<br>PL.22 | 1 | 土師器<br>杯 | 埋土<br>1/2 | 口<br>底 | 11.6 | 高 | 3.5 | 粗砂粒/良好/にぶい黄橙 | 口縁部は横ナデ。底部は手持ちヘラ削り。内面は丁寧なナデ。 | 内外面とも炭素吸着、黒色処理か。器面磨滅。 |
| 第22図 | 2 | 土師器<br>杯 | 埋土<br>破片 | 口<br>底 | 11.0 | 高 | | 粗砂粒/良好/にぶい橙 | 口縁部は底部との間に稜を有する。横ナデ。底部は手持ちヘラ削り。内面はナデ。 | 器面磨滅。外面炭素吸着。 |
| 第22図 | 3 | 土師器<br>杯 | 埋土<br>破片 | 口<br>底 | 13.8 | 高 | | 細砂粒/良好/灰黄褐 | 口縁部は底部との間に稜を有する。また上半部に3ヶ所弱い段を有する。横ナデ。底部は手持ちヘラ削り。内面先端直下も弱く削がれるように段をなす。内面はナデ。 | 器面炭素吸着。黒色処理か。 |
| 第22図<br>PL.22 | 4 | 土師器<br>杯 | 埋土<br>破片 | 口<br>底 | 13.8 | 高 | 5.3 | 粗砂粒/良好/にぶい黄橙 | 器肉薄い。口縁部は底部との間に稜をなす。中位にも弱い段を有す。横ナデ。底部は手持ちヘラ削り。内面はナデ。 | 器面炭素吸着。 |
| 第22図 | 5 | 須恵器<br>甕 | 埋土<br>胴部片 | 口<br>底 | | 高 | | 白色鉱物粒/還元焔・不良/灰黄褐 | 紐作り後、叩き整形。外面は平行叩き目の後にロクロ整形。内面は当て具痕の上にナデを重ねる。 | |
| 第22図 | 6 | 須恵器<br>甕 | 埋土<br>胴部片 | 口<br>底 | | 高 | | 粗砂粒/還元焔/灰 | 紐作り後、叩き整形。外面は平行叩き目の上に横位のカキ目。内面は当て具痕をナデ消す。 | |
| 第22図<br>PL.22 | 7 | 石製品<br>砥石 | 埋土<br>1/2 | 長<br>幅 | (10.2)<br>6.0 | 厚<br>重 | 5.3<br>247.9 | 砥沢石 | 四面使用。背面側右側面は強く研ぎ減る。左側面に横位の刃ならし傷。破損面は摩耗しており、破損後も利用。 | 切り砥石 |

寺中遺跡１区８号住居

| 挿図<br>PL.No. | No. | 種類<br>器種 | 出土位置<br>残存率 | 計測値 | | | | 胎土/焼成/色調<br>石材・素材等 | 成形・整形の特徴 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 第24図<br>PL.22 | 1 | 土師器<br>杯 | 掘方<br>3/4 | 口<br>底 | 13.6 | 高 | 3.9 | 粗砂粒・赤黒色粘土粒/良好/灰黄褐 | 口縁部中位は小さく波打つ。横ナデ。底部は手持ちヘラ削り。底部内面はナデの上に放射状にヘラ磨き。 | 器面磨滅。 |
| 第24図<br>PL.22 | 2 | 土師器<br>杯 | 掘方<br>1/2 | 口<br>底 | 12.8 | 高 | | 粗砂粒/良好/にぶい黄橙 | 口縁部は横ナデ。底部は手持ちヘラ削り。内面はナデ。 | 器面の一部に炭素吸着。 |

| 挿図<br>PL.No. | No. | 種類<br>器種 | 出土位置<br>残存率 | 計測値 | | | | 胎土/焼成/色調<br>石材・素材等 | 成形・整形の特徴 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 第24図 | 3 | 土師器<br>杯 | 床直<br>1/3 | 口<br>底 | | 高 | | 粗砂粒/良好/灰褐 | 口縁部は底部との間に稜を有する。底部は手持ちヘラ削り。内面はナデ。 | 器面炭素吸着。黒色処理か。磨滅。 |
| 第24図<br>PL.22 | 4 | 土師器<br>杯 | 埋土<br>3/4 | 口<br>底 | 11.8 | 高 | 4.7 | 粗砂粒/良好/浅黄 | 口縁部は底部との間に稜を有する。中位には弱い段を有する。横ナデ。底部は手持ちヘラ削り。内面はナデ。 | 内外面黒色味。漆塗りか。磨滅。 |
| 第24図 | 5 | 土師器<br>杯 | 埋土<br>口縁部片 | 口<br>底 | 12.4 | 高 | | 細砂粒/良好/灰黄褐 | 口縁部は底部との間に稜を有する。中位には弱い段をなす。横ナデ。底部は手持ちヘラ削り。内面はナデ。 | 器面炭素吸着。黒色処理か。 |
| 第24図 | 6 | 土師器<br>杯 | 埋土<br>口縁部片 | 口<br>底 | 13.4 | 高 | | 細砂粒/良好/にぶい赤褐 | 口縁部は底部との間に稜を有する。中位には弱い段をなす。横ナデ。底部は手持ちヘラ削り。内面はナデ。 | 器面炭素吸着。 |
| 第24図 | 7 | 土師器<br>杯 | 床直<br>破片 | 口<br>底 | 14.8 | 高 | | 粗砂粒/良好/にぶい黄橙 | 口縁部は底部との間に弱い稜を有する。横ナデ。底部は手持ちヘラ削り。内面はナデ。 | |
| 第24図 | 8 | 土師器<br>杯 | 床直<br>1/3 | 口<br>底 | 17.8 | 高 | | 粗砂粒/良好/にぶい橙 | 口縁部は横ナデ。外面の先端直下に傾きの変換点あり。内面に小さな起伏あり。底部は手持ちヘラ削り。内面はナデ。 | 内面黒色処理。 |
| 第24図 | 9 | 土師器<br>杯 | 掘方<br>口縁部片 | 口<br>底 | 11.8 | 高 | | 粗砂粒/良好/灰黄褐 | 口縁部は横ナデ。底部は手持ちヘラ削り。 | 器面炭素吸着。 |
| 第24図<br>PL.22 | 10 | 土師器<br>杯 | 床直<br>破片 | 口<br>底 | 19.6 | 高 | | 粗砂粒/良好/にぶい黄橙 | 口縁部は底部との間に稜を有する。中位には弱い段をなす。横ナデ。底部は手持ちヘラ削り。内面はナデ。 | |
| 第24図 | 11 | 土師器<br>杯 | 床直<br>1/4 | 口<br>底 | 11.7 | 高 | | 粗砂粒/良好/にぶい橙 | 口縁部は横ナデ。底部は手持ちヘラ削り。内面はナデ。 | 内面黒色処理。口縁部内面に炭素吸着。 |
| 第24図<br>PL.22 | 12 | 須恵器<br>蓋 | 埋土<br>口縁部～天井部片 | 口<br>底 | 13.8 | 高 | | 白色鉱物粒/還元焔/灰 | ロクロ整形(右回転)。天井部切り離し後、摘み部を貼付。天井部中心寄りに回転ヘラ削り。 | |
| 第24図 | 13 | 土師器<br>甑 | 床直<br>口縁部～胴部上位 | 口<br>底 | 23.8 | 高 | | 粗砂粒・白色軽石粒/良好/明赤褐 | 口縁部は横ナデ。胴部は縦位のヘラ削り。内面は縦位のヘラ磨き。 | |
| 第24図<br>PL.22 | 14 | 土師器<br>甕 | 床直<br>口縁部～胴部上位 | 口<br>底 | 20.4 | 高 | | 粗砂粒・赤色粘土粒/良好/橙 | 口縁部は2回に分けて横ナデ。胴部は最上位が横位、以下は斜横位のヘラ削り。内面は横位のヘラナデ。 | 外面やや磨滅。 |
| 第24図 | 15 | 土師器<br>甕 | 掘方<br>口縁部下位～胴部下位1/3 | 口<br>底 | | 高 | | 粗砂粒/良好/橙 | 口縁部は横ナデ。胴部は縦位のヘラ削り。内面は横位・斜位のヘラナデ。 | |

寺中遺跡２区１号住居

| 挿図<br>PL.No. | No. | 種類<br>器種 | 出土位置<br>残存率 | 計測値 | | | | 胎土/焼成/色調<br>石材・素材等 | 成形・整形の特徴 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 第26図 | 1 | 土師器<br>杯 | 埋土<br>破片 | 口<br>底 | 11.7 | 高 | | 粗砂粒/良好/橙 | 口縁部は横ナデ。底部は手持ちヘラ削りと考えられる。 | 器面磨滅。 |
| 第26図 | 2 | 須恵器<br>杯 | 掘方<br>1/3 | 口<br>底 | 14.0<br>8.9 | 高 | 3.8 | 粗砂粒/還元焔・軟質/灰白 | ロクロ整形(右回転)。底部は切り離し後、回転ヘラ削り。口縁部(体部)下位にも回転ヘラ削り。 | 器面磨滅。 |
| 第26図<br>PL.23 | 3 | 須恵器<br>杯 | 床直<br>1/3 | 口<br>底 | 13.6<br>7.6 | 高 | 4.1 | 白色鉱物粒/還元焔/灰 | ロクロ整形(右回転)。底部回転糸切り後、周縁部に回転ヘラ削り。(左回転)。 | 器形の歪みが著しい。 |
| 第26図 | 4 | 須恵器<br>杯 | 床直<br>底部のみ | 口<br>底 | 7.2 | 高 | | 粗砂粒/還元焔・軟質/灰 | ロクロ整形(右回転)。底部に回転ヘラ削り。口縁部(体部)下位もわずかに回転ヘラ削り。 | 器面磨滅。 |
| 第26図<br>PL.23 | 5 | 須恵器<br>椀 | 埋土<br>1/2 | 口<br>底 | 15.2<br>10.2 | 高 | | 粗砂粒・白色鉱物粒/還元焔/灰褐 | やや粗雑なロクロ整形(右回転)。天井部は底部切り離し後の付け高台。口縁部(体部最下位)に回転ヘラ削り。 | |
| 第26図<br>PL.23 | 6 | 須恵器<br>鉢か | 掘方<br>胴部片 | 口<br>底 | | 高 | | 粗砂粒・黒色鉱物粒少/還元焔/灰 | 紐作り後、叩き整形・ロクロ整形。外面は平行叩き目の上に横位のナデを重ねる。内面は横位のナデ。 | |
| 第26図<br>PL.23 | 7 | 土師器<br>甕 | 埋土<br>口縁部～胴部中位片 | 口<br>底 | 13.0 | 高 | | 粗砂粒/良好/淡黄 | 口縁部は横ナデ。胴部は縦位のヘラ削り。内面は横位のヘラナデ。 | 内面炭素吸着、黒色。 |
| 第26図 | 8 | 土師器<br>甕 | 掘方<br>口縁部～胴部上位片 | 口<br>底 | 23.9 | 高 | | 粗砂・細砂粒/良好/橙 | 口縁部は横ナデ。胴部は横位のヘラ削り。内面はヘラナデと考えられる。 | 内面磨滅。 |
| 第26図<br>PL.23 | 9 | 土師器<br>甕 | 床直<br>口縁部～胴部中位1/2 | 口<br>底 | 22.2 | 高 | | 粗砂粒/良好/にぶい黄橙 | 口縁部は横ナデ。輪積み痕を残す。胴部は斜横・縦位のヘラ削り。内面は横位の丁寧なナデ。 | 被熱、器面炭素吸着し変色。 |
| 第26図 | 10 | 須恵器<br>甕 | 埋土<br>胴部片 | 口<br>底 | | 高 | | 白色鉱物粒/還元焔・やや軟質/灰 | 紐作り後、叩き整形。外面は平行叩き目。内面は青海波文状の当て具痕2種類。 | |
| 第27図<br>PL.23 | 11 | 土師器<br>釜か | 床直<br>脚部か | 口<br>底 | | 高 | | 粗砂・細砂粒・雲母粒/良好/にぶい赤褐 | 平底の本体から横断面長円形の脚部が延びている。外面本体との接合部から脚部上位には、縦位のヘラ削り。それより下位は丁寧なナデ。本体内面はナデ。 | |

寺中遺跡２区２号住居

| 挿図<br>PL.No. | No. | 種類<br>器種 | 出土位置<br>残存率 | 計測値 | | | | 胎土/焼成/色調<br>石材・素材等 | 成形・整形の特徴 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 第29図 | 1 | 土師器<br>杯 | 埋土<br>破片 | 口<br>底 | 12.8 | 高 | | 細砂粒/良好/橙 | 口縁部は横ナデ。底部は手持ちヘラ削り。間にナデの部分を残す。内面はナデ。 | |
| 第29図 | 2 | 土師器<br>杯 | 床上７cm<br>破片 | 口<br>底 | 17.4<br>9.8 | 高 | 5.5 | 細砂粒/良好/にぶい橙 | 口縁部は内外面とも横位のヘラ磨き。底部は丁寧なナデ。内面はヘラ磨き。 | 内面黒色処理。 |
| 第29図<br>PL.23 | 3 | 須恵器<br>杯 | 床直<br>1/2 | 口<br>底 | 14.2<br>6.0 | 高 | 4.3 | 白色・黒色鉱物粒/還元焔/灰白 | ロクロ整形(右回転)。底部回転糸切り後、周縁部に回転ヘラ削り。口縁部最下位(体部下位)にもヘラ削り。 | 磨滅。 |
| 第29図 | 4 | 須恵器<br>杯 | 埋土<br>1/4 | 口<br>底 | 13.1<br>8.0 | 高 | 4.0 | 粗砂粒/還元焔・軟質/灰白 | ロクロ整形(右回転)。底部は切り離し後、回転ヘラ削り。口縁部下半にはカキ目状のナデの痕跡が見られる。意図的なものかは不明。 | |
| 第29図 | 5 | 須恵器<br>蓋 | 埋土<br>摘み部～天井部片 | 口<br>底 | | 高<br>摘 | 4.2 | 粗砂粒/還元焔/灰白 | ロクロ整形(右回転)。天井部切り離し後、摘み部を貼付。天井部中心寄りは回転ヘラ削り。 | |
| 第29図 | 6 | 須恵器<br>蓋 | 埋土<br>摘み部～天井部上位片 | 口<br>底 | | 高<br>摘 | 2.8 | 粗砂粒・白色鉱物粒多/還元焔/灰 | ロクロ整形(右回転)。天井部切り離し後、摘み部を貼付。天井部中心寄りは回転ヘラ削り。 | |
| 第29図 | 7 | 土師器<br>甕 | 埋土<br>口縁部～胴部上位片 | 口<br>底 | 19.0 | 高 | | 粗砂・細砂粒/良好/橙 | 口縁部は横ナデ。胴部は斜横位のヘラ削り。内面はヘラナデ。 | 小破片から器形復元。 |
| 第29図 | 8 | 土師器<br>甕 | 埋土<br>口縁部～胴部上位片 | 口<br>底 | 17.7 | 高 | | 粗砂・細砂粒/良好/にぶい橙 | 口縁部は横ナデ。胴部は斜横位のヘラ削り。内面はヘラナデ。 | |
| 第29図<br>PL.23 | 9 | 土師器<br>甕 | 埋土<br>口縁部片 | 口<br>底 | 19.6 | 高 | | 粗砂粒/良好/にぶい橙 | 口縁部は横ナデ。胴部は斜位のヘラ削り。内面は横位のヘラナデ。 | |
| 第29図 | 10 | 須恵器<br>甕 | 埋土<br>口縁部片 | 口<br>底 | 21.8 | 高 | | 白色鉱物粒/還元焔/灰 | 紐作り後、ロクロ整形。 | 器面やや磨滅。 |
| 第29図 | 11 | 須恵器<br>甕 | 埋土<br>口縁部下位～胴部上位片 | 口<br>底 | | 高 | | 粗砂粒・白色鉱物粒/還元焔/灰 | 紐作り後、口縁部はロクロ整形。胴部は叩き整形。外面は平行叩き目。内面に青海波文と考えられる当て具痕。 | |
| 第29図 | 12 | 須恵器<br>甕 | 埋土<br>胴部片 | 口<br>底 | | 高 | | 白色鉱物粒/還元焔/灰 | 紐作り後、叩き整形。外面は平行叩き目。内面上半に青海波文と考えられる当て具痕。下半はナデを施す。 | |
| 第29図 | 13 | 須恵器<br>甕 | 埋土<br>口縁部片 | 口<br>底 | | 高 | | 白色鉱物粒/還元焔/灰 | 紐作り後、ロクロ整形。口縁部下半の破片で中位に3条の沈線がめぐる。この区画線と頸部との間に波状文1段を配する。 | |
| 第29図<br>PL.23 | 14 | 鉄製品<br>鎌 | 床上９cm | 長<br>幅 | 8.4<br>4.2 | 厚<br>重 | 0.7<br>45.6 | | 右側に柄装着部を持つ鉄鎌。左端部は破損後に錆化する。柄の木質等の痕跡は見られないが柄装着部より3cm程で刃幅を減ずる。 | |

寺中遺跡２区３号住居

| 挿図<br>PL.No. | No. | 種類<br>器種 | 出土位置<br>残存率 | 計測値 | | | | 胎土/焼成/色調<br>石材・素材等 | 成形・整形の特徴 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 第30図<br>PL.23 | 1 | 須恵器<br>杯 | 埋土<br>破片 | 口<br>底 | 11.8<br>6.0 | 高 | 3.7 | 白色・黒色鉱物粒/酸化焔/にぶい黄褐 | ロクロ整形(左回転か)。底部回転糸切り後、無調整。 | |
| 第30図 | 2 | 須恵器<br>杯 | 埋土<br>底部1/3 | 口<br>底 | 6.6 | 高 | | 粗砂粒・白色鉱物粒/還元焔/灰 | ロクロ整形(右回転)。底部回転糸切り後、無調整。 | |
| 第30図 | 3 | 土師器<br>小型甕 | 埋土<br>口縁部片 | 口<br>底 | 11.2 | 高 | | 細砂粒/良好/にぶい赤褐 | 口縁部は先端が屈曲。外傾して立ち上がる。横ナデ。外面に輪積み痕を残す。 | |
| 第30図 | 4 | 須恵器<br>甕 | 埋土<br>胴部片 | 口<br>底 | | 高 | | 白色・黒色鉱物粒/還元焔/灰 | 紐作り後、ロクロ整形と考えられる。内外面ともナデ。 | 外面に自然釉付着。 |

寺中遺跡２区４号住居

| 挿図<br>PL.No. | No. | 種類<br>器種 | 出土位置<br>残存率 | 計測値 | | | | 胎土/焼成/色調<br>石材・素材等 | 成形・整形の特徴 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 第31図 | 1 | 土師器<br>杯 | 埋土<br>破片 | 口<br>底 | 12.6 | 高 | | 細砂粒/良好/にぶい赤褐 | 口縁部は横ナデ。体部ナデ。底部は手持ちヘラ削り。内面はナデ。 | 小破片から器形復元。 |
| 第31図<br>PL.23 | 2 | 須恵器<br>杯 | 床直<br>1/3 | 口<br>底 | 11.6<br>6.0 | 高 | 3.1 | 白色鉱物粒/還元焔/灰 | ロクロ整形(右回転)。底部回転糸切り後、周縁部に回転ヘラ削り。 | 外面摩耗。 |
| 第31図 | 3 | 土師器<br>甕 | 埋土<br>口縁部片 | 口<br>底 | 14.0 | 高 | | 細砂粒/良好/にぶい赤褐 | 口縁部はコの字状を呈すると考えられる。横ナデ。 | 被熱。 |
| 第31図 | 4 | 土師器<br>甕 | 床上６cm<br>口縁部～胴部上位片 | 口<br>底 | 16.2 | 高 | | 細砂粒/良好/にぶい橙 | 口縁部はコの字状を呈する。横ナデ。胴部は横位のヘラ削り。内面は横位のヘラナデ。 | 被熱。 |
| 第31図 | 5 | 須恵器<br>甕 | 埋土<br>胴部片 | 口<br>底 | | 高 | | 細砂粒・黒色鉱物粒/還元焔・軟質/灰白 | 紐作り後、叩き整形。外面は擬似格子目状の叩き目。内面は当て具痕。 | |

寺中遺跡２区５号住居

| 挿図<br>PL.No. | No. | 種類<br>器種 | 出土位置<br>残存率 | 計測値 | | | | 胎土/焼成/色調<br>石材・素材等 | 成形・整形の特徴 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 第32図 | 1 | 須恵器<br>杯 | 埋土<br>底部片 | 口<br>底 | <br>7.0 | 高 | | 粗砂粒/酸化焔/灰黄 | ロクロ整形(右回転)。底部切り離し後、回転ヘラ削りか。 | |
| 第32図 | 2 | 須恵器<br>椀 | 埋土<br>底部片 | 口<br>底 | <br>6.6 | 高 | | 細砂粒・白色鉱物粒/還元焔/灰黄 | ロクロ整形(右回転か)。高台部は付け高台。端部は欠損している。 | |

寺中遺跡２区６号住居

| 挿図<br>PL.No. | No. | 種類<br>器種 | 出土位置<br>残存率 | 計測値 | | | | 胎土/焼成/色調<br>石材・素材等 | 成形・整形の特徴 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 第33図<br>PL.23 | 1 | 土師器<br>甕 | 床上８㎝<br>口縁部片 | 口<br>底 | 20.8 | 高 | | 粗砂粒・赤黒色粘土粒/良好/にぶい橙 | 口縁部は2・3回に分けて横ナデ。胴部は横位のヘラ削り。内面は横位のヘラナデ。 | |
| 第33図 | 2 | 須恵器<br>甕 | 掘方<br>口縁部片 | 口<br>底 | 18.0 | 高 | | 白色鉱物粒/還元焔/灰 | 紐作り後、ロクロ整形。 | 内面に自然釉付着。 |

寺中遺跡２区７号住居

| 挿図<br>PL.No. | No. | 種類<br>器種 | 出土位置<br>残存率 | 計測値 | | | | 胎土/焼成/色調<br>石材・素材等 | 成形・整形の特徴 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 第34図<br>PL.23 | 1 | 土師器<br>杯 | 埋土<br>破片 | 口<br>底 | 11.9 | 高 | | 粗砂粒/良好/橙 | 器面磨滅の為、整形の観察不可能。 | |
| 第34図 | 2 | 須恵器<br>杯 | 掘方<br>破片 | 口<br>底 | <br>7.4 | 高 | | 粗砂粒/酸化焔/にぶい橙 | ロクロ整形(右回転)。底部切り離し後、回転ヘラ削り。 | |
| 第34図<br>PL.23 | 3 | 須恵器<br>杯 | 埋土<br>1/3 | 口<br>底 | 12.4<br>8.0 | 高 | 3.1 | 粗砂粒/還元焔・軟質/灰白 | ロクロ整形(右回転か)。 | 器面磨滅。 |
| 第34図 | 4 | 須恵器<br>杯 | 埋土<br>体部～底部片 | 口<br>底 | <br>6.8 | 高 | | 細砂粒/還元焔・不良/にぶい黄褐 | ロクロ整形(右回転)。底部切り離し後、回転ヘラ削り。 | 炭素吸着。 |
| 第34図<br>PL.23 | 5 | 須恵器<br>椀 | 埋土<br>胴部～底部1/4 | 口<br>底 | <br>10.0 | 高<br>台 | <br>9.7 | 黒色粘土粒/還元焔/灰 | ロクロ整形(左回転か)。高台部は付け高台。 | |
| 第34図 | 6 | 須恵器<br>椀 | 埋土<br>底部片 | 口<br>底 | <br>8.4 | 高<br>台 | <br>8.2 | 黒色鉱物粒少/還元焔/灰白 | ロクロ整形(左回転)。高台部は付け高台。 | |
| 第34図 | 7 | 須恵器<br>蓋 | 埋土<br>天井部片 | 口<br>底 | | 高 | | 粗砂粒/還元焔・やや軟質/灰黄 | ロクロ整形(右回転)。天井部外面の中心部寄りは回転ヘラ削り。 | |
| 第34図 | 8 | 土師器<br>甕 | 埋土<br>口縁部片 | 口<br>底 | 14.8 | 高 | | 粗砂粒/良好/にぶい褐 | 横ナデ。 | 被熱、変色、小破片から器形復元。 |

寺中遺跡２区８号住居

| 挿図<br>PL.No. | No. | 種類<br>器種 | 出土位置<br>残存率 | 計測値 | | | | 胎土/焼成/色調<br>石材・素材等 | 成形・整形の特徴 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 第36図 | 1 | 土師器<br>杯 | 埋土<br>破片 | 口<br>底 | 12.0 | 高 | | 粗砂粒/良好/橙 | 口縁部は横ナデ。体部はナデ。底部は手持ちヘラ削り。内面はナデ。 | 器面磨滅。 |
| 第36図 | 2 | 土師器<br>杯 | 埋土<br>破片 | 口<br>底 | 12.8 | 高 | | 粗砂粒/良好/にぶい橙 | 口縁部は横ナデ。体部はナデ。底部は手持ちヘラ削り。内面はナデ。 | 小破片から器形復元。 |
| 第36図<br>PL.23 | 3 | 須恵器<br>椀 | 埋土<br>胴部～底部1/4 | 口<br>底 | <br>8.1 | 高<br>台 | <br>8.0 | 赤黒色粘土粒/還元焔・酸化焔ぎみ/灰黄 | ロクロ整形(右回転)。高台部は底部回転糸切り後の付け高台。 | 磨滅。 |
| 第36図 | 4 | 須恵器<br>椀 | 埋土<br>底部～高台部片 | 口<br>底 | <br>8.0 | 高<br>台 | <br>7.8 | 黒色鉱物粒/還元焔・やや軟質/灰黄 | ロクロ整形(左回転か)。高台部は底部切り離し後の付け高台。 | |
| 第36図<br>PL.23 | 5 | 須恵器<br>蓋 | 床上６㎝<br>3/4 | 口<br>底 | 16.4 | 高<br>摘 | 4.5<br>4.4 | 白色・黒色鉱物粒/還元焔・やや軟質/灰オリーブ | やや粗雑なロクロ整形(右回転)。天井部は切り離し後、摘み部を貼付。天井部中心寄りに回転ヘラ削り。 | 器面やや摩耗。 |
| 第36図 | 6 | 須恵器<br>蓋 | 埋土<br>口縁部片 | 口<br>底 | 11.2 | 高 | | 細砂粒/酸化焔/にぶい橙 | ロクロ整形(右回転か)。 | |
| 第36図 | 7 | 須恵器<br>蓋 | 埋土<br>天井部～摘み部片 | 口<br>底 | | 高<br>摘 | <br>4.0 | 粗砂粒/還元焔/黄灰 | ロクロ整形(左回転)。天井部切り離し後、摘み部を貼付。周縁部に回転ヘラ削りが見られる。 | 内面摩耗。 |
| 第36図 | 8 | 土師器<br>台付甕 | 床直<br>台部 | 口<br>底 | <br>9.6 | 高 | | 粗砂粒多/良好/橙 | 全体に粗雑な成形。外面はナデ、ヘラナデ。内面はナデ。 | |
| 第36図 | 9 | 土師器<br>甕 | 埋土<br>口縁部～胴部上位片 | 口<br>底 | 14.8 | 高 | | 細砂粒/良好/にぶい赤褐 | 口縁部は横ナデ。胴部は横位のヘラ削り。内面は横位のヘラナデ。 | 小破片から器形復元。 |
| 第36図 | 10 | 土師器<br>甕 | 床上７㎝<br>口縁部片 | 口<br>底 | 21.8 | 高 | | 粗砂粒多/良好/にぶい橙 | 成形粗雑。口縁部は横ナデ。輪積み痕を残す。胴部は縦位のヘラ削り。内面は横位のヘラナデ。 | 被熱か。 |
| 第36図 | 11 | 土師器<br>甑か | 埋土<br>口縁部～胴部上位片 | 口<br>底 | 19.8 | 高 | | 粗砂粒/良好/橙 | 口縁部は横ナデ。胴部は横位のヘラ削り。内面磨滅。横位のヘラナデか。 | 小破片から器形復元。 |
| 第36図<br>PL.23 | 12 | 瓦<br>丸瓦 | 床上６㎝<br>広端面側1/3 | 長<br>幅 | <br>21.3 | 厚 | 2.7 | 小礫・粗砂粒多/酸化焔気味/にぶい橙 | 外面は丁寧なナデ。広端面寄りにわずかにヘラ削り。内面は布目痕。一部横位にヘラナデ。広端面寄りには一部ヘラナデ。両側面は二度にわたりヘラ切り。 | |

寺中遺跡２区９号住居

| 挿図<br>PL.No. | No. | 種類<br>器種 | 出土位置<br>残存率 | 計測値 | | | | 胎土/焼成/色調<br>石材・素材等 | 成形・整形の特徴 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 第38図<br>PL.24 | 1 | 土師器<br>杯 | 埋土<br>1/2 | 口<br>底 | 15.8<br>10.2 | 高 | 6.8 | 細砂粒/良好/明赤褐 | 口縁部は内外面とも横位にヘラ磨き。底部はヘラ削り後、一部にヘラ磨きを重ねる。 | 被熱か、黒色処理。 |
| 第38図 | 2 | 須恵器<br>椀 | 埋土<br>1/6 | 口<br>底 | 14.6<br>9.2 | 高<br>台 | 4.2<br>9.2 | 黒色鉱物粒/還元焔/黄灰 | ロクロ整形(左回転か)。口縁部(体部)最下位に回転ヘラ削り。高台部は付け高台。 | |
| 第38図 | 3 | 須恵器<br>椀 | 埋土<br>破片 | 口<br>底 | 15.0<br>10.2 | 高<br>台 | 3.1<br>10.0 | 細砂粒/還元焔/灰 | ロクロ整形(左回転)。高台部は低く、底部切り離し後の付け高台。 | |
| 第38図 | 4 | 須恵器<br>蓋 | 埋土<br>天井部～口縁部片 | 口<br>底 | 17.2 | 高 | | 粗砂粒少/還元焔/灰 | ロクロ整形(右回転)。天井部外面の中心寄りに回転ヘラ削り。 | 器面、炭素吸着。 |
| 第38図 | 5 | 須恵器<br>蓋 | 埋土<br>摘み部片 | 口<br>底 | | 高<br>摘 | 4.6 | 粗砂粒少/還元焔/灰 | ロクロ整形(右回転)。天井部外面の中心寄りに回転ヘラ削り。 | |
| 第38図 | 6 | 土師器<br>甕 | 埋土<br>口縁部～胴部上位片 | 口<br>底 | 24.0 | 高 | | 粗砂粒多/良好/灰褐 | 口縁部は横ナデ。胴部は縦位のヘラ削り。内面は横位のヘラナデ。 | 被熱、器面磨滅。 |
| 第38図 | 7 | 須恵器<br>甕 | 埋土<br>口縁部下位～胴部上位片 | 口<br>底 | | 高 | | 白色鉱物粒/酸化焔/灰黄 | 紐作り後、口縁部はロクロ整形。胴部は叩き整形。外面は平行叩き目。内面はナデ。 | |
| 第38図 | 8 | 須恵器<br>甕 | 埋土<br>胴部片 | 口<br>底 | | 高 | | 粗砂粒少/還元焔/灰 | 紐作り後、叩き整形。外面は平行叩き目。内面は青海波文の当て具痕。 | |

寺中遺跡２区11号住居

| 挿図<br>PL.No. | No. | 種類<br>器種 | 出土位置<br>残存率 | 計測値 | | | | 胎土/焼成/色調<br>石材・素材等 | 成形・整形の特徴 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 第40図 | 1 | 土師器<br>杯 | 埋土<br>破片 | 口<br>底 | 11.8 | 高 | | 細砂粒/良好/にぶい赤褐 | 口縁部は底部との間に稜をなす。口縁部は横ナデ。底部は手持ちヘラ削り。内面はナデ。放射状にヘラ磨き。 | 内外面炭素吸着。 |
| 第40図<br>PL.24 | 2 | 土師器<br>杯 | 埋土<br>1/3 | 口<br>底 | 11.8 | 高 | 3.3 | 粗砂粒/良好/にぶい橙 | 口縁部は底部との間に稜を有する。中位には弱い段を有す。横ナデ。底部は手持ちヘラ削り。内面はナデ。 | 器面黒色か。炭素吸着。 |
| 第40図 | 3 | 土師器<br>杯 | 埋土<br>1/3 | 口<br>底 | 11.4 | 高 | 3.6 | 粗砂粒/良好/にぶい橙 | 口縁部は横ナデ。 | 内外面とも磨滅。 |
| 第40図 | 4 | 土師器<br>杯 | 埋土<br>1/4 | 口<br>底 | 10.8 | 高 | 3.4 | 粗砂粒/良好/にぶい橙 | 口縁部は底部との間に稜を有する。横ナデ。底部は手持ちヘラ削り。内面はナデ後、放射状にヘラ磨き。 | 一部に炭素吸着。 |
| 第40図<br>PL.24 | 5 | 土師器<br>杯 | 埋土<br>1/3 | 口<br>底 | 12.2 | 高 | 3.7 | 粗砂粒/良好/にぶい黄橙 | 口縁部は底部との間に稜を有する。横ナデ。底部は手持ちヘラ削り。内面は丁寧なナデ。 | 底部外面炭素吸着、黒斑。 |
| 第40図 | 6 | 土師器<br>杯 | 埋土<br>破片 | 口<br>底 | 12.8 | 高 | 3.7 | 粗砂粒/良好/にぶい橙 | 口縁部は横ナデ。底部は手持ちヘラ削り。間にわずかにナデの部分を残す。 | 内面磨滅。 |
| 第40図<br>PL.24 | 7 | 土師器<br>杯 | 埋土<br>1/2 | 口<br>底 | 12.2 | 高 | 3.8 | 粗砂粒/良好/にぶい黄橙 | 口縁部は先端が弱く内彎。底部との間に稜を有する。底部は手持ちヘラ削り。内面はナデ後、放射状のヘラ磨き。 | |
| 第40図 | 8 | 土師器<br>杯 | 埋土<br>破片 | 口<br>底 | 13.8 | 高 | | 粗砂粒/良好/にぶい橙 | 口縁部は底部の間に稜を有する。中位にも弱い段をなす。横ナデ。底部は手持ちヘラ削り。 | 外面黒斑。炭素吸着。 |
| 第40図 | 9 | 土師器<br>杯 | 埋土<br>1/3 | 口<br>底 | 11.9 | 高 | | 粗砂粒/良好/橙 | 口縁部は横ナデ。底部は手持ちヘラ削り。内面はナデ。 | 器面磨滅。 |
| 第40図 | 10 | 土師器<br>杯 | 埋土<br>口縁部～底部片 | 口<br>底 | 12.8 | 高 | 4.0 | 粗砂粒/良好/灰黄褐 | 口縁部は底部の間に稜を有する。中位には弱い段をなす。横ナデ。底部は手持ちヘラ削り。内面はナデ。 | 外面に炭素吸着。 |
| 第40図<br>PL.24 | 11 | 土師器<br>杯 | 埋土<br>1/3 | 口<br>底 | 11.5 | 高 | 3.4 | 粗砂粒/良好/橙 | 口縁部は横ナデ。底部は手持ちヘラ削り。間にわずかにナデの部分を残す。内面はナデ。 | 器面、やや磨滅。 |
| 第40図 | 12 | 土師器<br>杯 | 埋土<br>1/4 | 口<br>底 | 11.0<br>6.8 | 高 | 3.8 | 細砂粒/良好/灰黄褐 | 口縁部は先端が内折ぎみに立ち上がる。口縁部は横ナデ。体部はナデと考えられる。底部に木葉痕を残す。内面はナデ。 | 外面磨滅、内面黒色処理か。 |
| 第40図 | 13 | 土師器<br>杯 | 埋土<br>1/4 | 口<br>底 | 11.4 | 高 | | 粗砂粒・赤黒色粘土粒/良好/にぶい黄橙 | 口縁部と底部の間には細い凹線がめぐり境をなす。口縁部は横ナデ。底部は手持ちヘラ削り。内面はナデ。 | 外面磨滅。 |
| 第40図 | 14 | 土師器<br>杯 | 埋土<br>1/4 | 口<br>底 | 12.8 | 高 | 3.9 | 粗砂粒/良好/にぶい橙 | 口縁部は横ナデ。底部は手持ちヘラ削り。間にナデの部分を残す。内面はナデ。 | |
| 第40図 | 15 | 土師器<br>杯 | 埋土<br>1/3 | 口<br>底 | 10.6<br>5.6 | 高 | 4.0 | 粗砂粒/良好/にぶい橙 | 口縁部は横ナデ。体部・底部は手持ちヘラ削り。内面はナデ。 | 器面の一部に炭素吸着。 |
| 第40図<br>PL.24 | 16 | 土師器<br>杯 | 埋土<br>1/2 | 口<br>底 | 14.8 | 高 | | 粗砂粒/良好/橙 | 口縁部は横ナデ。底部は手持ちヘラ削り。内面は丁寧なナデ。 | |
| 第40図 | 17 | 土師器<br>杯 | 埋土<br>1/3 | 口<br>底 | 13.8 | 高 | 4.1 | 粗砂粒・赤黒色粘土粒/良好/にぶい橙 | 口縁部は横ナデ。底部は手持ちヘラ削り。内面はナデ。 | 内面磨滅。 |
| 第40図<br>PL.24 | 18 | 土師器<br>杯 | 埋土<br>1/2 | 口<br>底 | 13.2 | 高 | | 粗砂粒・赤黒色粘土粒/良好/橙 | 口縁部は横ナデ。底部は手持ちヘラ削り。内面は丁寧なナデ。 | |
| 第40図 | 19 | 土師器<br>杯 | 埋土<br>口縁部～体部片 | 口<br>底 | 16.0 | 高 | | 粗砂粒/良好/にぶい赤褐 | 口縁部は横ナデ。体部はヘラ削り。内面はナデ。内面黒色処理。口縁部外面にも炭素吸着。 | 外面・体部磨滅。 |

| 挿図<br>PL.No. | No. | 種類<br>器種 | 出土位置<br>残存率 | 計測値 | | | | 胎土/焼成/色調<br>石材・素材等 | 成形・整形の特徴 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 第40図 | 20 | 土師器<br>杯 | 埋土<br>底部片 | 口<br>底 | | 高 | | 粗砂粒/良好/灰黄 | 外面はヘラ削り後、線刻。 | |
| 第40図<br>PL.24 | 21 | 土師器<br>椀 | 埋土<br>1/3 | 口<br>底 | 10.2 | 高 | | 粗砂粒/良好/橙 | 口縁部は横位のヘラ磨き。胴部上位はヘラ磨き。以下はヘラ削り。内面は斜横、斜縦のヘラ磨き。 | 胴部～底部に炭素吸着、黒斑。杯・鉢との中間形状。 |
| 第40図<br>PL.24 | 22 | 須恵器<br>杯 | 床直<br>口縁一部欠 | 口<br>底 | 9.7 | 高 | 3.8 | 白色・黒色鉱物粒/還元焔・やや軟質/灰白 | 器形歪んでいる。ロクロ整形(右回転)。底部は回転ヘラ削り。 | |
| 第40図<br>PL.24 | 23 | 須恵器<br>杯 | 床直<br>2/3 | 口<br>底 | 10.8 | 高 | 4.9 | 粗砂・細砂粒/還元焔/灰黄 | ロクロ整形(右回転)。底部は回転ヘラ削り。 | 内外面の一部に炭素吸着。 |
| 第40図<br>PL.24 | 24 | 須恵器<br>鉢 | 床直<br>1/3 | 口<br>底 | 13.8<br>6.4 | 高 | 12.0 | 白色・黒色鉱物粒/還元焔/灰白 | コップ形を呈する。口縁部は斜め上方に直線的に立ち上がる。ロクロ整形(右回転)。最下位にヘラ削り。底部もヘラ削り。 | 外面はやや磨滅。 |
| 第41図<br>PL.24 | 25 | 須恵器<br>蓋 | 埋土<br>1/3 | 口<br>底 | 10.7 | 高<br>摘 | 3.0<br>1.7 | 粗砂粒多/還元焔/灰 | ロクロ整形(右回転)。天井部は切り離し後、摘み貼付。天井部中心寄りに回転ヘラ削り。整形粗雑。 | |
| 第41図<br>PL.24 | 26 | 須恵器<br>蓋 | 埋土<br>1/3 | 口<br>底 | 11.3 | 高<br>摘 | 3.7<br>2.1 | 白色鉱物粒/還元焔・不良/灰褐 | ロクロ整形(右回転)。天井部は切り離し後、摘み貼付。天井部中心寄りに回転ヘラ削り。 | |
| 第41図 | 27 | 須恵器<br>蓋 | 埋土<br>口縁部片 | 口<br>底 | 19.6 | 高 | | 粗砂粒/酸化焔/にぶい橙 | ロクロ整形(右回転)。天井部の広い範囲に回転ヘラ削り。 | |
| 第41図 | 28 | 須恵器<br>蓋 | 埋土<br>破片 | 口<br>底 | | 高 | | 粗砂粒/酸化焔/にぶい橙 | ロクロ整形(右回転)。天井部は中心寄りに回転ヘラ削り。 | |
| 第41図<br>PL.24 | 29 | 土師器<br>高杯 | 埋土<br>杯部～脚部上位<br>1/3 | 口<br>底 | 13.5 | 高 | | 粗砂粒/良好/にぶい褐 | 杯部は皿状、外面中位に極わずかな段をなす。口縁部外面は横ナデ、以下は縦位のヘラ削り。内面は放射状に粗雑なヘラ磨き。脚部外面はヘラ削り。内面はナデ。 | 器面の一部に炭素吸着。 |
| 第41図 | 30 | 須恵器<br>壺 | 埋土<br>胴部上位片 | 口<br>底 | | 高 | | 白色鉱物粒・黒色鉱物粒少/還元焔/黄灰 | ロクロ整形。外面一面に横位のカキ目。 | |
| 第41図 | 31 | 土師器<br>台付甕 | 埋土<br>台部1/2 | 口<br>底 | 6.4 | 高<br>台 | 9.4 | 粗砂粒多/良好/浅黄 | 外面は縦位のヘラ削り。裾部には横ナデ。内面は横位のナデ。 | 被熱。 |
| 第41図 | 32 | 土師器<br>小型甕 | 埋土<br>口縁部～胴部上半 | 口<br>底 | 10.8 | 高 | | 粗砂粒多/良好/にぶい橙 | 成形粗雑。口縁部は横ナデ。胴部は縦位のヘラ削り。内面は横位のヘラナデ。 | 被熱。 |
| 第41図 | 33 | 土師器<br>小型甕 | 埋土<br>口縁部片 | 口<br>底 | 14.0 | 高 | | 粗砂粒/良好/にぶい黄橙 | 口縁部は横ナデ。胴部は縦位のヘラ削り。内面は横位のヘラナデ。 | |
| 第41図 | 34 | 土師器<br>小型甕 | 埋土<br>口縁部～胴部下位 | 口<br>底 | 14.0 | 高 | | 粗砂粒/良好/明赤褐 | 口縁部は横ナデ。胴部は縦位のヘラ削り、下位の一部に横位のヘラ削り。内面はヘラナデ。 | |
| 第41図 | 35 | 土師器<br>小型甕 | 埋土<br>口縁部～胴部上半1/4 | 口<br>底 | 18.1 | 高 | | 粗砂粒多/良好/にぶい橙 | 口縁部は横ナデ。胴部は斜縦位のヘラ削り。内面は横位のヘラナデ。 | 被熱。 |
| 第41図<br>PL.24 | 36 | 土師器<br>甕 | 埋土<br>口縁部～胴部上半1/4 | 口<br>底 | 19.6 | 高 | | 粗砂粒・赤黒色粘土粒/良好/にぶい黄褐 | 口縁部は横ナデ。輪積み痕を残す。胴部は斜・斜横位に不規則なヘラ削り。内面は横位に幅の狭いヘラナデ。 | 被熱、炭素吸着のため変色。 |
| 第41図<br>PL.24 | 37 | 土師器<br>甕 | 埋土<br>口縁部～胴部上位片 | 口<br>底 | 25.8 | 高 | | 粗砂粒・細砂粒/良好/橙 | 口縁部は横ナデ。胴部は縦位のヘラ削り。内面は横位のヘラナデ。 | 外面の一部に炭素吸着。 |
| 第41図 | 38 | 土師器<br>甕 | 埋土<br>口縁部～胴部上位 | 口<br>底 | 16.8 | 高 | | 粗砂粒/良好/にぶい黄褐 | 口縁部の内面先端直下に凹線がめぐる。口縁部は横ナデ。胴部は横位のヘラ削り。内面は横位のヘラナデ。 | 被熱。 |
| 第42図<br>PL.24 | 39 | 須恵器<br>甕 | 床直<br>口縁部～胴部上位 | 口<br>底 | 19.9 | 高 | | 白色鉱物粒少/酸化焔気味/にぶい黄橙 | 紐作り成形。口縁部は横ナデ。頸部に工具が当たった痕跡がみられる。胴部外面は平行叩き目。内面は青海波文状の当て具痕。 | 外面やや磨滅。 |
| 第41図<br>PL.24 | 40 | 須恵器<br>甕 | 埋土<br>口縁部～肩部<br>1/3 | 口<br>底 | 17.6 | 高 | | 白色鉱物粒/還元焔/灰 | 紐作り後、口縁部はロクロ整形。横ナデ。胴部は叩き成形。外面は平行叩き目。内面は当て具痕をナデ消す。 | |
| 第42図<br>PL.24 | 41 | 須恵器<br>甕 | 埋土<br>口縁部片 | 口<br>底 | 24.3 | 高 | | 粗砂粒/還元焔/暗灰黄 | 紐作り後、ロクロ整形。 | 内外面に自然釉付着。 |
| 第42図 | 42 | 須恵器<br>甕 | 埋土<br>破片 | 口<br>底 | | 高 | | 白色鉱物粒・黒色鉱物粒少/還元焔/灰 | 紐作り後、叩き整形。外面は平行叩き目。内面は青海波文の当て具痕。 | |
| 第42図<br>PL.24 | 43 | 礫石器<br>敲石 | 埋土<br>完形 | 長<br>幅 | 18.2<br>6.5 | 厚<br>重 | 2.3<br>426.5 | 細粒輝石安山岩 | 両側縁・小口部に弱い敲打痕があるほか、右側縁に敲打に伴う小剥離痕が生じている。 | 扁平棒状礫 |

寺中遺跡２区12号住居

| 挿図<br>PL.No. | No. | 種類<br>器種 | 出土位置<br>残存率 | 計測値 | | | | 胎土/焼成/色調<br>石材・素材等 | 成形・整形の特徴 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 第44図<br>PL.25 | 1 | 須恵器<br>杯 | 床上９cm<br>完形 | 口<br>底 | 13.2<br>6.9 | 高 | 4.2 | 小礫・粗砂粒・赤黒色粘土粒/還元焔/灰 | ロクロ整形(右回転)。底部回転糸切り後、無調整。 | 器面摩耗。 |
| 第44図<br>PL.25 | 2 | 須恵器<br>杯 | 床上10cm<br>3/4 | 口<br>底 | 11.9<br>7.1 | 高 | 4.8 | 粗砂粒/還元焔/灰 | ロクロ整形(右回転)。底部回転糸切後、無調整。切り離しは粗雑。 | |
| 第44図<br>PL.25 | 3 | 須恵器<br>杯 | 床上10cm<br>1/2 | 口<br>底 | 12.8<br>7.4 | 高 | 3.5 | 白色鉱物粒多・黒色鉱物粒/還元焔/灰 | ロクロ整形(右回転)。底部回転切り離し後、無調整。 | 内面摩耗。 |
| 第44図<br>PL.25 | 4 | 須恵器<br>杯 | 埋土<br>1/2 | 口<br>底 | 12.2<br>3.0 | 高 | 2.9 | 白色鉱物粒/還元焔/褐灰 | ロクロ整形(右回転)。底部回転糸切り後、無調整。 | 内外面炭素吸着。 |
| 第44図<br>PL.25 | 5 | 須恵器<br>杯 | 掘方<br>3/4 | 口<br>底 | 12.4<br>7.8 | 高 | 3.7 | 白色・黒色鉱物粒/還元焔/褐灰 | ロクロ整形(右回転)。底部回転糸切り後、無調整。底部の切り離しやや粗雑。 | 内面摩耗。 |
| 第44図<br>PL.25 | 6 | 須恵器<br>杯 | 掘方<br>1/2 | 口<br>底 | 13.0<br>7.8 | 高 | 2.8 | 赤黒色粘土粒/還元焔/灰 | ロクロ整形(右回転)。底部回転糸切り後、周縁部に回転ヘラ削り。 | 外面やや摩耗。 |
| 第44図<br>PL.25 | 7 | 須恵器<br>杯 | 掘方<br>1/3 | 口<br>底 | 12.5<br>5.8 | 高 | 2.9 | 白色鉱物粒・赤黒色粘土粒/還元焔/オリーブ灰 | ロクロ整形(右回転)。底部回転糸切り後、無調整。 | |
| 第44図 | 8 | 須恵器<br>椀 | 埋土<br>底部片 | 口<br>底 | <br>9.1 | 高 | | 白色鉱物粒/還元焔/灰 | ロクロ整形(右回転)。高台部は付け高台。底部は切り離し後、回転ヘラ削り。 | |
| 第44図<br>PL.25 | 9 | 須恵器<br>皿 | 掘方<br>完形 | 口<br>底 | 14.8<br>9.2 | 高台 | 3.0<br>9.6 | 粗砂粒/還元焔・やや軟質/灰黄 | ロクロ整形(右回転)。高台部は底部回転糸切り後の付け高台。貼付後、周縁部に横ナデ。 | 器面磨滅。 |
| 第44図 | 10 | 土師器<br>甕 | 掘方<br>胴部1/4 | 口<br>底 | | 高 | | 粗砂粒/良好/にぶい橙 | 上位は斜横位、中位、下位は縦位のヘラ削り。内面は横位のヘラナデ。 | 被熱、外面の一部に炭素吸着。 |
| 第44図 | 11 | 須恵器<br>甕 | １ピット埋土<br>肩部片 | 口<br>底 | | 高 | | 粗砂粒少/還元焔/灰 | 紐作り後、叩き整形。外面は疑似格子目状の叩き目。内面は当て具痕。 | |

寺中遺跡２区14号住居

| 挿図<br>PL.No. | No. | 種類<br>器種 | 出土位置<br>残存率 | 計測値 | | | | 胎土/焼成/色調<br>石材・素材等 | 成形・整形の特徴 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 第45図<br>PL.25 | 1 | 土師器<br>杯 | 埋土<br>破片 | 口<br>底 | 13.6 | 高 | | 粗砂粒/良好/橙 | 口縁部は底部との間に明瞭な稜をなす。横ナデ。底部は手持ちヘラ削り。内面はナデ。 | |
| 第45図<br>PL.25 | 2 | 土師器<br>小型甕 | 床上７cm<br>口縁部～胴部中位片 | 口<br>底 | 12.8 | 高 | | 粗砂粒/良好/明赤褐 | 口縁部の先端はつままれた様に外方に延びる。横ナデ。胴部は横位・斜位のヘラ削り。内面は横位のヘラナデ。 | 内外面炭素吸着、被熱のためか。 |
| 第45図 | 3 | 土師器<br>甕 | 埋土<br>口縁部片 | 口<br>底 | 16.8 | 高 | | 粗砂粒/良好/橙 | 内外面とも横ナデ。下半にはハケ目に近いヘラナデ。 | 外面下半磨滅。 |
| 第45図 | 4 | 須恵器<br>甕 | 埋土<br>胴部片 | 口<br>底 | | 高 | | 白色鉱物粒/還元焔/灰 | 紐作り後、叩き整形と考えられる。最終的には内外面ともナデが施される。 | |

寺中遺跡２区15号住居

| 挿図<br>PL.No. | No. | 種類<br>器種 | 出土位置<br>残存率 | 計測値 | | | | 胎土/焼成/色調<br>石材・素材等 | 成形・整形の特徴 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 第46図 | 1 | 土師器<br>杯 | 埋土<br>底部片 | 口<br>底 | | 高 | | 粗砂粒・赤黒色粘土粒/良好/橙 | 底部は口縁部との間に弱い稜を有す。外面は手持ちヘラ削り。内面はナデの上に放射状のヘラ磨き。 | |
| 第46図 | 2 | 土師器<br>杯 | 埋土<br>破片 | 口<br>底 | 10.8 | 高 | | 細砂粒/良好/暗灰黄 | 口縁部は横ナデ。底部は手持ちヘラ削り。間に弱い稜を含む。 | 器面炭素吸着。小破片からの器形復元。 |
| 第46図 | 3 | 土師器<br>甕 | 埋土<br>口縁部片 | 口<br>底 | 22.4 | 高 | | 粗砂粒/良好/橙 | 内外面とも横ナデ。 | 小破片からの器形復元。 |

寺中遺跡２区16号住居

| 挿図<br>PL.No. | No. | 種類<br>器種 | 出土位置<br>残存率 | 計測値 | | | | 胎土/焼成/色調<br>石材・素材等 | 成形・整形の特徴 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 第49図 | 1 | 土師器<br>杯 | 埋土<br>1/4 | 口<br>底 | 13.2 | 高 | | 粗砂粒/良好/にぶい橙 | 口縁部は底部との間に稜を有する。横ナデ。底部は手持ちヘラ削り。内面はナデ後、放射状のヘラ磨き。 | 黒色処理、磨滅。 |
| 第49図 | 2 | 土師器<br>杯 | 埋土<br>破片 | 口<br>底 | 11.8 | 高 | | 細砂粒少/良好/橙 | 口縁部は横ナデ。底部は手持ちヘラ削り。間にナデの部分を残す。内面はナデ。 | |
| 第49図 | 3 | 土師器<br>杯 | 埋土<br>口縁部片 | 口<br>底 | 11.8 | 高 | | 細砂粒少/良好/橙 | 口縁部は横ナデ。底部は手持ちヘラ削り。間にナデの部分を残す。内面はナデ。 | |
| 第49図 | 4 | 土師器<br>杯 | 埋土<br>破片 | 口<br>底 | 14.8 | 高 | | 細砂粒少/良好/橙 | 口縁部は横ナデ。内面先端部直下に細い凹線がめぐる。底部はヘラ削り後、ヘラ磨き。内面は放射状にヘラ磨き。 | |
| 第49図<br>PL.25 | 5 | 土師器<br>杯 | 埋土<br>1/3 | 口<br>底 | 13.0 | 高 | | 粗砂粒/良好/橙 | 口縁部は横ナデ。体部はナデ。底部は手持ちヘラ削り。内面はナデ。 | 器面磨滅。 |

遺物観察表

| 挿図<br>PL.No. | No. | 種類<br>器種 | 出土位置<br>残存率 | 計測値 | | | | 胎土/焼成/色調<br>石材・素材等 | 成形・整形の特徴 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 第49図<br>PL.25 | 6 | 須恵器<br>杯 | 埋土<br>3/4 | 口<br>底 | 10.1 | 高 | 3.2 | 白色鉱物粒多・黒色鉱物粒/還元焔/灰 | ロクロ整形(右回転)。底部は手持ちヘラ削り。 | 底部内面磨滅。 |
| 第49図<br>PL.25 | 7 | 須恵器<br>杯 | 埋土<br>1/2 | 口<br>底 | 13.8<br>6.0 | 高 | 2.9 | 白色・黒色鉱物粒/還元焔・やや軟質/灰白 | ロクロ整形(右回転)。底部回転ヘラ削り。 | 器面磨滅。 |
| 第49図<br>PL.25 | 8 | 須恵器<br>鉢 | 埋土<br>1/4 | 口<br>底 | 13.9<br>5.2 | 高 | 11.6 | 白色鉱物粒/還元焔/灰白 | 底部は不安定な平底か。ロクロ整形(右回転)。内面摩耗。底部寄りに敲打によると考えられる剥離痕が見られる。 | 外面磨滅。 |
| 第49図 | 9 | 須恵器<br>蓋 | 埋土<br>口縁部片 | 口<br>底 | 17.9 | 高 | | 粗砂粒少/還元焔/黄灰 | ロクロ整形(右回転)。天井部中心寄りに回転ヘラ削り。 | |
| 第49図<br>PL.25 | 10 | 須恵器<br>盤 | 埋土<br>脚台部1/3 | 口<br>底 | 11.0 | 高 | | 細砂粒少/還元焔/暗灰 | ロクロ整形(右回転か)。 | 内外面に自然釉付着。 |
| 第49図<br>PL.25 | 11 | 土師器<br>小型甕 | 埋土<br>口縁部～胴部上位片 | 口<br>底 | 11.7 | 高 | | 粗砂粒/良好/にぶい黄褐 | 口縁部は横ナデ。胴部は横位のヘラ削り。内面は横位のヘラナデ。 | 被熱。 |
| 第49図 | 12 | 土師器<br>小型甕 | 埋土<br>口縁部～胴部上位片 | 口<br>底 | 13.0 | 高 | | 粗砂粒/良好/橙 | 口縁部は横ナデ。胴部は縦位のヘラ削り。内面は横位・斜横位のヘラナデ。 | 外面炭素吸着、黒斑。 |
| 第49図 | 13 | 土師器<br>甕 | 埋土<br>口縁部片 | 口<br>底 | 17.8 | 高 | | 粗砂粒/良好/明赤褐 | 内外面とも横ナデ。外面には輪積み痕を残す。 | |
| 第49図 | 14 | 須恵器<br>甕 | 埋土<br>胴部下半片 | 口<br>底 | | 高 | | 粗砂粒・白色鉱物粒/還元焔/オリーブ黒 | 紐作り後、叩き整形・ロクロ整形。残存部下半の外面には平行叩き目。内面には青海波文状の当て具痕。 | 内面に自然釉厚く付着。 |
| 第49図 | 15 | 須恵器<br>甕 | 埋土<br>胴部片 | 口<br>底 | | 高 | | 粗砂粒/還元焔/灰 | 紐作り後、叩き整形。外面は平行叩き目。内面は当て具痕。 | 内面磨滅。 |
| 第49図 | 16 | 須恵器<br>甕 | 埋土<br>口縁部片 | 口<br>底 | | 高 | | 粗砂粒多/還元/暗灰 | 紐作り後、ロクロ整形。外面の先端寄りに沈線が1条めぐり、その下位の区画内に乱れた波状文が配される。 | 外面に自然釉が厚く付着。 |
| 第49図<br>PL.25 | 17 | 礫石器<br>火打石？ | 埋土<br>完形 | 長<br>幅 | 4.1<br>4.3 | 厚<br>重 | 2.8<br>45.0 | 石英 | 上端側小口部が敲打され潰れる。その他の稜は敲打されることなく、新鮮。 | 分割礫 |

寺中遺跡２区17号住居

| 挿図<br>PL.No. | No. | 種類<br>器種 | 出土位置<br>残存率 | 計測値 | | | | 胎土/焼成/色調<br>石材・素材等 | 成形・整形の特徴 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 第50図 | 1 | 須恵器<br>瓶 | 埋土<br>口縁部片 | 口<br>底 | 10.4 | 高 | | 粗砂粒少/還元焔/灰黄 | 口縁部は短いが強く外反して立ち上がる。外面先端直下は沈線状に凹む。ロクロ整形。 | 小破片からの復元。 |
| 第50図 | 2 | 須恵器<br>甕 | 掘方<br>胴部片 | 口<br>底 | | 高 | | 白色鉱物粒/還元焔/灰 | 紐作り後、叩き整形。外面は平行叩き目。内面は同心円文状の当て具痕。 | |

寺中遺跡２区18号住居

| 挿図<br>PL.No. | No. | 種類<br>器種 | 出土位置<br>残存率 | 計測値 | | | | 胎土/焼成/色調<br>石材・素材等 | 成形・整形の特徴 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 第52図 | 1 | 土師器<br>杯 | 埋土<br>破片 | 口<br>底 | 11.8 | 高 | | 粗砂粒/良好/橙 | 口縁部は底部との間に稜を有する。横ナデ。底部は手持ちヘラ削り。内面はナデ。 | |
| 第52図 | 2 | 土師器<br>杯 | 埋土<br>1/3 | 口<br>底 | 12.5 | 高 | | 粗砂粒/良好/にぶい褐 | 口縁部は横ナデ。底部は手持ちヘラ削り。間にナデの部分を残す。内面はナデ。 | |
| 第52図<br>PL.25 | 3 | 土師器<br>杯 | 埋土<br>1/3 | 口<br>底 | 14.2 | 高 | | 粗砂粒・赤黒色粘土粒/良好/橙 | 口縁部は横ナデ。底部は手持ちヘラ削り。間にナデの部分を残す。内面はナデ。 | |
| 第52図<br>PL.25 | 4 | 須恵器<br>椀 | 埋土<br>1/2 | 口<br>底 | 13.9<br>10.4 | 高<br>台 | 3.9<br>10.4 | 粗砂粒/還元焔/淡黄 | ロクロ整形(右回転)。高台部は底部回転ヘラ切り、周縁部をヘラ削り後の付け高台。 | |
| 第52図 | 5 | 須恵器<br>椀 | 埋土<br>底部1/3 | 口<br>底 | 10.8 | 高<br>台 | 10.6 | 黒色鉱物粒/還元焔/灰白 | ロクロ整形(左回転か)。高台部は端部が丸みを有する。付け高台。 | |
| 第52図 | 6 | 須恵器<br>椀 | 埋土<br>1/4 | 口<br>底 | 15.2<br>11.0 | 高<br>台 | 3.8<br>10.4 | 黒色鉱物粒/還元焔・やや軟質/灰白 | ロクロ整形(右回転)。高台部は底部切り離し後の付け高台。底部には回転ヘラ削り。 | |
| 第52図 | 7 | 須恵器<br>椀 | 埋土<br>1/3 | 口<br>底 | 15.0<br>10.0 | 高<br>台 | 3.8<br>9.8 | 黒色鉱物粒/還元焔/灰白 | ロクロ整形(右回転)。高台部は底部回転ヘラ切り後の付け高台。 | 内面摩耗。 |
| 第52図 | 8 | 須恵器<br>椀 | 床上７㎝<br>1/4 | 口<br>底 | 18.7<br>10.6 | 高<br>台 | 3.8<br>10.2 | 粗砂粒/還元焔・やや軟質/灰黄 | ロクロ整形(右回転)。高台部は底部回転ヘラ切り後の付け高台。 | 外面炭素吸着。重ね焼きの痕跡。 |
| 第52図 | 9 | 須恵器<br>蓋 | 埋土<br>口縁部片 | 口<br>底 | 14.8 | 高 | | 粗砂・細砂粒/還元焔/褐灰 | ロクロ整形(右回転)。天井部中心寄りに回転ヘラ削り。 | |
| 第52図<br>PL.25 | 10 | 須恵器<br>蓋 | 埋土<br>1/4 | 口<br>底 | 17.0 | 高<br>摘 | 3.2<br>4.2 | 粗砂粒/還元焔/灰白 | ロクロ整形(右回転)。天井部切り離し後、摘み部を貼付。天井部の中心寄りに回転ヘラ削り。 | 器面炭素吸着。磨滅、摩耗。 |
| 第52図 | 11 | 須恵器<br>壺 | 埋土<br>頸部～胴部1/4 | 口<br>底 | | 高 | | 粗砂粒少/酸化焔/にぶい橙 | ロクロ整形(右回転)。肩部の一部、胴部下位に回転ヘラ削り。 | |

| 挿図<br>PL.No. | No. | 種類<br>器種 | 出土位置<br>残存率 | 計測値 | | | | 胎土/焼成/色調<br>石材・素材等 | 成形・整形の特徴 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 第53図 | 12 | 土師器<br>甕 | 掘方<br>口縁部片 | 口<br>底 | 22.8 | 高 | | 粗砂・細砂粒/良好/橙 | 内面先端直下に凹線がめぐる。 | |
| 第53図<br>PL.25 | 13 | 土師器<br>甕 | 床上９cm<br>口縁部～胴部上位1/3 | 口<br>底 | 27.4 | 高 | | 粗砂粒多/良好/灰黄褐 | 口縁部先端は歪み、平面形が多角形に近い形状。横ナデ。輪積み痕を残す。胴部は横位・縦位のヘラ削り。内面は横位のヘラナデ。 | 被熱。内外面とも炭素吸着。黒色に変色。 |
| 第53図 | 14 | 須恵器<br>瓶 | 埋土<br>口縁部片 | 口<br>底 | 10.0 | 高 | | 白色鉱物粒/還元焔/オリーブ黒 | ロクロ整形(右回転)。 | 内外面とも自然釉付着。 |
| 第53図 | 15 | 須恵器<br>甕 | 埋土<br>胴部片 | 口<br>底 | | 高 | | 粗砂粒/還元焔/褐灰 | 紐作り後、叩き整形。外面は横ナデ。横位にカキ目を施す。内面は同心円文の当て具痕。 | |
| 第53図 | 16 | 須恵器<br>甕 | 埋土<br>胴部中位片 | 口<br>底 | | 高 | | 白色鉱物粒/還元焔/黄灰 | 紐作り後、叩き整形。外面は平行叩き目。内面は青海波文の当て具痕。 | |
| 第53図 | 17 | 須恵器<br>甕 | 床直<br>胴部下位～底部片 | 口<br>底 | | 高 | | 白色鉱物粒/還元焔/灰 | 紐作り後、叩き整形。外面は擬似格子目文の叩き目。内面は当て具痕とナデ。 | |
| 第53図<br>PL.25 | 18 | 礫石器<br>敲石？ | 床上６cm<br>完形 | 長<br>幅 | 14.0<br>10.5 | 厚<br>重 | 6.4<br>1366.6 | 粗粒輝石安山岩 | 上端側小口部に弱い敲打痕がある。 | 楕円礫 |

寺中遺跡２区19号住居

| 挿図<br>PL.No. | No. | 種類<br>器種 | 出土位置<br>残存率 | 計測値 | | | | 胎土/焼成/色調<br>石材・素材等 | 成形・整形の特徴 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 第54図<br>PL.25 | 1 | 土師器<br>杯 | 床直<br>1/3 | 口<br>底 | 12.6 | 高 | 3.3 | 粗砂粒/良好/橙 | 口縁部は横ナデ。体部はナデ。底部は手持ちヘラ削り。 | 器面磨滅。 |
| 第54図 | 2 | 土師器<br>杯 | 床直<br>1/3 | 口<br>底 | 12.6 | 高 | | 粗砂粒少/良好/明赤褐 | 口縁部は横ナデ。体部はナデ、型肌を残す。底部は手持ちヘラ削り。内面はナデ。 | |
| 第54図<br>PL.25 | 3 | 石製品<br>砥石 | 床直<br>1/2 | 長<br>幅 | (10.5)<br>5.5 | 厚<br>重 | 4.1<br>236.9 | 砥沢石 | 四面使用。各面とも研ぎ減り、使い込まれているが、特に裏面側が著しく研ぎ減る。被熱して砥面は剥落しており、線条痕等の詳細は不明。 | 切り砥石 |

寺中遺跡２区１号土坑

| 挿図<br>PL.No. | No. | 種類<br>器種 | 出土位置<br>残存率 | 計測値 | | | | 胎土/焼成/色調<br>石材・素材等 | 成形・整形の特徴 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 第58図 | 1 | 須恵器<br>椀か | 埋土<br>底部片 | 口<br>底 | 9.4 | 高 | | 白色鉱物粒多・黒色鉱物粒少/還元焔/灰 | ロクロ整形(右回転)。高台部は付け高台で剥落していた。底部は回転糸切り後、周縁部に幅広く回転ヘラ削り。 | |
| 第58図 | 2 | 須恵器<br>甕 | 埋土<br>胴部片 | 口<br>底 | | 高 | | 白色鉱物粒/酸化焔/にぶい褐 | 紐作り後、叩き整形。外面は不定方向に平行叩き目。内面はヘラ状工具で乱雑なナデ。 | |

寺中遺跡２区８号土坑

| 挿図<br>PL.No. | No. | 種類<br>器種 | 出土位置<br>残存率 | 計測値 | | | | 胎土/焼成/色調<br>石材・素材等 | 成形・整形の特徴 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 第58図 | 3 | 黒色土器<br>杯 | 埋土<br>口縁部片 | 口<br>底 | 12.1 | 高 | | 粗砂粒/良好/橙 | 口縁部は底部との間に稜を有する。横ナデ。底部は手持ちヘラ削り。内面はナデ後、放射状にヘラ磨き。 | 内面炭素吸着。黒色処理か。 |
| 第58図 | 4 | 土師器<br>杯 | 埋土<br>破片 | 口<br>底 | 14.4 | 高 | | 粗砂粒/良好/にぶい橙 | 口縁部は横ナデ。底部は手持ちヘラ削り。間にナデの部分を残す。内面はナデ。 | 磨滅。 |
| 第58図 | 5 | 須恵器<br>杯 | 埋土<br>破片 | 口<br>底 | 10.0 | 高 | 3.5 | 白色鉱物粒少/還元焔/灰 | ロクロ整形(右回転)。底部は手持ちヘラ削り。 | |
| 第58図 | 6 | 須恵器<br>杯 | 埋土<br>破片 | 口<br>底 | 13.0<br>7.6 | 高 | 3.9 | 白色・黒色鉱物粒/還元焔・やや軟質/灰白 | ロクロ整形(右回転)。底部回転糸切り後、周縁部に回転ヘラ削り。 | |
| 第58図 | 7 | 須恵器<br>椀 | 埋土<br>底部～高台部片 | 口<br>底 | 10.8 | 高<br>台 | 10.7 | 白色鉱物粒/還元焔/灰 | ロクロ整形(右回転)。高台部は底部切り離し後の付け高台。 | |
| 第59図 | 8 | 土師器<br>台付甕 | 埋土<br>台部 | 口<br>底 | | 高<br>台 | 9.3 | 粗砂粒・雲母/良好/にぶい橙 | 外面は横ナデ。下半の一部にナデ部分を残す。内面は横位・斜位のナデ。 | |
| 第59図<br>PL.26 | 9 | 土師器<br>甕 | 埋土<br>口縁部片 | 口<br>底 | 23.7 | 高 | | 粗砂粒少/良好/にぶい赤褐 | 口縁部は横ナデ。胴部は横位のヘラ削り。内面は横位のヘラナデ。 | |
| 第59図 | 10 | 須恵器<br>甕 | 埋土<br>胴部片 | 口<br>底 | | 高 | | 白色鉱物粒/還元焔/灰 | 紐作り後、叩き整形。外面は平行叩き目。内面は青海波文の当て具痕。 | |

寺中遺跡２区９号土坑

| 挿図<br>PL.No. | No. | 種類<br>器種 | 出土位置<br>残存率 | 計測値 | | | | 胎土/焼成/色調<br>石材・素材等 | 成形・整形の特徴 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 第59図 | 11 | 土師器<br>杯 | 埋土<br>破片 | 口<br>底 | 12.7 | 高 | | 細砂粒/良好/灰黄褐 | 口縁部は底部との間に稜を有する。横ナデ。底部は手持ちヘラ削り。内面はナデ。 | 内外面とも炭素吸着。黒色処理か。 |
| 第59図 | 12 | 土師器<br>杯 | 埋土<br>破片 | 口<br>底 | 13.8 | 高 | | 粗砂粒/良好/にぶい黄橙 | 口縁部は横ナデ。底部は手持ちヘラ削り。内面はナデ。 | 内外面炭素吸着.磨滅。 |
| 第59図<br>PL.26 | 13 | 土師器<br>杯 | 埋土<br>1/4 | 口<br>底 | 10.8 | 高 | 3.2 | 粗砂粒少/良好/明褐 | 口縁部は横ナデ。底部は手持ちヘラ削り。内面はナデ。 | 器面やや磨滅。 |

| 挿図<br>PL.No. | No. | 種類<br>器種 | 出土位置<br>残存率 | 計測値 | | | | 胎土/焼成/色調<br>石材・素材等 | 成形・整形の特徴 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 第59図 | 14 | 土師器<br>杯 | 埋土<br>破片 | 口<br>底 | 11.8 | 高 | | 粗砂粒/良好/橙 | 口縁部は横ナデ。底部は手持ちヘラ削り。内面はナデ。 | |
| 第59図<br>PL.26 | 15 | 土師器<br>杯 | 埋土<br>破片 | 口<br>底 | 15.0 | 高 | | 赤色粘土粒/良好/橙 | 口縁部は横ナデ。底部は手持ちヘラ削り。間にナデの部分を残す。内面はナデ。 | |
| 第59図<br>PL.26 | 16 | 須恵器<br>杯 | 埋土<br>1/4 | 口<br>底 | 10.2 | 高 | 4.8 | 粗砂粒少/還元焔/黄灰 | ロクロ整形(右回転)。底部は手持ちヘラ削り。 | |
| 第59図 | 17 | 須恵器<br>杯 | 埋土<br>1/4 | 口<br>底 | 12.6<br>8.1 | 高 | 5.6 | 白色鉱物粒/還元焔・やや軟質/灰黄 | ロクロ整形(右回転)。底部は回転ヘラ削り。口縁部(体部)最下位にも回転ヘラ削り。 | 外面やや磨滅。磨滅。 |
| 第59図 | 18 | 須恵器<br>椀 | 埋土<br>底部片 | 口<br>底 | 10.6 | 高<br>台 | 11.0 | 黒色鉱物粒/還元焔/灰白 | ロクロ整形(右回転)。高台部は付け高台。断面台形でハの字状に貼付される。 | |
| 第59図<br>PL.26 | 19 | 須恵器<br>椀 | 埋土<br>底部1/2 | 口<br>底 | 10.2 | 高<br>台 | 10.0 | 粗砂粒/還元焔・やや軟質/灰白 | ロクロ整形(右回転)。高台部は断面三角形。底部回転糸切り後の付け高台。 | |
| 第59図<br>PL.26 | 20 | 須恵器<br>蓋 | 埋土<br>1/4 | 口<br>底 | 16.8 | 高<br>摘 | 2.7<br>4.6 | 粗砂粒多/還元焔・やや軟質/灰黄 | ロクロ整形(右回転)。天井部を切り離し後、摘み部を貼付。天井部外面は中心寄りに回転ヘラ削り。 | |
| 第59図 | 21 | 土師器<br>甕 | 埋土<br>口縁部～胴部上位片 | 口<br>底 | 19.3 | 高 | | 粗砂粒多/良好/にぶい橙 | 器形に歪みがあり、法量に変更の可能性あり。口縁部は横ナデ。胴部は縦位のヘラ削り。内面は横位のナデ。 | 被熱。 |
| 第59図 | 22 | 須恵器<br>甕 | 埋土<br>胴部片 | 口<br>底 | | 高 | | 白色鉱物粒/還元焔/灰 | 紐作り後、叩き整形。外面は平行叩き目の上にカキ目を重ねる。内面は同心円文の当て具痕。 | |

寺中遺跡２区10号土坑

| 挿図<br>PL.No. | No. | 種類<br>器種 | 出土位置<br>残存率 | 計測値 | | | | 胎土/焼成/色調<br>石材・素材等 | 成形・整形の特徴 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 第59図<br>PL.26 | 23 | 須恵器<br>椀 | 埋土<br>3/4 | 口<br>底 | 12.6<br>8.8 | 高 | 4.4 | 粗砂粒/酸化焔/にぶい黄 | ロクロ整形(右回転)。高台部は底部回転糸切り後の付け高台。口縁部中位に１ヶ所、板状の耳を貼付。耳部はヘラ削りによる面取り。 | 器面磨滅。 |

寺中遺跡２区11号ピット

| 挿図<br>PL.No. | No. | 種類<br>器種 | 出土位置<br>残存率 | 計測値 | | | | 胎土/焼成/色調<br>石材・素材等 | 成形・整形の特徴 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 第61図<br>PL.26 | 1 | 須恵器<br>杯 | 埋土<br>1/2 | 口<br>底 | 12.5<br>7.8 | 高 | 3.5 | 赤黒色鉱物粒/還元焔・軟質/灰黄 | ロクロ整形(右回転)。底部切り離し後、ヘラ削り。 | 外面炭素吸着。 |
| 第61図<br>PL.26 | 2 | 土師器<br>甕 | 埋土<br>口縁部～胴部上位1/3 | 口<br>底 | 20.1 | 高 | | 粗砂粒/良好/にぶい褐 | 口縁部は横ナデ。胴部は横位のヘラ削り。内面は横位のヘラナデ。 | 被熱、内外面炭素吸着。 |

寺中遺跡１区１号溝

| 挿図<br>PL.No. | No. | 種類<br>器種 | 出土位置<br>残存率 | 計測値 | | | | 胎土/焼成/色調<br>石材・素材等 | 成形・整形の特徴 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 第63図 | 1 | 須恵器<br>杯 | 埋土<br>口縁部下位～底部片 | 口<br>底 | 8.2 | 高 | | 粗砂粒/還元焔/黄灰 | ロクロ整形(右回転)。底部切り離し後、回転ヘラ削り。 | |
| 第63図<br>PL.26 | 2 | 土師器<br>甕 | 埋土<br>口縁部～胴部上位片 | 口<br>底 | 19.6 | 高 | | 粗砂粒/良好/橙 | 口縁部は先端の外側が丸く肥厚する。横ナデ。胴部は縦位のヘラ削り。内面は横位のナデ。 | |
| 第63図 | 3 | 須恵器<br>壺 | 埋土<br>口縁部片 | 口<br>底 | 20.8 | 高 | | 粗砂粒・白色鉱物粒/還元焔/灰 | 紐作り後、ロクロ整形。内外面に自然釉付着。 | |
| 第63図<br>PL.26 | 4 | 鉄製品<br>鋤・鍬 | 埋土 | 長<br>幅 | 4.7<br>5.0 | 厚<br>重 | 1.2<br>47.2 | | 鋤または鍬の側面部の破片で、鋳造品的な錆・割れを示す。 | |
| 第62図<br>PL.26 | 5 | 鉄製品<br>火箸 | 底面上10cm | 長<br>幅 | 22.8<br>1.2 | 厚<br>重 | 1.1<br>27.9 | | 断面0.4cm角の棒状で、先端は細くややとがる。他端はやや細く造り0.8cm程の輪状に製作、その輪の中に長さ3cm程の別造りの鉄製品が通る。 | |

寺中遺跡２区１号溝

| 挿図<br>PL.No. | No. | 種類<br>器種 | 出土位置<br>残存率 | 計測値 | | | | 胎土/焼成/色調<br>石材・素材等 | 成形・整形の特徴 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 第65図 | 1 | 土師器<br>杯 | 埋土<br>1/4 | 口<br>底 | 11.8 | 高 | | 粗砂粒/良好/にぶい橙 | 口縁部は横ナデ。体部はナデ。底部は手持ちヘラ削り。内面はナデ。 | 器面やや磨滅。 |
| 第65図 | 2 | 土師器<br>杯 | 埋土<br>1/4 | 口<br>底 | 12.8 | 高 | | 細砂粒/良好/明赤褐 | 口縁部は横ナデ。体部はナデ。底部は手持ちヘラ削り。内面はナデ。 | |
| 第65図 | 3 | 須恵器<br>蓋 | 埋土<br>口縁部片 | 口<br>底 | 13.8 | 高 | | 白色鉱物粒/還元焔/灰 | ロクロ整形(右回転)。天井部外面の中心寄りには、回転ヘラ削りを施すと考えられる。 | |
| 第65図 | 4 | 須恵器<br>鉢 | 埋土<br>口縁部片 | 口<br>底 | 11.2 | 高 | | 粗砂粒少/還元焔/灰 | 器形は外傾弱く立ち上がる。口縁部直下と残存中位に沈線がめぐる。ロクロ整形(右回転)。 | |
| 第65図<br>PL.26 | 5 | 土師器<br>甕 | 埋土<br>口縁部～胴部上位片 | 口<br>底 | 19.8 | 高 | | 粗砂粒少/良好/にぶい橙 | 口縁部は2・3回に分けて横ナデ。胴部は横位のヘラ削り。内面は横位のヘラナデ。 | |
| 第65図 | 6 | 土師器<br>甕 | 埋土<br>口縁部片 | 口<br>底 | 20.8 | 高 | | 細砂粒/良好/橙 | 口縁部は横ナデ。胴部は横位のヘラ削り。 | |

| 挿図<br>PL.No. | No. | 種類<br>器種 | 出土位置<br>残存率 | 計測値 | | | | 胎土/焼成/色調<br>石材・素材等 | 成形・整形の特徴 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 第65図 | 7 | 須恵器<br>甕 | 埋土<br>口縁部片 | 口<br>底 | 24.0 | 高 | | 白色・黒色鉱物粒/還元焔/黒褐 | 紐作り後、ロクロ整形。内面に自然釉付着。口径は小さくなる可能性あり。 | |
| 第65図<br>PL.26 | 8 | 土製品<br>土錘 | 埋土<br>完形 | 長<br>幅 | 4.4<br>1.3 | 重 | 11.0 | 細砂粒/酸化焔・良好/にぶい橙 | 紡錘形を呈し器面は丁寧に調整される。両小口はヘラ切りで平坦面が作られる。 | |

寺中遺跡１区遺構外

| 挿図<br>PL.No. | No. | 種類<br>器種 | 出土位置<br>残存率 | 計測値 | | | | 胎土/焼成/色調<br>石材・素材等 | 成形・整形の特徴 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 第66図<br>PL.26 | 1 | 土師器<br>杯 | 1/2 | 口<br>底 | 13.8 | 高 | | 粗砂粒/良好/橙 | 口縁部は横ナデ。底部は手持ちヘラ削り。間にナデの部分を残す。 | 器面やや磨滅。 |
| 第66図<br>PL.26 | 2 | 須恵器<br>杯身 | 1/2 | 口<br>底 | 10.3 | 高 | 3.9 | 粗砂粒多/還元焔/灰オリーブ | ロクロ整形(右回転)。口唇部は摩耗。底部は反り部直下を除いて回転ヘラ削り。 | |
| 第66図<br>PL.26 | 3 | 須恵器<br>壺 | 頸部～胴部1/3 | 口<br>底 | | 高 | | 粗砂粒/還元焔/灰 | 紐作り後ロクロ整形。外面は一部を除き回転ヘラ削り。 | |
| 第66図<br>PL.26 | 4 | 土師器<br>小型甕 | 口縁部～胴部上位片 | 口<br>底 | 13.6 | 高 | | 粗砂粒/良好/橙 | 口縁部は横ナデ。胴部はヘラ削り。内面は横位のナデ。 | 外面やや磨滅。 |
| 第66図 | 5 | 土師器<br>甕 | 口縁部～胴部上位片 | 口<br>底 | 18.8 | 高 | | 粗砂・細砂粒/良好/明赤褐 | 口縁部は2回に分けて横ナデ。胴部は横位のヘラ削り。内面は横位のヘラナデ。 | |
| 第66図 | 6 | 土師器<br>甕 | 口縁部～胴部上位 | 口<br>底 | 23.0 | 高 | | 粗砂粒/良好/橙 | 口縁部は横ナデ。胴部は横位のヘラ削り。内面は横位のナデ。 | |
| 第66図 | 7 | 須恵器<br>甕 | 胴部片 | 口<br>底 | | 高 | | 粗砂粒/還元焔・軟質/灰黄 | 紐作り後、叩き整形。外面は平行叩き目。内面は青海波文の当て具痕。 | |
| 第66図 | 8 | 須恵器<br>甕 | 胴部片 | 口<br>底 | | 高 | | 白色鉱物粒/還元焔/灰黄褐 | 紐作り後、叩き整形。外面は行叩き目。内面は青海波文の当て具痕。 | |
| 第66図<br>PL.26 | 9 | 銅製品<br>銭貨 | 表土 | 長<br>幅 | 2.33<br>2.33 | 厚<br>重 | 0.12<br>2.22 | | 新寛永通宝、外縁・文字・郭とも明瞭、裏面の外縁・郭の輪郭はややなだらかで浅いが明瞭。 | |

寺中遺跡2区遺構外

| 挿図<br>PL.No. | No. | 種類<br>器種 | 出土位置<br>残存率 | 計測値 | | | | 胎土/焼成/色調<br>石材・素材等 | 成形・整形の特徴 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 第66図<br>PL.26 | 10 | 土師器<br>杯 | 1/4 | 口<br>底 | 11.8 | 高 | | 粗砂粒少/良好/橙 | 口縁部は横ナデ。底部は手持ちヘラ削り。内面はナデ。 | 外面磨滅。 |
| 第66図<br>PL.26 | 11 | 須恵器<br>椀 | 底部1/2 | 口<br>底 | 8.5 | 高<br>台 | 8.7 | 黒色鉱物粒/還元焔・やや軟質/灰白 | ロクロ整形(左回転)。高台部は底部回転ヘラ切り後の付け高台。 | |
| 第66図 | 12 | 須恵器<br>椀 | 底部片 | 口<br>底 | 10.8 | 高<br>台 | 10.8 | 粗砂粒/還元焔・やや軟質/灰 | ロクロ整形(右回転)。高台部は付け高台。底部は切り離し後、回転ヘラ削り。 | |
| 第66図 | 13 | 須恵器<br>椀 | 底部片 | 口<br>底 | 10.0 | 高<br>台 | 9.4 | 白色・黒色鉱物粒/還元焔/灰白 | ロクロ整形(右回転)。高台部は底部切り離し後の付け高台。 | |
| 第66図 | 14 | 須恵器<br>椀 | 底部片 | 口<br>底 | 12.3 | 高 | | 粗砂粒少/還元焔/灰 | ロクロ整形(右回転)。高台部は底部回転ヘラ切り、ヘラ削り後の付け高台。剥落している。 | 内面摩耗。 |
| 第66図 | 15 | 須恵器<br>蓋 | 破片 | 口<br>底 | 16.3 | 高 | | 白色鉱物粒/還元焔・やや軟質/灰 | ロクロ整形(右回転)。内面はヘラによる線刻か。 | |
| 第66図 | 16 | 土師器<br>甕 | 口縁部～胴部上位片 | 口<br>底 | 13.8 | 高 | | 粗砂粒/良好/にぶい赤褐 | 口縁部は横ナデ。内面には工具痕が見られる。胴部は横位のヘラ削り。内面は横位のヘラナデ。 | |
| 第66図 | 17 | 土師器<br>甕 | 口縁部片 | 口<br>底 | 21.6 | 高 | | 粗砂粒/良好/にぶい橙 | 口縁部は横ナデ。胴部内面は横位のヘラナデ。 | |
| 第66図 | 18 | 須恵器<br>甕 | 口縁部片 | 口<br>底 | | 高 | | 白色鉱物粒/還元焔/灰 | 紐作り後、ロクロ整形。先端面に波高の低い波状文をめぐらす。先端以下の口縁部には沈線を境として上下に波状文を配する。 | |
| 第66図<br>PL.26 | 19 | 鉄製品<br>不詳 | | 長<br>幅 | 4.8<br>1.0 | 厚<br>重 | 0.6<br>8.1 | | 断面0.8×0.3㎝の長方形の厚板状の鉄製品。一端部でやや曲がり角形だが釘頭の様な形状は持たない。 | |

# 写 真 図 版

1　上宿遺跡・寺中遺跡遠景（太田方面から望む）

2　上宿遺跡・寺中遺跡遠景（足利方面から望む）

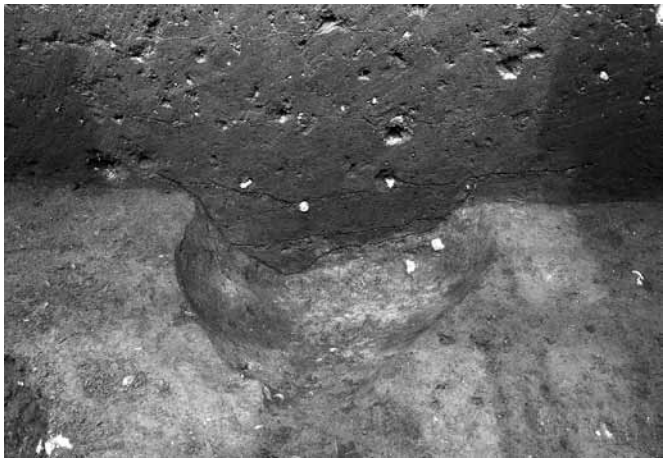
1　上宿遺跡・寺中遺跡周辺

1　上宿遺跡北側（南から）

2　上宿遺跡南側（南から）

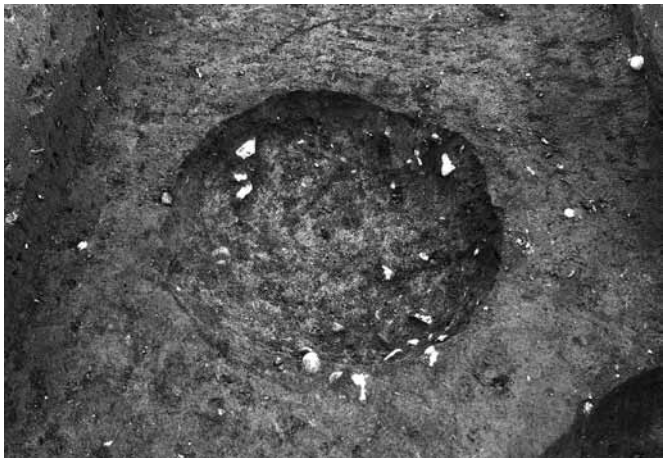
1　１号住居全景（南から）

2　１号住居調査状況（南から）



3　１号土坑全景（西から）

4　２号土坑セクション（南から）



5　３号土坑全景（南から）

6　４号土坑全景（西から）

7　５号土坑全景（南から）

8　調査状況（南から）

1　寺中遺跡１区東側全景（東から）

2　寺中遺跡１区西側全景（東から）

1　1区1号住居遺物出土状況(西から)

2　1区1号住居全景(西から)

3　1区1号住居カマド全景(西から)

4　1区1号住居掘方(西から)

5　1区1号住居カマド掘方全景(西から)

1　１区２号住居・４号住居全景（南西から）

2　１区２号住居掘方・４号住居全景（南西から）

3　１区３号住居全景（南から）

4　１区３号住居掘方全景（南から）

5　１区３号住居カマド掘方全景（西から）

1　1区6号住居全景(南から)

2　1区6号住居掘方全景(南から)

3　1区8号住居全景(北西から)

4　1区8号住居掘方全景(北西から)

5　1区1号溝全景(北西から)

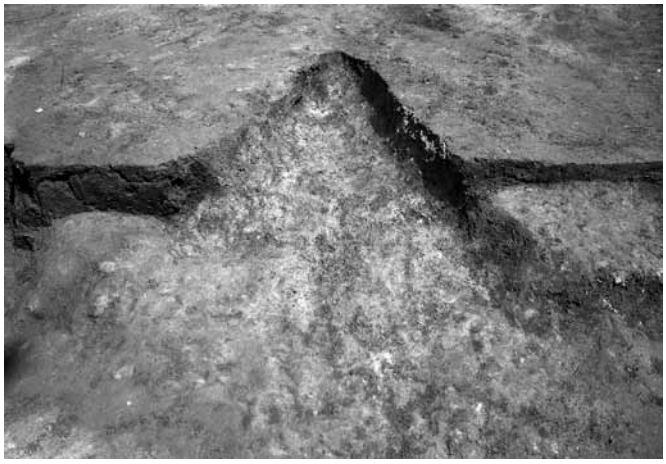
6　1区1号土坑全景(北西から)

7　1区2号土坑全景(南から)

1　寺中遺跡２区東側全景（東から）

2　寺中遺跡２区西側全景（東から）

1　２区１号住居・２号住居全景（西から）



2　２区１号住居カマド全景（西から）

3　２区１号住居・２号住居掘方全景（西から）

4　２区１号住居カマド掘方全景（西から）

5　２区１号住居調査状況（東から）

1　２区３号住居掘方全景（南から）

2　２区４号住居全景（南から）

3　２区４号住居掘方全景（南から）

4　２区５号住居全景（北西から）

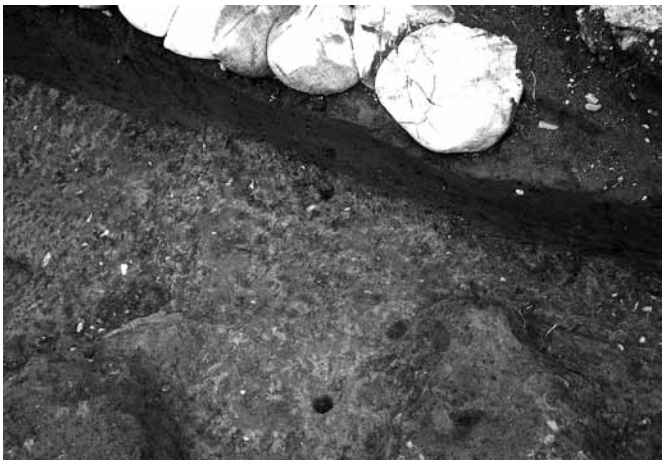
5　２区５号住居掘方全景（西から）

6　２区６号住居遺物出土状況（北から）

7　２区６号住居掘方全景（西から）

8　２区５号住居調査状況（西から）

1　２区７号住居全景(北から)



2　２区７号住居掘方全景(北から)

3　２区８号住居全景(南西から)

4　２区８号住居掘方全景(南西から)

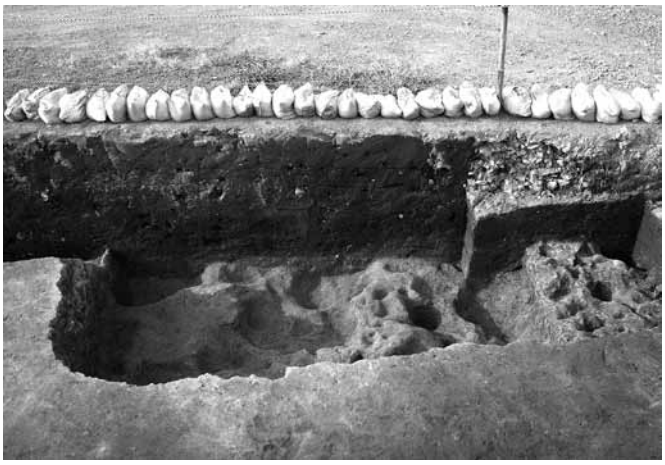
5　２区９号住居全景(西から)

1　２区９号住居掘方全景（西から）

2　２区９号住居カマド掘方全景（西から）

3　２区11号住居遺物出土状況（南から）

4　２区11号住居全景（南から）



5　２区11号住居掘方全景（南から）

1　２区12号住居全景（北西から）

2　２区12号住居掘方全景（北西から）

3　２区14号住居全景（北から）

4　２区15号住居全景（南から）

5　２区15号住居掘方全景（南から）

6　２区17号住居全景（南西から）

7　２区17号住居掘方全景（南西から）

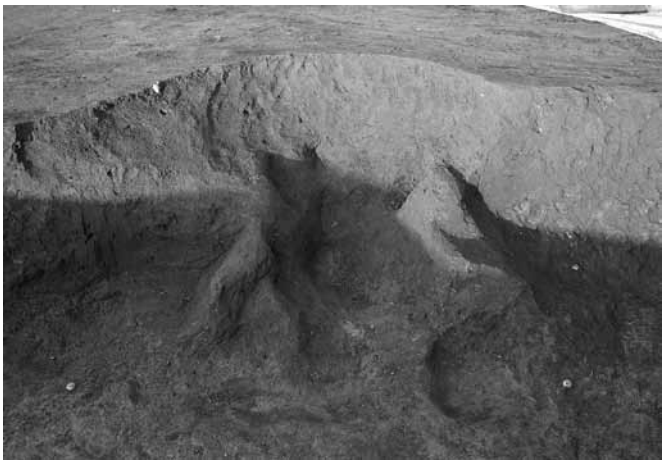
8　２区調査状況（東から）

1　２区16号住居遺物出土状況（北西から）

2　２区16号住居全景（南西から）

3　２区16号住居カマド全景（南西から）

4　２区16号住居掘方全景（南西から）



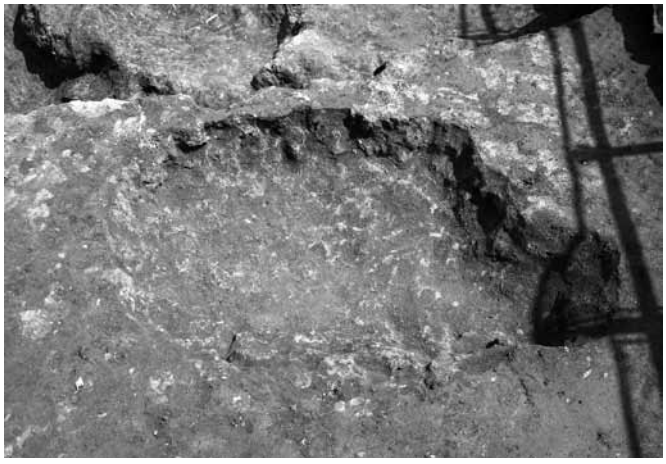
5　２区16号住居カマド掘方全景（南西から）

1　２区18号住居全景（南西から）

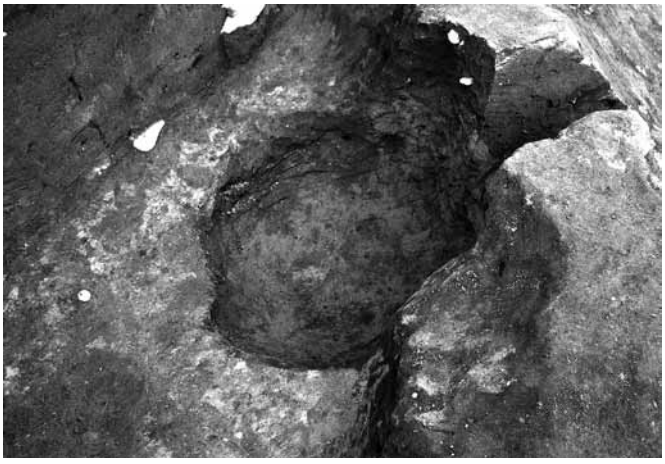
2　２区18号住居掘方全景（北西から）

3　２区19号住居全景（南西から）

4　２区19号住居掘方全景（南西から）



5　２区１号土坑全景（西から）



6　２区２号土坑全景（南から）

7　２区３号土坑全景（西から）

8　２区４号土坑全景（南から）

1　２区５号土坑全景（西から）

2　２区６号土坑全景（南から）

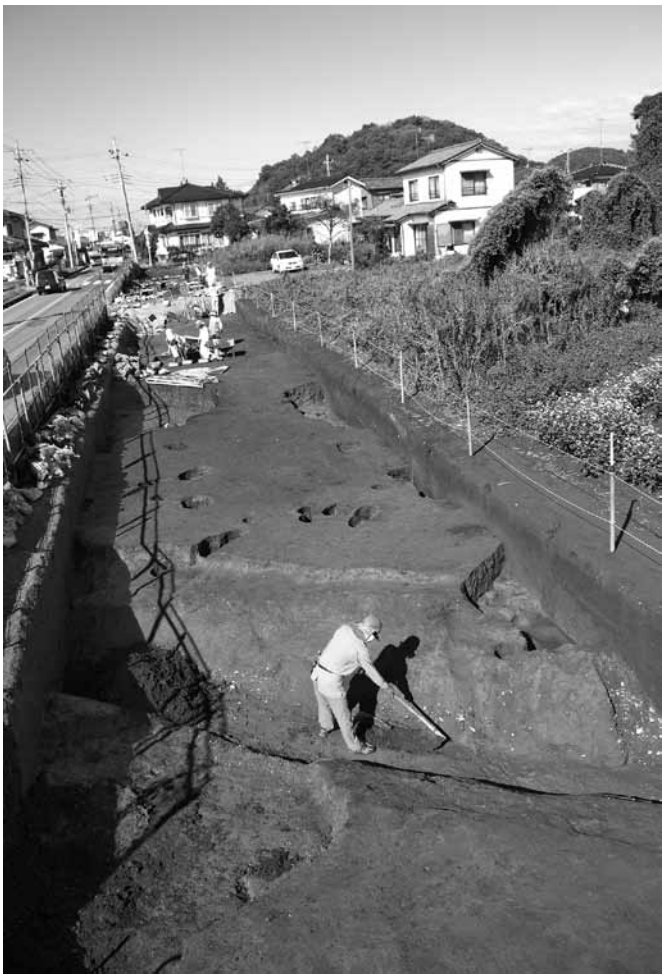
3　２区８号土坑全景（北から）

4　２区９号土坑全景（東から）

5　２区９号土坑・10号土坑全景（北から）

1　２区10号土坑全景（北から）

2　２区８号土坑調査状況（北西から）



3　２区１号溝と丸山（東から）

4　２区１号溝全景（北から）

1　２区１号ピット全景(南から)

2　２区２号ピット全景(南から)

3　２区３号ピット全景(南から)

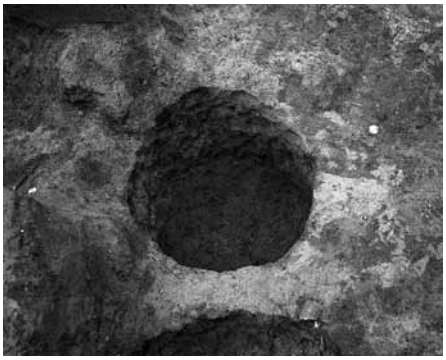
4　２区４号ピット全景(南から)

5　２区５号ピット全景(南から)

6　２区６号ピット全景(西から)

7　２区７号ピット全景(北から)

8　２区８号ピット全景(西から)


9　２区９号ピット全景(南から)

10　２区10号ピット全景(南から)

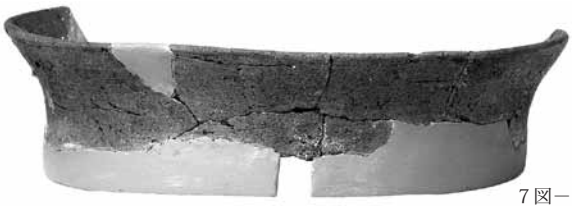
11　２区11号ピット全景(南から)

12　２区12号ピット全景(南から)

# PL.20

**上宿遺跡１号住居出土遺物**

７図－１


７図－２

**遺構外出土遺物**

９図－１

**寺中遺跡１区１号住居出土遺物**

11図－６

11図－５

11図－８

11図－10

11図－13

11図－16

12図－17

12図－24

12図－21

**１区２号住居出土遺物**

15図－２

15図－５

15図－４

15図－16

15図－８

15図－９

15図－11

15図－12

1区2号住居出土遺物

15図－17

16図－20

16図－18

16図－19

1区3号住居出土遺物

18図－8

18図－6

18図－4

18図－7

19図－18

18図－13

19図－15

# PL.22

1区3号住居出土遺物

19図－16

19図－14

20図－22(1/2)

20図－23

1区4号住居出土遺物

21図－3

21図－6

1区6号住居出土遺物

22図－1

22図－4

22図－7

1区8号住居出土遺物

24図－4

24図－1

24図－2

24図－10

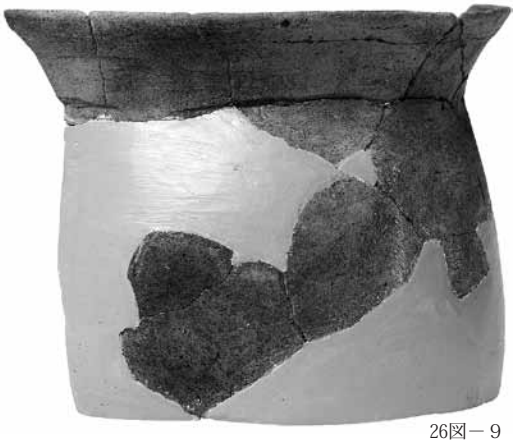
24図－12

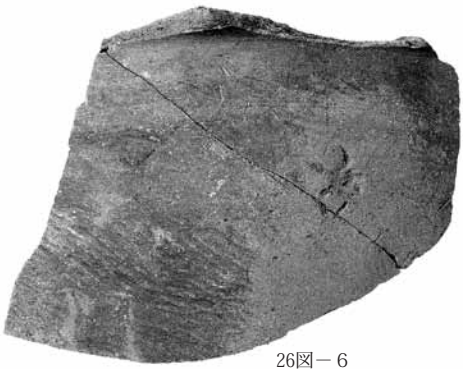
24図－14

**２区１号住居出土遺物**

26図－３

26図－５


26図－９

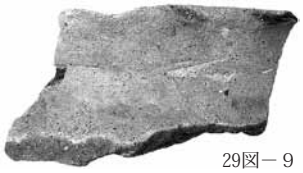

26図－６

26図－７

27図－11

**２区２号住居出土遺物**

29図－３


29図－９

29図－14(1/2)

**２区３号住居出土遺物**

30図－１

**２区４号住居出土遺物**

31図－２

**２区６号住居出土遺物**

33図－１

**２区７号住居出土遺物**

34図－１

34図－３

34図－５

**２区８号住居出土遺物**

36図－５

36図－12(1/4)

36図－３

# PL.24

## ２区９号住居出土遺物

38図－１

40図－７

40図－11

## ２区11号住居出土遺物

40図－２

40図－５

40図－21

40図－16

40図－18

40図－24

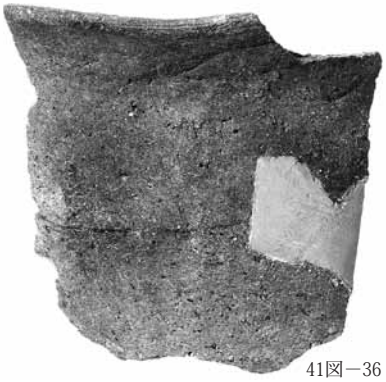
40図－22

40図－23

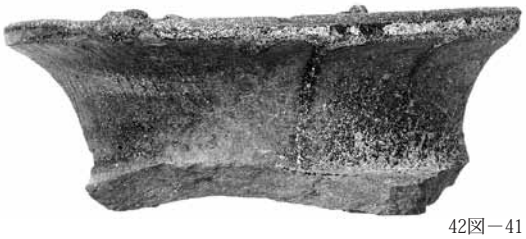
41図－25

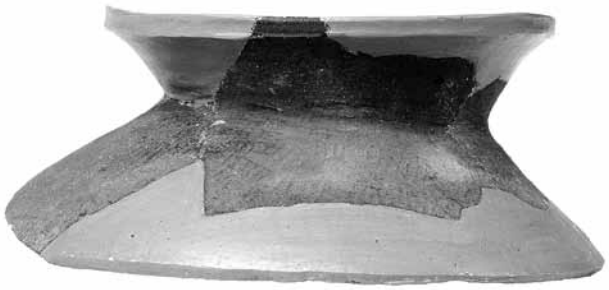
41図－26

41図－37


41図－36

41図－29


42図－41


41図－40

42図－39

42図－43

## ２区12号住居出土遺物

44図－１

44図－２

44図－３

44図－４

44図－５

44図－６

44図－９

44図－７

## ２区16号住居出土遺物

49図－５

49図－６

49図－７

49図－10

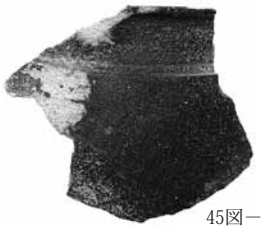
49図－８

49図－11

49図－17(1/2)

## ２区14号住居出土遺物

45図－１


45図－２

## ２区18号住居出土遺物

52図－３

52図－４

52図－10

53図－18

## ２区19号住居出土遺物

54図－１

54図－３

53図－13

# PL.26

**２区８号土坑出土遺物**

59図－９

**２区９号土坑出土遺物**

59図－13

59図－15

59図－16

59図－19

59図－20

**２区10号土坑出土遺物**

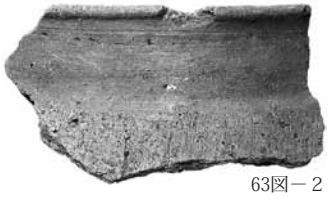
59図－23

**２区11号ピット出土遺物**

61図－１

61図－２

**１区１号溝出土遺物**



63図－２

63図－４(1/2)

62図－５(1/2)

**２区１号溝出土遺物**

65図－５

65図－８(1/2)

**１区遺構外出土遺物**

66図－１

66図－２

66図－３

66図－４

66図－９(1/1)

**２区遺構外出土遺物**

66図－10

66図－11

66図－19(1/2)

# 報　告　書　抄　録

| | |
|---|---|
| 書名ふりがな | かみしゅくいせき・てらなかいせき |
| 書　　名 | 上宿遺跡・寺中遺跡 |
| 副　書　名 | 社会資本総合整備(防災安全)(交安)(主)足利伊勢崎線事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 |
| 巻　　次 | |
| シリーズ名 | 公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告書 |
| シリーズ番号 | 第584集 |
| 編著者名 | 長谷川博幸 |
| 編集機関 | 公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団 |
| 発行機関 | 公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団 |
| 発行年月日 | 20140314 |
| 作成法人ID | 21005 |
| 郵便番号 | 377-8555 |
| 電話番号 | 0279-52-2511 |
| 住　　所 | 群馬県渋川市北橘町下箱田７８４番地２ |

| | |
|---|---|
| 遺跡名ふりがな | かみしゅくいせき |
| 遺　跡　名 | 上宿遺跡 |
| 所在地ふりがな | ぐんまけんおおたしやたぼりまち |
| 遺跡所在地 | 群馬県太田市矢田堀町 |
| 市町村コード | 10205 |
| 遺跡番号 | 0359 |
| 北緯(世界測地系) | 362015 |
| 東経(世界測地系) | 1392257 |
| 調査期間 | 20120801-20120930 |
| 調査面積 | 152㎡ |
| 調査原因 | 道路改築 |
| 種　　別 | 集落 |
| 主な時代 | 奈良平安 |
| 遺跡概要 | 奈良平安時代－竪穴住居１＋土坑２ |
| 特記事項 | 奈良平安時代住居 |
| 要　　約 | 本遺跡は(主)足利伊勢崎線事業に伴い平成24年度に発掘調査が行われた。本遺跡からは、奈良平安時代の住居が検出されており、集落域の可能性が考えられる。 |

| | |
|---|---|
| 遺跡名ふりがな | てらなかいせき |
| 遺　跡　名 | 寺中遺跡 |
| 所在地ふりがな | ぐんまけんおおたしまるやまちょう |
| 遺跡所在地 | 群馬県太田市丸山町 |
| 市町村コード | 10205 |
| 遺跡番号 | 0172 |
| 北緯(世界測地系) | 362018 |
| 東経(世界測地系) | 1392254 |
| 調査期間 | 20120801-20120930 |
| 調査面積 | 1193㎡ |
| 調査原因 | 道路改築 |
| 種　　別 | 集落 |
| 主な時代 | 奈良平安 |
| 遺跡概要 | 奈良平安時代－竪穴住居23＋土坑12＋ピット12＋溝２ |
| 特記事項 | 奈良平安時代集落 |
| 要　　約 | 本遺跡は(主)足利伊勢崎線事業に伴い平成24年度に発掘調査が行われた。本遺跡からは、奈良平安時代の集落が検出されている。 |

公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告書　第584集

上宿遺跡・寺中遺跡

社会資本総合整備(防災安全)(交安)(主)足利伊勢崎線事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

平成26(2014)年３月７日　印刷
平成26(2014)年３月14日　発行

編集・発行／公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団

〒377-8555　群馬県渋川市北橘町下箱田784番地2
電話(0279)52-2511(代表)
ホームページアドレス　http://www.gunmaibun.org/

印刷／ジャーナル印刷株式会社